

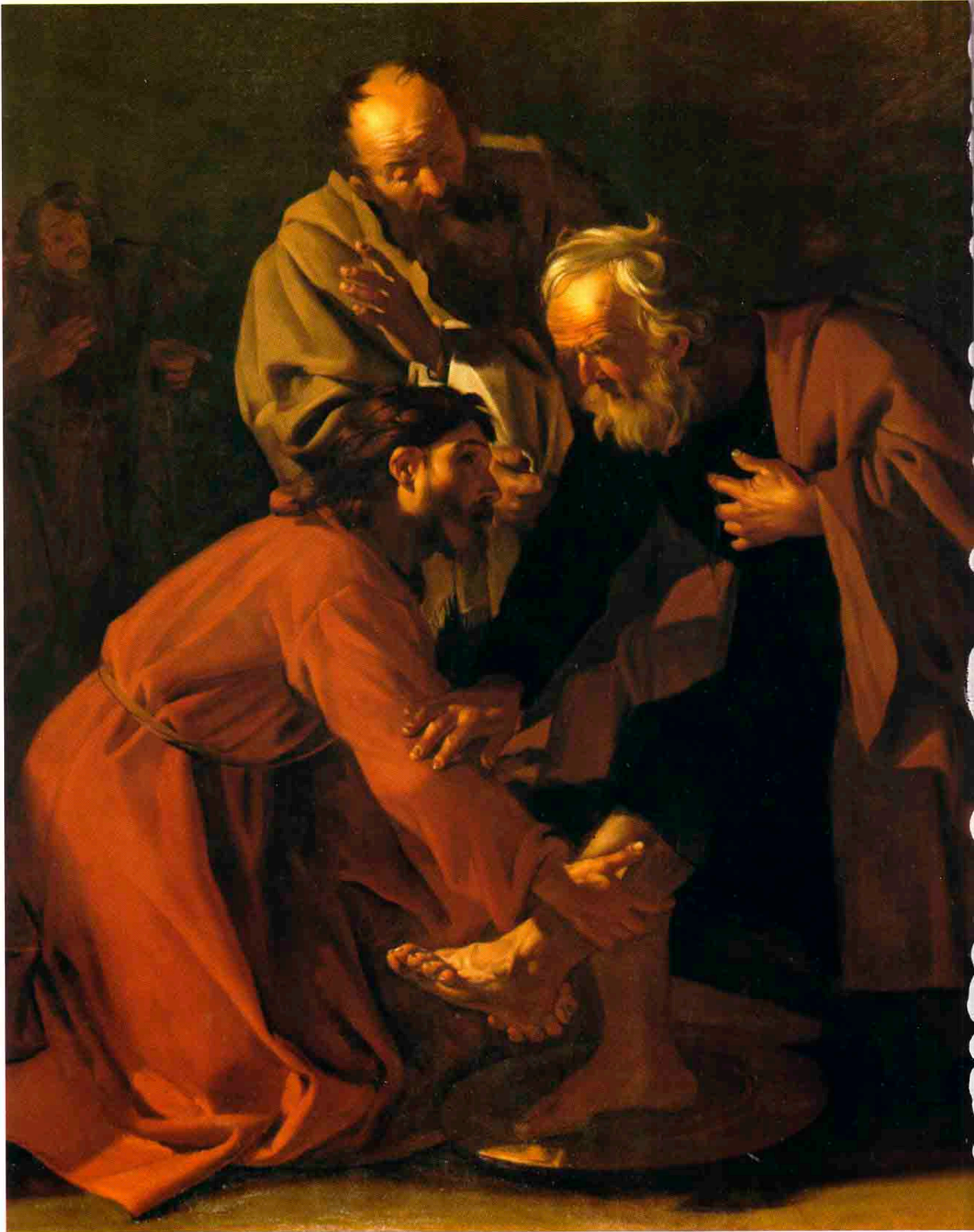
聖徒の道

7
1995

第一六五回年次総大会報告



末日聖徒
イエス・キリスト
教会



「使徒の足を洗うキリスト」(部分) ティルク・バン・バビューレン (1595—1624) 画

Courtesy of Staatliche Museen zu Berlin Gemäldegalerie; photographed by Jorg P. Anders, Berlin

最後の晩餐^{ばんさん}とともに食した後、イエスは使徒の足を洗い、愛と奉仕の模範を示された。

ペテロは最初、それを断わった。しかしイエスはこう言われた。

「もしわたしがあなたの足を洗わないなら、あなたはわたしと^{かん}なんの係わりもなくなる。」(ヨハネ13: 4—17参照)

末日聖徒イエス・キリスト教会 第165回年次総大会報告

1995年4月1, 2の両日,
ユタ州ソルトレークシティ,
テンブルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた
年次総大会の説教とその模様

ゴードン・B・ヒンクレ大管長は、4月2日、日曜午前の部会で教員に次のように語った。「もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるよう精神を集中する時が来ました。今は堅固に立つべき時です。自分たちに与えられている使命の意義、大きさ、重要性をよく理解したうえで、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、それをいわずに、正しいことをなすべき時です。戒めを守るべき時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に、愛とやさしさを示す時です。すべての人間関係において、お互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なお一層キリストに近い生活をする時なのです。

私たちには、恐れるべきものは何もありません。神が私たちを導いておられます。神は、このみ業の益となるように、すべてをつかさどっておられます。主は戒めに忠実に歩む人々に祝福

を注いでくださいます。主はそのように約束してくださいました。主が約束を果たしてくださることに、疑問の余地はまったくありません。」

この前日の4月1日、土曜日の午前には聖会が開かれ、ゴードン・B・ヒンクレ大管長は、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長、および十二使徒定員会会員とともに、世界じゅうの教員から支持を受けた。このたびの聖会では、これまで七十人第一定員会に所属していたヘンリー・B・アイリング長老が、十二使徒定員会の空席を埋めるために主の予言者、聖見者、啓示を受ける者として召された。(pp. 112-113参照)

聖会での支持に続いて、新たに七十人第一定員会会員として4人が支持を受け、ひとりが七十人第二定員会会員として支持された。七十人第二定員会から七十人第一定員会に召されたのは、デビッド・E・ソレンセン長老、ジェイ・E・ジェンセン長老、ジョン・B・ディクソン長老である。そしてソルトレークシティ在住のW・クレイ

グ・ズウィック長老が新しい教会幹部として七十人第一定員会に支持された。また、ユタ州プロボ出身のブルース・D・ポーター長老が新しく教会幹部に召され、七十人第二定員会会員となった。(pp. 113-115参照)

これらの管理上の決定に加え、4月1日土曜日夜の神権部会で、ヒンクレ大管長はこう述べた。「今年の8月15日、すべての地区代表を名誉をもって解任することを、ここに発表します。」続いてヒンクレ大管長は次のように発表した。「ここで、地域幹部という各地域の地元役員を新たに召すことを発表いたします。この職に召されるのは、経験豊かな現職の教会指導者あるいは過去に教会指導者として働いた経験のある人々の中から選ばれた大祭司です。彼らは現在の各自の職業を続けるとともに、自宅に住んで、教会での奉仕としてこの召しを果たすようになります。この召しには確定した任期はありませんが、通常は約6年です。地域幹部は地域会長会との密接な関係の下に働きます。」(pp. 58-59参照) □

本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊——イタリア語、英語、オランダ語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、中国語、韓国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、フィンランド語、フランス語、ポルトガル語、ノルウェー語。隔月刊——インドネシア語、タイ語、タヒチ語。季刊——チェコ語、ブルガリア語、ハンガリー語、アイスランド語、ロシア語。

大管長会：ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会：ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング

編集長：レックス・D・ピネガー、ジョー・J・クリステンセン

顧問：ウィリアム・R・ブラッドフォード、スパンサー・J・コンディエー、ジョン・H・グロバー

教科課程管理部責任者

実務部長：ロナルド・L・ナイトン
企画・編集ディレクター：ブライアン・K・ケリー

グラフィックスディレクター：アラン・R・ロイボーク

機関誌グラフィックスディレクター：M・M・カフサキ

国際機関誌

編集主幹：マービン・K・ガードナー

編集主幹補佐：R・バル・ジョンソン

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー

工程管理：メアリー・アン・マーティンデール

アートディレクター：スコット・バン・カンペン

デザイナー：シェリー・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン、ジェニファー・ダットワイラー、ジェーン・アン・ケンプ、デニス・カービー

予約購読スタッフ

購読管理ディレクター：B・レックス・ハリス

配送部長：クリス・クリステンセン

マーケティング部長：ジョイス・ハンセン、ケント・H・ソレンセン

聖徒の道1995年7月号第39巻第7号
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 リック/クロスロード

定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

Copyright © 1995 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved. Printed in Japan. 英語版承認—1993年10月 翻訳承認—1993年10月 原題—International Magazines July 1995. Japanese. 95987300

●定期購読は、「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて管理本部経理課へ送金いただければ、直接郵送いたします。

●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課 ☎03-3440-2351 (代表) ●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131/末日聖徒イエス・キリスト教会 資料管理部配送センター ☎044-811-0417

The Seito No Michi (ISSN 0385-7670) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price \$14.00 a year. \$1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to Seito No Michi at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

索引

●以下のテーマによる説教が、それぞれ右側のページに掲載されています。このリストは話者が取り上げたテーマを、すべて網羅するものではありません。

あ 贖い 24, 71, 81
アロン神権 51, 54
憐れみ 61
イエス・キリスト 6, 13, 19, 27, 71, 74, 81, 86, 90

イエス・キリストの教会 58, 94
一致 65, 88
祈り 31, 88, 105
生まれながらの人 71
教え 6
夫 51

か 回復 15, 90
鍵 6
家族 11, 35, 68, 71, 78, 88
家庭 88
神 24, 90
逆境 24
教会員の力 94

悔い改め 81
結婚 35, 68
権威 6
謙遜 27, 29
現世 24, 29
権利 74
高齢者 74
告白 81

コートシップ 68
子供たち 35, 74
さ 最初の示現 90
才能 107
産児制限 11
死 13, 35
自尊心 65, 107
使徒 6
自由意志 24, 90, 94
従順 24, 81
十二使徒定員会 6
什分の一 42, 68
主の教会 51

神権 42, 51, 54, 58, 61
信仰 6, 24, 31, 94
人生 81
神殿 11
人道的救援活動 65
救いの計画 9, 24, 68
聖会 13, 15, 42
聖典学習 99, 105
誓約 11, 29, 33, 35, 84
聖霊 11
先祖 42, 51
戦争 61

た 大管長会 51, 58
地域幹部 58
地区代表 58
罪 78, 81
テレビ 94
天上の戦い 94
伝道活動 54
な 忍耐 31
は 背教 90
バプテスマ 84
日の光栄の王国 90, 94
復活祭 86
不道徳 71
ホームティーチング 49, 51
ま モルモン経 9
や 誘惑 81
予言者 15
ら 両親 71, 74, 90

●今大会の話者(アイウエオ順)の説教が右側のページに掲載されています。

アイリング、ヘンリー・B 27
アヤラ、エドワード 31
アレン、アンドレア 102
イートン、メラニー 101
ウォシュバーン、J・バラード 11
オークス、ダリン・H 90
カーティス、リグランド・R 88
クライド、アイリオン・H 29
クリステンセン、ジョー・J 68
コール、ヒラリー 103
サミュエルソン、セシル・O、ジュニア 33
スコット、リチャード・G 81
デレンバック、ロバート・K 9
ネルソン、ラッセル・M 35
パーキン、ボニー・D 84, 97
バックナー、ボイド・K 6
バラード、M・ラッセル 24
ピアス、バージニア・H 96
ピーターソン、アンドリュー・W 86
ヒンクレー、ゴードン・B 58, 74, 94, 107
ファウスト、ジェームズ・E 51, 65
ブラフ、モンティ・J 46
ヘイト、デビッド・B 40
ベイトマン、メリル・J 13
ヘイルズ、ジャネット・C 99
ヘイルズ、ロバート・D 15
ペリー、L・トム 78
ホランド、ジェフリー・R 42
マーティンズ、ヘルベシオ 49
マックスウェル、カレン 104
マックスウェル、ニール・A 71
モンソン、トーマス・S 4, 54, 61, 105
ワースリン、ジョセフ・B 19

目次

末日聖徒イエス・キリスト教会第165回年次総大会報告……1

1995年4月1日(土) 午前の部会

聖会および教会役員への支持

トーマス・S・モンソン……………4

「信仰の盾」 ボイド・K・パッカー……………6

モルモン経翻訳の奇跡

ロバート・K・テレンバック……………9

神殿は家族の務め J・バラード・ウォッシュバーン……………11

内から癒す力 メリル・J・ベイトマン……………13

予言者の声に聞き従う

ロバート・D・ヘイルズ……………15

霊の渴きを癒す生ける水

ジョセフ・B・ワースリン……………19

1995年4月1日(土) 午後の部会

教会監査委員会報告 テッド・E・デービス……………22

1994年度統計記録 F・マイケル・ワトソン……………23

人生の疑問に答える M・ラッセル・バラード……………24

「御子を常に忘れず」 ヘンリー・B・アイリング……………27

愛の誓約 アイリーン・H・クライド……………29

信仰を守り通した エドワルド・アヤラ……………31

イエスがごらんになるように

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア……………33

誓約にあずかる者 ラッセル・M・ネルソン……………35

新しい予言者への支持 デビッド・B・ヘイト……………40

1995年4月1日(土) 神権部会

神権者の受け継ぎ ジェフリー・R・ホランド……………42

自分は何者なのか モンティ・J・ブラフ……………46

やぐらの上の見張り ヘルベシオ・マーティンズ……………49

羊飼いの責任 ジェームズ・E・ファウスト……………51

あらゆる人が聞くために トーマス・S・モンソン……………54

人のためのみ業 ゴードン・B・ヒンクレ……………58

1995年4月2日(日) 午前の部会

憐れみ——神の賜 トーマス・S・モンソン……………61

神の王国の継承者 ジェームズ・E・ファウスト……………65

幸福の偉大な計画と結婚

ジョー・J・クリステンセン……………68

「すべて神のみこころに背くことを捨てよ」

ニール・A・マックスウェル……………71

主のみ業 ゴードン・B・ヒンクレ……………74

1995年4月2日(日) 午後の部会

「選ばれし婦」 L・トム・ペリー……………78

赦しを得る リチャード・G・スコット……………81

誓約を記念する ボニー・D・パーキン……………84

復活祭の思い出 アンドリュー・W・ピーターソン……………86

愛に囲まれた食卓 リグランド・R・カーティス……………88

背教と回復 ダリン・H・オークス……………90

なすべき業あり ゴードン・B・ヒンクレ……………94

1995年3月25日(土) 若い女性の大会

神のみ言葉を試す バージニア・H・ピアス……………96

脂肪分ゼロのごちそう ボニー・D・パーキン……………97

み言葉の実を味わう ジャネット・C・ヘイルズ……………99

努力のかがいがあります メラニー・イートン……………101

主を信頼する アンドレア・アレン……………102

主は助けてくださいます ヒラリー・コール……………103

成長を促す指導者 カレン・マックスウェル……………104

選択の時期 トーマス・S・モンソン……………105

内なる光 ゴードン・B・ヒンクレ……………107

指導者の言葉……………110

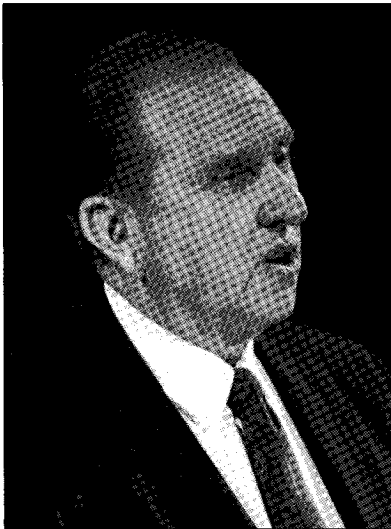
チャーチニュース……………112

ローカルニュース……………116

聖会および 教会役員への支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、私はヒンクレー大管長から、聖会の議事の進行を担当するように指示されました。この会は、全世界の末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、きわめて重要で神聖な会です。挙手は定員会とグループごとに取ります。皆さんがどこにしようと、要請がありましたら起立して、提議された名前の人に対して支持、不支持の挙手をしてください。挙手はその時に起立している人だけが行なうことができます。

テンプルスクウェアのアセンブリーホール、ならびにジョセフ・スミス記念館に集うよう割り当てを受けた教会幹部も、この挙手の模様を見守っています。またステーキ部センターでは、ステーキ部長会の皆さんが同じくこの挙手の模様を見守っています。反対の挙手があれば、その旨をこちらへ伝えてください。では、これから議事を進

めていきたいと思っております。

大管長会のかたがた、お立ちください。大管長会がゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者として、また末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持するよう提議します。この提議に賛成の方は、その意を表わしてください。反対の方がいれば、その意を表わしてください。

大管長会がトーマス・スペンサー・モンソンを当教会の大管長会第一副管長として、またジェームズ・エストラス・ファウストを第二副管長として支持するよう提議します。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方も同様をお願いします。

大管長会がトーマス・スペンサー・モンソンを十二使徒定員会会長として、またボイド・ケネス・パッカーを十二使徒定員会会長代理として支持するよう提議します。賛成の方は、その意を表わしてください。反対の方。

大管長会が十二使徒定員会会員としてボイド・K・パッカー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オックス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持するよう提議します。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方。

大管長会が大管長会副管長および十二使徒を、予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表わしてください。反対の方。大管長会のかたがた、お座りください。アイリング長老は、十二使徒評議員会のご自分の席にお着きください。

十二使徒定員会のかたがたは、お立ちください。大管長会がゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを十二使徒定員会の皆さんに提議します。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方もその意を表わしてください。どうぞお座りください。

七十人第一定員会と第二定員会ならびに管理監督会のかたがた、お立ちください。大管長会は、ゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを皆さんに提議します。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方がいれば、同様にその意を表わしてください。お座りください。

皆さんのいる場所がどこであれ、次のかたがたはお立ちください。聖任を受けたすべての祝福師の皆さん、大祭司定員会と長老定員会に所属するすべての会員の皆さん。私たちは、ゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを皆さんに提議します。賛成の方はその意を表わしてください。ありがとうございます。反対の方がいれば、同様にその意を表わしてください。お座りください。

アロン神権者の方全員、つまり聖任を受けたすべての祭司、教師、執事のかたがた、お立ちください。ゴードン・ビトナー・ヒンクレーは予言者、

聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者としてここまで支持されましたので、同様のことを皆さんに提議します。この提議に賛成の方は全員、挙手によってその意を表わしてください。ありがとうございます。反対の方がいれば、同様にその意を表わしてください。お座りください。

扶助協会に所属するすべての会員のかたがた、つまり18歳以上のすべての女性の皆さん、お立ちください。これまでゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを皆さんに提議します。賛成の方は全員、挙手によってその意を表わしてください。ありがとうございます。反対の方がいれば、その意を表わしてください。お座りください。

若い女性のかたがた、つまり12歳から18歳までのすべての若い女性の皆さん、お立ちください。これまでゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、

聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを皆さんに提議します。賛成の方は全員、挙手によってその意を表わしてください。ありがとうございます。反対の方がいれば、その意を表わしてください。お座りください。

今までに起立されたかたがたも含めて、全員お立ちください。これまでゴードン・ビトナー・ヒンクレーを予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として、副管長ならびに十二使徒定員会会員を同じく予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しましたので、同様のことを皆さんに提議します。賛成の方は全員、挙手によってその意を示してください。ありがとうございます。反対の方がいれば、その意を表わしてください。ありがとうございます。お座りください。

今度は着席したまま、そのほかの教会幹部および中央の教会役員を支持します。私たちは、七十人定員会会長としてレックス・D・ピネガー、カーロス・E・エイシー、チャールズ・

ディディエ、L・アルディン・ポーター、ジョー・J・クリステンセン、モンティ・J・ブラフ、W・ユージン・ハンセンの各長老を、さらに七十人第一定員会会員としてローレン・C・ダン、ジーン・R・クック、ウィリアム・R・ブラッドフォード、ジョン・H・グローバーク、ボーン・J・フェザーストーン、ディーン・L・ラーセン、ロバート・E・ウエルズ、ジェームズ・M・パラモア、ヒュー・W・ピノック、F・エンツィオ・ブッシュェ、菊地良彦、ロナルド・E・ポールマン、F・バートン・ハワード、テディー・E・ブルーアートン、ジャック・H・ゴズリンド、アンヘル・アブレア、ジョン・K・カーマック、J・リチャード・クラーク、ハンス・B・リンガー、マーリン・K・ジェンセン、アール・C・ティンギー、アレクサンダー・B・モリソン、L・ライオネル・ケンドリック、ハロルド・G・ヒラム、カーロス・H・アマゾー、ベン・B・バンクス、スペンサー・J・コンディー、ロバート・K・デレンバック、グレン・L・ペイス、F・メルビン・ハモンド、ケネス・ジョンソン、リン・A・ミケルセン、ニール・L・アンダーセン、D・



大会時の光景。ソルトレークタバナクルの1階および2階の一部の様子がうかがえる。

トッド・クリストファーソン、クリー・L・コップフォード、デニス・B・ノイエンシュバンダー、アンドリュー・ウェイン・ピーターソン、セシル・O・サミュエルソン・ジュニア、ジョン・B・ディクソン、ジェイ・E・ジェンセン、デビッド・E・ソレンセン、W・クレイグ・ズウィックの各長老を、また七十人第二定員会会員としてエドワルド・アヤラ、リグラン・R・カーティス、ヘルベシオ・マーティンズ、J・バラード・ウォシュバーン、デュレル・A・ウルジ、W・マッケンジー・ローレンス、ルロン・G・クレーブン、ジョセフ・C・ミューレン、グラハム・W・ドクシー、ホルヘ・A・ロハス、フリオ・E・ダビラ、^{ハンインサン}韓仁相、スチーブ・D・ナドール、サム・K・島袋、リノ・アルパレス、ダラス・N・アーチボルド、C・マックス・コールドウェル、ゲリー・J・コールマン、ジョン・E・ファウラー、アウグスト・A・リム、ジョン・M・マドセン、V・ダラス・メリル、F・デビッド・スタンレー、^{タイクオックエン}戴國源、ローウェル・D・ウッド、クラウドディオ・R・メンデス・コスタ、W・ドン・ラッド、ジェームズ・O・メーソン、ディーター・F・ワークトドルフ、ランス・B・ウィックマン、ブルース・D・ポーターの各長老を、また管理監督会管理監督としてメリル・J・ベイトマンを、第一副監督としてH・デビッド・バートンを、第二副監督としてリチャード・C・エッジリーの各長老をそれぞれ支持するよう提議します。この提議に賛成の方は、その意を表わしてください。反対の方がいれば、同様にその意を表わしてください。

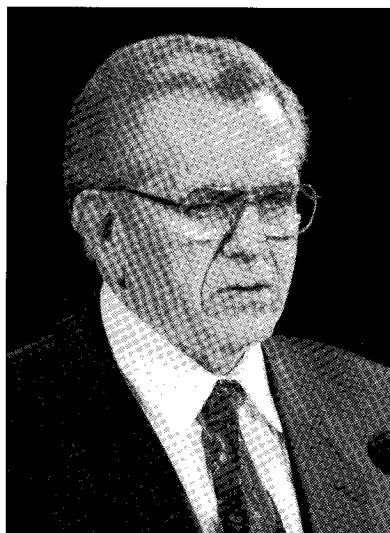
私たちは各補助組織の中央会長会を現状のまま支持するよう提議します。賛成の方は、その意を表わしてください。反対の方がいれば、その意を表わしてください。

ヒンクレー大管長、私が見てきたかぎり、すべての提議がタバナクルでは全会一致をもって承認されました。では、新しい七十人のかたがた、よろしければ壇上の方に着席してください。

「信仰の盾」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

教会の教えが最終的に目指しているものは、主イエス・キリストを信じる信仰の中で、親と子をひとつに結びつけることです。



10カ月前にエズラ・タフト・ベンソン大管長が亡くなり、短い期間でしたが深い印象を残したハワード・W・ハンター大管長の指導が、時を置かずには始まりました。この偉大な予言者が長く人々の記憶にとどまらるるよう。そして今また、一瞬の間隙もなく、啓示によって確認された手続きが私たち全員の参加を得て行なわれ、教会は定められた道を前進していきます。

教会を導き、教会の中で教えるように召された人々を支持するときの、この挙手の慣行は神聖な意義を持っています。支持の挙手は集会の中で行なわれ、世界じゅうの教会に中継ない録画で送られているこの大管長会の支持の模様も、次の主の啓示に従うものです。「またわれ^{なんじ}汝らに告ぐおよそ……権威ある者より聖職に^{あかし}按手任命され、またその者の権威を有てることと、教

会の長たる者たちより正式の按手聖任を受けたることが教会員の知る所にあらざれば、^{なんびと}何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと、または教会を創立することを許されざるべし。」(教義と聖約42:11, 下線付加)

「教会の大管長会の指揮下^{おい}に於て、天の制に適うよう主の御名によりて職務を行う」(教義と聖約107:33) 十二使徒定員会についていえば、皆さんに断言できます。私たちが大管長であるゴードン・B・ヒンクレー大管長とふたりの副管長を支持するに当たって、十二使徒会は完全に一致しています。なぜなら、教会の大管長を支持するために挙手をして、私たちは回復のみ業の当初から途絶えることのない権威の経路を継続させているからです。

ある人々は、大管長職の^{かぎ}鍵をリレー競技の際のバトンのように、ひとりの人から別の手に手渡されるものと思っています。また予言者ジョセフ・スミスが秘密のうちに、あるいは私的に大管長職の鍵を後継者に授けたと考えている人々もいます。

しかしこれは定められた秩序ではありません。ハワード・W・ハンターを教会の大管長に聖任したのはエズラ・タフト・ベンソン大管長ではありませんし、同様に、ゴードン・B・ヒンクレーを教会の大管長に聖任したのもハワード・W・ハンター大管長ではありません。

ひとりの大管長の在任期間から別の大管長の在任期間までの権威の経路の橋渡しをするのは十二使徒会であり、こうして経路が途絶えないように守られています。

殉教の少し前、予言者ジョセフ・ミスは次のような予言的な言葉を残しました。「兄弟たち、主は私たちの従事するみ業を速めるように命じられました。近々、重大な局面の展開があるでしょう。私の命が敵に奪われることかもしれません。もしそうであった場合、私にゆだねられた鍵^{かぎ}と権能をあなた方に伝えていかなかったら、それらは地上から失われてしまうでしょう。しかし私がそれらをあなた方の頭の上に授けることができさえすれば、神の許しの下に私が暗殺者たちの手に陥っても、私は心からの喜びと満足をもって行くことができます。私の務めは終わり、神の王国が建つ土台は時満ちたる神権時代に確立されることがわかっているからです。あなた方が自分たちの後継者を任命するまで、今後、教会を導く責任は十二使徒の肩に置かれなければなりません。」(『1844年3月の十二使徒集会に関する十二使徒会の宣言草稿』「ブリガム・ヤング文書」末日聖徒教会公文書課蔵)

十二使徒は個人的にも総体的にも鍵を保有し、教会を管理するひとりの男性、すなわち前任使徒にすべての鍵を行使する権能を確認します。

主が備えてくださった制度には、地位を熱望したり、策略を用いて地位や権力を手に入れたり、また投票を勧誘したり、影響力を行使したりする気配さえありません。制度自体がそれらを許しませんし、主ご自身もそれらをお

許しにはなりません。この制度は人間が普通行なうように機能はしませんし、そうであってはなりません。主は予言者イザヤにこう注意を促されました。

「天が地よりも高いように、わが道は、あなたがたの道よりも高く、わが思いは、あなたがたの思いよりも高い。」(イザヤ55：9)

挙手は太古からの習慣です。それはモーセが荒野の破壊者・略奪者、アマレク人と遭遇した時の話に象徴されています。

「モーセはヨシュアに言った、『われわれのために人を選び、出てアマレクと戦いなさい。わたしはあす神のつえを手にとって、丘の頂に立つであろう。』

ヨシュアはモーセが彼に言ったようにし、アマレクと戦った。モーセとアロンおよびホルは丘の頂に登った。

モーセが手を上げているとイスラエルは勝ち、手を下げるとアマレクが勝った。

しかしモーセの手が重くなったので、アロンとホルが石を取って、モーセの足もとに置くと、彼はその上に座した。そしてひとりはこちらに、ひとりはこちらにいて、モーセの手をささえたので、彼の手は日没までさがらなかった。

ヨシュアは、つるぎにかけてアマレクとその民を打ち取った。」(出エジプト17：9-13)

主のみ業を阻止する現代の邪悪な人は、当時とは異なっているものの、

略奪者アマレク人に劣らず手ごわい相手です。予言者への支持の挙手はこの民の安寧^{あんねい}にとって現在も守られている不可欠な要素です。万一年齢や衰弱のために手を挙げるのが重くなったときは、副管長たちがわきにいて腕を支えます。ふたりとも、十二使徒定員会の一人一人がそうであるように、予言者、聖見者、啓示を受ける者です。

1976年、デンマークの首都コペンハーゲンでの大会の後、スペンサー・W・キンボール大管長は私たちを招いて小さな教会へ行き、バーテル・トルバルセン作のキリストと十二使徒の彫像を見ました。「キリスト」と名付けられたこの作品は祭壇の奥に立っていました。十二使徒の像は礼拝堂の側面に順番に並んでいますが、イスカリオテのユダに代わってパウロが立っています。

キンボール大管長は年配の管理人に次のように語りました。「トルバルセンがデンマークでちょうどこの美しい彫像を制作していた時に、イエス・キリストの福音の回復がアメリカで起き、いにしえに保持していた人々から権威を受けて使徒と予言者が備えられました。」

キンボール大管長はその場にいた人人を自分の周りに集め、その管理人にさらにこう言いました。「私たちは主イエス・キリストの生きた使徒です。」またピネガー長老を指して、「新約聖書の中で語られているのと同じ七十人がここにいます」と言いました。

私たちはペテロの像の近くに立っていましたが、彫刻家は彼に王国の鍵を象徴する実際の鍵をその手に握らせていました。キンボール大管長はこう言いました。「私たちはペテロと同じようにほんとうの鍵を持ち、それらを毎日使っています。」

次いで私は決して忘れることのできない光景を目撃しました。このやさしい予言者、キンボール大管長はコペンハーゲンステキー部のジョアン・H・ペンティーンステキー部長の方を向き、命ずるような口調でこう言ったのです。「デンマークじゅうの聖職者に伝えて





ください。王国の鍵^{かぎ}を持っているのはあなた方ではありません。持っているのは私です、と。」

その時、末日聖徒には理解できても経験していない人には表現がむずかしい、ひとつの光明、人の魂そのものに注がれる力、あの証^{あかし}が私に与えられ、確かにここに王国の鍵を持った生きた予言者が立っているということを私は知りました。

主はなぜ「ある人を使徒とし、ある人を予言者とし」でお立てになったか理由を示されました。すなわち「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」するためです。それは「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ4:11-13)

ですから「使徒」、すなわち大管長会と十二使徒会の務めとは、私たちを信仰の一致に至らせることなのです。

時の初めからそうであるように、サタンは私たちを分裂させ、打ち破り、

できることなら破滅させようとしています。しかし主はこう言われました。「汝^{なんじ}の心をはり上げて喜べ。汝の腰を引き上げ、わが物の具をことごとく身に甲^{よろ}うべし、汝悪しき日に遭^あいて立ちむかい……得んためなり。左手に悪しき者の火矢をことごとく消すべき信仰^{たて}の楯^{たて}を執り……。」(教義と聖約27:15, 17, 下線付加)

予言者と使徒たちは、その務めゆえに自分たちの注意を常に家庭と家族に向けています。信仰の盾は工場ではなく、家庭で生産されるからです。

教会の教えが最終的に目指しているものは、主イエス・キリストを信じる信仰の中で、親と子をひとつに結びつけることです。それは彼らが家庭で幸福になり、永遠の結婚による結び固めを受け、世代どうしを結びつけ、天父のみもとでの昇栄を確信できるようにするためです。

親や子供たちが「もてあそばれたりすることがなく」、「人々の悪巧みによって」(エペソ4:14) 誤って導かれることがないように、天父のご計画によれば、命それ自体の創造と同じよ

うに、家族の一人一人に合った信仰の盾を作る必要があるのです。どの盾も同じものはひとつとしてありません。どれも個人の規格に合った手作りでなければならぬのです。

御父の考案されたご計画では、男性と女性、夫と妻と一緒に働き、悪魔の火矢をはね返し、奪い取られることのないがっしりとした信仰の盾を、子供たち一人一人に合わせて備えてやる必要があります。

それには、盾の材料であるあらがねを打ち出す父親の着実な力と、それに磨きをかけ、一人一人の規格に合わせる母親のやさしい手が必要です。ときには親がひとりですればしなければならぬ場合もあります。むずかしい務めですが、それは可能です。

教会では、信仰の盾の材料になるいくつかの原料^{げんざつ}について教えることができます。敬虔さ、勇気、純潔、悔い改め、赦^{ゆる}し、愛に満ちた思いやりなどがそれです。それらを組み合わせ、個人個人の規格にどのように合わせるかについても教会で学べます。しかし実際に信仰の盾を作り、それを個人に合うようにする作業は家族の中で行なう必要があります。そうでなければ、危機が襲ってきたときに盾は緩んで、外れてしまうかもしれません。

予言者と使徒たちははっきりと知っています。パウロの予言した末日の危険な時代が現代であることを。「人々は自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、高慢な者、神をそしめる者、親に逆らう者、恩を知らぬ者、神聖を汚す者、無情な者……となる。」(IIテモテ3:1-7参照)

このようになることをご存じであった主は、このように警告されました。「シオンまたは……シオンのステーク部内にて子供を有する両親^{くわいあらた}あらば、……悔改^{くわいあらた}め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと……聖霊の賜^{たまもの}などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親^{こうべ とどま}の頭^{あたま}に留^{とどま}るべし。

およそシオン……に住める者の律法^{おきて}はかくの如^{ごと}し。……

また両親はその子供たちに祈ること

と、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68:25-28参照)

信仰の盾は工場の流れ作業で一斉に組み立てられるものではありません。一軒一軒の家庭で丹念に手で作られるのです。だからこそ、教会の指導者たちは行なう価値のある最も大切な事柄を家庭の中で行なわなければならない、という点を会員たちに理解させようとしているのです。それでもまだ一部の人は、家庭の外で行なわれる活動は、それがどんなにすばらしい意図を持つものであっても、あまりにも多すぎれば、家庭で信仰の盾を作り、一人一人に合わせるための時間がほとんど取れなくなってしまうことを理解していないようです。

私たちはこの神聖な聖会の中で、大祭司や大管長、使徒、予言者、聖見者、啓示を受ける者などという尊い称号に心を向けていますが、同時に、父親、母親、子供、兄弟、姉妹、家族、さらにお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、赤ちゃんといったことを採り上げて天の怒りを買うことはありません。

もし敬虔に祈りの気持ちをもって従順に時を過ごすなら、なぜ天の神がご自分に向かって「御父」と呼び、宇宙の創造主を「御子」と呼ぶように命じられたのか、その理由を示される日が来るでしょう。その時聖典の中に語られている「高価な真珠」を見だして、喜んで行き、それを得るために自分の持っているものをすべて売り払うようになるでしょう。

予言者たちに示された偉大な幸福の計画(アルマ42:8, 16参照)とは、幸福な家族になるための計画です。それは世代を超えて常に書き替えられる、夫と妻、親と子供の愛の物語なのです。

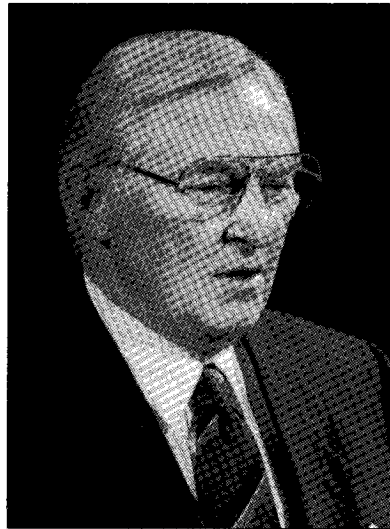
ですから、途切れることのないこの神権の権威の経路と神権の力を今得て、私たちは自信を持ち、信仰と一致をもって前進します。その導き手は、この教会を所属する贖い主なるキリストであり、神が器として語られるこの地上の神の予言者です。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

モルモン経翻訳の奇跡

七十人

ロバート・K・テレンバック

モルモン経は世の人々にとって吟味に値するたくいまれな書物としての地位を確立しています。165年以上も前に天から発せられた火花は、新たな時代の夜明けを告げる明るいたまつとなつて、輝きわたっているのです。



愛する兄弟姉妹の皆さん、モルモン経の翻訳がいかに重要な意義を持つ奇跡であるかはっきりと認識しているでしょうか。奇跡とは、「人の業に神の力が介在したことを示す超自然的な出来事」です。(「メリアム・ウェブスターズ・カリージェト英英辞典」第10版。メリアム・ウェブスター社) ジョセフ・スミスがモルモン経を翻訳したことはこの定義と一致しており、まさに現代の奇跡と言えます。

モルモン経は現在80以上の言語に翻訳されており、このほかにもさらに数カ国語で翻訳作業中かあるいは出版に向けて準備が進められています。ここで、モルモン経を英語からほかの言語に翻訳する場合の現行のプロセスについて考察してみたいと思います。教会では、英語に精通するとともに母国語の表現力にも秀でた、有能で経験豊か

な会員の翻訳者が働いています。彼らは皆、信仰あつい教会員であり、靈感によって翻訳の業に導きを得られるよう、高潔で高い倫理観を備えています。ジョセフ・スミスの時代と同様に、今日も聖典を翻訳するには神の賜が不可欠です。

しかし、ジョセフ・スミスの時代と違って、今日の翻訳者の多くはその神聖な仕事を行なうのにコンピューターやワープロ、辞書や百科事典を活用しています。現代の翻訳業務は実に大規模で、各行程で教会の翻訳に関する専門家から厳密な検査を受けることになっています。しかし、いかに教会員の有能な翻訳者と高度の技術をもってしても、一から始めて出版にこぎつけるまでの全行程にはおよそ4年はかかります。

それでは、この現代の翻訳と若きジョセフ・スミスが行なったモルモン経の翻訳とを比較してみましょう。ニューヨーク州北部の農家で育ったジョセフが、変体エジプト文字で書かれた聖なる記録を英語に翻訳する業を完成したのはわずか24歳の時でした。

経済的に困難で、妻子を養うために忙しく働いていました。種まきと収穫、まき割り、水くみ、家畜の世話などに追われていたのです。

翻訳をするジョセフの置かれた環境も理想とはほど遠いものでした。彼は命を脅かされていましたし、暴徒たちから金版をねらわれていました。そのため、古代の記録を隠し、しかも頻繁に隠し場所を変えなければなりませんでした。(ジョセフ・スミス2:60参

照) ジョセフには電話やファクシミリ、口述用の録音機器、ワープロ、複写機はもちろん、電灯すらありませんでした。

彼は公の教育もほとんど受けていませんでした。おそらく小学3年生程度の教育しか受けていなかったと思われます。ましてや、翻訳に携わるに先立って大学に通うことなどできるはずがありません。文学雑誌や専門の定期刊行物が家に届くこともありませんでした。南アメリカや中東諸国を訪れたこともありません。学会にも属さず、大規模な調査を行なうこともなく、金版に刻まれた古代の記録の内容について話し合える学識者も周りにいませんでした。ただ基礎的な読み書きや算数を学び、そしておそらくアメリカの歴史について少しくらいは知っていたかもしれません。ジョセフが英語の聖書を読んでいたことは知られていますが、常識的に考えてこのような人物が学者や神学者、まして聖典翻訳の専門家であるはずがありません。

ではジョセフには、翻訳に役立つような技能が備わっていたのでしょうか。モルモン経の筆記に携わった中心的人物、オリヴァ・カウドリはジョセフの翻訳力の源についてこう語っています。「予言者ジョセフ・スミスは、神の賜と力によって、そしてウリムとトミムを用いてモルモン経を翻訳した。」(『オリヴァ・カウドリの晩年』「デゼレトニューズ」1859年4月13日号, p.48)

通常、著作物というものは推敲や校正を重ねてようやく美しく洗練された原稿へと仕上がっていくものです。たとえば、エーブラハム・リンカーンはあのゲティズバーグの演説を書くのに5回も書き直しました。書き直したどの草稿も微妙に異なっています。(『ゲティズバーグの演説』「世界書籍百科事典」1992年版参照)

今大会でお話を準備するに当たり、私はジョセフ・スミスによるモルモン経の翻訳原稿を数ページにわたってじっくり読むという荣誉にあずかりました。教会の公文書保管室に大切に保管されているものです。誤字など、ほ



んのわずかのささいな訂正しかなされてない美しい原稿を見て非常な感銘を受けました。ジョセフの翻訳原稿の原本が完璧かんぺきそのもので、唯一の源、神の啓示によりもたらされたとしか考えられなかったからです。

ジョセフには、モルモン経の翻訳だけでなく、イエス・キリストの教会を回復し再び組織するという責任がありました。翻訳に取り組んでいる時でさえ、ジョセフは多くの啓示や天使の訪れを受け、神権の回復やバプテスマに関する啓示などの重要な責任を次々と与えられたのでした。(ジョセフ・スミス2:68-75参照) ジョセフはこのように多くの責任のためにしばしば翻訳を中断しなければなりません。それが何カ月間にも及ぶこともときどきありました。しかし翻訳の業に専念できるときはどんどん作業がはかどり、1日に8ページから10ページも翻訳しました。モルモン経翻訳の大半は、実際に翻訳に取り組めた日数で見ると約63日で完了しています。(ジョセフ・W・ウェルチ、ティム・ラスポーン「モルモン経の翻訳、その確かな史実」p.14参照)

オリヴァはこの奇跡的な出来事を振り返ってこう証しています。「来る日も来る日も、私は……この歴史書、民の記録、すなわち『モルモン経』を……ジョセフが翻訳し口述するままに、やむことなく筆記していった。」(『末日聖徒——使者にして唱導者』pp.14-16)

ジョセフは、ニーファイ、アルマ、モルモン、モロナイをはじめとする、

モルモン経の予言者たちが記した救い主のみ言葉を、1,400年以上を経て初めて読んだ人物です。彼の翻訳の能力はまさに「めずらしい業と驚嘆すべき事」(IIニーファイ25:17) そのものでした。

ジョセフが英訳したモルモン経の翻訳原稿は、文法的訂正と校正箇所がわずかにあるだけで、今日私たちが使用しているものとほとんど変わりません。そして、世界じゅうでモルモン経をほかの言語に翻訳する際にその原本となっています。(『モルモンニズム百科事典』ダニエル・H・ラドロー、第4巻『モルモン経の翻訳原稿』の項参照) 昔ニーファイが予言したとおりです。「わが言葉は世界の隅々までも響きわたり、……わが民の旗となるべし。」(IIニーファイ29:2)

現在このような業を成し遂げられる人がいるでしょうか。世界屈指の神学者、古代言語学者、考古学者が何人集まったとしても、これほど崇高で卓絶した価値を有する書物を著わすことはできないでしょう。

ジョセフと同様に少ししか教育を受けず、設備も限られた状態だったとしたら、一体ほかにだれが独力でしかもこれほど短期間に古代の記録を翻訳し、500ページを超える聖典として世に著わせるのでしょうか。現在この書物の発行部数は7,300万部にも上っています。

ジョセフが行なった、この神聖な古代の聖典の翻訳は、多くの懐疑論者による綿密な調査にも耐えてきました。モルモン経は世の人々にとって吟味に値するたぐいまれな書物としての地位

を確立しています。165年以上も前に天から発せられた火花は、新たな時代の夜明けを告げる明るいたいまつとなつて、輝きわたっているのです。「主のみたまは火のごと燃え」（賛美歌3番）と歌われているのもうなづけます。いまや世界じゅうの人々がモルモン経に記されたイエス・キリストに対する証を探し求めています。彼らはまさにあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民であり、ジョセフ・スミスに啓示されたとおりです。「地のいや果にある者すら汝の名を訊ね……ん。」（教義と聖約122：1）ではなぜ彼らはジョセフ・スミスの名を尋ね求めるのでしょうか。それはモルモン経が救い主イエス・キリストの神性と贖罪について証する書物であり、ジョセフが回復の予言者だからです。

モルモン経の翻訳という奇跡への感謝の念を込めて、皆さんとともにこう歌いたいと思います。

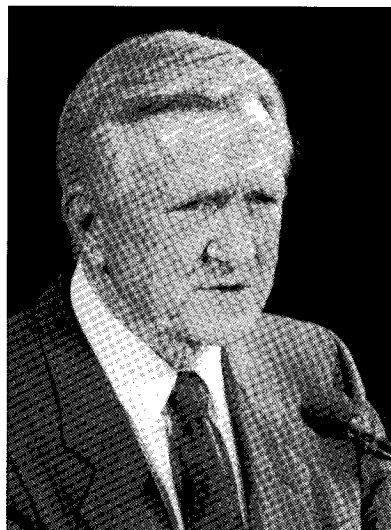
「たたえよ、主の召したまいし
主と語りし予言者を
末の時を始めたる
業を世、皆崇めよ……
ジョセフを世はまた知る」
（賛美歌16番）

皆さんに証します。モルモン経翻訳の奇跡は、ジョセフが神の予言者であることの確かな証拠です。彼はまさに「〔キリストの〕教会の基礎を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あ〔る〕この教会を明るみに出す」よう召されました。（教義と聖約1：30）モルモン経は「私たちの宗教のかなめ石」であり、人は「その教えに従うことにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」のです。（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.194）私たちがモルモン経翻訳という奇跡の貴さをはっきりと認識し、モルモン経に記された救い主の教えを通して主を知り、主に従おうという望みを一層強めていけますように。イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

神殿は家族の務め

七十人
J・バラード・ウォッシュバーン

私たちは神殿に参入して誓約を交わし、家に戻って自分たちの交わした誓約を守らなければなりません。



愛する兄弟姉妹の皆さん。皆さんとともに、ヒンクレー大管長、モンソン副管長、ファウスト副管長、パッカー会長代理ならびに十二使徒会のかたがたに愛を表明し、支持できるのは、名誉であり特権です。私はまた、皆さんを愛しています。喜びをもって私はそう申しあげます。皆さんとともに王国のみ業に従事できることを感謝しています。

最近、私はあるステーク部大会の後で、10代の子供を持つある家族と話す機会がありました。その子供たちに私はこう言いました。「いつの日か両親と一緒に神殿に参入できるように、あなたがたは正しい生活をする必要があります。」すると16歳になる娘さんがこう答えました。「私たち、ほとんど毎週のように両親と一緒に神殿に入っているわ。行って家族ファイルのバプテスマを受けるのよ。」家族と一緒に

神殿に参入するのはなんとすばらしいことだろう、と私は思いました。

イエスが12歳の時、彼の両親はイエスを神殿に連れて行きました。私たちが子供が12歳になったら彼らと一緒に神殿に入ることができますが、これがイエスの話と一致していることには単なる偶然以上の意味があると思います。ヨセフとマリヤは「監督、息子を神殿に連れて行ってくれませんか」とは言いませんでした。自分たちで連れて行きました。

私たちは親として、ワード部、ステーク部として、青少年がふさわしい状態で、今、神殿に参入できるよう援助することに、力を注がなければなりません。若い女性も、若い男性と同様に、今、神殿に参入できるふさわしさを身につけることが目標です。監督は毎年青少年と面接するとき、ふさわしさを判断する面接も行ないます。

すべての若い女性と若い男性が神殿に参入できるように親が力づけるのを、毎年助けるというのは、神権指導者や若い女性指導者にとってなんとすばらしい目標でしょう。事情が許すなら、少なくとも年に1度、12歳以上の子供と一緒に神殿に参入するというのは、親にとってなんと大きな祝福でしょう。

神殿に参入したいという望みを何よりも与えてくれるもののひとつは、聖霊を受けることです。

聖霊を受けるには、ふたつの大切な事柄が必要です。第1はそれを受けるにふさわしい生活を送ること、第2は聖霊を求めなければならないということです。

「汝ら必ず受くべきを信じて、信仰

を以てわが名により御父に願うべし。さらば、人の子らの為になるすべての事を示す聖霊を受くべし。」¹

信仰をもって願い求めるならば、聖霊が与えられ、聖霊は私たちを神殿に導いてくれます。

ここでひとつの警告をしたいと思えます。ふさわしくないまま聖なる宮居に参入すれば、神の裁きを自分の身に招くという点です。神を欺くことはできないからです。

過去の罪を完全に悔い改めないまま神殿に参入して結婚しようとする男女は、出発の時点から非常に危うい土台の上に立った結婚生活を始めることとなります。私は、これが神殿結婚をしてから離婚する人々の原因のひとつであろうと考えています。自分の妻や子供に対して、あるいは仕事上の取り引きについて正直な生活を送っていない男性が神殿に参入すれば、自分自身に神の裁きを招いているのであって、深く悔い改める必要があります。

ハンター大管長はこう言いました。「私の心からの願いは、すべての教会員が神殿に参入するふさわしさを身につけることです。」² 教会の若い男性、若い女性が伝道地へ赴任する前に、ふさわしくない状態で神殿に参入するのは大きな間違いです。まず最初に彼らを神殿に参入できる状態に備えなければなりません。そうすれば伝道に出る準備も整います。ハンター大管長はこうも言いました。「ふさわしい状態で神殿に参入できるように、将来宣教師となるすべての人を備えましょう。神殿参入の経験が、彼らにとって伝道の召しを受けること以上に人生で重要な出来事となるようにしましょう。」³

すばらしい永遠の祝福は神殿から私たちにもたらされます。神の最大の賜である、永遠の生命は男女ふたりでしか受けることができません。そしてふさわしい状態にあるすべての人々はいつの日か、この祝福を受けます。教義と聖約第131章には、次のように記されています。

「日の光栄には三種の天界、すなわち三種の階級あり。

而してその最も高きものを得んため

に、人はこの神権の位（すなわち新しく且つ永遠の結婚誓約を言う）に入らざるべからず。

人もし然せずんばそれを得ることを得ず。

人は他の天界に入るを得べし。されど、そはすなわちその人の光栄の国の行き止りにして、また殖めること能わず。」（1-4節）

ここにあるように、夫と妻は新しくかつ永遠の結婚誓約と呼ばれる神権の位に入ります。この誓約には進んで子供をもうけ、彼らに福音を教えることも含まれます。親がこの誓約に伴う責任を引き受けないうために、現代のさまざまな問題が引き起こされています。親が健康な状態にありながら子供を持つとうとしないのは、この誓約に反しています。

私が医師として開業し始めた35年前には、既婚の女性が避妊の相談を求めて来ることはほとんどありませんでした。私が医療の仕事から退く時には、一部の忠実な末日聖徒の女性を除いて、既婚の女性がひとりまたはふたり以上の子供を望むのはまれでした。中には子供をまったく望まない女性もいました。神殿で交わした神聖な誓約を破るように仕向けるこの世の偽りの教えに、教会員は捕らえられてはなりません。

私たちは神殿に参入して誓約を交わし、家に戻って自分たちの交わした誓

約を守らなければなりません。家庭は試しの場です。家庭はキリストのような特質を身につけるための場所です。利己心を克服し、奉仕に自分を捧げることを学ぶ場所なのです。

大切なのは家族の祈りや家庭の夕べなど「小さなこと」であるという提案を、簡単にわきへ押しやらないでください。父親がテレビを見ないで子供と一緒に夜の祈りを捧げ、寝る前に短い話をしてやるといった「小さなこと」。聖典を家族と一緒に読むために時間を割くという「小さなこと」。夫が心を大きく持って「ごめんね。そんなことを言うべきじゃなかった。これからは改めるよ」と言ったり、母親が子供に「怒ったりしてごめんさいね。赦してね」と言ったりする「小さなこと」。そうです。私たちが毎日行ない、毎週行なう「小さなこと」が、大きな違いを生むのです。

神殿で交わした誓約を守ることによって、神のすべての子供たちは昇栄の可能性を得ます。私はもう一度申しあげます。私たちは神殿に参入して誓約を交わします。しかし、家に帰ってそれらの誓約を守らなければなりません。

ボイド・K・パッカー長老が紹介した話をお伝えしましょう。パッカー長老は世界各地を訪問し、異国情緒ある場所をたくさん見た後で、世界じゅう



のどこへでも行けるとしたらどこへ行きたいかと質問されたそうです。「家に帰りたい」というのがパッカー長老の答えでした。まったく同感です。私も同じ質問を受けたら、こう言うでしょう。「家に帰って大きな揺りいすに座り、両腕に孫を抱いて、彼らがまだ肌に残している天のちりをほおずりする私にも少し分けてほしい。」愛し方、分かち合い方、キリストのようになる方法を学べる家庭に、私は感謝しています。

私は神殿にも感謝しています。そこで私たちは永遠に家族としてひとつに結び固められることができます。私は神殿に感謝しています。そこで私たちは祈り、礼拝し、天の祝福を家族のために願い求めることができます。私は神殿に感謝しています。そこへ私たちは家族と一緒に参入し、私たちを永遠の家族にしてくれるとこしえのきずなを強めることができます。私たちはそこでまた、先祖が自分ではできない大いなる贖いの業を、彼らのために行なうこともできます。それはちょうど、私たちが自分ではできないことを、イエスが私たちのためにしてくださったのと同じです。神が永遠の知恵をもってそのすべての子供たちのためにこうした祝福を用意してくださったことを、私は感謝しています。しかし中には、これらの祝福を受けるために来世まで待たなければならない人々もいます。それでもふさわしい状態で生活する人はすべて、どの祝福も逃すことはありません。イエスは神殿に参入することを愛されました。私はそれを証します。神殿参入を愛することを学ぶのは、キリストのような特質を身につける過程の一部です。私たちが永遠の生命を享受するために永遠の家族となれるよう祈っています。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

注

1. 教義と聖約18：18
2. 『尊く、大いなる約束』「聖徒の道」1995年1月号、p.9（下線付加）
3. 『神の御子に従う』「聖徒の道」1995年1月号、p.97（下線付加）

いや 内から癒す力

管理監督

メリル・J・ベイトマン

イエスは贖いの力の一部として、死のとげを取り除き、苦しむ心に霊的な癒しをもたらしてください。



兄弟姉妹の皆さん、私はハンター大管長が予言者としての短い期間に教会員に与えてくれた、驚くべきすばらしい影響力に心から感謝しています。ハワイから西アフリカに至るまで、もっとキリストのようになり、神殿に心を向ける民になるというチャレンジにこたえる人々の姿を、私は目にしてきました。きょう私は、ゴードン・B・シンクレイ長老を予言者、聖見者、啓示を受ける者、教会の大管長として支持しました。新しい大管長会が発表された記者会見を見ている時、聖きみたまが私に、予言者の召しとこれまでの備えについて証しました。また、その時と同じようにきょうも、モンソン副管長とファウスト副管長、また十二使徒定員会会長代理のパッカー長老について、みたまの確認を感じました。きょうはさらに、ヘンリー・B・アイリング長老についてもみたま

の確認を受けました。予言者を備える主の方法はまさに奇しきみ業です。

少し前に私は、友人の息子さんの葬儀に参列しました。週の初めの夜遅く、その少年が友達と一緒に車で家に向かっていた時、居眠り運転をしていた対向車が中央分離帯を乗り越えて息子さんの車に激突しました。事故は一瞬の出来事で、道路にはブレーキの跡がほとんど見られず、2台の車は大破しました。この事故で、友人の17歳の息子さんを含め、3人が亡くなりました。

私はこの事故について考え、死から、特に身近な人の死からさまざまな教訓を学びました。第1に、17歳で死のうと80歳で死のうと、人生は短いということです。17歳の人にとって、80年は永遠のようですが、70歳の人にすれば、80年は長い試しの期間とは感じられないでしょう。

第2に、死は、人の中には霊が存在することを、私たちに改めて考えさせます。遺体と対面した時、その肉体から失われたのが血液だけでないのは、明らかでした。彼に宿っていた霊の光は、もはや顔の表情に生気を帯びさせることも、目を輝かせることもしません。少年は年若くして天に召されたのです。

死から学ぶもうひとつの教えは、永遠の家族の大切さです。この世に生まれる赤ちゃんを迎える家族がいるように、聖典は、心やさしい先祖たちが霊たちをパラダイスで迎え、新しい生活に溶け込めるように助けると教えています。（創世25：8；35：29；49：33参照）私はひつぎの前に立ちながら、この別離は両親だけでなく、突然幕の



向こう側に行ってしまった少年にとってもショックだったろうと思いました。彼はもう一度家族に、自分の愛を伝えなかったことと思います。家族が永遠であって初めて、天国は存在するのです。

4つ目は、おそらく最も重要な教訓で、人生の目的に関するものです。有意義な人生を送るには、若いころのつかのまの喜び以上のものがが必要です。計画がなければなりません。死は、たとえ不慮の死であっても、計画の一部です。信仰をはぐくみ、主を知ることになることが計画の中心です。永遠の行く末に希望を抱いて喜びを経験することも、人生の目的のひとつになります。

死が教えるように、私たちはこの世では完全な喜びは得られないし、主の助けなしに永遠の喜びに到達することもできません。(教義と聖約93：33-34参照) ベテスダの池にいた足の不自由な人が、癒されるために自分よりも強い人を必要としたように(ヨハネ5：1-9参照)、私たちは嘆きや悲しみや罪から癒されるために、キリストの贖いの奇跡に頼るのです。もし嘆き悲しむ両親や家族が、救い主とその計画を信じるならば、死のとげは和らげられます。イエスが信じる人の悲しみを負い、聖霊を通して慰めを与えて

くださるからです。キリストを通して、傷ついた心が癒され、不安や悲しみが平安に変わります。先週少年の両親から届いた手紙には、キリストへの信仰を通して平安を得たことが書かれていました。彼らは再び息子さんと会い、永遠に一緒にいられることを知っていました。イザヤは救い主についてこう言いました。「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……その打られた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ53：4-5)

予言者アルマはギデオンの民を教えた時、キリストの癒しの力について話しました。キリストについてこう言っています。「[主]は世の中へ出て苦難とあらゆる誘惑である試みとを受けたもう。これは、この方が自分でその民の苦しみと病いとを引き受けると言いたもう言葉が成就するためである。…また肉体をもつ者として慈悲の心に富みたまひ、虚弱の度に依じてその民を救う方法を知るために民と同じく虚弱を受けたもう。」(アルマ7：11-12) 苦難の源が何であれ、イエスは肉体だけでなく霊のことについても理解しておられ、癒す力をお持ちなのです。

救い主は神会のおひと方として私たち一人一人を知っておられます。イザヤと予言者アビナダイは、キリストが

ご自身を罪の「供え物となすとき、その子孫を見ることができ」と言いました。(イザヤ53：10。モーサヤ15：10と比較) アビナダイの説明によれば、主の子孫とは予言者に従う義人たちです。(モーサヤ15：11参照) イエスはあの園と十字架において、私たち一人一人を見て、その罪を負われただけでなく、私たちを慰めて力づける方法を知るために、深い苦悶を経験されたのです。

イエスは贖いの力の一部として、死のとげを取り除き、苦しむ心に霊的な癒しをもたらしてくださいます。聖典にはその例がたくさんありますが、私に忘れられない教訓を与えてくれた韓国の若い姉妹の話をご紹介します。1994年の初め、私は韓国のソウルのステーキ部大会で、20代の金英姫姉妹に会いました。美しい容姿の彼女は、壇上で車いすに座り、話の順番を待っていました。彼女の番が来ると、ひとりの兄弟が車いすを中央の説教台の横まで押して行き、会場から見えるようにしました。彼女はその兄弟からマイクを受け取って話し始めました。

以前に彼女は健康で、すばらしい仕事に就いて、充実した生活を送っていましたが、まだクリスチャンではありませんでした。ところが1987年にひどい交通事故に遭い、下半身がまひしてしまいました。退院して両親の家に帰った彼女は、これからどんな人生が待ち受けているのか考えるにつれ、落胆し無気力になりました。ある日、ドアをノックする人がいました。母親が出ると、ふたりのアメリカ人の女性がイエス・キリストについてのメッセージを伝えたいと言いました。母親はちゅうちょしましたが、声を聞いた彼女が中に招き入れました。ふたりは末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師でした。金英姫姉妹は、宣教師からレッスンを受けることにしました。モルモン経を読み、その真実性について祈り、教会に出席しました。そして回復された福音への証を得てバプテスマを受けました。

ステーキ部大会での証で彼女はこう言いました。「天父は外見ではなくて、心をご覧になります。また真の奇跡は、

心が癒されて変わり、高慢さがなくなることです。私の体はこの世では癒されないかもしれませんが、私の霊は聖霊によって癒されました。そして復活の時、すべて回復された完全な体が再び私の霊を宿し、私は完全な喜びを受けますでしょう。」

彼女の証を聞いた時、贖いの最大の奇跡と、傷ついた心を慰め内から癒す救い主の力について、みたまが私に証しました。そして10人のハンセン病患者のたとえ話について、理解を深めることができました。ルカによれば、イエスに会った10人のハンセン病患者は、救い主を見てこう言いました。「イエスさま、わたしたちをあわれんでください……。」イエスは答えられました。「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい……。」そして行く途中で、彼らは清められました。ひとりが帰って来て、足元にひれ伏して感謝しました。イエスは言われました。「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。」それからイエスは、帰って来たひとりに言われました。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。」(ルカ17:12-19) 完全な人になるために、その感謝にあふれたハンセン病患者は外側だけでなく内側も癒されたのです。その日、ほかの9人のハンセン病患者も体は癒されましたが、完全になる信仰をもっていたのはただひとりでした。この10人目のハンセン病患者と金姉妹は、救い主と贖罪の癒しの力を信じる信仰により、永遠に変わったのです。

園と十字架における救い主の贖いは、無限であると同時に個人的なものです。永遠にその効力が及ぶので無限であり、救い主が一人一人の苦痛や苦悩、病を負われたので個人的なのです。だからこそ主は、どうすれば私たちの悲しみを取り除き、重荷を軽くし、人を内から癒し、完全な者とし、神の王国で永遠の喜びを受けさせられるかをご存じなのです。天父と御子への信仰が、完全になるための助けとなるよう、イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。

予言者の声に聞き従う

十二使徒定員会会員

ロバート・D・ヘイルズ

もし予言者の勧告に耳を傾けるなら、私たちはさらに強められ、現世での試しに耐えていけるでしょう。



ヒンクレー大管長、モンソン副管長、ファウスト副管長、聖会において全体一致の律法にのっとって挙手をした時、私たちは予言者への奉獻と愛、献身を表明し、大管長会を支持しました。

「感謝を神に捧げん 予言者の導き
末日に、福音を 光とたまいぬ」
(賛美歌11番)

わずか1年の間に私たちは2度も予言者の死を経験しました。私たちがこよなく愛したエズラ・タフト・ベンソン大管長とハワード・W・ハンター大管長です。このふたりの偉大な神の予言者は、私たちの生活に真理と光、そして喜びをもたらしてくれました。神のみ言葉を伝えてくれました。家族の大切さ、モルモン経研究の大切さ、もっと神に近づけるような生活をする

ことの大切さについて教えてくれました。また、互いに親切にし、戒めに従うことの大切さを教え、どうすれば全き喜びを受け、永遠の生命を授けられるかを説いてくれました。もっとキリストのような生活を送り、すべての行ないにおいて救い主の模範に倣い、主の聖なる神殿でしか受けられない救いと昇栄にかかわる祝福にあずかれるふさわしさを身につけるよう、私たちに心から勧めてくれました。私たちばかりでなく、世の中にさらに幸福と平安がもたらされるように励ましと勧告を与えてくれました。私たちは、従順さと深い思いやりを示してくれたふたりを心から愛しています。

きょう私は、皆さんとともに、ゴードン・B・ヒンクレー大管長を予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として支持しました。私たちの住むこの混乱した世の中では、至る所に悲しみと破壊的行為が見受けられます。その多くは神の真の予言者の言葉に耳を傾けなかったためにもたらされています。これまでのさまざまな神権時代に生を受けたすべての人々が予言者モーセの言葉に耳を傾け、十戒に従っていたとしたら、彼らの生活はどれほど違っていたことでしょうか。

生ける神の予言者の安心を与える確固とした声は、いつの世にも何ものにも増して必要とされてきました。予言者は神のみこころを語り、霊的に安全で平安と幸福に続く道を示してくれるからです。

愛に満ちた天父はアダムから世に予言者を遣わしてられました。

いにしへの予言者たちは、予言者の声に耳を傾けることの大切さをよく教えました。一例として、歴代志下第20章のヨシャパテの話が挙げられます。いくつもの強大な軍隊がヨシャパテ王の国を奪おうとして攻めて来ていました。当然のことながら彼は非常な恐怖を覚えました。そこで全国に断食をするよう宣言し、ユダの民を集めて、主の助けを求めました。ヨシャパテはへりくだり、熱心に祈りました。「われわれの神よ、……われわれはこのように攻めて来る大軍に当る力がなく、またいかになすべきかを知りません。ただ、あなたを仰ぎ望むのみです。」(12節)

すると主の答えが予言者ヤハジエルを通して与えられました。「ユダの人々、エルサレムの住民、およびヨシャパテ王よ、聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられる、『この大軍のために恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いだからである。……

恐れてはならない。おののいてはならない。……主はあなたがたと共におられるからである。』」(15, 17節, 下線付加)

ヨシャパテとエルサレムのすべての民は、主のみ前に感謝の祈りを捧げました。この時ヨシャパテは、今日の私たちにも当てはまる大切な勧告をしました。事実、当時のユダの民と同様、私たちが幸福、ひいては永遠の生命を得られるかどうか、この勧告に従うか否かにかかっているのです。「あなたがたの神、主を信じなさい。そうすればあなたがたは堅く立つことができる。主の預言者を信じなさい。そうすればあなたがたは成功するでしょう。」(歴代下20:20, 下線付加)

約束どおり、主は正しいユダの民を守られました。ヨシャパテの軍勢が見ているうちに、彼らと戦おうと攻めて来たはずの大軍は、敵軍どうして激しく戦い、ついにはユダの民の所にたどり着く前に完全に自滅してしまっただけです。皆さん、私たちが予言者の声に耳を傾け、従おうではありませんか。生ける予言者に従う人には、平安がも

たらされるのです。

予言者について、いつの世にも共通した特徴は、その結果がどうなるうとも、彼らは神のみ言葉を常にわかりやすくかつ大胆に語る力を備えている、という点です。ニーファイは自分の記録を次のように結んでいます。

「私が弱い身で書いた言葉は、私の民のために大いに力強いものになるであろう。この言葉は善を行えとかれらに説き勧め、その先祖のことを明らかにし、イエスのことを教え、またイエスを信じて終りまで堪え忍べと説き勧めている。イエスを信じて終りまで堪え忍ぶならば永遠の生命を得るのである。

私の書いた言葉は真理をはっきりと語って罪悪をきびしく咎めるから、悪魔のような精神の者でないかぎりは、誰も〔予言者である〕私の書いた言葉を怒らないであろう。

私は明白なことを喜んで誇りとし、真理を喜んで誇りとし、またわがイエスが私の身も霊も地獄から贖いたもうたから、イエスのために喜んで誇りとする。」(IIニーファイ33:4-6, 下線付加)

ヨシャパテのもうひとつの話は、予言者がいかに率直にわかりやすく神のみ言葉を語るか、またどのような結果がそれに続くかをよく表わしています。イスラエルの王アハブは、ユダの王ヨシャパテと手を組んでスリヤと戦おうとしました。ヨシャパテは、スリヤと戦うのは賢明なことかどうかを主にお伺いするようにと、アハブに言いました。

アハブの元にいた400人もの自称予言者たちは口をそろえてアハブの聞きかたがっているとおりのことだけを彼に告げました。つまり、アハブはスリヤに勝利を収めるでしょう、と告げたのです。しかしヨシャパテは、ほかに予言者はいないか尋ねました。するとアハブはこう答えました。「まだひとりいます。……ミカヤです。彼はわたしについて良い事を預言せず、ただ悪い事だけを預言するので、わたしは彼を憎んでいます。」(列王上22:8, 下線付加)

ヨシャパテはアハブを説得して、予言者ミカヤの言葉を求めさせました。王の元からミカヤの所に遣わされた使者は、アハブ王の聞きかたがっていることだけを伝えるよう、ミカヤに忠告しました。「ミカヤは言った、『主は生きておられます。主がわたしに言われる事を申しませう。』」(列王上22:14, 下線付加)

ミカヤはアハブに、イスラエルは勝利を収めることはなく、アハブは殺されてしまうだろう、と告げました。しかしアハブは予言者のこの勧告に逆らって戦いに赴き、生命を失い、イスラエルは敗北してしまいました。ミカヤは、彼以前そして彼以降のすべての予言者たちがしてきたように、神の言葉を平明さと真理をもって、結果を恐れずに語りました。

「われらは、教会には、初期の教会に在りたると同一の組織、すなわち使徒、予言者、監督、教師、祝福師等のあるべきことを信ず。」(信仰箇条第6条)

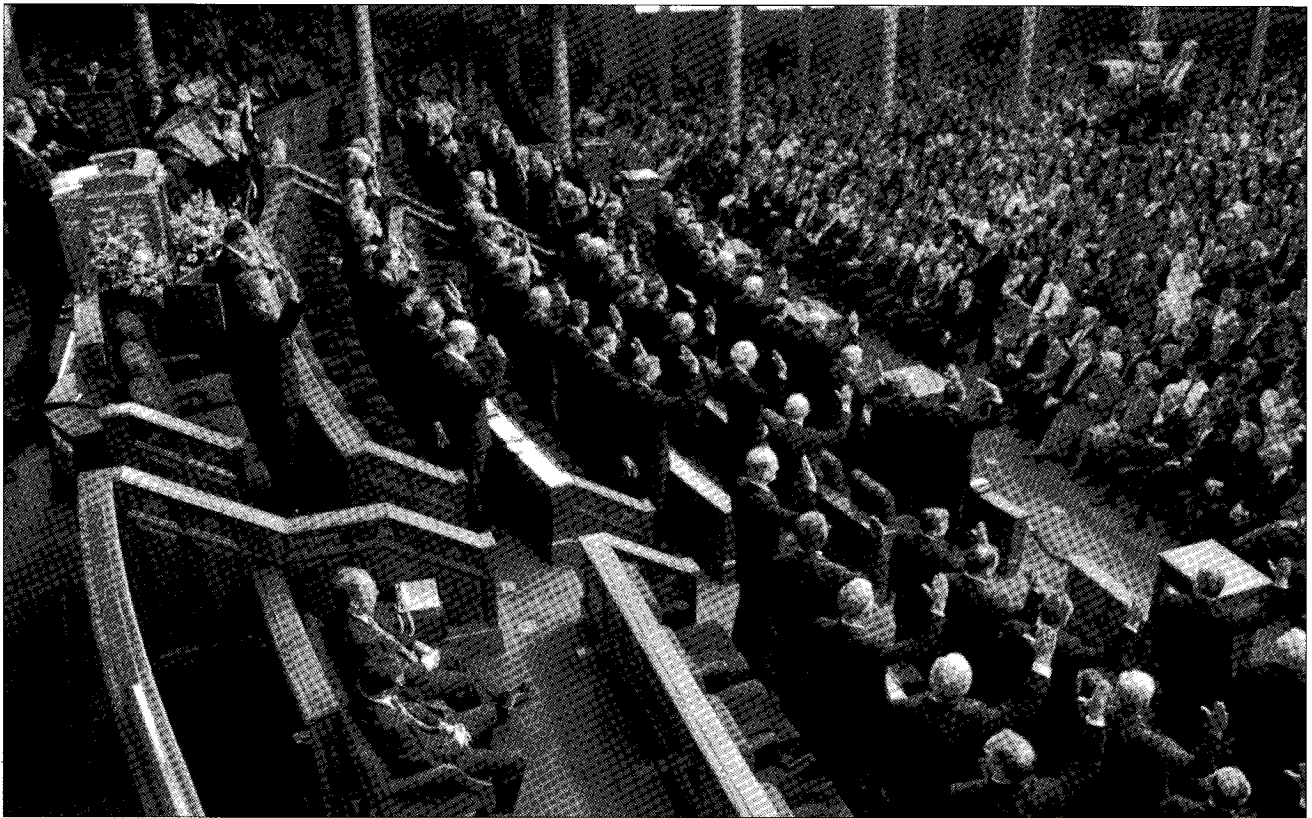
ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、この神権時代にイエス・キリストの教会が回復されるのは必要なことであり、「過去の神権時代の予言者が保有していた神権の全ての鍵と権能が、地上における神の選ばれた代表者に与えられなければならない」と教えています。「救いの教義」ブルース・R・マッコンキー編、1:162)

予言者ウイルフォード・ウッドラフはこう述べています。「これは最後の神権時代である。〔主〕はそのみ業を行なうために人々を備えられた。……私たちの多くはこの時代になるまで創世の時から霊界にとどめ置かれていたのである。」(「説教集」21:284)

福音の回復を告げるため主に召された予言者、ジョセフ・スミスは1836年にカートランド神殿で受けた啓示を次のように記しています。

「この示現閉ぢらるるや、天再びわれらに開けてモーセわれらの前に現われ、世界の四隅よりするイスラエル人の集合と北の国より十の支族を導き来ることの鍵をわれらに委せり。

この後よりエライヤス現われ、アブラハムの福音の神権の時代を委して言



聖会で支持の挙手をする七十人定員会会員と管理監督会。

えるよう、われらとわれらの子孫によりてすべてわれらの後の代の人々祝福を受くべし、と。

この示現閉じらるるや、また別の雄大にして栄光ある示現突如開かれたり。すなわち、死を味わうことなく天に上げられし予言者エライジャわれらの前に立ちて曰く、

見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。それは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大きいなるおそるべき日の来らん前に、彼（エライジャ）遣わさるべし。

すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん。然らずば、全地は咄いをもて打たるべし、と言われしことを証する時なり。

この故に、この末日の神権の時代の鍵を汝の手に委す。これによりて汝らは、主の大きいなるおそるべき日のすでに近づきて正に門口にあるを知るを得ん。」（教義と聖約110：11-16）

1829年、神権の回復と同時に、この

神権時代の予言者も回復されました。そして今日も生ける予言者がこの教会を導いているのです。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員にとって、何よりも大いなる平安は、生ける予言者を通して主が与えてくださるみ言葉や戒めに耳を傾け従うことからもたらされます。世の人々が今日地上に生ける予言者を頂いていることの大切さを理解してくれるよう心から願っています。

予言者が受ける戒めについて聖典にはこうあります。「汝ら教会員は、…わが前に全くきよき道を履むべきなり。それは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。」（教義と聖約21：4-5）

賛美歌にもこうあります。

「来たれ、予言者よりみ言葉聞け
喜びてうたえ 真理の道
昔の予言者の道を知りて
今、他の予言者をまた送らる」
（賛美歌13番）

このような賛美歌もあります。

「われら、予言者の声と
救い主のみ言葉に耳傾けん
予言者は愛を込め語る、
主のみ業行なえと
救い主は聖見者を召し、
神のみ言葉を教える、
人が鉄の棒の示す道
見いだせるように
予言者は証す 主はわれらを知る、
と
予言者は語る 世の人よ、耳傾け、
彼に従え
神権の鍵持つ予言者」
（賛美歌22番〔英文〕）

私はこれまで予言者たちと交わり、主がどのようにして彼らを備えられるかを見てきました。彼らが予言者になるころには、彼らの最大の関心事は教会の会員たちの徳と従順さを増すことに向けられています。彼らの心は、忠実な聖徒たちに対して、また人々を高

め力づけるために世界じゅうで善と奉仕の業に携わっているすべての人に対して愛と感謝の念で満たされています。彼らの目的は、この時代に向けての主のみこころを私たちに伝えることにあります。私は、いにしへの予言者たちやこの神権時代のこれまでの予言者たちが有した特質を、今日の予言者たちも確かに備えていることを証します。

予言者たちは皆、自分の召しを果たすうえで、神のみこころを知り、それに従えるようにとへりくだって祈りの気持ちで願い求めてきました。かつてイエス・キリストが従順におっしゃったように、予言者のだれもが確固とした態度でこう宣言してきました。「わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)

予言者たちの心からの望みは、天父と御子イエス・キリストをお助けして、救いの計画、すなわちいにしへの予言者が語った、「人に幸福を与える偉大

な計画」(アルマ42:8)という目的をとともに達成することです。

今日の予言者たちの言葉に私たちが耳を傾けるならば、貧しく助けを必要としている人々への愛にあふれた奉仕が貧困に取って代わることでしょう。もろもろの深刻な健康上の問題も、知恵の言葉や純潔の律法に従うことにより避けられるでしょう。什分の一を収めるなら祝福を受け、必要なものはじゅうぶんに与えられるでしょう。予言者たちの勧告に従うなら、不必要な苦痛や自滅の生涯を招かず済むでしょう。何のチャレンジにも遭遇しないと知っているわけではありません。何の試練も受けないと知っているのでもありません。チャレンジや試練は確かにあります。なぜならそれも人生の目的の一部だからです。しかしもし予言者の勧告に耳を傾けるなら、私たちはさらに強められ、現世での試しに耐えていけるでしょう。また希望と喜び

が得られるでしょう。過去も現在も、予言者たちが勧告の言葉を述べるのは、私たちが強められ、それによってほかの人々を高め強められるようになるためなのです。

私たちに託された神の権能により、今日、私たちに予言者が与えられていることを厳粛な気持ちで宣言いたします。教会の大管長すなわち予言者は、地上における神の代表者であり、主の教会を導くために任命されています。このことは、旧約聖書、新約聖書、モルモン経に記されているとおり、過去において真実であり、末日聖徒イエス・キリスト教会の回復とともにもたらされた時満ちたる最後の神権時代においても真実なのです。

救いの祝福を与える権能を伴った神権の鍵をすべて有しているのは、生ける予言者だけです。主はこう宣言されました。「この権能とこの神権の鍵を授与する者はこの世に於て一代唯一人のほかにあることなし。」(教義と聖約132:7) 私は、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がそれらの鍵を現在託されていることを証します。

ヒンクレー大管長は今日私たちに与えられた予言者です。彼は創世の以前から備えられ、予任されていました。これまで半世紀以上にわたって、彼はともに働いた使徒と予言者から学び訓練を受けてきました。聡明で思いやりに満ちた人物です。主の代弁者です。その声に従いましょう。霊的な平安は、生ける予言者のはっきりとした声に耳を傾けることによりもたらされます。私たちが彼の声に耳を澄ませその勧告に従うなら、キリストが私たちに望んでおられるような生活をし、最後まで堪え忍ぶことができます。そしていつの日か、私たちは天父と救い主イエス・キリストのみもとに、家族とともに戻ることができます。

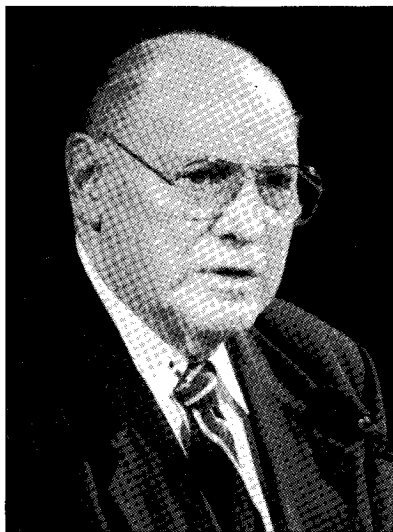
きょうこの聖会において予言者を支持したすべての人々の証に私の証をへりくだって付け加えさせていただきたいと思います。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。



霊の渴きを癒す 生ける水

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

イエス・キリストの福音に従って生活することにより、私たちの中に生ける泉がわき上がり、幸福や平安、永遠の生命に対する渴きを癒してくれるでしょう。



地上で導きと恵みを施す業に従事しておられた初期のころ、救い主は弟子たちとともに、ユダヤからガリラヤへ旅する途中、サマリヤを通過されました。旅の疲れや空腹、渴きを覚え、スカルという町のヤコブの井戸で休みを取られました。弟子たちが食べ物を探しに行っている間、救い主は井戸のそばで体を休めていらっしゃいました。そして、水をくみに来たサマリヤの女に、ひと口飲ませてくれるように求められました。ユダヤ人とサマリヤ人はひどく憎み合っていて、互いにほとんど口を利かなかったので、その女は救い主の求めにこう答えました。「あなたはユダヤ人でありながら、どうしてサマリヤの女のわたしに、飲ま

せてくれとおっしゃるのですか。」¹

新約聖書の中で、救い主はこの井戸での短い会話を利用して、力強い永遠の真理を教えられました。疲れと渴きを覚えながらも、偉大な教師はこの機会をとらえ、世の贖い主としての神聖な使命について証し、ご自身が約束されたメシヤであることを権威をもって宣言されました。主は忍耐強く、しかも思いやりをもって、お答えになりました。「もしあなたが神の賜物のことを知り、また、『水を飲ませてくれ』と言った者が、だれであるか知っていたならば、あなたの方から願い出て、その人から生ける水をもらったことであろう。」²

女は興味を引かれると同時にいぶかしく思いながら、イエスが水をくむおけを持っておられないのを見て、さらにこう尋ねました。「その生ける水を、どこから手に入れるのですか。」³ イエスは力あふれる約束の中で、ご自身が生ける水の源であり、永遠の命の泉であると宣言されました。こう言われました。「この水を飲む者はだれでも、またかわくであろう。」

しかし、わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがないばかりか、わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがるであろう。」⁴

主のメッセージの霊的な意味をまったく理解できなかった女は、のどの渴きを癒すことと自分の都合だけを考え

て、こう求めました。「主よ、わたしがかわくことがなく、また、ここにくみにこなくてもよいように、その水をわたしに下さい。」⁵

救い主とこの女との会話について、ロバート・シンプソン長老は次のように教えています。

「歴史を通じて、人はいつも楽な方法を探し求めてきた。『若さの泉』すなわち永遠の生命をもたらすという奇跡の水を見つけるために命をかけた人人がいた。今日でも多くの人々が……成功や夢の実現、幸福を生み出す魔法の泉を探している。しかし、ほとんどは無駄に終わる。人の子らに幸せと成功と永遠の生命をもたらせるのは、『生ける水』すなわちイエス・キリストの福音だけである。」⁶

この女にされた救い主の約束は、天父のすべての子供たちに当てはまります。イエス・キリストの福音に従って生活することにより、私たちの中に生ける泉がわき上がり、幸福や平安、永遠の生命に対する渴きを癒してくれるでしょう。主が教義と聖約の中で、はっきりと説明されたように、忠実で従順な人々だけが、身と霊を一新して活気づける生ける水の井戸に到達できるのです。「されど、わが誠命を守る者にはわれ王国の奥義を示さん。而してこれは彼の中にて生ける水の井戸となり、生ける水は湧き出でて永遠の生命とならん。」⁷

メシヤが来られるのを知っているとこの女が言うのと、イエスは「あなたと話をしているこのわたしが、それである」⁸と宣言されました。そして、予言者が持つ識別の力を表わし、神の洞察力を持つ者しか知り得ない、この女の生活の詳細について話されました。驚いたサマリヤの女は、水がめを置いてそこを離れ、急いで人々に主と話したことを告げました。「わたしのしたことを何もかも、言いあてた人がいます。さあ、見にきてごらん下さい。もしかしたら、この人がキリストかも知れません。」⁹ 耳を傾ける町の人々を彼女が集めている間に、イエスは帰って来た弟子たちに教えてこう言われました。「わたしには、あなたがたの知ら

ない食物がある。」¹⁰ 食べ物を携えて来た弟子たちの困惑した顔を見て、さらに説明されました。「わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである。」¹¹

好奇心に駆られたサマリア人の群衆が、メシヤと名乗る人を見るためにやって来ました。そして、「自分たちのところに滞在していただきたいと願ったので、イエスはそこにふつか滞在され」ました。¹² 聖典によれば、たくさんの人々が救い主の教えを信じました。教えを聞きながら、初め的好奇心は証へと成長し、彼らは言いました。「自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることが、わかった……。」¹³

この末日は、霊的に渴いている時代です。世の多くの人々は、人生の目的と教えに対する望みを満たしてくれる活力の源を、ときには激しく求めています。魂の渴きを癒してくれる知識と洞察という冷たい豊かな水を切望しています。彼らの霊は、渴いた心を満たすために、平安と安らぎという生命を保つ水を要求しています。

実に次の聖句にあるとおりで、「そは、この世にはなお欺かんと待伏をする人間の狡猾なる巧智に眼くらみて、真理のある所を知らざるが故にただ真理に遠ざかる者、あらゆる教派、党派、宗派の中に多ければなり。」¹⁴ 私たちは心と勢力と思いと体力を尽くして働き、渴いている兄弟姉妹たちに、福音という生ける水のある場所を示し、彼らが「永遠の命に至る水」を飲めるように助けるのです。

真理の干ばつによって人々の生活は乾燥し、主はその燃えるような渴きを癒すために生ける水を備えられました。主が私たちに期待しておられるのは、彼らの渴きを癒すために、聖典と予言者の言葉を与えて全き福音を伝え、回復された福音の真理について証することです。福音の知識という杯を飲み干すとき渴きは癒され、幸福を与える天父の偉大な計画を理解するようになるのです。

ヤコブの井戸の時と同様に、今日で

も主イエス・キリストは、生ける水の唯一の源です。その水は、全世界を襲う真理の干ばつに苦しむ人々の渴きを癒すでしょう。予言者エレミヤを通して古代イスラエルに与えられた主のみ言葉には、現代の多くの神の子供たちの状態が描かれています。「わたしの民が……生ける水の源であるわたしを捨てて、自分で水ためを掘った。それは、こわれた水ためで、水を入れておくことのできないものだ。」¹⁵ あまりに多くの天父の子供たちが、この世の壊れた水ためを掘るために貴重な人生を費やしています。それは永遠の真理への生まれながらの渴きを癒す生ける水を入れておけないものなのです。

仮庵の祭りの最後の日に、エルサレムに戻られた救い主は、時を超えた普遍的な呼びかけをされました。「だれでもかわく者は、わたしのところにきて飲むがよい。」¹⁶

ブルース・R・マッコンキー長老は、生ける水をこう定義しました。「永遠の生命の言葉、救いのメッセージ、神と王国に関する真理であり、福音の教義である。」さらにこう説明しています。「神の予言者がいる所には、生ける水の流れる川と永遠の真理をたたえた井戸と、生命を与える水のわき出る泉があって、霊の死から人を救う。」¹⁷

主は次のように宣言されました。「わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。」¹⁸ 私たちは祝福されて、予言者と使徒が地上にいた時代に生を受けています。彼らを通して、永遠の真理の豊かな流れによっていつも元気づけられ、従順であるならば、主の生ける水を自分の生活の中に引き込むことができるのです。ヤコブの井戸で救い主のみ言葉を聞いたサマリア人が語ったように、私たちも信仰と確信をもってこう宣言できます。私たちは「自分自身で親しく聞いて、この人こそまことに世の救主であることがわかった……。」¹⁹

ハワード・W・ハンター大管長の声が聞けないのを寂しく思います。ハンター大管長の簡潔で人を動かす言葉には、愛と希望とイエス・キリストの憐れみがありました。彼は私たちの理解

を深め、神聖な誓約を守るという決意を新たにするように促しました。そしてこう言いました。「キリストの至高の犠牲は、私に従いなさいという主の招きを受け入れたときにだけ、私たちの生活に完全な効力を発揮します。」²⁰ ハンター大管長は、私たちが「互いにもっと親切にし、もっと礼儀を尽くし、もっと謙遜で、忍耐強く、赦し合うよう教えました。」²¹ キリストのような徳を備えた彼自身の模範は、忘れられないその言葉以上の力をもって私たちに教えました。ハンター大管長は、私たちの生活に霊的な糧をもたらす生ける水を、もっと頻りに飲むように勧めたのです。

ハンター大管長はまたこのようにも言いました。「神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身につけること、それが私の心の奥底からの願いです。神殿が近くにないために、すぐにあるいは頻りに参入できないとしても、すべての成人会員が有効な神殿推薦状の発行を受けるふさわしさを身につけられるように、また推薦状を所持できるように願っています。」ハンター大管長はすべての会員が「神聖で奉獻された壁の内部で得られる安全と聖め」によって力づけられるように願っていたのです。²² 救い主についてもよく知り、主のようになるという決意を強めるには、聖なる宮居に頻りに参入し、生ける水を飲むこと以上によい方法があるでしょうか。ハンター大管長は、神殿で味わえる美や啓示、平安という祝福のために、正しい生活を通してふさわしさを身につけるように求めました。ですから、「主の宮居を、教会員であることの崇高な象徴」とするよう繰り返し勧めたのです。²³

きょう私たちは、ハンター大管長の後継者を支持しました。皆さんとともに聖会に出席して、ゴードン・B・ヒンクレー大管長を予言者、聖見者、啓示を受ける者として、また主イエス・キリストの地上における代弁者として支持する機会があったことをうれしく思います。ヒンクレー大管長は、主に油注がれた者であり、すべての神権の鍵を持ち、神の王国を導くためにそれ



らを行使する権限を受けています。また人々によく知られた声と心を持った主の忠実な僕しもべです。教会幹部としての37年間の奉仕を通して、私たちは心から彼を愛するようになりました。今から34年前、ヒンクレー大管長はイエス・キリストの特別な証し人である使徒に聖任されました。現在存命の中の人々の中で、最も長い経験を持つ教会幹部です。ヒンクレー大管長が十二使徒に召された時、会員数は190万人、ステーキ部は336でしたが、今は900万人の会員と2,000以上のステーキ部があります。

ヒンクレー長老は高潔な父親と気高い母親の元に生まれ、少年時代に忠実な両親から回復された福音の真理を学びました。開拓者から受け継いだものに深い敬意を払い、イギリスで若い宣教師として雄々しく伝道しました。大人になってからは、王国を築くために疲れを知らずに働き続けました。8人の大管長の下で働き、スペンサー・W・キンボール、エズラ・タフト・ベンソン、ハワード・W・ハンターの3人の副管長として14年間働きました。

ヒンクレー大管長は、生涯を通じてこの召しに備えてきました。ポイド・K・パッカー長老は最近こう言いまし

た。「生涯を通じて訓練された人でなければ教会の大管長にはならない。」²⁴ 聖典が教えているように、予言者として仕える人は「神の先見の明によって創世の前からすでに選んで備えておかれた」のです。²⁵

ヒンクレー大管長が神によって予任され、立てられ、備えられ、召されて、「キリストの民に永遠の生命を得させるために、キリストの道を宣べ伝える」²⁶ ことを証あかしします。私は青少年のころから彼をよく知っています。その高貴な人格を織り成す糸は、まがい物ではありません。ヒンクレー大管長は主と回復された福音の生ける水をこれまでずっと飲んできました。彼の義に基づく従順さのゆえに、生ける水が彼から流れ出て²⁷ 霊的に渇いた世の人々を潤すのです。

私はきょう、トーマス・S・モンソン副管長とジェームズ・E・ファウスト副管長を支持できてうれしく思います。このふたりも長年にわたって神と人類に仕える中で試されてきた、雄々しく忠実な人々です。この3人の大管長会の管理大祭司は、私たちが忠誠と献身さきまを捧げるに値する人々です。私たちは完全な信頼と自信をもって支持し、従うことができます。

私は特別な証し人のひとりとして、昔の信仰深いサマリヤ人の証に、私の証を付け加えたいと思います。兄弟姉妹の皆さんと世のすべての人に対して、ヤコブの井戸であの女と語られたナザレのイエスこそ、まさにキリストであり、「世の救主」²⁸ であることを厳粛に証します。主は現在も生きておられ、私たちの贖い主、天父との仲保者です。またキリストの名を冠した教会の頭です。大管長会と十二使徒定員会は、神の正当な権能と聖任を受けた僕であり、この末日に主の教会を導く神聖な責任を受けています。私たちの責任は、「つかわされたかたのみこころを行い」²⁹、渇いている人々に生ける水を与えることです。これらをイエス・キリストの聖なるみ名により証します。アーメン。

注

1. ヨハネ 4 : 9
2. ヨハネ 4 : 10
3. ヨハネ 4 : 11
4. ヨハネ 4 : 13-14
5. ヨハネ 4 : 15
6. 「大会報告」1968年10月, p.96
7. 教義と聖約63 : 23 (下線付加)
8. ヨハネ 4 : 26
9. ヨハネ 4 : 29
10. ヨハネ 4 : 32
11. ヨハネ 4 : 34
12. ヨハネ 4 : 40
13. ヨハネ 4 : 42
14. 教義と聖約123 : 12
15. エレミヤ 2 : 13
16. ヨハネ 7 : 37
17. 「新約聖書教義注解」1 : 151-152
18. 教義と聖約1 : 38
19. ヨハネ 4 : 42
20. 「主は従うように招いていらっしゃいます」「聖徒の道」1994年10月号, p. 4
21. 「ハワード・W・ハンター——空を飛ぶ鷲のように」「聖徒の道」1994年9月号, p. 2
22. 「エンサイン」1994年7月号, p. 5
23. 同上
24. 「エンサイン」1995年4月号, p.30
25. アルマ13 : 3
26. Ⅲニ一ファイ 5 : 13
27. ヨハネ 7 : 38 ; 教義と聖約63 : 23参照
28. ヨハネ 4 : 42
29. ヨハネ 4 : 34

教会監査委員会報告

教会監査委員会

テッド・E・デービス提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への報告

教 会監査委員会は、教会監査部を含め、教会のあらゆる役員、職員、業務、部署、職員から独立しており、大管長会に直接報告することになっています。当委員会では、託された責任を遂行するうえで必要なあらゆる記録類、および教会職員からすべての情報を入手し、教会基金の収支管理および教会とその管理下にある組織の資産管理の方針と方法を検討いたしました。その中には、予算編成、会計、報告および監査方式、また、それに関連した1994年12月31日現在の教会の年次財政報告書が含まれています。

年度内の教会基金の支出は、定められた方針の^{じゅうぶん}の通り、什分の一の配分評議会で承認されました。同評議会

は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。承認された予算の管理は、予算承認委員会の管理の下、教会予算部によって管理されています。

教会監査部は、現在、教会とその関連会社の1994年12月31日までの財政監査を、認可された専門の監査基準に従って管理しています。また、教会の運営全般にかかわる財政監査や運営監査、コンピューターを導入した情報システムの監査を世界的規模で行なっています。監査部職員は、公認会計士などの資格ある会計監査役員で構成されています。教会監査部は、教会のほかのあらゆる部門から独立しており、監

査結果を直接大管長会に報告しています。教会が所有または管理する会社は、標準的な実務処理方式に従って、個々に会計ならびに報告の制度を設けています。そして、教会監査部および独立した公認会計事務所、あるいはそのいずれかから監査を受けています。プリガム・ヤング大学および教会運営のそのほかの高等教育機関は独立した公認会計事務所から監査を受けています。さらに教会監査部は、地元での監査手続きを定め、地元ユニットの監査結果と支出状況を監督しています。

教会監査委員会は、財務運営の方針ならびに方法、1994年中に提出された監査報告書やそのほかの回答を検討しました。その結果、1994年12月31日現在の教会基金の収支に関するすべての事柄は、定められた教会の方針と手続きに従って運営され、会計処理されていました。以上、謹んでご報告申し上げます。

教会監査委員会

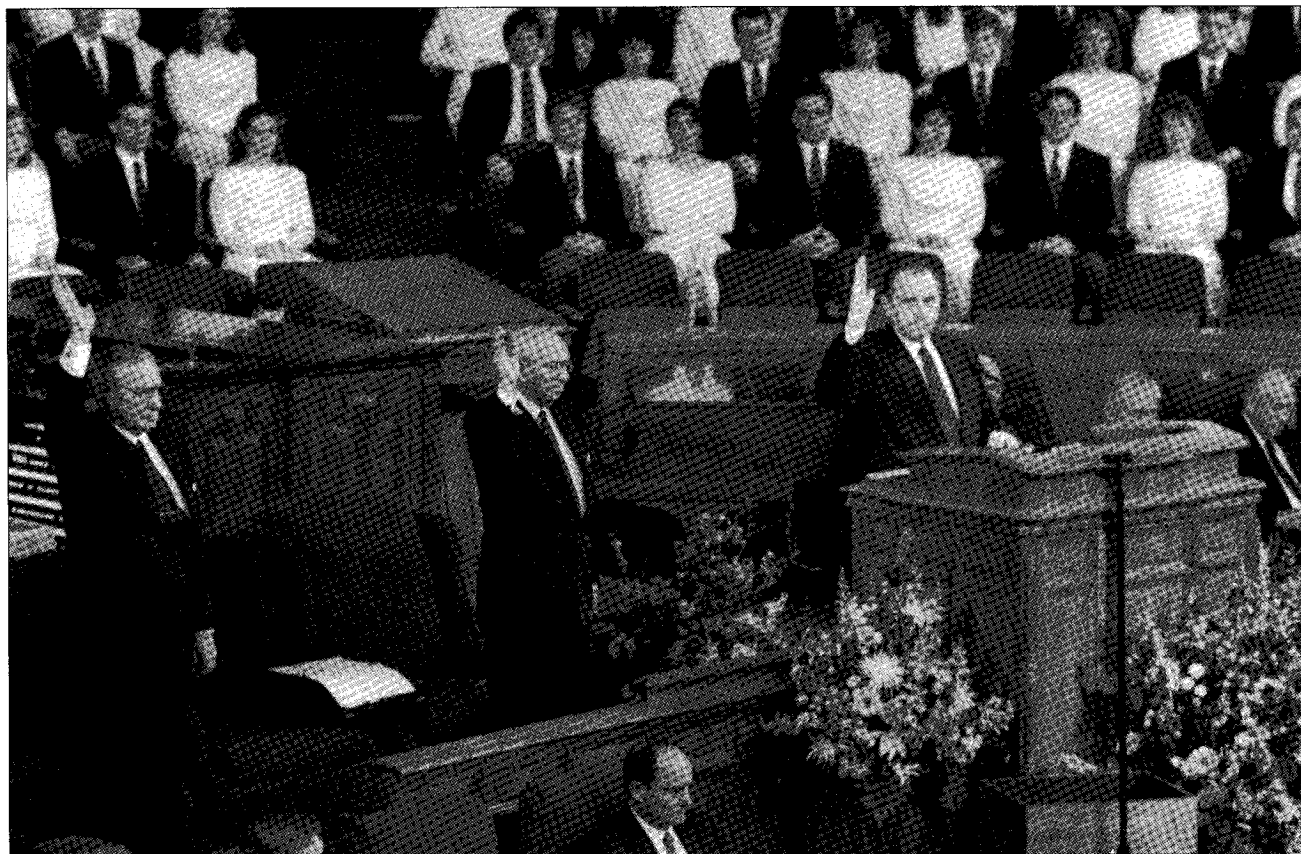
テッド・E・デービス (委員長)

ドナルド・D・サルモン

ジェームズ・B・ヤコブソン



ソルトレークタバナクルから少し離れた場所に立ち、聖会の間、教会指導者たちを支持するアロン神権者たち。



聖会で支持の挙手をする大管長会。左からジェームズ・E・ファウスト第二副管長，ゴードン・B・ヒンクレー大管長，トーマス・S・モンソン第一副管長。

1994年度統計記録

大管長会秘書

F・マイケル・ワトソン提出

大管長会は、教会員の参考のために、1994年12月31日現在の教会の成長と現況を示す以下のような統計記録を発表しました。(会員数は、大会前に入手した1994年の報告に基づいている)

教会ユニット

ステーキ部数	2,008
地方部数	709
伝道部数	303
ワード部数と支部数の合計	21,774

ワード部／支部が組織されている
 独立国、属領地 156

教会員数

総会員数	9,024,569
1994年にバプテスマを受けた	
記録上の子供	72,538
改宗者	300,730

宣教師数

専任宣教師	47,311
-------	--------

1994年4月以降に他界した著名な教会員

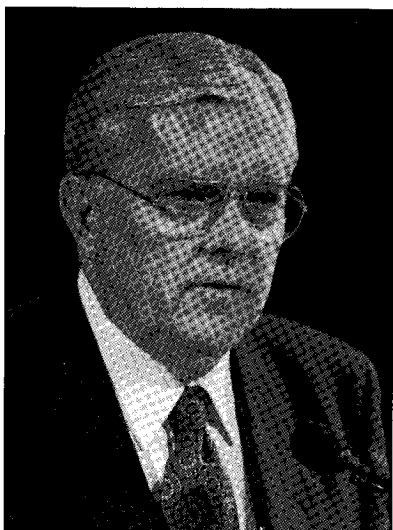
第13代大管長エズラ・タフト・ベンソン長老 (94歳, 1994年5月30日), 第14代大管長ハワード・W・ハンター長老 (87歳, 1995年3月3日), 七十人第二定員会会員クリントン・L・カトラー長老, 教会名誉幹部スターリング・W・シル長老, ユードラ・ウイツォー・ダラム姉妹 (元七十人会長会会員G・ホーマー・ダラム長老夫人), 教会中央財務委員会会員ウェストン・ユージン・ハミルトン兄弟, 元モルモン・タバナクル合唱団団長オークレー・S・エバンス兄弟。



人生の疑問に答える

十二使徒定員会会員
M・ラッセル・バラード

天父の計画を理解すれば、人生の疑問に対する答えをキリストの福音の中に見いだせます。



人生で最もむずかしい質問は、たいてい「なぜ」で始まるようです。「なぜ人生はこんなに大変なのか。」「なぜ世の中にはたくさんの悲しみや憎しみ、不幸があるのか。」「なぜ死が若い命を奪い去っていくのか。」「なぜ罪のない人が苦しむのか。」私たちはだれでも、世の中の移り変わりに取り組みながら、ときどきそのような質問の答えを見いだそうとします。それに対する満足できる唯一の答えは、幸福のための永遠の計画と天父への信仰に基づいた永遠の視点からもたらされます。私は特に天の家族に属する若い会員の皆さんにその理由についてお話ししたいと思います。

予言者アルマはこの計画を「人に幸福を与える偉大な計画」と呼びました。(アルマ42：8)一般的には「救いの計画」として知られています。それは、人生の目的と真の意味を知って理解し

ようとするすべての人にとって、簡潔で美しい計画です。

神は過去と現在の予言者を通して、「人に幸福を与える偉大な計画」の教義を明らかにされました。それは終わりなく永遠の、絶対的不变の原則です。アルマが教えたように「神は贖いの計画を示したもうてから、……法令を人類に下したもうた」のです。(アルマ12：32、下線付加) その計画によれば、この地上に生を受けるすべての人は天の両親の霊の子供です。私たちは、骨肉の体を受けるためにこの地球に来る前に、天の父母とともに住んでいたのです。

「もしもアダム〔とイヴ〕が罪を犯さなかったならば、〔彼ら〕は墮落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。……

また、アダムとイヴは子供をもうけることもなかったであろうし、……喜びもなく、……そのまま罪が無い状態に留ったであろう。

アダムが墮落したのは人類を生ずるためであり、人類が現世に在るのは幸福を得んためである。」(IIニーフアイ2：22-23, 25)

墮落の後、神はアダムに、妻イヴと結び合うよう命じられました。(モーセ3：24；教義と聖約42：22参照)「神は……言われた、『生めよ、ふえよ、地に満ちよ……。』」(創世1：28) この戒めは、これまで取り消されたことはありません。

天父の計画は、イエス・キリストの贖罪を通して墮落から贖われる道を備えています。神の独り子、この地上で罪のない唯一の御方として、主は全

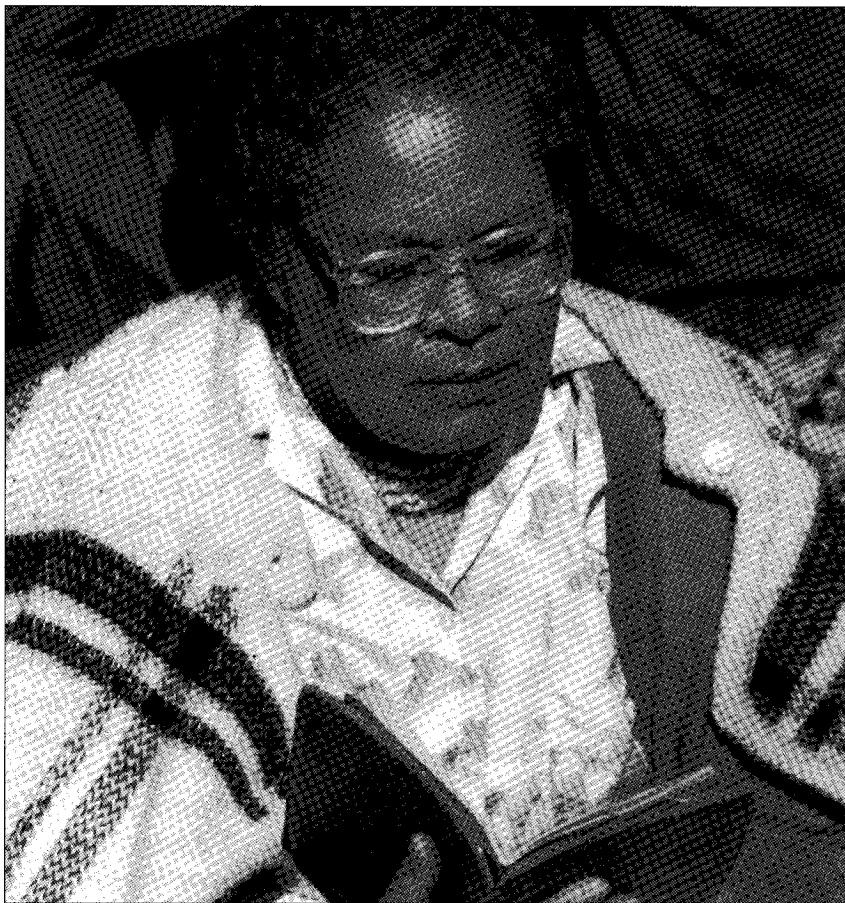
人類のために完全な贖罪を行なわれました。贖罪は無条件ですべての人に適用され、現世での死、つまり肉体の死からの復活をもたらします。贖罪の結果、すべての人が不死不滅の体をまとして復活できるようになったのです。しかし個人の罪に関しては、贖ううえで条件があります。イエス・キリストを信じ、悔い改め、福音に従う度合いに応じて、その力が及ぶのです。昇栄と永遠の生命は、戒めを守る人々に約束されます。

すなわちこの世は、天父の計画を理解する能力と、もちろん進んでそれに従う態度とを試される時なのです。従順は、昇栄と永遠の生命にあずかるために不可欠です。ベンジャミン王はこう説明しています。「主なる神はこれらのごことをあらゆる血族、あらゆる国民、あらゆる国語の民に宣べ伝えさせるために、その聖い予言者たちをよろずの民の中につかわしたまい、これによってキリスト……を信ずる者に罪の赦しを受けさせ、……非常な喜びを以て楽しませようとなしたもうた。」(モーサヤ3：13)

また民に次のようにも教えています。「私はお前たちが神の命令を守る人々の受ける幸福な楽しい境涯をよく考えるように望む。ごらん、その人たちはこの世に関係のあることでも霊に関係のあることでもすべてに祝福を受けて、もし最後まで耐え忍んで忠実であるならば天に迎えられ、とこしえに幸福な有様で神と共に住めるのである。」(モーサヤ2：41)

天の神の第1の目的が、「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」(モーセ1：39) こと、言い換えれば、私たちの永遠の幸福と喜びであると知るの、なんとすばらしく心温まることでしょうか。私たちはその意味と生活に与える影響とをほんとうに理解しているのでしょうか。真の幸福、永遠に続く幸福の教義にもっと注意を向けなければなりません。それこそ、教会で教えることと私たちの行なうことすべての目的であるべきです。

予言者ジョセフ・スミスはこう言いました。「私たちはまず知らなくては、



いかなる戒めも守ることができない。また私たちがすでに受けている戒めに従わず、守らないならば、すべての戒めはもとより、今知っている以上の戒めを知りたいと望むことはできない。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.256）私たちは、基本的な教義を理解し、永遠の幸福と昇栄に不可欠な救いの儀式を受けなければなりません。現世では、忘却の幕によって心が覆われているので、私たちは、「何にてもあれ、主なる〔私たちの〕神の命じたまわんすべてのことを」行なえるかどうか証明できます。（アブラハム3：25）現世では永遠にわたる見通しが限られています、主から指示なしに放置されることはありません。主から賜わった聖典や使徒、予言者を通して、昇栄と永遠の生命を得るための計画が明らかにされます。また、私たちが導く慰め主、すなわち聖霊が与えられています。

予言者ジョセフ・スミスはこう教えています。「従順の中には、純粋で汚

れない喜びと平安がある。神は私たちに……幸福を得させようとされた。神は今まで、ご自身が意図された幸福と結びつかないような儀式や戒めを定められたことはなかった。また神の律法と儀式を受け入れる人々に最も大いなる祝福と栄光をもたらさないような儀式や戒めを定められたこともなかった。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」pp.256-257）

幸福の計画に関する知識で大切なことは、自由意志という偉大な管理の原則を理解することです。この世という学校では、それほど時間をかけなくても、天父の計画が人生のすべての面に最高の祝福をもたらすわけではないということが理解できます。人生にあふれる厳しい現実が心を引き裂き、信仰を失わせようとするのです。

原因はどうあれ、そのような苦難を見るときに、心の痛みや同情を感じずにはいられません。永遠を見通すことのできない人は、飢えた子供たちや非人道的な行為について伝えるショック

ングなニュースを見て、怒りのあまり天に向かって叫びます。「神がいるなら、なぜこのようなことを許されるのですか？」

その答えは簡単ではありませんが、複雑でもありません。神は計画を進められたのです。それは自然の法則、神の律法を通して進められます。神の律法ですから、神ご自身も私たちと同様それに拘束されておられます。この世の私たちには理解できないかもしれない目的のために、主が物質をコントロールされることがあります。しかし、ほとんどの場合、主が引き起こされるのではなく、自然のままに物事が起こるのを主が許されるのです。この不完全な世界では、ときどき悪いことが起こります。地球の基盤がときどき動くとき地震が起こります。また天候がある状態になると台風や洪水、竜巻、干ばつなどが発生します。

非常に多くの苦難が人に起因しています。人々の心が冷えると、サタンの霊に行動を支配されます。現在の苦難の時代を予見して、救い主はこう言われました。「人々の愛は冷やかになり、不法は満つべし。」（教義と聖約45：27）暴力、不道德、そのほかの悪が地に蔓延します。多くの苦難は、自由意志の原則に端を発しています。

私たちは自由意志を個人の問題として考えがちです。「道徳上の自由意志」を定義するように言えば、次のような答えが返ってくることでしょう。「それは自分で自由に選択できることです。」よく見落とされるのが、選択には結果が伴うことです。また、自由意志はほかの人にも同じ選択の権利を与えていることを忘れがちです。ときには、ほかの人が自由意志を行使するために選んだ方法によって、逆の影響を受けることもあります。天父は自由意志を守ることを重視されるので、人々が善、または悪のためにそれを行使するのを許されるのです。

幸福の計画は神のすべての子供に与えられます。もし人々がそれを受け入れて守るなら、平安と喜び、豊かさが地にあふれるでしょう。現在知られている苦難の多くは、世界じゅうの人々

が福音を理解して実践するなら、姿を消すことでしょう。

この世では、永遠の見地から人生を見る目は限られています。しかし天父の計画を知って理解すれば、逆境は私たちを試すおもな方法のひとつであることがわかります。天父と御子イエス・キリストを信じる信仰は、内的な力の源となります。信仰を通して、平安や慰め、耐える勇気を見いだすことができます。自分の知識に頼らず、神と幸福のための計画を心から信頼するならば希望が生じます。(箴言3:5参照)希望は信仰によってはぐくまれ、行なうすべてのことに目的と意味を与えます。また逆境のときに慰めを、試練のときに力を、そして疑問や苦悩を感じて当然のときに平安を与えてくれるのです。

私たちの永遠の幸福のために天父が立てられた計画の原則に焦点を当てて生活するならば、世の罪悪から自分を切り離すことができます。自分が何者で、なぜこの地上にいて、死んだ後どこに行くのかを正しく理解していれば、サタンはいかなる誘惑を用いても、私たちの幸福を脅かすことはできません。天父の計画に従って生活することを決意すれば、神の賜である自由意志を正しく行使し、ほかの人の意見や世の風潮ではなく、啓示された真理に基づいて決定を下すことができるでしょう。

たとえば、私たちは家庭の中にまで情報がはらんする可能性のある時代を迎えようとしています。光ファイバーを用いたコンピューター技術により、家庭で信じられないほど多くの種類のメッセージや影響力を受けられるようになりました。これは、私たちの文化すなわち生活そのものを変える力のある情報源となるでしょう。それらの高度な情報源に約束された可能性を利用して私たちの知性を養うことの大切さについて考えるとき、私たちはプログラムの選択や生活へのメディアの影響にもっと注意する必要があります。喜びと幸福をもたらす天父の永遠の計画を理解している人々は、高度な情報網が世界じゅうに張り巡らされた状況の中で、正しい選択をする備えが



できているでしょう。コンピューターやテレビ、衛星放送、マイクロチップ、電話など、すべてのものは祝福をもたらす生活を高めることもできれば、低めることもできます。

だからこそ、天父の計画に基づいて日々の決定を下すことが非常に大切なのです。自分が神の子供であり、地上で生活しているのは信仰によって、また神とその独り子イエス・キリストの教えと戒めによって生活することを学ぶためであると心から信じるならば、神のみもとへ戻るにふさわしい選択ができるでしょう。

イエス・キリストの福音を理解し、救い主、贖い主なる主に従うならば、個々の選択を含め、生活のあらゆる面で素晴らしい影響を受けるでしょう。天父の計画に従って生活する人は、不適切で望ましくない情報は何であれ取り入れないし、不道徳な行ないや有害な物質の使用を通して、霊的感受性を損なうこともないでしょう。また、教会の聖任された指導者に挑む理由を見つけないために、教義のあら探しをしたり、福音の簡潔な真理を変えようとしたりしません。幸福の計画に反する生活を正当化しようとしません。もし

これらのことを何であれ行なうなら、福音に従った生活のもたらす心の平安と喜びは決して得られません。天父のすべての子供は、祈りを通して自分が何者であるか尋ね求め、神の戒めに従って最後まで堪え忍ぶことによって真の幸福を見いだすことができます。ハンター大管長はこう言いました。

「福音の真理を受け入れ、それらの原則に従って日々生活する人にとって、悲しみや憂鬱をもたらすものは何ありません。神はご自身のすべての子供たちが喜びと幸せを得るように望んでいらっしやいます。私たちは、進んで戒めを守りすべての行ないにおいてみ言葉に従って生活するなら、このような祝福を得られるのです。」(「大会報告」1961年9、10月、p.108)

天父の計画を理解すれば、人生の疑問に対する答えをキリストの福音の中に見いだせます。私たちが福音の教義と教えを信仰をもって受け入れ、真心から救いの計画を受け入れることができますように。兄弟姉妹の皆さん、教会の指導者は福音の計画を理解し受け入れています。そしていつでもどこでもそれを擁護しています。

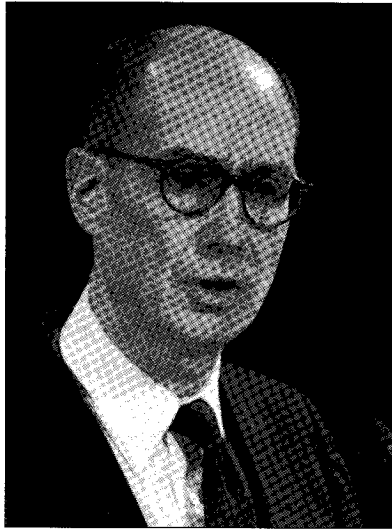
愛弟子ヨハネの次の証は、私自身の証でもあります。「もしこれらのことがわかっていて、それを行うなら、あなたがたはさいわいである。」(ヨハネ13:17)幸福の偉大な計画に含まれる教義と戒めを探し求めてそれがわかったとき、進んで受け入れることができますように。そうすれば、尽きることのない喜びと平安を得られるでしょう。イエスは言われました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ14:27)

天父の「幸福の計画」の原則を知って、それに従って生活するとき、主が約束された平安がもたらされることを証します。主の平安と喜びが私たち皆のうえに注がれますように、へりくだりイエス・キリストのみ名によりお祈りします。アーメン。

「御子を常に忘れず」

十二使徒定員会会員
ヘンリー・B・アイリング

この主のおかげで私たちは復活します。主の贖罪のおかげで私たちには昇栄の可能性が与えられています。



何年も前のことです。私は責任を受けてブラジルへ赴きました。その旅の一部として、サンパウロから2時間余り離れた町で開かれる大会に出席するため、私は車に乗らなければなりません。十二使徒定員会の一員がその大会を管理することになっていました。私は十二使徒から教えを受けるために彼の車に同乗したいと思いました。しかしその十二使徒は、宣教師と一緒に別の車に乗るように提案します。「道中いろいろ彼らを教えてください。」私が指示された車の助手席に乗り込むと、同僚どうしのふたりの若い姉妹宣教師が転任のためその町へ行くところでした。

お互いに知り合いになってから、私は座席の後ろへ振り向いてこう尋ねました。「何か知りたいことがありますか。」ふたりは熱意を込め、ほとんど声をそろえて言いました。「謙遜にな

るにはどうしたらいいでしょう。」

皆さんも私と同じように答えに窮したかもしれません。質問に答えようと努めたものの、窓外にブラジルの青々とした丘が流れていったことしか私は覚えていません。うまく答えられなかったという記憶だけが残っています。きょうのこの美しい日にもう一度その時と同じ機会が持てないものかと私は願っています。昨日の午後、ヒンクレー大管長から私と会いたい旨の連絡があり、この聖なる職の召しが与えられて以来、私はその質問にいくらか答えられるようになりました。今なら、もう少し彼女たちを助けられるような気がします。

まず第1に、私は彼女たちがすでに最初の教訓を学んでいることに気づいたでしょう。そのような質問をしてきたという事実が、自分の力量不足に対する圧倒されるような思いを超えて、従いさえすれば、なすべきことがわかりさえすれば、今まで以上の働きができるという望みを彼女たちが持っていたことをすでに証明しています。もう一度同じような機会が与えられれば、私はその点を彼女たちに伝え、次のような小さな助言、すなわち何をすればいいのか教えたでしょう。私はこう言ったと思います。「御子を常に忘れ〔ない〕」(モロナイ4：3；5：2；教義と聖約20：77, 79) ように。

そして彼女たちがそうできるように、想像の世界で救い主の次の言葉が聞こえる園へ彼女たちを連れて行こうとしたでしょう。「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いで

はなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22：42)

次いで、私はモルモン経の中に報告されたあの栄光に輝く日を彼女たちに示すでしょう。その日、復活された主はアメリカ大陸の民に姿を現わされました。「われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み、世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於て、われは最初よりすべて御父のみこころに従えり。」(IIIニーファイ11：11)

私は彼女たちの声や目から感じ取れた穏やかさによって、その時も、そしておそらくいつも、あの宣教師たちは主を覚えていただろうとわかります。主の完全な模範によって彼女たちは心が謙遜になるのを覚え、謙遜になるにはどうしたらいいだろうかという質問の答えを見いだしただろうと思います。

目的地の町で彼女たちを降ろすと、今度はこの宣教師たちはバスを待って立っていました。私が振り返ると、彼女たちはそこにぼつんと立っていました。私が昨夜学んだことをあの時知っていて、車の中で彼女たちに教義と聖約の第1章23節から次の言葉を読んであげられていたらどんなによかったでしょう。「完全なるわが福音、弱き者たち単純なる者たちによりて世界のいやはてまでも宣べられ、また王と統治者との前に宣べられんがためなり。」続けて26節に飛んで――

「〔彼ら〕 智慧を求めたらば教えを授けらるるを得、

罪を犯したらば悔い改むるために懲しめらるるを得、

へり下りたらば強くせられて天の祝福を受け、また折々知識を与えらるるを得るためなり。」(26-28節)

あの宣教師たちは救い主が自分たちのことを語っておられたのだとわかったはずで、そして謙遜な気持ちで、み名を宣べ伝えるための力を自分たちが授かっていることに気づいたでしょう。

ここ何時間か前から、私は「御子を常に忘れ」ないことからもたらされる

別の祝福についてもわかるようになりました。ニューメキシコ州アルバカーキに住む、何年も前に会ったある家族のことを私は覚えています。父親と母親、そしてふたりの10代の娘さんがいて、彼らはどこの教会にも加わっていませんでしたが、毎日家族で聖書を読んでいた。救い主の生涯とみ言葉について深く考えていました。私たちと会った時、彼らはキリストが教会を組織されたはずで、それを探さないと考えていました。教会の土台に

は予言者と使徒がいるはずであることも彼らは知っていました。時の絶頂にキリストはご自分の教会にそれらを残していかれたからです。彼らは復活された主が使徒たちに姿を現わされたことも知っていました。

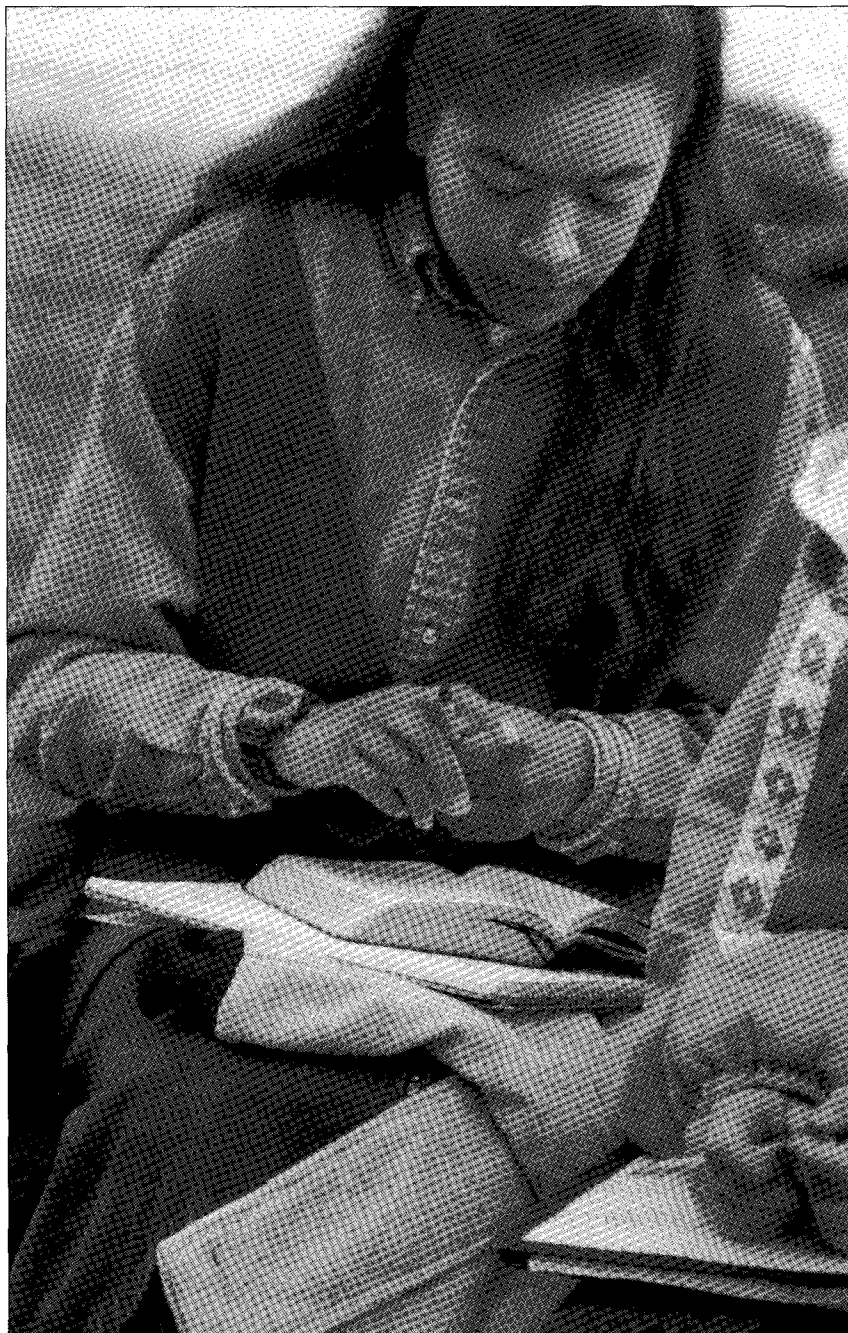
ですから私たちが父なる神と世の救い主である御子とが少年予言者ジョセフ・スミスあかしの元に来られたことを証すると、彼らにはそれが当然のことに思えました。ペテロ、ヤコブ、ヨハネが現われて神権を回復したと私たちが証

するのを聞くと、そういうことが起きていなければならなかったことを、彼らは理解していました。彼ら自身も感じていた聖霊が、それが真実であることをこの家族に告げていました。私は昨晚遅くか今朝早くどこかの時点で、この家族がこれがイエス・キリストの教会であるという真理を知り得たのは、その大きな理由として、御子を常に忘れなかったためであることに気づきました。毎日この家族は集まって主とそのみ言葉に接していたため、主を忘れなかったのです。バプテスマを受けた後も、彼らは予言者に従う準備ができていました。救い主はその民を祝福するために、常に予言者を通して語られることを知っていたからです。

私は御子のみ名を受け、御子を常に忘れないという誓約を守ります。また派遣される所であればどこへでも赴いて、主のことを教え、私たちが主のみ名を引き受け、常に主を覚えてその戒めを守ると約束する儀式を執り行ないます。

もし人々がこの招きを受け入れるなら、彼らも私の知っていることを知るでしょう。すなわち、父なる神が生きておられ、御子であるキリスト・イエスは御父のみこころを行ない、あらゆる人の罪のために贖罪しよくざいの業を成し遂げてくださいました。この主のおかげで私たちは復活します。主の贖罪のおかげで私たちに昇昇の可能性が与えられています。主は天のみ使いを送られて、予言者ジョセフ・スミスに鍵を託されました。主は今日ご自分の予言者、ゴードン・B・ヒンクレーを召されました。救い主はこの方を通して私たちに、そして全世界に語られます。

そして耳を傾ける人々が救い主のみ名を引き受け、主を常に忘れず、その戒めを守るなら、ついには主のみもとに行き、主はその人をご自身の父であり私たちの御父でもあるお方のみもとへ連れて行かれ、そこで私たちは家族として永遠に住むことができるのです。それが真実であることを私はイエス・キリストの聖なるみ名によって証します。アーメン。



愛の誓約

中央扶助協会第二副会長
アイリーン・H・クライド

主とのつながりがあるからこそ、光を輝かせ、互いに思いやりをもって接し、自分の霊を失わずに永遠に保つことができるのです。



『山』は移り、丘は動いても、わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない』とあなたを愛われまされる主は言われる。」(イザヤ54：10。IIIニューファイ22：10も参照)

この聖句を読むたびに私は感動し、神がまことに私たちを愛しておられ、大切に思ってくださいという気持ちでいっぱいになります。天父は遠い昔、天上の大会議においてもこのように私たちの英智に語りかけられたのでしょうか。そのころの私たちはキリストに従うという選択ができるほどにじゅうぶんな理解に達していました。永遠の生命を得るうえで欠くことのできない誓約を私たちが主と最初に交わしたのは、前世にいた時でした。今も私たちが導きを必要としているように、その時も、神聖で一人一人特別な存在であった私たちは、神の愛に守られ導

かれることを願っていました。その時下した決断には何よりも重要な意義がありました。私たちが人生の岐路に立たされたり、進退窮まったりするとき、前世で決断した時のことに思いをはせるなら、勇気が得られ、人生の旅路をさらに前進していけるでしょう。

「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」(イザヤ41：10)

キリストの福音を知っていたおかげでもたらされた数々の祝福の中で、私が特に感謝している教えがあります。この世の人生には神の栄光を得るといふ、永遠にかかわる意義があると説く教義です。私たちは神の大なるみ業の中にあつて非常に重要な役割を担っています。主の光を受けて、その光を世に輝かせるようにと、主は教えていらっしゃるのです。

この世の価値観の中に潜む誤ちや恐れに、光の知識で対処していくには、絶えず困難が付きます。今日、私たちは、昔から存在した誘惑を新たな方法で受けています。科学技術を駆使して、誘惑がありとあらゆる方法で仕組まれ、至る所で待ち構えているのです。それらは若人に、未熟な人に、傷つきやすい人に向けられています。事実、私たち一人一人に向けられているのです。さまざまな暴力を取り入れたテレビゲームもあれば、身近で実際に恐ろしい暴力行為を目にすることさえあります。危険に取り巻かれるうち、私たちの愛は冷めてしまい、中には私

たちを脅かしているその同じ武器で防衛しようとする人もいます。さらに悪いことには、世の光になるという約束を守って互いに助け合おうとする代わりに、恐れあまり、他人から身を守ろうとするだけの人もいます。

ジョセフ・スミス訳のマタイによる福音書第16章には、キリストの弟子として理解すべき特質が明らかにされています。

「自分の命を救おうとして神の戒めを破ってはならない。この世で自分の命を救おうと思う者は来世でそれを失い、

私のためにこの世で自分の命を失う者は、来世でそれを見いだすであろう。

それゆえ、世を捨て、自分の霊を救いなさい。」(ジョセフ・スミス訳マタイより和訳)

この教えを理解するには、キリストの光に頼らなければなりません。しかし、恐れのために自分の霊を失ってしまったはなりません。教義と聖約第101章に記された事柄を見てみましょう。

「この故に死に至るまでも怖るななかれ。この世の中にては汝の喜びは満たされざれども、われに於て汝の喜び満たさるればなり。」

故に体も体の生命も心に懸くことななかれ。されど、霊と霊の生命とを心に懸くべし。

而して、耐え忍びて汝ら己れを失わざらんがために、常に主の面を見んことを努むべし。さらば、汝ら永遠の生命を得ん。」(36-38節)

キリストがなされる愛にあふれた約束を感じ取り、受け入れるとき、私たちは霊でこたえているのです。イザヤは、主が私たちのためにしてくださったことについてこう述べています。

「天を創造してこれをのべ、地とそれに生ずるものをひらき、その上の民に息を与え、その中を歩む者に霊を与えられる主なる神はこう言われる。」(イザヤ42：5)

さらにイザヤは、人に平安を与える主のやさしさ、愛に満ちた不変の慈しみについてこう記しています。

「『主なるわたしは正義をもってあなたを召した。わたしはあなたの手を



とり、あなたを守った。わたしはあなたを民の契約とし、もろもろの国びとの光として与え〔る。〕

見よ、さきに預言した事は起った。わたしは新しい事を告げよう。その事がまだ起らない前に、わたしはまず、あなたがたに知らせよう。』

主にむかって新しき歌をうたえ。地の果から主をほめたたえよ。』(イザヤ42:6, 9-10)

アルマ書を読むと、イザヤが私たちに歌うように望んだ歌は、贖いを与える愛を賛美する歌であることがわかります。(アルマ5:26参照)後に救い主はパレスチナの地において、いちばん大切な第一の戒めは何かと問われ、即座にこう答えられました。

「『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

第二もこれと同様である、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」(マタイ22:37, 39)

このみ言葉はわかりやすく、しかも深遠な意味を含んでいます。私たちがどのように主の誓約と取り組んでいけばよいかを示しているのです。そしてもうひとつははっきりするのは、主は私たちにできないようなことは何ひとつお求めにならないということです。

キリストが命じておられる愛は、大

きな改心と心からの謙遜さを必要とします。誇りやねたむ心を捨て去らねばなりません。兄弟や姉妹はもちろん私たちを迫害する者をも見下したりしてはなりません。そのような自分のよくない性癖に心を向けるのは、むづかしく、多大な努力を要することを、キリストはよくご存じでした。こうおっしゃっています。「もしあなたの片手または片足が、罪を犯させるなら、それを切って捨てなさい。」(マタイ18:8)

ここで主は手足を切断するようにと勧めておられるのではありません。そのような罪を捨てるのがいかに苦痛を伴うかご存じであることを示されたのです。私たちが自分にしかできない改心をするなら、キリストの贖いの血によって、主にしか与えられない赦しを受けることができます。この相互関係は、主が私たちの可能性に深い信頼を置き、尊重してくださっていることの表われです。主の愛を感じたことのある人ならだれでも、その信頼にこたえるとき、また主のみたまを求めできるかぎりの努力をして主をたたえるときに確かな勇気が与えられることを知っています。再び聖典から読んでみましょう。

「わがいつくしみはあなたから移ることなく、平安を与えるわが契約は動くことがない。」(イザヤ54:10。IIIニーファイ22:10も参照)「われは美しき色にて汝の石を敷き、サーファイ

ルにて汝の基礎をすえ〔る。〕」(IIIニーファイ22:11。イザヤ54:11も参照)

私はこれらの聖句を読むたびに強い印象を受けます。問題の多い世の中にあつて、私がよりどころとしている基は主との誓約によりもたらされたものです。それらは私にとってまさにサファイヤのようであり、値のつけられない宝物です。私はそれらのおかげで家族や神と永遠のきずなで結ばれているのです。これらの基とはすなわち、回復された教えであり、イエス・キリストの福音の儀式です。福音の儀式は、正しい生活をする人々に神の聖なる神権の力によって与えられます。バプテスマ、聖霊の賜を受ける按手礼、聖餐の儀式、神殿の誓約などがそうです。これらは永遠の生命を賜うるために私たちに与えられたものであり、受け入れるか否かの選択は私たちにゆだねられています。

「お前たちの結んだ誓約のためにお前たちはキリストの子と呼ばれ、キリストの息子や娘と呼ばれる。それは今日キリストがお前たちの精神を新に生みたまうたからである。お前たちはキリストの御名を信ずるから自分の心が改まったと言う。従つて、お前たちはキリストにより生れてその息子や娘となった。」(モーサヤ5:7)

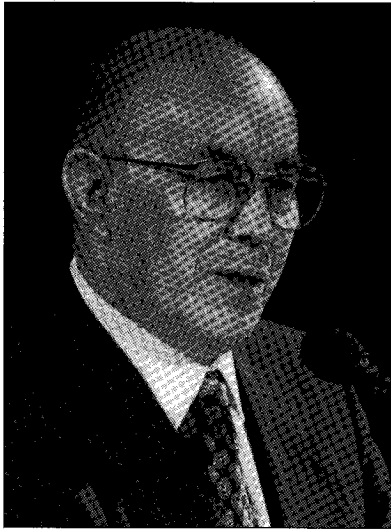
私たちは主の大いなる愛のおかげで、また主の光に導かれたいと望むがゆえに、キリストの家族の一員となっています。誓約を交わしているのおかげで孤独や疎外感から守られています。主とのつながりがあるからこそ、光を輝かせ、互いに思いやりをもって接し、自分の霊を失わずに永遠に保つことができるのです。

これらの事柄を理解するのは大きな祝福であることを証します。聖典に感謝しています。キリストが生きておられ、この教会を導いておいでになるという知識を与えられていることにも感謝しています。戒めを守る人は皆、主を身近に感じられることを証します。これらのことを主イエス・キリストのみ名により、へりくだって申しあげます。アーメン。

信仰を守り通した

七十人
エドワルド・アヤラ

この人里離れた遠い谷間で、なんとすばらしい教えが生きていたことでしょう。しかもそこは宗教を守り、福音の原則に従って生活することがむずかしい場所なのです。



教会幹部という責任の性質上、私たちはさまざまな国、場所、団体を訪問する割り当てを受けます。場所によっては危険が伴います。地域の事情によっては、訪問の割り当てを受けた場所までたどり着けない場合があります。

ある時、私はペルーの美しい山岳地域にあるステーキ部を訪問する責任を受けました。旅行には危険が伴うため、過去2年以上、このユニットの人々は教会幹部の訪問を受けたことがありませんでした。私たちは、正式な許可を得た後、伝道部長の助けを得て、片道5時間かかる美しいマンタロリバーの谷間に向けて出発しました。

ステーキ部センターに到着すると、ステーキ部長とふたりの副ステーキ部長が出迎えてくれました。私たちを見ると、彼らの表情は喜びにあふれ、兄

弟どうしの固い抱擁を交わしました。それより3年前、この町ではふたりの愛する宣教師が命を失いました。私にある愛情のすべてを伝えようとしてステーキ部長を抱き締めた後、こう尋ねました。「長い間来ることができませんでしたが、その間、苦労が絶えなかったでしょうね。」ステーキ部長は目に涙を浮かべて言いました。「ええ、苦労しました。でも信仰は守り通しました。」この簡素な言葉は私たちの心を打ちました。彼らが人間として、教会の会員として遭遇したさまざまな困難にもかかわらず、主のみ手が彼らとともにあったことを私たちは感じました。

彼らとの集会の中で、私たちは多くのことを学びました。そのひとつが、そのような場所で、また大都市や教会本部から遠く離れた場所で、どのように信仰を守り通すか、という点でした。私たちが学んだことの中で、彼らが問題を克服するうえで役立つ原則を、少なくとも5つ見つけることができました。

第1に、彼らは主に対する信頼を決して捨てず、全面的な信頼を主に寄せていました。これは彼らの確信の基になっていました。彼らは主が守り導いてくださるという事実を信頼していました。主はこう言われました。「汝らもしわれを信ずるならば、わがこころにかなう何事にても為す力を与えらる。」(モロナイ7:33)

人は必死の状況に追い込まれると、ときどき、別の道や別の指導を求めることがあります。しかし助言を与えてくれるそのような人々が、必ずしも助ける力を持っているわけではありません。

ん。私たちの霊的な必要を理解していないからです。試練の中で私たちに必要な助言や啓示を与える備えが彼らにはありません。

モーサヤの息子たちのすばらしい模範を考えてみましょう。彼らは多くの苦難や試しを乗り越えました。彼らは主を信頼したため、「主は『みたま』をかれらに与え、安心せよと言いたもうたのでかれらはそれで心が安らかになった。

……汝らはわれに^よりてかれらに模範をあらわすよう忍耐強く堪忍をし、また^{かんなん}艱難に堪えよ。さらばわれは汝らをわが手に使い多くの人を救わん。」(アルマ17:10-11)

第2に、彼らは忠実に祈りました。彼らは大人も子供も若人も、個人でまた家族で、信仰を込めてこの聖なる習慣を守りました。私たちの知っているとおり、祈りは天父に意思を伝える手段です。私たちは天父の子供であり、天父は私たちを愛してくださっていて、私たちの祈りを聞いてくださいます。私たちが戒めを守るなら、天父は祝福しようと心を砕いてくださっています。

救い主がニーファイの民を教えられた時、こう言われました。「汝らの妻子が祝福を受けるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に^{まか}せよ。」(IIIニーファイ18:21) 御父と御子が祈りを聞いてくださるという確信を、彼らはこの時ほど強く持ったことはなかったでしょう。

第3に、彼らはたゆまず聖典を勉強しました。彼らは聖典の中から、恐れに打ち勝つ信仰、問題の解決策、主からの慰め、天父の愛に満ちた助言、そして何よりも永遠の生命に向かって導かれているという確信などを見いだししていました。「聖典を調べなさい。あなたがたは、聖典の中に永遠の命があると思って調べているが、聖典は、わたしについてあかしをするものである。」(欽定訳ヨハネ5:39より和訳) 彼らはどのような困難の中でもこの戒めを守りました。この地の聖徒のひとり、こう言いました。「聖典を読んでいる時ほど、主を身近に感じたことはありません。」

第4に、彼らは神権プログラムを実践しました。その地で致命的な事件があったため、専任宣教師たちを移転させる必要がありました。それを補うため、福音を聞きたいと望んでいる人々に教えられるように、帰還宣教師を組織する必要が生まれました。求道者は会員の家族が紹介しました。ホームティーチングの数が増えました。見過ごしにされる人はだれもいません。彼らの言葉どおり、彼らは信仰を守り通したのです。

第5に、彼らは主のみ前にへりくだりました。自分の生活を清め、悔い改め、聖徒として協力し合い、持ち物を分かち合い、問題が生じたとき、危険が迫ったときには、断食をしました。

これらの簡単であっても力強い原則によって彼らはみずからを支え、信仰を保ち、教会の会員としてその地域で活発で、忠実な生活を送ることができました。

この人里離れた遠い谷間で、なんとすばらしい教えが生きていたことでしょう。しかもそこは宗教を守り、福音の原則に従って生活することがむずかしい場所なのです。そればかりか命そのものを維持して信仰を守るのがむずかしい場所であることは、容易に想像されます。ただ神への信頼、イエス・キリストを信じる信仰だけが、みずからを支え、前進し、清める力を与えたのです。

信仰を同じくする教会員がほかにいない人、家族が教会員ではない人、同僚や伴侶、子供を失った人などにとって、信仰を守り通すこと自体、大きなチャレンジであるはずで、前進し続けるには大きな勇気が必要です。しかし私たちは、常に、天から慰めを受けることができます。

開拓者たちはつぶやきませんでした。信仰を否定したり、引き返したりすることもありませんでした。教会がまだ小人数であった初期のころ、地上のどこを見てもほかに教会員はいませんでした。彼らの味わった深い孤独感は、計り知れないものがあつたと思います。迫害され、辱められ、拒まれ、殺された人々もいました。逆境に負けずには



ぐくんだ信仰によって、彼らは同時に強くなり、謙遜けんそんになりました。あれほど大きな抵抗、孤独、苦痛の中で信仰を守り通すのは、非常に困難だったはずで、しかしそれは栄光の時期、殉教の時代、勇敢で靈感に満ちた宗教の礎を築く期間でもありました。

キンボール大管長は、同じチームでこのように語りました。「人は忍耐、辛抱、自制を学ぶとき、苦しみを通じて聖徒になる。救い主が味わった苦しみはその教育の一部であつた。」(「悲劇か運命か」ブリガム・ヤング大学年度講話、1955年12月6日、p. 5)

その飾らない模範によって、疲れず、天父のみもとに戻る力を与えてくれた人々に感謝します。遠く離れたこの小さな町や村の人々は、おそらく孤立していたためにかえって強められ、清め

られたのかもしれませんが。

ステーキ部大会の最後に、私は会員たちに、神が愛してくださっていること、大管長会と十二使徒会は彼らを忘れずにいることを伝えました。だからこそ私たちはそこを訪問したのです。そして、彼らは教会の一部であること、忘れられてはいないこと、教会幹部は彼らのために祈っていること、などを証あかししました。彼らの心は感謝に満たされ、主のみたまに慰められてきた謙遜な会員として、また笑顔を見せてくれました。

大会中のある部会の閉会の祈りの中で、80歳にもなろうかという、尊敬すべきひとりの老人が、彼らが予言者を忘れずにいることを、よく言い表わしていました。彼はこう祈りました。「天のお父様。あなたの僕しもべのひとりを

このマンタロの谷間に遣わして下さったことを感謝します。この土地はあなたの愛する僕、キンボール大管長がひざまずき、私たちを養い、生活の糧をもたらしてくれる場所として祝福した所です。」

私たちがきょう、神の予言者たちの前に着席し、彼らの愛に満ちた導きを受けられるのは、なんと幸せな特権でしょう。教会が世界的に成長したため、これらのすばらしい指導者たちとそば近く接する特権に、生涯恵まれない善良な会員たちがおおぜいいます。しかし私は彼らが教会幹部を愛し、教えを守り、予言者たちに会えるその日を忍耐強く待っていることを証します。

この世の進歩に合わせて人々や国々の状況は変化します。それにもかかわらず、凍るように寒い山岳地や、暖かい谷間、川岸、荒野など、教会員のいる所であればどこであろうと、基本的な原則を守る人々が常にいます。彼らはそのようにして、ほかの人々に祝福をもたらしています。どこにいようと、どのようにむずかしい状況の下で忍耐を強いられようと、この世の問題に果敢に取り組みましょう。信仰を守り通しましょう。

私たちはさいわいにも、きょう、私たちが愛し支持する新しい予言者と副管長たちに、支持の挙手をしました。いつか将来、地上のほとんどすべての国で、たとえどんなに人里離れた町や村でも、きょう私たちが行なったように、会員たちが喜びをもって支持の挙手をする特権にあずかれる日がやって来るでしょう。

私たちはいつの日か地上での旅路を終えて、天父のみもとに戻ります。その日に、使徒パウロがテモテに語ったと同じ、勇敢な証をすることができますようにお祈りします。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」(IIテモテ4:7)

主の祝福によって私たちがこれからも勇敢で、謙遜で、忠実でいられますように。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

イエスが ごらんになるように

七十人

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア

主は……偉大な贖いの業を通して、^{あがな}墮落や誤ち、罪、失望を償うに必要なものすべてを用意してくださいました。



この歴史的な大会に皆さんとともに出席し、愛する予言者をはじめとする教会の指導者を支持する機会にあずかり感謝しています。また何よりこの神聖な召しを受けて働けることを主に感謝し、加えて、私を育て、教え、支持して下さったすべての人々に感謝の念をお伝えします。私の家族、とりわけ妻のシャロンはいつも私の必要を満たそうと努めてくれました。また、教会員であるかないかにかかわらず、おおぜいの友人や同僚たちは、この責任が私にとってどのような意義を持つのか理解しようと努め、思いやりを示し、励ましを与えてくれました。教会幹部たちは、ことのほか忍耐強く親切な態度で接してくれました。そしてこれまでの数カ月、自分を見詰めて直

し、召しをよく果たそうとする私を、やさしく助けてくれた人々に対し感謝の気持ちでいっぱいです。

正直言うと私は、この自省のプロセスの中で、自分に訪れたこの召しについてほかの人たちはどう感じているだろうかと思いました。そして、詩人のロバート・バーンズの言葉に思いをはせました。せんえつながら現代語に直すと次のような詩です。「ほかの人が我々を見るごとくに自己を見詰めるのは、なんと有益なことか。」(「ろくでなしに贈る歌」) 私たちが人からどう見られているか、特にいちばん大切な人からどう見られているかを知るのは、興味深かつ重要なことです。ましてや救い主が私たちをどう見てくださっているか理解できたらどんなにすばらしいでしょうか。

それでは、イエス・キリストが私たちのことをどのように認識しておられるかを私たちはどの程度知ることができるでしょうか。それは、主が定めてくださった標準に私たちがどれくらい従っているかによります。また、清い心を持っているかどうかによるのです。主は全人類に完全な模範と標準を示してくださいました。さらに行ないだけでなく、次のような印象的ではっきりとした問いかけと招きの言葉を語られました。「^{なんじ}汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(IIIニーファイ27:27) 主のおっしゃったとおりに行動し、主の望まれるような人物とな

るなら、主から認めていただけるでしょう。逆にそうしなかったなら、主の失望を招くでしょう。

主は私たちをいちばんよくご存じだけでなく、最も愛して下さっています。そして、偉大な贖いの業を通して、墮落や誤ち、罪、失望を償うに必要なものすべてを用意してくださいました。そのために私たちは、予言者たちの示す狭い門をくぐってまっすぐな道を歩み（II ニーファイ31章参照）、みもとに来るようにという主の招きを受け入れ、恵みを得るよう努めさえすればよいのです。そうすれば権能を授かった主の代理人を通じて祝福を受けるとともに、贖いの効力にあずかれるでしょう。

救い主を愛し、救い主に喜んでいただこうと努める人々に対し、かつてヒンクレー大管長は次のように述べました。「主の弟子である私たちが下品で無礼な行動を取ったり、不正を働いた

りするなら、当然人々のキリストへのイメージは損なわれます。しかし私たちが善良で親切で寛大な態度で人々と接するなら、私たちがそのみ名を受けている主に一層の栄光を帰すことができるのです。」（「模範となりなさい」p.90）

良きサマリヤ人のたとえ話の中で神の御子は、主のようにになりたいと願うすべての人々に対する期待をはっきりと語られています。（ルカ10：30-37参照）このように、主は私たち一人一人に期待し求められる態度や行動について教え、模範を示されました。それだけでなく、主は儀式と誓約を備えてくださいました。私たちは、正式に任命された主の僕からそれらを受けることにより、約束されたこの世での祝福と永遠の祝福のすべてを享受できるのです。

偉大な力と憐れみの心を兼ね備えられた救い主は、必要が生じたときには、

奇跡的な方法で何千人もの人々に食物をお与えになりました。（ルカ9：10-17参照）またその一方で主は、みずから取るに足りない者とする孤独な罪人のために喜んで時間を割き、「生ける水」を与え、永遠の生命へと導かれました。（ヨハネ4：7-26参照）主は慈悲深くおおぜいの人々に福音を説かれました。そして一見したところ重要人物でもなかったナタナエルとその個人的な質問のためにも時間を割こうとされたのです。（ヨハネ1：45-51参照）

神の指示を受けて世界を創造された主は、ご自身で文字どおり万事を処理することもできたはずですが、あえてご自身のみ業にほかの人々を用いられました。十字架におかかりになった時には、愛弟子ヨハネに、母マリヤの世話を依頼し、ヨハネ自身の母に対するように接してほしいという気持ちを込めて語られました。（ヨハネ19：25-27参照）末日にあっては、イエス・キリストご自身が天父とともに予言者ジョセフ・スミスの前にみ姿を現わされましたが、主になり代わってモルモン経を世に出す特権と栄誉は、モロナイにお与えになりました。この教会は救い主の教会ですが、主はゴードン・B・ヒンクレー大管長を召して、現在私たちが管理するようになさいました。私は、主が皆さんや私を、主の代理人として大小さまざまな重要な務めや責任に召して下さっていることを感謝と畏敬の念を込めて証します。

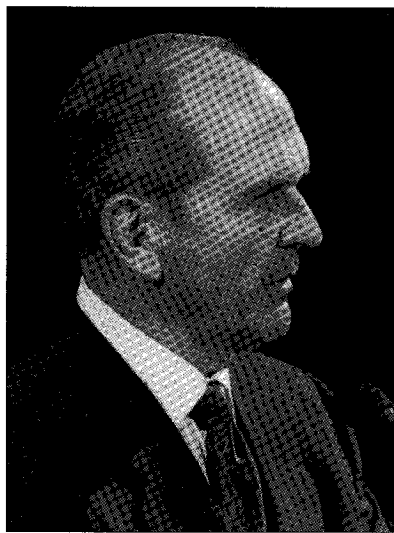
イエスが私たちをどのように見ておられるかもっとよく理解しようと努めるとき、また贖い主が私たちに望まれているような生き方をしようと真剣に考えるとき、主の次の教えを心に留め、それをすべての行ないに文字どおり生かしていこうではありませんか。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」（ヨハネ14：15）「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。」（マタイ25：40）イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。



誓約にあずかる者

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン

自分が何者で、神から何を期待されているかがわかり、すなわち主の律法が心に記されるとき、私たちは靈的に守られます。



私の話のテーマは聖典の「誓約にあずかる者」です。1 本題に入る前に、ハンター大管長の同僚として、ひとりの父親として最近経験したことや、また以前に医者として経験したことをお話ししたいと思います。

この数週間は、妻のネルソン姉妹と私にとってつらい日々でした。愛するハンター大管長に別れを告げただけでなく、その33日前に、いとしい娘のエミリーを亡くしたのです。エミリーは5人の小さな子供たちの母親で、37歳の誕生日を祝ったばかりで天に召されました。ハンター大管長は、エミリーの実生活に影響を与えました。エミリーは、すべての成人会員は神殿推薦状を持つようにという勧めに従いました。彼女の配偶者であるブラッドレー・ウィットワースは、定期的に神殿で過ごす時間を特権と考えていました。ふたりは「主の宮居を、教会員である

ことの崇高な象徴とし、最も聖なる誓約を交わす至高の場所」としたのです。エミリーは「主イエス・キリストの…模範」² に従おうと努めました。

ハンター大管長やエミリーは、病気で激しい苦痛に襲われても、決して怒りの言葉を口にしませんでした。むしろ、忠実な信仰によって耐える道を選んだのです。善意の友人や家族が容態を気にかけて尋ねると、エミリーは明るく答えました。「心配しないで、私はだいじょうぶよ。」電話を切るときも、普通の「グッバイ」ではなく、彼女は「アイラブユー」と言いました。

ボイド・K・パッカー長老と私がハンター大管長を見舞った時、大管長はハンター姉妹を招き寄せて、手を握り、ほほえんで言いました。「そばにいてくれると気分がよくなるよ。」

娘や大管長のために、もっと何かしてあげられたらと思うと、悲しみの涙が込み上げてきます。もし私に人を復活させる力があつたら、ふたりを呼び戻そうとしたかもしれません。聖任された使徒として各々が神の王国のすべての鍵を預かっていますが、私には復活の鍵はありません。イエス・キリストがその鍵を持っておられ、主の時に応じて、エミリーやハンター大管長、すべての人々のためにそれを使われるでしょう。³

エミリーやハンター大管長に、死の恐れはありませんでした。ふたりは主と神聖な誓約を交わして守り、自分への約束も同じように守られることを知っていました。⁴ 「誓約にあずかる者」として気高く生きたのです。

何年も昔に若い医学生だったころ、

私は、今では予防可能な病気に苦しむおおぜいの患者を見ました。現在では、かつての不治の病に対する免疫を与えることができます。免疫を与える医療法が予防接種です。接種を意味する“inoculate”は興味深い言葉で、ふたつのラテン語から来ています。“in”は「中」を表わし、“oculus”は「目」を意味します。“inoculate”という動詞は「中に目を入れる」、つまり「害のないように監視する」という意味です。

小児まひのような病気は、足や体に障害を残すことがあります。そして罪という病気は靈に障害をもたらします。小児まひから生じる障害は免疫によって予防できますが、罪の罪から生じる惨害に対しては別の予防手段が必要です。医者は邪悪に対する免疫を与えることはできません。靈的な予防は主から⁵、主ご自身の方法でもたらされませぬ。主が選ばれたのは予防接種ではなく、真理の教えです。主の方法にワクチンはありません。神の子供たちの永遠の靈を守るために、神の教義を教えるのです。つまり「中の目」を操作するのです。

ご自身を明らかにし、人を教化される

教える際にイエスは、まずご自身を明らかにし⁶、それから従う人々のことを話されました。古代アメリカの民に語られた言葉を引用しましょう。「われ〔は〕神の子、イエス・キリスト〔なり。〕」⁷

「……サムエルの前に来りし予言者たち、およびサムエルの後に予言をしたるすべての者たちは皆われのことを証せり。

汝らは予言者らの子孫なり。イスラエルの家に属する者共なり。また御父はアブラハムに『汝の子孫によりて世界の眷族ことごとく祝福を受くべし』⁸ と言って汝らの先祖と誓約を結びたまひしが汝らはその誓約に与る者共なり。

御父はわれを立ててまず汝らに遣わしたまへり。こはわれに汝らをして各各その罪悪より遠ざからしめ汝らに恵みを与えしむるためにして、また汝ら

が誓約にあずかる者共なるが故なり。」⁸

靈的な免疫を得るために大きな一步を踏み出すには、まず「誓約にあずかる者」という表現を理解することです。救い主はどの誓約について言われたのでしょうか。「アブラハムに立てたまいし誓約。」⁹です。主はさらにこう言われました。「われはかつてわが民に立てたる誓約を果すべし。その誓約はわが心にかなう時にわが民を集め〔る〕ことなり。」¹⁰

アブラハムの誓約

主が最初にアブラハムと交わし¹¹、

イサク¹²、ヤコブ¹³に再確認された誓約は、何にも勝って重要です。それには次のような約束があります。

●アブラハムの子孫が多くなり、永遠に増え、神権を持つ。

●アブラハムは多くの国民の父になる。

●アブラハムの血統を通して、キリストと王たちが生まれる。

●定められた地を受け継ぐ。

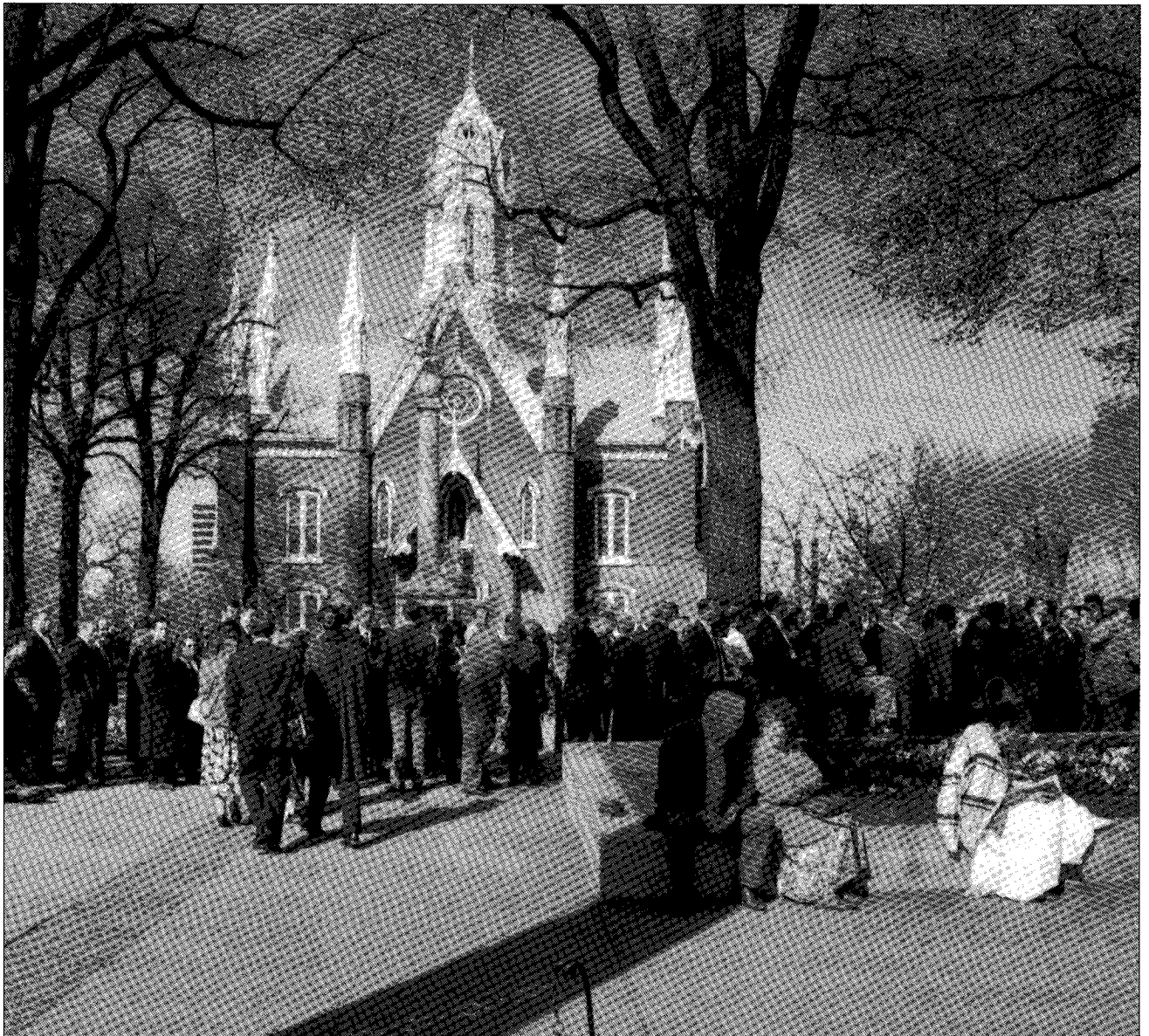
●地のすべての国民が、アブラハムの子孫によって祝福される。

●誓約は永遠であり、「よろずよ」¹⁴に続く。

これらの約束のいくつかは成就し、ほかはまだです。紀元前600年ごろの

予言を引用しましょう。「私たちの父はひとり私たちの子孫のことを話したばかりでなく、またイスラエルの家の全部についても話をして、末の日に成就されるはずの誓約を教えたのである。その誓約とは主が私たちの先祖アブラハムに……結びたもうた誓約のことである。」¹⁵

確かに約束されたように、主が末日に現われて、アブラハムの誓約を新たにされました。予言者ジョセフ・スミスに主はこう宣言されました。「アブラハムはその子孫とそのすえ（わが僕ジョセフ汝もそのすえなり）に就きて約束を受けたり。……この約束はまた汝の約束なり。汝はアブラハムより出



で……しによる。」¹⁶

私たちも「誓約にあずかる者」です。昔の人々のように、神権と永遠の福音を受けました。アブラハム、イサク、ヤコブは私たちの先祖で、私たちはイスラエルの子孫です。福音と神権の祝福と永遠の生命を受ける権利があります。地の国々は、私たちの働きにより、また私たちの子孫の働きによって祝福されます。文字どおりのアブラハムの子孫と、養子縁組によってその家族に加えられた人々は、約束された祝福を受けます。ただし、主を受け入れて、戒めに従う必要があります。

予言者エライジャは、先祖になされた約束を植えつけるために、やって来ました。後に、主が誓約にあずかる者たちを集めるみ業に着手されたしるしとして¹⁸、モルモン経が世に出ました。現代のために書かれたこの書物にこうあります。「御父がイスラエル人……に立てたもうた誓約は、すでに事実となり始めたと言うことをあなたたちは知るであろう。……

……主はイスラエルの家に属している自分の民に立てたもうた誓約を忘れずに……果したもう……。』¹⁹

新しくかつ永遠の誓約

確かに、主は私たちをお忘れになりません。私たちが主を忘れなければ、誓約にあずかる者は、誓約によって神の教義を受けるのです。ブリガム・ヤングは言いました。「すべての末日聖徒は、教会に入るとき、新しくかつ永遠の誓約に入る。……それは神の王国を支えるためであって、そのほかの王国を支えるためではない。」²⁰

バプテスマのとき、私たちは主に仕え、戒めを守ることを誓約します。聖餐を取るときに、それを新たにします。さらに神権の誓約を受け²¹、神殿特有の教義や誓約を含むエンダウメントという最高の祝福も受けることができます。

福音の新しくかつ永遠の誓約によって、私たちは神殿で結婚するふさわしさを身につけ、次の祝福を受けるのです。「第一の復活に出で来〔りて〕…

…王位、王国、公国、その他権能、領土……を受け嗣〔ぎ〕、……最高の栄に進むを得て、あらゆる事に光栄を受くべし。』²²

神殿結婚した両親の元に生まれた子供は、神権の祝福を自然に受け継ぎます。誓約の中に生まれた子供ですから、「約束の子孫たる地位を保証する何らの養子縁組の式あるいは結び固めの式を要しない」のです。²³

戒めに従順であれば、私たちの理解を超えた報いもたらされます。誓約にあずかる者は、罪に敵対する人々の子孫になります。それからハンター大管長やエミリー、そのほか誓約にあずかる人々と、「各々の世代が、神の家族の中でひとつに結ばれるのです。」²⁴ 誓約を通して愛する人々と結ばれるのを知ると、大きな慰めを受けます。

誓約にあずかる者たちの一致

末日聖徒は主の次の言葉を理解しています。「汝ら^{なんじ}ひとつとなれ、もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず。」²⁵

ヒンクレー大管長はこう言いました。「この崇高な一致こそ、真のキリスト教会の特質です。世界じゅうの教会員がこの一致を心に感じています。」ヒンクレー大管長はさらに続けてこう言っています。「私たちが一致してさらに強められますように。」²⁶

しかし世界じゅうで、多くの人々が争いや不適切な呼び名によって不一致をもたらしめています。人の品位を落とすようなニックネームが加えられたり、本名に代えて用いられたりすることがあります。残念なことに、嘲笑^{ちやうしやう}するような言葉が、誓約にあずかる者の本質をあいまいにするのです。

反対に神は、統一した聖められた名称を用いられます。福音を受け入れてバプテスマを受けるとき、私たちは再び生まれて、イエス・キリストの神聖な名を身に受けます。²⁷ キリストの息子、娘として養子縁組され、兄弟姉妹として知られるようになります。主は新しい生命の父なのです。私たちは、アブラハム、イサク、ヤコブとそ

の子孫に主が与えられた約束を受け継ぐ「共同の相続人」です。²⁸

ペテロは現代に関する予言の中で、きわめて啓発的な言葉を使っています。教会員を次のように表現しています。「選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民 (peculiar people) ……」²⁹ 「選ばれた」「聖なる」「神につける」という形容詞は私たちの精神を高揚させます。ところで、ここで使われている“peculiar”とは、どういう意味でしょうか。辞書には、「特異な」とか「変わった」と定義されています。³⁰ これはどのような意味の称賛の言葉なのでしょう。

この単語は聖典で使われるときは、しかし、まったく異なる意味になります。旧約聖書で“peculiar”に当たるヘブライ語は、“segullah”でその意味は「貴重な財産」や「宝」を意味します。³¹ 新約聖書では、“peculiar”に当たるギリシャ語は“peripoiesis”でその意味は「所有物」または「入手した物」という意味があります。³²

したがって、聖典の中の“peculiar”は「貴重な宝」「神に選ばれたもの」を表わしています。³³ 主の僕にとってこのような表現が使われているのは、最高の賛辞なのです。

自分が何者で、神から何を期待されているかがわかり、すなわち主の律法が心に記されるとき³⁴、私たちは霊的に守られ、よりよい人になります。ニーファイ人が真に正しい民の時、人を区別する名前を使わず、「民はその心に神の愛を保っていたから、全国に何ら不和がなかった」のです。³⁵

また、「レーマン人と言う者もどのようなちがった民もなく、みな同じくキリストの子であって、神の王国をつぐ者であった」³⁶ と記されています。

この歴史からの教訓は、私たちも人を分けたり、差別したりする言葉をなくすということです。パウロはこう教えています。「もはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあって一つだからである。」³⁷

「主は……主の御許へ来て主のめぐ

みにあずかるように招きたもうている。それであるから、主の御許へくる者は、黒人と白人、奴隷と自由人、男と女の区別なく……神の御前には……みな平等である。」³⁸

末日聖徒イエス・キリスト教会は、古代の主の約束を成就するために、末日に回復されました。これは「万物更新」³⁹の一部です。「誓約にあずかる者」は、逆境の中にあっても固く立ってぐらつきません。私たちは「その独子を犠牲となすを命ぜられた〔る〕アブラハムの如くにすら、必ず懲しめられ試みられ」るのです。⁴⁰しかし、主の次の約束により力づけられます。「汝らは肉に由りて正当なる世つぎにして、神の中にキリストと共にこの世より隠されたればなり。

すなわち、この故に汝の生命と神権とは依然残されたり。而して……すべての事の回復する時まで、汝と汝の血統とによりてこれは必ず依然残らざるべからず。

さればもし汝ら絶えずわが善を行い、異邦人の光となり、この神権によりてわが民イスラエルを救う者とならば汝ら幸福なり。」⁴¹

こうした教義を私たちの心に深く根づかせるなら、死のとげはなくなり、霊的な守りが与えられます。誓約にあずかる者は、この世でも後の世でも、祝福されるのです。イエス・キリストのみ名により証します。アーメン。

注

1. IIIニーフアイ20:26
2. ハワード・W・ハンター「ハワード・W・ハンター長老、教会の大管長に聖任される」「聖徒の道」1994年8月号、ローカルページp.3
3. 「ブリガム・ヤング説教集」ジョン・A・ウィットソー編（英文）、pp.397-398；ジョセフ・フィールディング・スミス「救いの教義」ブルース・R・マッコンキー編、1:124参照
4. 教義と聖約82:10参照
5. しかし自由意志と責任の原則はここでも適用されます。選択と責任は、ほとんど命そのものと同じ程度に貴い神の賜です。「すなわち契約の子で

あっても、信心深い働きによってその肩書にふさわしいことを立証しなければ、捨てられるにちがいない。」（ジェームズ・E・タルメージ「基督イエス」p.619）契約の子、すなわち誓約にあずかる者は安息日を尊んで聖く守り（出エジプト31:12-13,16-17；エゼキエル20:20参照）、神の戒めをすべて守る必要があります。

6. たとえば次の聖句を参照。IIIニーフアイ9:15；11:10；20:31；イテル3:14；教義と聖約6:21；10:57；11:28；14:9；19:24；35:2；36:8；43:34；49:28；51:20；52:44
7. IIIニーフアイ20:31（下線付加）
8. IIIニーフアイ20:24-26（下線付加）
9. IIIニーフアイ20:27
10. IIIニーフアイ20:29（下線付加）Iペテロ5:6；IIIニーフアイ5:25；モルモン5:12；教義と聖約93:19も参照
11. 創世17:1-10；22:15-18；ガラテヤ3:28-29；アブラハム2:9-11参照
12. 創世26:1-5,24参照
13. 創世28:1-4,10-14；35:9-13；48:3-4参照
14. 歴代上16:15。創世17:1-10,19；レビ26:42；使徒3:25も参照；末日聖徒イエス・キリスト教会版欽定訳聖書付録「聖書辞典」（英文）『アブラハムの誓約』の項p.602参照
15. Iニーフアイ15:18（下線付加）ほかにこれと似たような意味の予言で、次のようなものがあります。

「メシヤが世の人々に肉体で現われたもうてから……メシヤの福音は完全なままで異邦人に与えられ、ついで異邦人から私たちの子孫の残りの者に伝えられる。

すなわちその日がくると私たちの子孫の残りの者は、自分たちがイスラエルの家に属している者であって主の誓約を受けた民であることを知り、そこで心に悟って自分たちの先祖のことを知り、また自分たちの贖い主が親しく先祖に与えたもうた福音をも知る。かようにして、残りの者はその贖い主と贖い主の教えの最も重要な点を知るようになって、贖い主のところへ立ち帰って救いの道を見るのである。」（Iニーフアイ15:13-14）

「その時になりて、われはエルサレムの民の子孫を世界の隅々より集め、

また御父がイスラエルの家のすべての民に立てたまいし誓約を果さん。」（IIIニーフアイ16:5）

「汝はわが末の世に遣りたるわが完全なる福音と、イスラエルの家に属するわが民を回復せんがために発したる誓約とを宣ぶるべし。」（教義と聖約39:11）

「而して、わが民なるイスラエルの家に立てたる誓約を果して、わが福音をわが民なるイスラエルの家に伝えん。

またイスラエルの家よ。その時われは異邦人がもはや汝らを治むる権能なきことを明らかに汝らに示し、われが汝らに立てたる誓約を果すによりて汝らはわが福音を完全なるままに知るに至るべし。」（IIIニーフアイ16:11-12）

16. 教義と聖約132:30-31。主はさらに予言者ジョセフ・スミスにこう言われました。「また、われアブラハムにこの世の諸蕃族に就きて語りし如く、誠にわが僕ジョセフにもその如く語る。すなわち、汝と汝の子孫によりてこの世の蕃族祝福を受けん、と。」（教義と聖約124:58）
17. 教義と聖約2:1-3参照
18. IIIニーフアイ29:1-9参照
19. IIIニーフアイ29:1,3。この約束の中には受け継ぎの地が定められています。イスラエルの大半の子孫は近東の地に受け継ぎを得、選ばれた土地であるアメリカはヨセフのために取っておかれました。（イテル13:8参照）そこはモルモン経が翻訳される版の保管場所となる予定でした。

また、末日聖徒イエス・キリスト教会の世界本部が置かれるようにも定められていました。約束に従って、回復された福音がここから地上のすべての国民を祝福するために広まっています。信仰あつい男女と子供がこの時代に集められ、以前に聞いたことのない救いの真理に心を向けるようになります。

モルモン経には、新旧のエルサレムに関して、数多くの予言が載っています。一例を挙げれば次のようなものがあります。「かくて御父がその民に立てたまいし誓約は果されて、エルサレムは再びわが民の住むところとなり、かれらの受けつぐ地となるべし。」（IIIニーフアイ20:46）

「またこの地が天から下る新エルサレムおよび主の聖殿の建つ地である

ことをイテルは民に話した。

イテルはキリストの時代を先見し、この地にあるはずの新エルサレムと、イスラエルの家とリーハイの立去るエルサレムのことを話した。エルサレムは破壊されてから再建され、聖い都として主に捧げられるのであるから、昔に一度あってからイスラエルの家の住む所として再建され、主の聖い都になるものであるから新エルサレムとは同じでないといテルは説き明した。

また新エルサレムはヨセフの子孫の残っている者たちのためにこの地に建つと言った。」(イテル13:3-6)

20. 「ブリガム・ヤング説教集」(英文) p.160
21. 教義と聖約84:39-40参照
22. 教義と聖約132:19
23. ジェームズ・E・タルメージ「信仰箇条の研究」p.583
24. ジョセフ・フィールディング・スミス「大会報告」1950年10月号, pp.13-14
25. 教義と聖約38:27。「主とその民、共に住まん」(賛美歌5番)
26. 「もしひとつとならずば」「聖徒の道」1984年1月号, p.8
27. 教義と聖約20:37参照
28. ガラテヤ3:29; 教義と聖約86:8-11参照
29. Iペテロ2:9(下線付加) モーセも同じ言葉を使ってこう語っています。「あなたはあなたの神、主の聖なる民だからである。主は地のおもてのすべての民のうちからあなたを選んで、自分の宝の民(peculiar people)とされた。」(申命14:2, 下線付加)
30. 「アメリカン・ヘリテッジ・ディクショナリー」p.965
31. 末日聖徒イエス・キリスト教会版欽定訳聖書付録「聖書辞典」(英文) “Peculiar”の項p.748; 「ヘブライ語・カルデア語辞典」「ストロングの聖書詳解語句辞典」p.82, word 5459参照
32. ギリシャ語の接尾辞“poiesis”は現代英語の単語の中にも見られます。たとえば医師や薬剤師は「調剤書(pharmacopoeia)」と呼ばれる書籍を利用します。これは薬剤の成分や調合法が記されています。英語の擬音語という意味の言葉“onomatopoeia”は「ブンブン」「バリッ」「ビュンビュン」といった指示物の示す音を

言ったものです。体内での血液の生成をいう言葉は「造血(hematopoiesis)」として知られています。

33. “Peculiar”という単語が英語の聖書の中で使われているのは7カ所だけです。旧約聖書では5回。(出エジプト19:5; 申命14:2; 26:18; 詩篇135:4; 伝道2:8参照) そのどれもが、「貴重な宝」を意味するヘブライ語から訳されています。新約聖書では2回。(テトス2:14; Iペテロ2:9参照) どの場合も、「所有物」または「神がご自分の民として選ばれた人」という意味のギリシャ語から訳されています。
34. ローマ2:15; エレミヤ31:33; モーサヤ13:11参照
35. IVニーフай1:15
36. IVニーフай1:17
37. ガラテヤ3:28。コロサイ3:11も参照。正しい名前を用いることについては、主の次の宣言が思い出されます。「わが教会は、末の世に於て須らく末日聖徒イエス・キリスト教会と称えらるべし。」(教義と聖約115:4) 主は「わが教会はかく名付けるべし」とは言われず「わが教会はかく称えらるべし」と言われました。教会幹部は会員たちにこう警告しています。「『モルモン教会』という呼称が盛んに用いられていて、一部の

人々から誤解を招いているように思われます。」(「会員伝道クラス、教師用手引き」p.2)

38. IIニーフай26:33。別の箇所にある聖句では神は「この世界と、その中にある万物とを造った……。また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して、地の全面に住まわせ」(使徒17:24,26) られたとあります。

分け隔てなく隣人を愛するように命じられていることははっきりしています。しかし誤解してはなりません。これは一般的に言われたことであり、伴侶の選択に当たっては一般的な標準ではなく個別的な標準が当てはまります。結局、結婚できる相手はひとりしかいません。

夫と妻の宗教、言語、文化、民族的な背景が同じであれば、幸福な結婚に結びつく可能性の高いことが知られています。したがって、永遠の伴侶の選択には知恵が必要です。絶えざる逆風の中を飛行するのは賢明ではありませんし、時折出遭う悪天候だけでも乗り切るのは簡単ではありません。結婚の誓約をひとたび交わしたら、主と伴侶に対する完全な忠誠が必要です。

39. 使徒3:21
40. 教義と聖約101:4
41. 教義と聖約86:9-11



新しい予言者への支持

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

古代の予言者を通して行なわれたと同じように、ヒンクレー大管長を通じて啓示が与えられ、教会は現代社会の諸問題に対処し、その使命を押し進めていきます。



兄 弟姉妹の皆さん、きょうは歴史に残る祝福された日です。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、これまでスペンサー・W・キンボール大管長、エズラ・タフト・ペンソン大管長、さらにハワード・W・ハンター大管長の副管長としてその召しを果たしました。こうした人々の健康が優れなかった時、ゴードン・B・ヒンクレー長老が靈感に満ちて働いてきた様子を、私は身近に見てきました。皆さんとともにゴードン・B・ヒンクレー大管長を油注がれた神の予言者として支持できることを、私はうれしく思います。

私が受けた靈感と心からの愛を込めて、ゴードン・B・ヒンクレー大管長が末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長に召され、この時期に地上で神の代弁者として、また予言者、聖見者、啓示を受ける者として神の聖徒を導く

よう予任されていたことを^{あかし}証します。

ヒンクレー大管長はトーマス・S・モンソン長老を第一副管長に召し、大管長会の職務を効果的に継続するとともに、ジェームズ・E・ファウスト長老を第二副管長に召しました。これらの召しは靈感によるものです。

モンソン副管長は、主に仕える望みを持つよう、教会内外の人々を励まし導くことに非凡な能力を示してきました。25年前、私が十二使徒評議員会会員補助に新たに召された時、私が加わった委員会の委員長を務めていたのがトーマス・S・モンソン長老でした。私にとって、モンソン長老は親切な優れた教師でした。彼は教会の持つ世界的使命と新任の神の^{しもべ}に与えられる義務と祝福について、よくわかるよう効果的にしかもやさしく教えてくれました。

ジェームズ・E・ファウスト副管長は、有能かつ経験豊かで、神聖なみ業に対して深い知識を持っているばかりでなく、私のかけがえのない友であり助言者です。ファウスト長老は、十二使徒評議員会の集会では、いつも私の隣の席に着きます。ファウスト長老は、教会にとって祝福となる豊かな知恵と、^{たまもの}たぐいまれな霊的指導力と識別の賜に恵まれた人です。

予言者アルマの言葉は、今のこの時代にもよく当てはまります。

「祭司たちが聖任された仕方は次のようである。かれらはそのすぐれて堅固な信仰と善い行いとがあるために、神の先見の明によって創世の前からすでに選んで備えておかれた。かれらは

……すでに善を選んでその信仰がすぐれて堅固であったから、^{まよひ}聖い召を受けてこの職に召された。」(アルマ13:3)

さらに予言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「世の人々を教え導く召しを受けている人はすべて、前世の天上の大会議において、まさしくその目的のために聖任されたのである。」予言者ジョセフ・スミスはさらに続けて、「私自身、天上の大会議でまさしくこの職に聖任されたと思う」と述べています。(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.365)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、予言者ジョセフ・スミスに与えられた予言者の衣を、今まさに身にまとっています。ヒンクレー大管長は、前世の評議会で、神聖で高貴な予言者の召しに予任されていたのです。

ヒンクレー大管長、モンソン副管長、およびファウスト副管長の管理の下で働く私たちは、彼らの知恵と理解と神聖な事柄を固く守る^{しんしん}真摯な態度に尊敬の念を抱いています。神のみ手がこのみ業を導き、神がその僕を備えておられます。神は僕らの心の内を知り、初めから終わりを理解し、ご自身のみ業を遂行する僕らを立てられます。

彼らは有能で^{ひんそん}謙遜な指導者であり、この末世で地上における神の王国を管理するよう神に召されているのです。彼らは忠実な神のまことの僕で、厳しい試練を経て試され聖められてきた人人です。また彼らは義の教師、説教者であり、神の戒めに従順に従い、善を行なう者としてこの世の模範となる人人です。私たちが彼らの勧告に耳を傾けるならば、私たち自身と私たちの子孫に祝福がもたらされます。

初期の使徒であったオルソン・ハイド長老は、次のように言っています。「ある人が神の民を導くために選ばれ召されるとき、その人はすでに苦難と試練を経て、召される地位にふさわしいことを神と神の聖徒の前にみずからを証明していることが常である。……

『みたま』の勧めと全能者の勧告を理解する人が……この教会を導く人となる。」(「説教集」1:123)



ゴードン・B・ヒンクレイ大管長。

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長ほどこの教会をよく理解している人はいませんし、また彼ほど教会に広く知られている人はいません。

1830年4月6日は、回復されたキリストの教会が組織された日ですが、今からちょうど165年前の今週に当たります。ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは、この日に教会の管理役員に支持されました。ジョセフ・スミスは神より召され、啓示により予言者、聖見者、異言を解く者、イエス・キリストの使徒に任じられました。これは父なる神のみこころと主イエス・キリストの恵みによるものです。(教義と聖約20：1-2；21：1参照) 主はまだ小さな集団でしかなかった忠実な聖徒たちに次の指示を与えられました。

「この故に汝ら教会員は、彼が上より受くるままに汝らに与うる誠命と彼のことばを皆心にとめてよく聞き、わが

前に全く聖き道を履むべきなり。

それは彼の言は、汝ら全き忍耐と信仰とを以て、あたかもわが口より聞くが如くにこれを受け入るべきなればなり。

……われは彼に靈感を与えて、善を為すために大いなる力を以てシオンの大事を推し進めしむ。われ彼の勤勉なるを知り、また彼の祈りを聞けり。」
(教義と聖約21：4-5, 7)

予言者ジョセフ・スミスに与えられたこの啓示は、予言者である歴代の大管長に当てはまり、私たちすべての教会員が心に留めなければならないことです。

この地の基が据えられる前から天上の評議会では、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長がこの神聖な召しのために備えられていたことを証します。

ヒンクレイ大管長は、信仰深い家庭に生まれました。彼の家族は献身的な人々で、聖典に記されている救いの尊

い真理と予言者ジョセフ・スミスが受けた啓示の言葉に、その身を捧げてきました。ヒンクレイ大管長の両親は、りっぱな模範を示し、与えられた責任をどのように果たし、やり遂げるかを教えました。そのことがヒンクレイ大管長の指針となり、彼は学識を積み、人類のために奉仕する望みを持つようになりました。

ヒンクレイ長老は、伝道の召しを受け宣教師としてイギリスで伝道し、福音を分かち合う祝福を享受しました。

彼はロンドンで伝道部長補佐として働き、マスコミや教会員や全世界の教会のために広報活動を繰り広げながら、新たな才能を伸ばしました。広報活動に関する関心はそれから永年続き、もちろん現在にまで至っています。

教会の伝道プログラムの責任を受けたヒンクレイ長老は、新しい伝道方法を見だし、福音の原則を宣言する機会を増し加えました。ヒンクレイ長老は伝道活動発展のための器として働き、特に広大な地域にたくさんの人々が住むアジアで、その成果が大きく見られるようになりました。

教会幹部の中でも、ヒンクレイ長老ほど神殿の献堂式に数多く出席している人はほかにいません。これは神殿のみ業に対するヒンクレイ長老のこよなき愛を示していると同時に、私たちが先祖を救う業に積極的に参加する必要のあることを示す模範でもあるのです。

ヒンクレイ長老は、最愛のマージョリー・ペイ姉妹と結婚してから、その霊的な強さと主のみ業を進める望みがさらに高揚しました。ヒンクレイ姉妹は、約58年間伴侶として連れ添い、霊的な励ましを与えてきました。

ヒンクレイ長老はどんな境遇にあっても堅固な「すべての季節の男」(訳注——トマス・モアの生涯を描いたイギリス映画のタイトル。邦題は『わが命尽きるとも』)であるだけでなく、全世界の人々のために備えられてきた人です。

ヒンクレイ長老は、日ごろ教会のスポークスマンとしての務めを果たし、政府の公人や世界の主要な団体の代表者と会っています。その結果こうした

人々は、教会に敬意を払い教会を称賛するようになりました。

つい最近催されたヒンクレー大管長を囲む夕食会で、主催者はこのように述べました。「世界じゅうの教会員がいつもあなたに愛を示す理由がよくわかりました。今宵、さまざまな教会のかたがたによって表わされた尊敬と感謝と愛が、特別な思い出としてあなたとあなたのご家族のうえにあり、生涯の励みと慰めとなるよう願っています。」(ニック・S・ビダラキス博士「キリスト教徒とユダヤ教徒の全国会議の年次晩餐会」1995年2月21日)

短いながらも靈感に満ちたハワード・W・ハンター大管長の任期は終わりを告げました。ハンター大管長は、主と主のみ業を愛していました。そして主もハンター大管長を愛していらっしやったことを、私たちは知っています。ハンター大管長は、もっとやさしく、親切に、もっと思いやりを持ち、そしてもっとキリストのようになるために、さらに価値ある努力をするよう教えました。

さて私たちは今、すべての人から愛されているゴードン・B・ヒンクレー大管長の指導の下に、教会の新しい時代を迎えようとしています。彼は、1830年に教会が回復されてから15代目の大管長になります。

私たちは、定められた方法に従いヒンクレー長老を大管長として受け入れ、支持しました。古代の予言者を通して行なわれたと同じように、ヒンクレー大管長を通じて啓示が与えられ、教会は現代社会の諸問題に対処し、その使命を推し進めていきます。

主の啓示が時宜^{じぎ}にかなって与えられていることは、きょう、ここでヘンリー・B・アイリング長老が十二使徒定員会の会員に召され、主イエス・キリストの使徒として支持されたことでもわかります。

このみ業は真実です。天の御父の神聖な計画は、すべてこのみ業によって前進していきます。この聖なる日に、主イエス・キリストのみ名により、以上が真実であることを証します。アーメン。

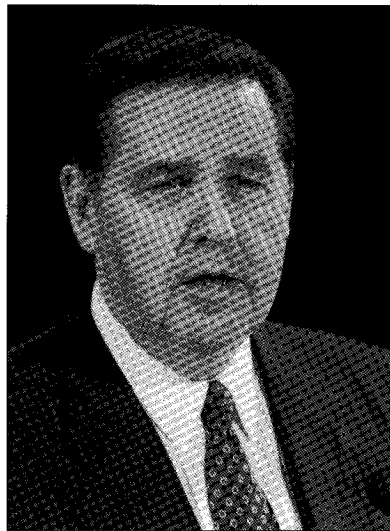
●1995年4月1日(土) 神権部会

神権者の受け継ぎ

十二使徒定員会会員

ジェフリー・R・ホランド

歴史の流れを見ると前途には多くの問題が待ち構えています、若い男性の皆さんはその問題乗り越えるだけの力を持っています。



のようなすばらしい聴衆の前に立ち、今晚この神権会に出席できることは大きな特権であり喜びです。特に今回の総大会のような、教会歴史上重要な機会に臨み、私たちが授かっている神権に対する感謝を余すところなく伝えることはとてもできないでしょう。この数日間、皆さんも私もこの歴史的な出来事を目の当たりにしてきました。そして聖会で挙手をし、私たちはまさにこの歴史的な瞬間に加わりました。かつてオリヴァ・カウドリがこのような回復の特権について述べたように、「これは決して忘れられぬ日々」です。(ジョセフ・スミス2章末のオリヴァ・カウドリの記述)

この大会にハワード・W・ハンター大管長がいないのはまことに寂しいかぎりですが、彼が今、気高く偉大な永遠の存在であるかたがたとともにいることを思って、私たちは喜びに満ちて

います。そして私はこの大会に出席しているほかのかたがたとともに、証人として、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がこの聖なる職、神聖な務めに神から召されたこと、そのために長い間備えをしてきたことを証いたします。その準備とは、青年時代から教会で積み重ねてきた多くの経験だけを指すではありません。アルマは、そのような人は「堅固な信仰と善い行いがあるために、神の先見の明によって創世の前からすでに選んで備えておかれた」(アルマ13:3)と教えていますが、まさにヒンクレー大管長はこの世へ来る前から備えておかれた人なのです。また、この証に加え、新たな召しを受けたトーマス・S・モンソン副管長、ジェームズ・E・ファウスト副管長、ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理に対し、私の愛と感謝を伝えたいと思います。さらに、十二使徒定員会の一員として、ヘンリー・B・アイリング長老を歓迎し、これから長い間一緒に働けることを楽しみにしています。

教会のみ業が進むこの記念すべき時にあつて、私は今晚ここに集ったアロン神権者の若い男性に向けてお話ししたいと思います。神のまことの生ける教会に所属し、現在皆さんが保持し、今後保持する神権の重要な職に就くということが、これまで、そしてこれからどんな意味を持つかということ、歴史的な見地から考えてもらいたいです。

教会で行なわれる多くの事柄は、モルモン経の中で「若者」とか「青年」(モーサヤ26:1;アルマ5:49)と

呼ばれている皆さんのためのものです。皆さんが今、歩んでいる人生の道をすでに歩んできた私たちは、自分が学んできたことのいくつかを皆さんに教え、励ましたいと願っています。また、歩んで行く道の両わきにある落とし穴や危険について警告したいと思っています。可能な場合には、皆さんと一緒に歩き、皆さんが私たちから離れないように見守りたいのです。

想像するのはむずかしいかもしれませんが、皆さんが信じようと信じまいと、かつては私たちも若かったのです。同じように信じがたいことかもしれませんが、皆さんのご両親にも、また皆さんの監督や定員会アドバイザーにもかつて若い時がありました。しかし、時がたつにつれて、若い時分より多くの教訓を学んできました。なぜ私たちは今、皆さんのことを一生懸命考え、心配し、最高のものを与えたいと望んでいるか、おわかりでしょうか。皆さんはまだ私たちの年代のことはわからないでしょうが、私たちは皆さんと同じ年代を過ごし、皆さんがまだ知らないことをいくらか学んできたからです。

若い時にはまだ、人生の疑問や困難な問題にぶつかることはあまりないでしょう。しかし、その時がいつかはやって来ます。しかも皆さんの世代では、その時期がだんだんと早まっています。一方イエス・キリストの福音は、

絶えず、唯一の確実に安全な道を示しています。そこで、経験を積んだ私たちはその歴史的な遺産を若人に伝えようと、絶えず大声で叫び続けているのです。

このようにひとつの世代から次の世代へ向かって叫ばれる大きな呼びかけが、息子の隣に父親が座り、父親の欠席している若者の隣には神権指導者が座って神権会を開く理由のひとつです。当時12歳のゴードン・B・ヒンクレーが、ソルトレーク第10ワード部の古い建物の後ろの列に立ったのも、ちょうどこのようなステーキ部の集会でした。執事に聖任されたばかりで、少し寂しく場違いな気持ちを抱きながら、初めてステーキ部神権会に出席したのです。

しかし、ステーキ部の神権者たちがウィリアム・W・フェルプスの感動的な記念すべき賛美歌『たたえよ、主の召したまいし』(賛美歌16番)を歌うのを聞きながら、いつの日にか予言者となるこの少年は、ジョセフ・スミスがほんとうに神の予言者であり、確かに「主と語り」「ジョセフを世はまた知る」ということを心に深く刻み込んだのでした。そうです。今朝の聖会を迎える備えの一部は、12歳の執事が神権会で、忠実で経験豊かな神権者たちの歌うシオンの歌を聞いた時に始まったのです。

現在12歳の執事の中で、教会の大管

長となる人はごくわずかしきません。また私たちの信仰を証明するために、大管長となる必要はありません。しかし、どんな男性もかつては少年であったことを忘れないでください。また、これまでの神権時代で予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持されてきた人々がそうであったように、若い男性の皆さんは全員、信仰をもって証^{あかし}を得、真理を擁護する機会と責任を担っている、ということを決して忘れてはなりません。確かに歴史の流れを見ると前途には多くの問題が待ち構えています。若い男性の皆さんはその問題乗り越えるだけの力を持っています。

ラジャー・クロウソンという名前は、残念ながら皆さんにあまり知られてはいませんが、クロウソン兄弟は45年間十二使徒定員会会員であり、そのうちの22年間は定員会会長を務めました。しかし、これらの責任を受けるずっと以前の若いころ、自分の忠実さを証明し、自分の生命を危うくしても信仰を守る意志を表明する機会がありました。

クロウソン兄弟は、若くして南部諸州へ伝道に召されました。100年以上前のアメリカではまだ暴徒が横行し、そうした無法者が教会員やほかの人々の安全を脅かしていました。ある時、クロウソン長老とその同僚のジョセフ・スタンディング長老は、宣教師大会へ参加するために徒歩で旅をしていました。目的地に近づくと、突然、武装して馬に乗った12人の荒々しい男たちに出会いました。

ふたりの長老はライフルや連発銃を顔に突きつけられ、何度も殴られ、ときには地面に倒されて、目的地へ向かう道から強引に近く森の中へ連れ込まれました。ジョセフ・スタンディング長老はこれから待ち受けていることを察し、勇敢にも暴徒に襲いかかりピストルをつかみました。すると即座に暴徒のひとりが若きスタンディング長老へ向かって銃を向け、射撃しました。もうひとりの暴徒がクロウソン長老を指して言いました。「そいつもやっつまえ。」それを聞いて円陣になった暴徒たちは一斉に彼の方に銃口を向けました。



この若い長老は、自分も倒れた長老と同じ運命をたどるのだらうと思いました。彼はこう述べています。「私は……すぐに、逃げ道のないことを悟りました。私の番が来たのです。……間もなくジョセフ・スタンディングの後を追うことになるのだらうと思いました。」彼は腕を組み、暴徒の顔を真っ向から見詰めて言いました。「撃ちなさい。」

この若者の勇気に驚いたのか、あるいは彼の同僚に対してしたことが恐ろしくなったのかはわかりませんが、その運命を決する瞬間に、だれかが叫びました。「撃つな。」そして、ひとり、またひとり銃を下ろし始めました。ひどく震えながらも同僚への忠誠心に駆られたクロウソン長老は、相変わらず暴徒をものともしない態度を続けました。もう撃たれないという確信はありませんでしたが、若きクロウソン長老は、たびたび暴徒に背を向けながら、同僚の遺体を安全な場所まで運び、息を引き取った友のために最後の思いやりに満ちた行為をしました。同僚の体から汚れた血をふき取り、遺体を列車で遠い故郷に送る手配をしたのです。(デビッド・S・フープス、ロイ・フープス著「モルモン^の使徒、ラジャー・クロウソン物語」pp. 23-31参照)

この話を聞いて、皆さんが若い宣教師の死のことばかり考えたり、福音の生活は教会の初期にあっては、試練や悲劇しかもたらさなかったと考えたりしないようにしていただきたいと思えます。そうではなくて、私が教会の若く新しい世代の皆さんにお話ししたかったのは、教会初期に生きた若い男性や女性を含む兄弟姉妹たちが私たちに残してくれた贈り物について、すなわち、教会の新しい映画が「われらの遺産」というタイトルの言葉によって表現していることについてなのです。

さいわいなことに、現在私たちのほとんどはそのような身体的な脅威にさらされてはいません。ただし私たちの勇気は、より静かでさほど劇的ではないものの、当時と同様あらゆる点で厳しく困難な状況にさらされています。

現代の教会歴史の中からひとつの例を紹介しましょう。皆さんや私にも求められている信仰と忠実さを示した例です。この話を通して、成長過程にある経験の浅い息子さんたちのために力強い模範を示している忠実な父親の皆さんに賛辞を贈りたいと思います。

J・リチャード・イエーツ兄弟は、かなり前に伝道から帰還し、現在はノースカロライナ州ダーハムステーキ部のダーハム第3ワード部で監督を務めています。数年前、彼はアイダホ州にある家族の農場で、父親が牛の乳搾りや夜の仕事をすることを手伝っていました。リチャードの父親トム・イエーツ兄弟は家庭の経済的な事情で、若いころ伝道に行きませんでした。しかし、その失望のため、自分にできなかったこと、すなわち主のために専任宣教師として働くことを、どのような犠牲を払っても必ず息子に実現させるという信念は一段と強まったのでした。

当時、アイダホ州の田舎では、子供が青年となり、牛の世話ができるようになる、若い雌牛を1頭与えるのが習慣でした。青年はその牛を育て、子牛が生まれたら一部を残して、後の子牛を売り、えさ代にするのです。賢明な父親たちは、息子に責任感を植えつけ、同時に伝道資金をためるうえでこれがとてもいい方法だと知っていました。

若いリチャードは初めて子牛をもらってよく世話をし、しばらくすると8頭にまで増やしました。またそれまでに、売った牛乳で得た収入を投資し、ひと腹の子豚を買いました。ついに伝道の召しが届いた時には、豚の数は60匹近くに増えていました。家族は、これから生まれる豚の子を売って牛乳の収入と併せ、リチャードの伝道資金にしようとして計画を立てていました。

24か月の素晴らしい伝道を無事に終えて随分月日がたったその晩、リチャードは納屋の中で、伝道中にはまったく知らなかったことを聞かされました。父親の話では、リチャードの出発後、最初の1か月の間に、家族が親しくしており、その地方で勤勉に働いていた獣医がやって来て、コレラがはやる恐れがあるため予防接種をして

くれた、とのことでした。ところが不運にも、そのベテランの獣医が生ワクチンを投与したものの、適切な抗血清を投与しなかったために、豚が全部コレラにかかってしまったのです。数週間以内に豚は大部分死に、生き残ったものも殺さなくてはなりませんでした。

豚が死んでしまった今、牛乳を売った代金だけでリチャードの伝道資金を賄うのは、明らかに無理でした。そこで父親は、伝道資金を捻出^{ねんしゅつ}するため家族の乳牛を1頭ずつ売ることになりました。しかし、2カ月目からその後の23か月間、伝道地にお金を送ろうとしていると、毎月のように、彼らの牛かリチャードの牛の1頭が突然死んでしまったのです。こうして予想していたより倍も早く牛の数が減ってしまいました。信じがたい不運な出来事の連続でした。

そんな苦しい時期に、地元の銀行から借りていた多額のローンの返済期限が迫ってきました。これまでのもろもろの出来事と度重なる経済的問題のため、イエーツ兄弟にはローンを返済するお金などまったくありませんでした。こうなると、農場を全部失う可能性も強くなってきました。何度も祈りを捧げ、心を痛めながらも、伝道へ出ている息子にはこの件をひと言も話しませんでした。イエーツ兄弟は銀行の支店長に会いに行きました。この支店長は教会員ではなく、地元では幾分厳格でとつきにくい人物として知られていました。

この非常に不運な出来事について説明を聞くと、支店長は一瞬沈黙し、イエーツ兄弟の顔をのぞき込みました。イエーツ兄弟はラジャー・クロウソンとジョセフ・スタンディングのような信仰をもって、穏やかに、またへりくだった心で苦難と恐怖に勇敢に立ち向かおうとしています。そのような状況にあって、彼としては支店長に「撃ちなさい」と言うほかはなかったのではないのでしょうか。

支店長は静かに身を乗り出すと、ひとつだけ質問しました。「イエーツさん、あなたは什分の一^{じゅうぶん}を納めていますか。」その答えがどのように受け取られるかまったく見当がつきませんで

したが、イエーツ兄弟は静かに、しかしためらうことなく答えました。「はい、納めています。」すると支店長は言いました。「続けて^{じゅうぶん}什分の一を納め、息子さんの伝道資金を送ってください。ローンの方は私がなんとかします。返済ができるようになったら、払っていただけるでしょうから。」

何の書類も署名も交わされませんでした。脅しや警告の言葉も発せられませんでした。ふたりの善良で高潔な男性がただ立ち上がり握手を交わしただけでした。合意が成立し、その約束は守られました。

イエーツ監督は、その晩、それまでまったく知らなかったこの話を聞いて非常に感動した、と語ってくれました。銀行から借りていたローンを返済し終わって年月がたった今、彼は父親に尋ねました。ひたすら福音に従って生活し、息子を伝道へ出したことは、そのような心配や恐れと闘いながら犠牲を

払うだけの価値があったのかと。父親は言いました。「あったとも。主が私にお求めになるなら、それ以上のことをする価値だってあったよ。」そして彼は夜の仕事を続けたのでした。

身体的な特徴としては、トム・イエーツは、身長170センチ足らずで、体重70キロほどのやせた男性でした。幼い時に命取りになる恐れのある小児まひにかかり、幾分発育が妨げられたのです。しかしリチャードは、父親の体格のことについてどうこう考えた記憶はまったくないと言っています。この息子にとっては、父親はただただ霊的に大きな存在であり、常に人生の問題を克服し、子供たちに永遠にわたる献身と勇気の遺産を残してくれた人だったのです。

家族にそのような模範を示し、信仰を培ってくれる父親の皆さんに対し、またどのような犠牲を払おうとも高潔な生活を送っている人々、恐怖と試練、

そして死にさえもひるまずに立ち向かった現代および過去のあらゆる時代の人々に、心からの感謝を伝えたいと思います。私はまた、イエス・キリストの福音に従って生活しようと決心している若い男性の皆さんを称賛したいと思います。神から授けられた神権を持つ私たち一人一人の肩に置かれた責任を、私は皆さんとともに担っていきたいと思います。私たち各自が、主のみ業にあつてはもう一方のほおを向けなくてはならないことがあっても、主に背を向けてはならないことを心に留めるように願っています。この教会の主、イエス・キリストに誠実に、また信仰深く従うことを、皆さんとともに改めて決意したいと思います。そして、先人が残してくれた忠実という遺産を、ともにたたえたいと思います。イエス・キリストの聖なるみ名によりお話しします。アーメン。



大会の部会に到着した大管長会を迎える十二使徒定員会会員たち。左から、ラッセル・M・ネルソン長老、グリム・H・オークス長老、ゴードン・B・ヒンクレー大管長、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長。

自分は何者なのか

七十人会長会
モンティ・J・ブラフ

疑いなく、私たちの家庭や家族の環境は、自分が何者であるかという意識に最も大きな影響を与えます。



皆さんは青少年の活動に出かけるとき、お母さんからこう言われたことはありませんか。「いいこと、自分がだれなのか忘れないでね。」それを聞いたたびにこう思いませんでしたか。「なぜいつもそんなこと言うんだろう。ところで、ぼくは何者なのだろう。」

この大切な質問をした人がほかにもいます。

「モーセは神に言った、『わたしは、いったい何者でしょう。』」¹

「その時ダビデ王は、はいて主の前に座して言った、『主なる神よ、わたし〔は〕だれ……ですか。』」²

ハワード・W・ハンター大管長は、格調高いその教えの中でこのように断言しています。「私たちの時代の最大の探求は、人の本質と人類の尊厳とを探し出すことです。」³人の本質を探究するには、私たちの行動様式の指針と

なる模範を見つける必要があります。すばらしい例外はわずかながらありますが、若い人々は、スポーツや娯楽、流行歌などの分野で活躍する人々の中にふさわしい模範を見いだすことはできません。これらの分野でよく知られた人は、よい模範を示すのを怠るだけでなく、ほとんどの人に受け入れられる模範とは正反対の人物であることがしばしばです。今の世で崇拜の的となっている彼らに近づいても、費用ばかりかかって実りはありません。また私たちは、公に認められた薄っぺらでいいかげんな標準を目にするたびに、ほとんどいつもがっかりさせられます。多くの都市や町の繁華街には、自分の行動についてこの薄っぺらでいいかげんな標準を持った若者がひしめいています。

しかし私たちに、もっと身近に、はるかに深い影響を与えることのできる豊かな模範があります。ほとんどの人が比較的わずかな努力と費用で、家族にとって大切な模範となる人の長いリストを作ることができます。そのリストは、先祖の生活を謙虚な態度で探究することから生まれるのです。例を挙げてお話ししましょう。

数年前、妻の誕生日の贈り物として、私は「ファミリーサーチ」を使って、記録された妻の系図をすべてたどりましました。これは大きな間違いでした。コンピューターによって、妻がヨーロッパの王室の子孫であることがわかったのです。それ以来、妻との生活が大変になりました。おそらく今では、この家族歴史の情報によって、以前にも増して私は妻を家族の女王として扱うよ

うになったと思います。しかしもちろんいちばんの問題は、子供たちも王室の血を引いており、悲しいことに私だけが、家族の中で「一般庶民」だということなのです。

マナセ・バード・カールは、1870年に生まれ、ユタ州北部のベアレイクの近くで育ちました。彼のすばらしい物語は、子孫たちに教訓を与えるものです。実は私もその教訓を受けたひとりなのです。彼の日記から読んでみましょう。

「その秋、父は牧場主のジョン・ディケンズの代理として何頭かの牛を購入した。ディケンズはベアリバーに広い牧場を持っていた。……私は、牛を買いに北へ向かった兄のジミーが、もっとお金が必要だと父に手紙をよこした時のことを覚えている。父は私にお金を持って行くように言った。母が600ドルを私の下着に縫い込んでくれた。父は私を馬に乗せて言った。『バード、ジミーに会うまで、この馬から降りちゃいけないよ、口を固く閉じて、もしだれかに何か聞かれたら、黙っているか、行き先だけ言って、このお金をジミー以外のだれにも渡しちゃいけない、だれが何と言おうとだ。』ディングルデルに着くと、ジミーはモントピラーにいたと言われた。そこでモントピラーで父の友人のジョー・リッチの家を訪ねたが、ジミーはすでに家に帰ったと言われた。リッチ兄弟は私に、家に入って何か食べていくように勧めたが、私はそれを断わった。父からジミーに会うまで、馬から降りないように言われていたからだ。私はぐりと向きを変えると家に向かった。ベアーズ峡谷の辺りで、……ほとんど動けなくなった。ポッターさんは私を降ろして休ませようとしたが、私は断わった。ようやく家に着くと、ジミーが私を馬から降ろして、家まで運んでくれた。母は、私が130キロ以上も馬に乗り続けたと知って泣きだしてしまった。」⁴

ガスティブ・ヘンロイドの感動的な言葉について考えてみましょう。

「読者の皆さんは、1853年にオマハとソルトレークシティの間で見られ

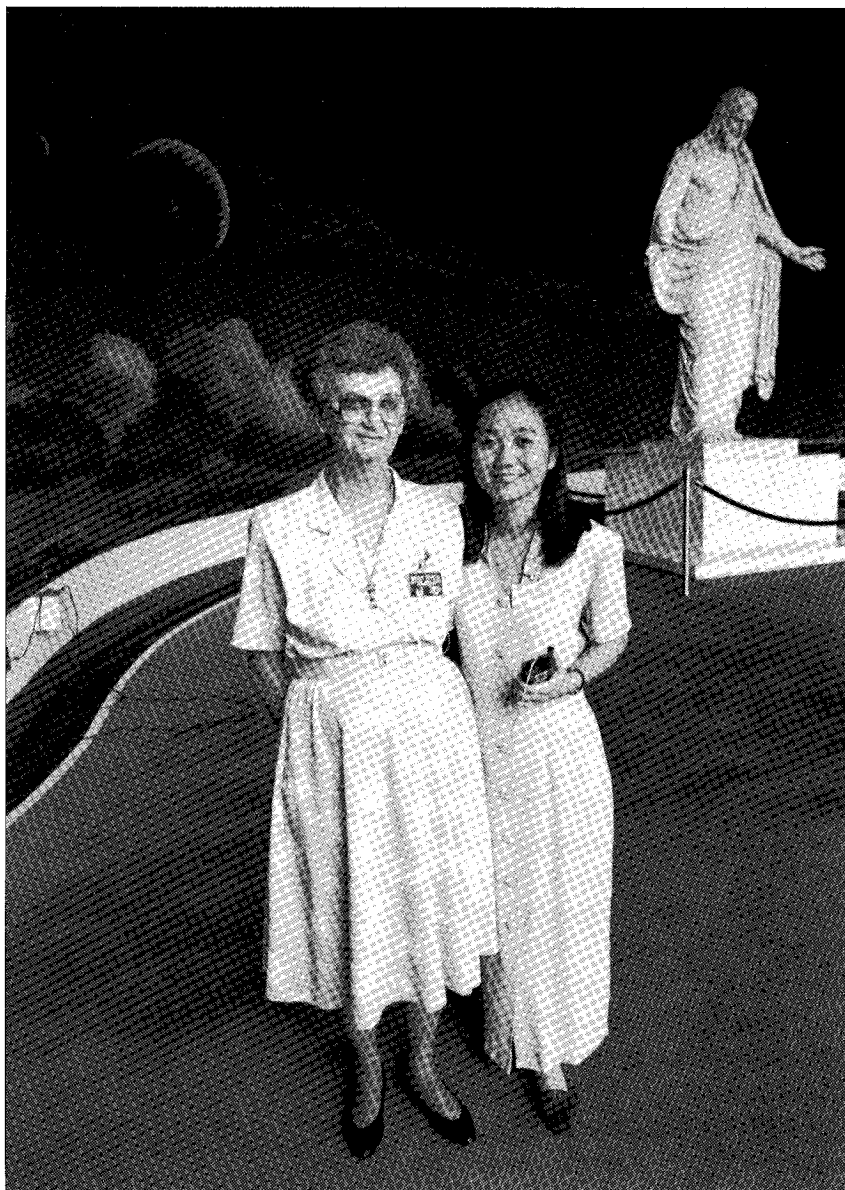
たすべての事柄、すなわち娯楽と苦難、喜びと恐れ、歓喜と落胆、悲しみと楽しみ、渇きと満足、希望と絶望、不安と平安、苦痛と快楽など、私たちの生活に付随したすべてのものを知ることにはできないだろう。毎朝、半分野生の雄牛にくびきをつけ、毎晩テントのくいを打ち、燃料にするためにバッファローのふんを拾い、朝晩、荷物や寝具を積んでは降ろし、朝な夕なに寝床を作り、馬であるいは徒歩で、毎晩家畜を守り、昼は放した牛を導き、豪雨に備えてテントの周りに溝を掘り、シオンの歌を歌い、壊れた幌馬車を直し、……洗濯をした。そしてだれもが個人の問題を忘れていた。」⁵

見習うべきもうひとつの大切な特質は、チャレンジに直面したときのユーモアです。

ハンナ・コーナビーは、1853年に移住した会員で、こう書いています。

「記念すべき6月1日からちょうど3年になる。……あの日、牛が到着して私たちはケオククを出発した。その時の様子をページを割いてしたためたいと思う。牛は人に慣れていなくて、くびきをつける時の様子ほど見ていておかしいものはなかった。だれもが命令をするけれど、だれも牛の動かし方を知らなかった。もし聖徒でなかったなら、汚い言葉をたくさん使っていたに違いない。でも牛にはその言葉がわからないから、使ったとしても同じだったろう。人のいい兄弟のうろたえた顔を見るのは、まさにこっけいだった。1時間以上かけて〔1頭の牛を〕くびきの片側につなぎ、もう一方を支えたまま、その下に〔別の牛を〕導こうとした。しかし、〔初めて〕平原を疾走するのを見た時、くびきは激しく宙に踊っていて、止めようにも、彼にはどうしてよいかわからなかった。」⁶

もちろん、私たちの先祖の生活にも政治的、社会的な争いはありました。しかし、そうした争いも、状況を処理する過程で教訓になったのです。ジョン・デービスは、アメリカ独立戦争の時のイギリス政府支持者でした。後にアメリカでリッチフィールド第1監督派教団として知られた英国国教会の設



立に尽力した人物です。初期の移住者たちは、宗教に次いで忠誠心が基本的な徳であると教えられていました。したがって、母国からの変革を口にするのは不信心な反逆者だ、と真剣に考えていました。中には、独立への試みは何であれ恩知らずな行為だと主張する人もいました。彼らにとって国王は、国だけでなく、宗教上の頭でもあったのです。

ジョン・デービスは、コネチカット州リッチモンドに最初の教会を建てる際の障害として、革命軍の兵士により大きな打撃を受けたことを挙げています。彼の家畜は革命主義者によって追いやられ、財産の多くはひどい損害

を受けました。国王に忠誠を尽くす人々はこのように激しく迫害されたのです。ジョン・デービスについてこんな記述があります。

「彼の牧場から多くの牛を奪い、そのほかの略奪行為を行なった首謀者のひとりが、戦争終結後に貧困に陥り、窮地に追い込まれてデービス氏に援助を求めた。彼はこれまでの悪行を赦しただけでなく、必要なものをすべて与えたのである。」⁷

ターマ・マイナーの最初の夫のアルバートが、1848年1月に亡くなった時、末の子供はまだ2歳にもならず、いちばん上の子もわずか15歳でした。ターマの父エドモンドは、イリノイ州ノー

ゾーで暴徒に殺されましたが、その時ターマは32歳で、9人目の子供が生まれるところでした。娘のメリッサは迫害のただ中に生後7カ月で亡くなり、息子のオルソンは17歳で病死し、もうひとりの娘シルビアも2歳で亡くなりました。ターマと残った5人の子供たちは、1850年6月10日に大平原を横断してソルトレークシティへの旅に出発しました。ターマは次のようなすばらしい言葉を書き残しています。

「私はこれまでに、あらゆる苦難と追放、放火、略奪、脅迫を経験し、聖徒とともにすべての迫害を受けながら、ヒューロン郡からカートランド、ミズーリ、イリノイへと移り住み、そして平原を横断した。私は、子供たちに両親が経験したことを少しでも伝えるためにこれを書く。子供たちがこのような経験に感謝するよう願っている。私が末日聖徒のひとりに教えられることを何より誇りに思っているように。」⁸

これらは、家族の歴史を学ぶとき、だれもが出会うすばらしい模範の一部です。

最近、私たちは大きな興行会社で重役を務める女性とお会いしました。数数のすばらしい肩書きに加え、この会社幹部はユダヤ人でした。彼女は家族歴史図書館の見学を楽しみ、全世界から貴重な記録を集めて保存している教会の働きについて紹介を受けました。集会が終わったところで、彼女が尋ねてきました。「なぜあなた方の教会は系図にそんなに興味を持つのですか。」

私はこう返事しました。「お答えする代わりに、同じ質問をしましょう。なぜユダヤ人は系図に興味を持つのですか。」

彼女は私の質問に少し驚いた様子で答えました。「なぜですって？ 何より大切だからです。系図は自分という存在であるかを知り、いつも心に留める手段です。自分が何者であるかを教えてくれるのです。先祖の歴史と生活は、ユダヤ人社会全体をひとつに結ぶきずななのです。」彼女は最後に言いました。「自分が何者であるかを知る手立てがほかにあるでしょう

か。」

私は答えました。「それこそ、教会が系図に関心を持っている理由のひとつです。」

神権を持つ兄弟の皆さん、「わたしは何者ですか」という昔から問われ続けてきた質問にどう答えますか。

まず第1に、私たちは神の形にかたどってつくられた神の息子です。また末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です。私たちと教会との関係は、1世紀半以上にわたり多くの会員によって培われてきました。疑いなく、私たちの家庭や家族の環境は、自分が何者であるかという意識に最も大きな影響を与えます。これは私たちの両親の家族や、それ以前の家族にも当てはまります。「自分が何者であるか」を探求するに当たって、自分自身の家族や先祖を見過ごしにして、高い標準を持つすばらしい模範をほかから見つける必要はありません。ラッセル・M・ネルソン長老がきょうの午後の部会で教えたように、私たちは「誓約にあずかる者」なのです。

私たちの家族から次の崇高な約束がもたらされます。

「この故に、かくの如く主汝らに言う。汝らはすなわち代々父の血統によりて神権を有つ者たちなり。」

何となれば、汝らは肉に由りて正なる世つぎにして、神の中にキリストと共にこの世より隠されればなり。

すなわち、この故に汝の生命と神権とは依然残されたり。而して世の始めよりこの方すべての聖なる予言者の口によりて語られたるすべての事の回復する時まで、汝と汝の血統とによりてこれは必ず依然残らざるべからず。」⁹ イエス・キリストのみ名により、アーメン。

注

1. 出エジプト3:11
2. サムエル下7:18
3. 「大会報告」1967年4月, p.115
4. マナセ・バード・カールの個人の日記より。ブラフ長老所蔵の写し。
5. 「開拓者の遺産」ケイト・B・カーター編, 全20巻, 11:320
6. 「自伝および詩集」p.32
7. 「ヘンリー・ユージン・デービス」デービス・ミモア, pp.21-22
8. 「開拓者の遺産」2:323
9. 教義と聖約86:8-10

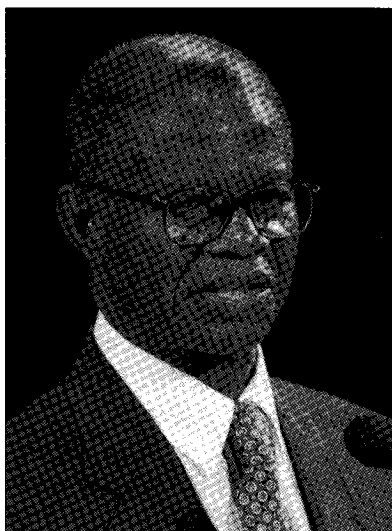


やぐらの上の見張り

七十人

ヘルベシオ・マーティンズ

神権者としていくつかの非常に有意義な経験をしたのも、ホームティーチャーとしての責任を通してでした。



1978年6月8日は、明らかに、忘れがたい日です。その日、神権と神殿の祝福が、教会のふさわしい男性会員すべてに授けられるようになりました。それは非常に記念すべきことで、その意義をじゅうぶんに理解していた数え切れないほどの人々はもとより、まだそこまで理解が達していなかったおおぜい人々の人生にも多大な影響を及ぼしました。

その日、大管長会は、主が新しく下された特別な啓示を全世界に発表しました。それは多くの祈りを重ね、主の聖なる導きを幾度となく求めた末にもたらされたものです。

その啓示は、天父の多くの子供たちの人生に大きな変化をもたらしました。ブラジルのリオデジャネイロに住んでいた私たち家族も、その変化の恩恵にあずかりました。

それは信じがたいことのように思わ

れました。予期もしなかったことでした。天父は、神権というこの尊い管理の職に伴う重要な責任を遂行するために最善の状態で準備が整う日まで、賢明にも、ある人々を取っておかれましたが、天父に取っておかれたその人々には夢にも思わなかった出来事でした。

真実の教会の会員になってからの6年間に、私はそれなりの知識を蓄えたつもりですが、神権者として最初に受けた召しは、幹部として働くことでもなく、伝道部長や監督、ステーク部長会の一員として働くことでもありませんでした。ステーク部やワード部の幹部書記でもありませんでした。私が初めて割り当てられた召しは、ホームティーチャーとして働くことだったのです。ほかのどの責任よりも先にまずこの責任を受けました。これはよく考えてみると、何か深い意味があるように思われます。

以来、ホームティーチャーの責任は何よりも大切に、すばらしい召しだと考えるようになりました。これまで受けたいろいろな召しは解任される日が必ず来ましたが、初めに受けたこの召しから解任されたことはありません。

「ホームティーチャーほど偉大な教会の召しはありません。天父の子供たちが教会から受ける援助の中で、謙遜で献身的な決意に満ちたホームティーチャーの奉仕ほど大きな助けはほかにありません。」(エズラ・タフト・ベンソン『教会のホームティーチャーへ』「聖徒の道」1987年7月号, p.54)

イエスは復活した後、昇天する前に、シモン・ペテロにこうお尋ねになりました。「『ヨハネの子シモンよ、あなた

はこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。』ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがお存じです。』イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。」(ヨハネ21:15) 主は同じ質問を3度繰り返されました。そして3度ともペテロは同じように答えました。そのたびに主はこう付け加えられました。「わたしの羊を養いなさい。」(ヨハネ21:16-17)

羊飼いとしてみなさんに割り当てられた羊を養い、育て、渴いたのを潤すこと、これはホームティーチャーに与えられた管理の職です。

教会生活の中で、自分の子供の世話を除けば、ホームティーチングほど大切に急を要するものはなく、これほど献身と忠誠を要し、充実感のある責任はほかにありません。

この高い水準の理解が得られるよう、気づかない間に私たちの霊と心を備えてくださる主の働きかけは、尊いものです。

私たちがまだ求道者だったころのことです。2週目に、アントニオ・ランデリノ・バロス支部長から電話がありました。その次の晩、訪問してもよいかと言います。

予定の時刻になると、ふたりの男性を伴って、バロス支部長が来ました。皆、きちんとした身なりでした。家族が居間に集まる前に、支部長は祈りを捧げる許可を求めました。彼の言葉は簡単ではありませんでしたが、靈感に満ちた主への嘆願でした。支部長は、私たち家族が彼らの訪問の目的をよく理解できるように、主のみたまの導きを願い求め、私たち家族のうえに特別な祝福が注がれるよう祈ってくれました。

バロス支部長は、ホームティーチングのプログラムについて手短かに説明し、同伴のネルソン・ベゼラ・ドス・サントス兄弟とアルフレッド・オーランド・トーレス・リマ兄弟を、私たちのホームティーチャーとして紹介してくれました。教会との直接かつ最初のコンタクトが始まったのはこの時からでした。

なんとすばらしい経験でしょう。奉仕とはなんとすばらしい機会であり特

権でしょうか。この兄弟たちは私たちが支部に在住していた間、ずっと私たちのそばにいてくれました。

マリオン・G・ロムニー副管長は、ホームティーチャーは「主イエス・キリストを代表して各会員の福祉を見守るという、……栄光に満ちた重大な責任を負っている」と語っています。

(『ホームティーチャーの責任』「聖徒の道」1973年10月号, p.443)

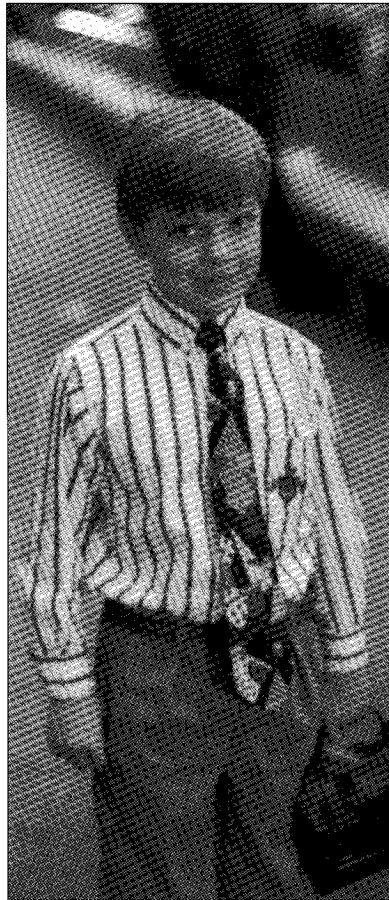
毎週日曜日、このふたりの兄弟は、私たちが教会に着くといつも私たち家族を迎え入れてくれました。集会の時は、そばに座ってくれましたし、賛美歌も教えてくれました。また、王国の標準について教えてくれました。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長が亡くなったこと、そして間もなく、ハロルド・B・リー大管長が新たに予言者として召されたことを連絡してくれたのも、そのふたりの兄弟でした。

この兄弟たちは、私たち家族の幸せや成長、最終的に何が必要かという点に、関心を示してくれました。2カ月延期して行なわれた私たちのバプテスマの後で、またティジュカワード部に移転してから約3カ月間、このふたりのホームティーチャーとバロス支部長は、かわるがわるに電話を入れて、新しいワード部にうまくなじんでいるかどうか、すべてがうまくいっているか、何か必要なことはないか、と気を遣ってくれました。

住居が変わっても、このふたりのホームティーチャーは、完全に解任されたとは考えず、私たち家族の世話をし、関心を示してくれました。

私たちに新しい羊飼いができたことがわかってからも、彼らはキリストにおける兄弟として、私たち家族を見守ってくれました。

なんとすばらしい態度でしょう。もはや責任ではないのにもかかわらず、キリストのような思いを寄せてくれたのです。たとえようもない深いきずなができました。あれから23年近くの歳月が流れました。あの人々の後、非常に多くの人々が、ホームティーチャーとしての責任を引き継いでくれました。名前をぼんやりとしか覚えていない人



がほとんどですが、あの最初のホームティーチャーの名前と姿は、永遠に忘れないでしょう。まことの羊飼いとして働いてくれたからです。

「人生で最も価値ある召しは、……最善を尽くして同胞に奉仕することです」とデビッド・O・マッケイ大管長は教えています。(デビッド・O・マッケイ「インストラクター」1961年3月号, pp.73-74)

あの兄弟たちは文字どおり保護者であり、守り手であり、よく助けてくれました。それに、もうひとつ触れておかなければならないのは、彼らが終始にこやかな笑顔で、自分たちの務めを果たしていたという点です。それは、彼らの霊の状態がとても幸せだったということの現われです。

そのように仕えることが自分たちにとって善れであり特権である、と考えているようでした。年配の人にも若い人にも同様に与えられるこの責任をよく理解しているようでした。使徒ペテロは次のように語っています。

「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。」(1ペテロ5:2)

この献身的な兄弟たちの模範は、新しく神権者として召されるようになったその後の私の行動の土台となりました。現在私自身がホームティーチャーとして召されていますが、過去のいろいろな経験を思い起こすときに、自分の中にイエス・キリストの模範にきわめて近いモデルがあるのです。

あれ以来、私は、全力を尽くして、またできるかぎりの努力をして、割り当てられた家族の世話をしてきました。また、神権者としていくつかの非常に有意義な経験をしたのも、ホームティーチャーとしての責任を通してでした。

1969年4月3日に開かれた地区代表セミナーでハロルド・B・リー大管長は「神権を持つ訪問者は、やぐらの上の見張りである」と語りました。

主は主の「民を、正に雌鷄が雛を翼の下に集むる如くに集めん」(教義と聖約29:2)ことを望んでいらっしやいます。ホームティーチャーも、さらに範囲を広げて言えば訪問教師も、主のみこころを成就するための重要な役割を担っているのです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう言いました。「[ホームティーチングは]非常に重要なプログラムであって、忠実に実行するなら教会の霊性を一新し、個々の会員と家族を昇栄に導く助けとなるでしょう。」(『教会のホームティーチャーへ』「聖徒の道」1987年7月号, p.53)

私たちが、神権者としてこの神聖な職務についてより完全に理解できるよう祈っています。

神が生きておられ、私たちの救い主、^{あがな}贖い主であられる御子イエス・キリストも生きていらっしやいます。主は、今日も、私たちの愛する予言者、私たちを導く予言者、ヒンクレー大管長を通してそのみこころを語られます。

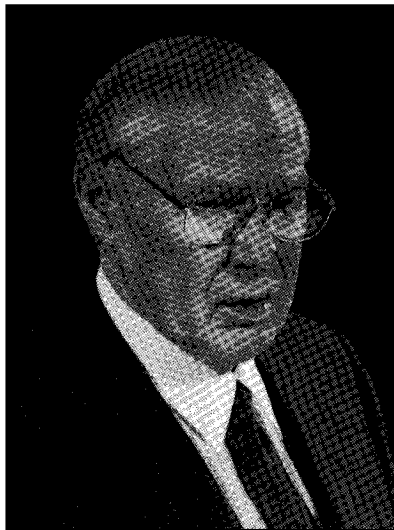
イエス・キリストの聖なる名名により^{あかし}証します。アーメン。

羊飼いの責任

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

福音の簡潔で、崇高で、靈的な力をもたらす救いの原則に焦点を合わせ、それに集中するようにしてください。固く立ってください。



神 権を持つ愛する兄弟の皆さん、この会場ならびに全世界の多くの建物に集まっている人々の大きな力を感じるのには、非常に謙虚な気持ちにさせられる経験です。私たちは今夜集まって、ハワード・W・ハンター大管長の生涯とその働き、彼から学んだすべての事柄について、大管長の名をたたえています。ハンター大管長の記憶が長く人々の心にとどまりますように。

兄弟の皆さん、私は受けた召しに多少の不安を覚えているということを告白します。心からへりくだって、皆さんの信仰と祈りを頂きたいと切に願っています。当教会においてはいかなる職でも、人は「神によりて其任に召されねばならぬ」という、絶対的な確信が私になかったならば、私はこの召しにあってほんの1時間も奉仕することはできないでしょう。私は、この光栄と、ゴードン・B・ヒンクレー大管

長が私を第二副管長に召すに当たって示して下さった信頼について、大管長に心から感謝を申し上げます。私は大管長に絶対的な忠誠を尽くし、大管長を支持します。

1995年3月13日、月曜日の記者会見で述べたように、私はこれまでの40年間で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長とさまざまな教会の務めとともに果たす大いなる特権を頂いてきました。私は彼の心を知っています。彼の情熱を知っています。彼の信仰を知っています。彼の献身を知っています。彼の偉大な能力を知っています。主と神の聖なるみ業への彼の愛を知っています。私は個人的に彼に深い愛と敬意を抱いています。私はまた、彼が私たちの時代にこの教会の大管長となるように予任され、実にりっぱに備えられていたことを知っています。

トーマス・S・モンソン副管長との交際も長く、祝福されたものでした。私たちは数十年の間、いくつかの務めを一緒に親しく果たしてきました。彼の知性と記憶力は無類のものであり、彼の信仰は純粹で絶対的です。モンソン副管長は大きな人ですが、彼の最も大きなところは、その偉大な心です。彼は実にすばらしい才能を持っています。ヒンクレー大管長やモンソン副管長とともに奉仕できることに、私はとても謙虚な気持ちを覚えます。私は、パッカー会長代理や十二使徒会の各会員、ならびに教会幹部の全員に深い尊敬と称賛を覚えます。また、アイリング兄弟を、神聖な使徒職を有するすばらしい仲間の中に歓迎いたします。

今夜、私は、主の羊飼いという立場

にある神の神権者にお話ししたいと思います。ブルース・R・マッコンキー長老はこう述べました。「当教会で何らかの立場にあって奉仕し、主の子供たちの物心両面にわたる福利に責任を負っている人はだれであっても、その羊たちに対する羊飼いである。主はご自分の羊飼いたちに、ご自分の羊たちの安全〔すなわち、救い〕を確保する責任を負わせておられる。」² 神権を持つ人々は、父親であっても、祖父であっても、ホームティーチャーや長老定員会会長、監督、ステーキ部長、あるいはそのほかの教会の召しを受けた人であっても、この大きな責任を負っているのです。

初めに私は、アロン神権を持つふさわしい若い男性にお話しします。私がまだ小さな子供だった時、私の父が荒れ野に置いてきぼりになった1頭の子羊を見つけました。母羊のいた群れが移動し、どういう訳か、その子羊は母羊からはぐれてしまったのです。羊飼いはその子羊がいなくなったのを知らなかったのでしょうか。子羊だけでは砂漠の中で生きていけないので、私の父は子羊を車に乗せて、家に連れて来ました。子羊をそのままにしておけば、コヨーテの餌食になるか、飢え死にするか、いずれにしても死んでしまいます。まだ乳を必要とするほど小さかったからです。牧羊業者の中には、このような子羊を「のらくら者」と呼ぶ人たちがいます。父がその子羊を私にくれたので、私はその羊飼いになりました。

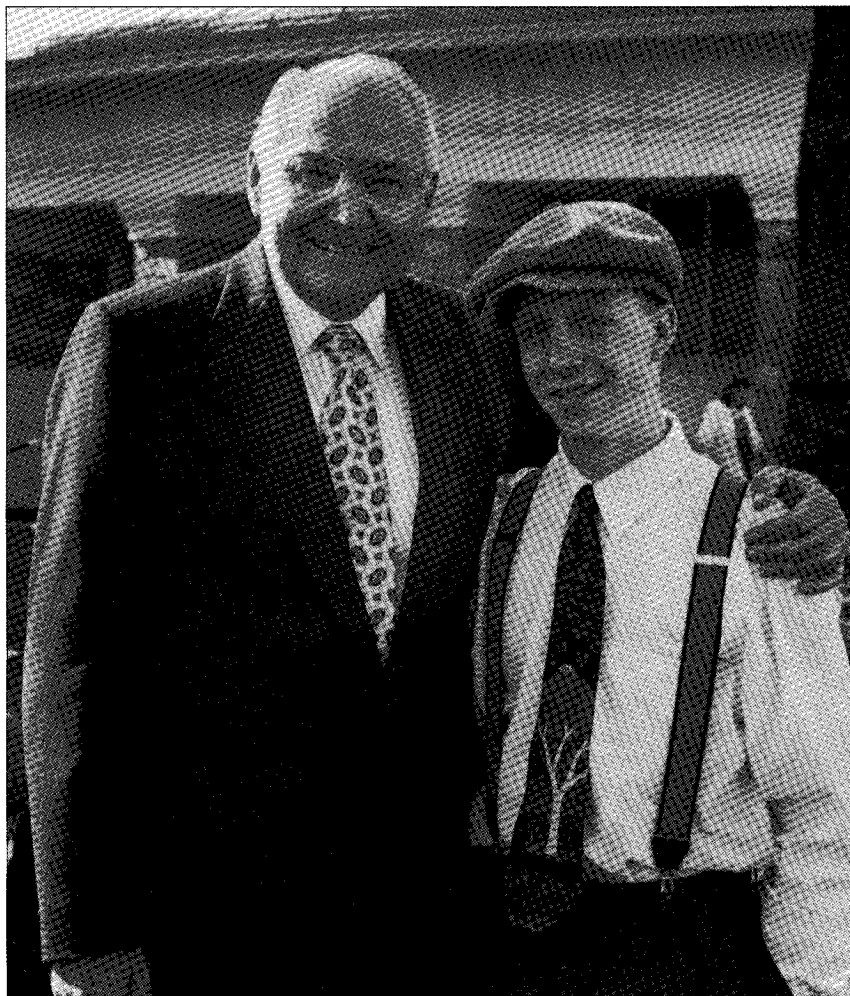
数週間、私は牛乳を哺乳瓶に入れて温め、それを子羊に飲ませました。私たちはすぐに友達になりました。私はその子羊を「ナイ」と名付けました。どうしてそう名付けたのか、今は覚えていません。子羊は大きくなり始め、私は彼と一緒によく芝生の上で遊びました。ときどき、一緒に草の上に横たわり、また私はよく子羊の柔らかい、ふさふさとした横腹に頭を載せて、青空や白い巻き雲を見上げたものです。私は日中、子羊を閉じ込めておくことはしませんでした。逃げ出すことはなかったのです。子羊は間もなく草を食

べるようになりました。私は庭のどこからでも、「メー、メー」という羊の鳴き声をできるかぎりまねて呼ぶだけで、子羊を呼び寄せることができました。

ある晩、ひどいあらしになりました。私は子羊を小屋に入れなければならなかったのに、その晩はそれを忘れしました。そして、私は寝ました。私の小さな友はあらしにおびえ、私にはその子羊の鳴き声が聞こえました。私は自分のペットを助けなければならないことを知っていましたが、安全で温かなベッドの中で、体をぬらさずにいたいと思いました。私は起きなければならなかったのに、起きませんでした。翌朝、外に出てみると、子羊は死んでいました。子羊の鳴き叫ぶ声を聞きつけた犬が、殺してしまったのです。私の幼い心は引き裂かれんばかりでした。私は、父から託されたものについてのよい羊飼い、すなわちよい管理人ではなかったのです。父は言いました。「息子よ、たった1頭の子羊の世話さえ、おまえに任せられないのかね。」父の言葉は、羊毛に包まれた友を失ったこと以上につらいものでした。その日、私は幼いながらも決心しました。いつかもう一度同じ立場に置かれたならば、二度と羊飼いとしての自分の管理の務めをおろそかにしないと。

その後あまり年がたたないうちに、私はホームティーチャーの後輩同僚として召されました。ときどき、とても寒い日や荒れた日があり、私は家にいて楽をしたいと思いました。でも私の心の耳に、幼い子羊の鳴き声が聞こえてくるのです。私はよい羊飼いになって、先輩同僚と一緒に行かなければならないと悟りました。これまで長年の間、自分の務めから逃れたいと思ったときはいつも、自分がよい羊飼いではなかった何年も前のあの夜感じたひどい悲しみを思い起こしたものです。私は自分がなさなければならぬことを、必ずしもすべて行なえているわけではありません。しかしそうしようと努めてはいます。

私は主の羊飼いの定められた本質的な義務について、少しの時間お話し



たいと思います。それは、主ご自身から与えられた啓示に含まれている責任のことです。夫または父親としての責任以上に大いなる責任はありません。その責任には解任がありません。主は言われました。「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなかれ。」³ 主はこの教会の父親たちにさらにこう言っておられます。「われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり。」⁴

「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。

シオンに住む民は、また安息日を守りてこれを聖くすべし。」⁵

もうひとつの大いなる責任はホームティーチャーとしての責任です。「教師〔ティーチャー〕の義務は常に教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強

くすべきものとす。

また教会員の中に邪曲なきよう、互いの間に頑固なることのなきよう、また虚言、陰口、悪口などもなき様注意すべきものとす。」⁶ さらに次の戒めが続きます。「また教会員のしばしば集会することををはかり、またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」⁷ 「彼らは警告を与え、勸め且つ教えて、キリストに来る様すべての人々を勧誘すべきなり。」⁸

神権定員会会長とその副会長も羊の群れの羊飼いであり、自分の定員会の会員を愛をもって世話するという責任を負っています。教会の監督たちは、やぐらの上の見張りです。テモテへの手紙には、教会の監督についてこのように述べられています。

「もし人が監督の職を望むなら、それは良い仕事を願うことである』とは正しい言葉である。

さて、監督は、非難のない人で、ひとりの妻の夫であり、自らを制し、慎み深く、礼儀正しく、旅人をもてなし、よく教えることができ、

酒を好まず、乱暴でなく、寛容であって、人と争わず、金に淡泊で、

自分の家をよく治め、謹厳であって、子供たちを従順な者に育てている人でなければならない。

自分の家を治めることも心得ていない人が、どうして神の教会を預かることができようか。」⁹

アロン神権について、主はこう言われました。「監督会はこの神権の管理者にして、この神権につける鍵または権威を保有するものなり。」¹⁰ 監督の皆さん、この教会の若人は今、人生のあらしのまったただ中にいます。彼らをむさぼり食おうとして歩き回っている危険なおおかみたちがいるのです。若人の多くは私の幼い子羊のように、助けを叫び求めています。私たちは監督の皆さんをお願いします。彼らを安全に守るために、できるかぎりのことを行なってください。

ステーキ部長も教会の定められた役員です。彼はステーキ部を管理する人だからです。主はステーキ部についてこう言われました。「一つは防禦のためとなり、また暴風雨の避所となり、憤りのありのままに全地に注がる時に一つの避所ともならんためなり。」¹¹ ステーキ部は「シオンのあげ幕またはシオンの力」¹² なのです。ステーキ部は、義と力と守りの霊的な中心の場所であらなければなりません。

管理監督会には、大管長会より割り当てを受けたとおりに教会の実務を指導する責任があり、その一人一人が監督に聖任されています。この大きな、全世界的な教会において、管理監督会の責任は重く、大きなものとなっています。

主は七十人についてこう言われました。

「また、福音を説き異邦人と全世界の人々に対する特別の証人たらんがため『七十人』召さる。すなわちかくの如くこの者たちの天職に就ける義務は、教会に於ける他の職員らの義務と

異なるなり。

『七十人』は十二使徒会すなわち巡回高等評議員会の指揮の下に教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行い、まず異邦人より始めて次にユダヤ人に及ぼすべき者たちなり。」¹³

十二使徒は、「全世界に於けるキリストの御名の特別の証人となるべき者なり。すなわち、かくの如く彼らは当教会に於ける他の職員とは、その天職に就ける義務を異にす。」¹⁴ 主が言われたように、彼らは、「イエス・キリストの福音を宣ぶるによりて扉を開くために鍵をもちて遣わさるる者たち」¹⁵ です。十二使徒は主の特使です。

大管長会は地上における神の王国の諸事について最終責任を負っています。大管長会について、主はこう言われました。

「メルケゼデク神権を有する者の中三人の管理大祭司あり、当団体によりて選ばれ、その職に任命して按手聖任され、教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ、当教会の大管長会なる定員会を構成す。

而して、大神権の評議会の大管長会は他の大祭司すなわち十二人を招集し、これを評議員として援けをなさしむる権能あるべし。かくして、大神権の大管長会と評議員とは教会の律法に従い証拠に基き判決を為す権能を有すべし。」¹⁶

大管長については、主が言われたように、彼は、「教会の大神権の大管長……

言を換えて言わば、これは教会の大神権の管理大祭司なり。」¹⁷ 彼は「全教会を統轄すべきものにして、モーセの如くあるべし。……この教会の頭首に神の与えたもうあらゆる賜を有し誠に彼は聖見者たり、啓示を受くる者たり、翻訳者たり、また予言者たり……。」¹⁸

大管長は神権の鍵と権能のすべての行使について指示を与えます。また、それらのすべてを行使できるただひとりの人です。それでも、聖任を受けた使徒は全員これらの鍵を持っており、そのうちのある鍵は、必要なときにだ

け使える状態となっています。

兄弟の皆さん、私は大管長会の一員となつて、わずか数日にすぎません。この召しを受ける前は、私の視野はまるで狭められていたかのようです。しかし今、私は眼鏡を掛けて、少しではありますが、大管長の責任の重大さを以前よりはっきりと見る事ができます。しかし私は、自分が片眼鏡をかけた貴族のようではないかと心配です。片眼鏡をかけた貴族は「理解できるよりも多くのものを見る事ができた」のです。主のこの巨人たち、ヒンクレー大管長とモンソン副管長は、大きな映像をだれよりもはっきりと見ている人々です。彼らは前の大管長たちの副管長として、長年忠実に奉仕してきました。

さて、兄弟の皆さん、最後に申し上げます。私たちの教会のように広大で、世界の隅々までに及ぶ教会には、秩序がなければなりません。教会が秩序立った方法で全世界に発展していくには、聖文や近代の啓示に加えて、さまざまな指針や手続きがなければなりません。どうしても避けられない管理上のさまざまな要素があつて、時折、何か不快感や、ことによる挫折感の生じる場合があります。教会の管理運営に当たっては、不快なことや不都合なことを大目に見るようにしてください。福音の簡潔で、崇高で、霊的な力をもたらす救いの原則に焦点を合わせ、それに集中するようにしてください。固く立ってください。羊飼いである教会の管理役員として、自分の管理の職に忠実であってください。私たちの召しと、私たちが持っている聖なる神権に対し誠実であり続けましょう。私たちが管理する権能を有する人々を助け、支持しましょう。

兄弟の皆さん、60年以上たつても、あの時の子羊の鳴き声、おびえた叫び声が私の心の中によみがえってきます。あの時私は、本来すべきとおりに羊の世話をしなかったのです。また私は、父の愛情に満ちた叱責も思い出します。「息子よ、たった1頭の子羊の世話さえ、おまえに任せられないのかね。」この世でよい羊飼いでなかった人は、

永遠の世界でどんな思いがすることでしょう。

「イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。』ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです。』イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。

またもう一度彼に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』彼はイエスに言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたをご存じです。』イエスは彼に言われた、『わたしの羊を飼いなさい。』

イエスは三度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。』ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています。』イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい。』¹⁹

私たちがそうすることができるように、イエス・キリストのみ名によりお祈りします。アーメン。

注

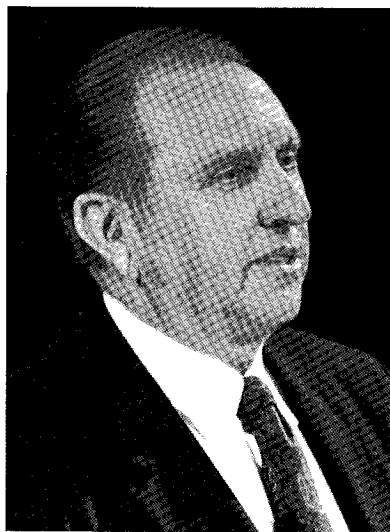
1. 信仰箇条第5条
2. 「モルモンの教義」p.710
3. 教義と聖約42：22
4. 教義と聖約93：40
5. 教義と聖約68：28-29
6. 教義と聖約20：53-54
7. 教義と聖約20：55
8. 教義と聖約20：59
9. Iテモテ3：1-5
10. 教義と聖約107：15
11. 教義と聖約115：6
12. 教義と聖約101：21
13. 教義と聖約107：25, 34
14. 教義と聖約107：23
15. 教義と聖約107：35
16. 教義と聖約107：22, 79
17. 教義と聖約107：65-66
18. 教義と聖約107：91-92。21：1も参照
19. ヨハネ21：15-17

あらゆる人が 聞くために

第一副管長

トーマス・S・モンソン

収穫はまさに偉大です。間違えないようにしましょう。伝道の機会は生涯にわたって皆さんのものです。



兄弟の皆さん、神権者がひとつに集っているさまは、まさに胸の高鳴る光景です。世界じゅうの数千の礼拝堂に神権者が集まり、衛星中継によってこの放送を受信しているのは、ほんとうに喜ばしいことです。皆さんの国籍や言葉はさまざまですが、共通のきずなでひとつに結ばれています。私たちは神権を持ち、神のみ名によって行動するよう委任されています。神から信頼される者であり、多くのことが期待されています。

私たちは涙と悲しみのうちに、やさしくて偉大な人物、神の予言者、ハワード・W・ハンター大管長に別れを告げました。そしてきょう、ゴードン・B・ヒンクレー長老を教会の大管長として、神の予言者、聖見者、啓示

を受ける者として支持しました。ヒンクレー大管長は、天父によって予言者に召され、救い主が教えられた道に従って私たちを導いてくれます。み業は前進し、主の民は祝福されるでしょう。教会の大管長会の一員として、ゴードン・B・ヒンクレー大管長やジェームズ・E・ファウスト副管長とともに働くのは名誉であり、すばらしい特権です。

その昔、私たちの主、救い主イエス・キリストは神聖な戒めを与えて愛する11人の使徒たちにこう告げられました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことは守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」¹ マルコはさらにこう記しています。「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働〔かれた〕。」²

この神聖な責務は、取り消されてはいません。むしろ、繰り返し強調されてきました。予言者ジョセフ・スミスは、教会の目的についてこう述べています。「福音の真理に関する知識、すなわちイエスがキリストであり、世の救い主、贖い主であること、そしてみ業に現われる信仰を通してのみ、人と国が平和を享受できることをすべての男女に伝えるのである。」

私たちが住んでいるこの世界は、イ

エス・キリストの福音の教えを必要としていないでしょうか。ほとんどの地域で見られますが、環境の破壊だけでなく、もっと深刻な霊性や永遠の戒めに対する従順さの破壊が進んでいます。そして人間の貴重な身と霊が甚だしく軽視されています。

主は厳粛に「人の値は神の前に大なる」³のものであると宣言されましたが、多くの人々は主から顔を背けてきたようです。また「わたしに従ってきなさい」⁴という主のやさしい言葉にも、多くの人々は耳をふさぎ、心を閉ざしています。そのような人々はほかに声に波長を合わせているようです。

子供のころに聞いた「ハーメルンの笛吹き男」の話覚えていませんか。彼はハーメルンという町へ行き、人々を悩ましていたねずみを、いくらのお金で退治すると申し出ました。契約が成立すると、彼は笛を吹いて建物からねずみをおびき出し、川まで導いてすべておぼれさせました。ところが町の指導者がお金を払うのを拒んだので、

彼はまた笛を吹いて、今度は大切な子供たちを安全な家から連れ出して、二度と戻りませんでした。

笛吹き男は今でもいるでしょうか。魅惑的な音楽を奏で、それに聞き従う人を破滅へと導いていないでしょうか。この笛の音は「高慢」「快樂」「わがまま」「貪欲」⁵であり、その結果は精神の混乱、心の苦悩、空虚な生活、夢の破壊なのです。

無数の人々の心からの願いが、いにしへのピリポに対するある人の嘆願に表われています。「だれかが、手引きをしてくれなければ、どうしてわかりましょう。」⁵

神権を持つ兄弟の皆さん、この世は皆さんの助けを必要としています。足元を支え、手をしっかり握り、励ましと靈感を与え、救いへ導く人が必要です。収穫はまさに偉大です。間違えないようにしましょう。伝道の機会は生涯にわたって皆さんのものです。永遠の祝福が待っています。見物人になるのではなく、神権奉仕というステージに

立つ特権が与えられるのです。

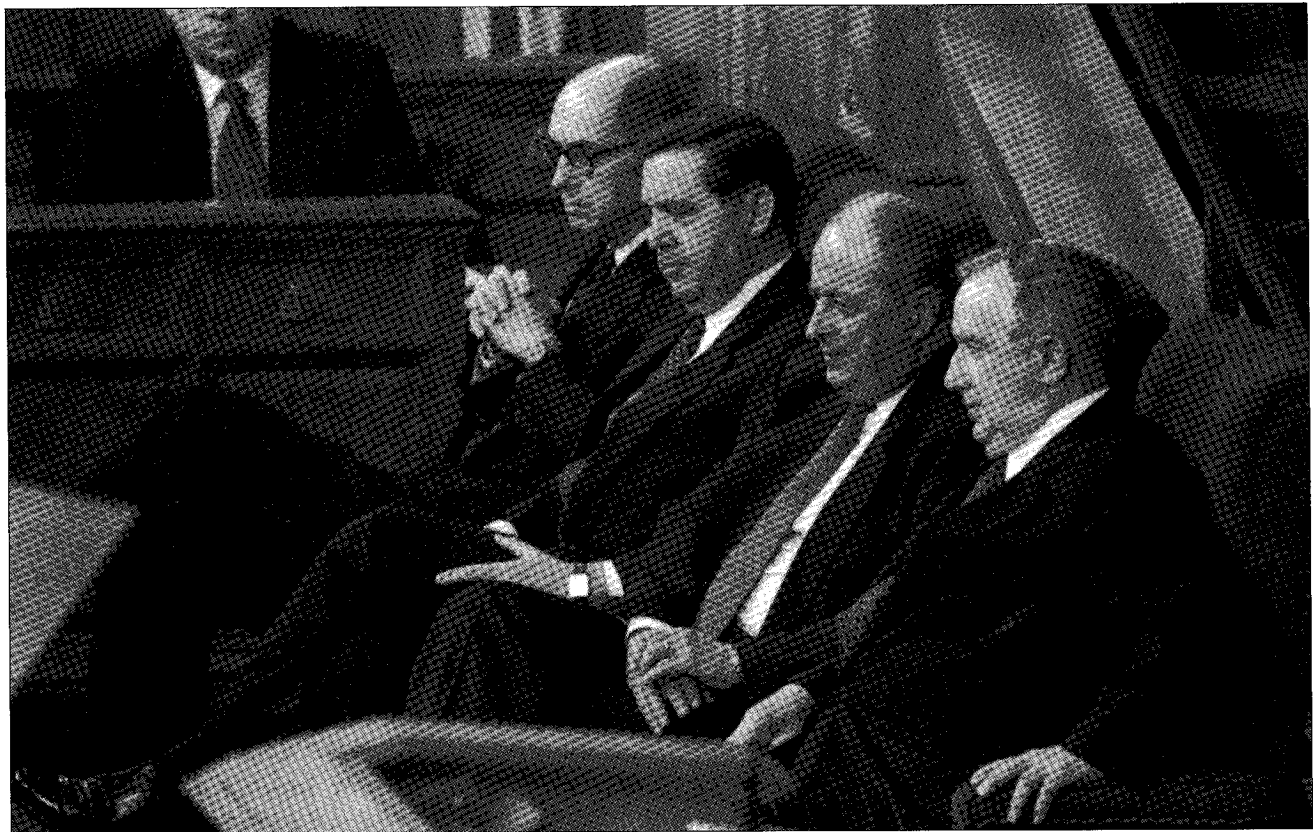
アロン神権者の皆さんに申しあげます。伝道に備えてください。皆さんは、いまや5万人に上る勇敢な主の軍勢の一員になるのです。

では、どうすればよいでしょうか。宣教師として成功するための原則をお話ししましょう。

1. 目的をもって備える。
2. 証^{あかし}をもって教える。
3. 愛をもって働く。

第1は、目的をもって備えることです。主は資格を備えることについて次のように言われました。「見よ、主は真心と喜びで事に従う精神とを求めむ。」⁶ 伝道活動は易しくありません。力を尽くし、能力を尽くして、最善の努力が、そしてしばしばそれ以上の力が要求されます。これ以上に時間や献身、多くの犠牲と祈りを必要とする仕事はほかにありません。

ジョン・テイラー大管長は次のように条件をまとめています。「福音のメッセージを携えて行く人として、私



大会の部会の開始を待つ十二使徒定員会の4人の会員。左から、ヘンリー・B・アイリング長老、ジェフリー・R・ホランド長老、ロバート・D・ヘイルズ長老、リチャード・G・スコット長老。

たちが求めるのは、神への信仰をもち、自分の宗教を信じ、神権を尊び、信仰を同じくする人々から知られ、神から信頼される人である。……また、聖霊と神の力に満たされた人である。国々に生命の言葉を携えて行く人は、信義を重んじ、高潔で、徳高く、清い人である。これは神から命じられたことであり、実行するよう努力すべきことである。」⁷

第2は、証^{あかし}をもって教えることです。ペテロとヨハネは、元漁師で改宗して使徒になりました。ある時、イエス・キリストと十字架について教えないように警告され、彼らはきっぱりと答えました。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない。」⁸

真理を証する人、使徒パウロが、愛する友のテモテに与えた勧告は、会員と宣教師のすべてに当てはまるものです。「言葉にも、行状^{ぎょうじょう}にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範にならなさい。」⁹

デルバート・L・ステイプラー長老は、十二使徒評議員会の会員でしたが、何年も前に、パウロのローマ人への手紙を引用しました。「わたしは福音を恥としない。それは……救^{すくい}を得させる神の力である。」¹⁰ステイプラー長老は付け加えてこう言いました。「もし福音を恥としないなら、それに従った生活も恥じるべきではありません。そして生活を恥としないなら、分かち合うのも恥とすべきではありません。」

3番目は、愛をもって働くことです。愛に代わるものではありません。この愛はしばしば、少年期に母親によってともされ、父親によってはぐまれ、神への奉仕を通して生きたものになります。主の次の勧告を忘れないでください。「神の栄光をまごころもて仰ぎみて、信仰、希望、慈悲、仁愛の徳を有つ者は、神の業に仕うる資格あり。」¹¹次のように自問してみるとよいでしょう。「きょう私は、信仰、希望、愛を高めただろうか。」私たちが神の標準



大会の部会に出席するための列を作る訪問者たち。後ろの像は、1829年5月15日、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリにアロン神権を授けるバプテスマのヨハネ。

に従って生活し、人々を主のみもとに導くために愛をもって働くとき、その影響を受けた人は、次のように言って嘆くことはないでしょう。「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終わった、しかしわれわれはまだ救われぬ。」¹²

若い宣教師はいつも、自分が伝道したい場所について考えています。たいていそれは、聞き慣れない名前の遠く離れた所です。

ある日私は、大きな店の紳士用スーツ売場で、それぞれ母親と一緒にふた

りの宣教師に会いました。宣教師とその母親を見分けるのはむずかしいことではありません。会話の中で、ひとりの長老が尋ねました。「君はどこに召されたの。」

答えはこうです。「オーストリアだよ。」

最初の宣教師が言いました。「運がいいな、オーストリアへ行くなんて！美しいアルプスやすばらしい音楽、陽気な人たち。ほくもそこへ行けたらなあ。」

「君はどこへ召されたの。」オーストリアへ行く宣教師が尋ねました。

「カリフォルニアさ。飛行機で2時間もかからない。毎年休暇で行く所だよ。」

母親たちの表情や今にも涙を流しそうな宣教師を見たところで、私が会話に割って入りました。「カリフォルニアですって。私が前に管理していた地域です。すばらしい召しを受けましたね。カリフォルニアで何があなたを待っているか知っていますか。至る所に礼拝堂とステーキ部センターがあって、宣教師と一緒に福音を分かち合いたいと願っている末日聖徒でいっぱいですよ。そこで伝道できるなんて、君はなんて幸運な宣教師でしょう。」もうひとりの母親が言いました。「モンソン兄弟、オーストリアについても何か言ってください。早く。」そうしました。

若人の皆さん、どこに召されようと、そこに行くべき所であり、その伝道部を愛するようになるでしょう。

兄弟の皆さん、私たちは妻子と一緒に、専任宣教師やステーキ部宣教師と協力して、人々をキリストのみもとへ導く業に参加できます。最も効果的で実りあるひとつの方法は、私たちの建物でオープンハウスを開くことです。ワード部の監督やステーキ部長がジェフリー・R・ホランド長老が出演するビデオ(英文)を準備してくれます。それは伝道のためのオープンハウスに最適のビデオです。使ってください。そうすれば、教会の会員数は増加し、主のみたまが私たちの中にとどまるでしょう。

目的をもって備え、証をもって教え、愛をもって働くこと。この原則と、主の神聖なみ業が真実であることを証します。

何年も前に、私はサンフランシスコからロサンゼルス行きの飛行機に乗りました。私が座った時、隣の席は空いていました。間もなくして、美しい若い女性とその席に座りました。飛行機が離陸すると、彼女が本を読んでいるのに気づきました。私はだれもがするように、ちらっとタイトルを見ました。

「奇しき業」とあります。私は勇気を奮い起こして尋ねました。「あなたはモルモンですね。」

彼女は答えました「いいえ、なぜですか。」

「あなたがお読みの本の著者は、リグランド・リチャーズといて、末日聖徒イエス・キリスト教会の著名な指導者だからです。」

彼女は答えました。「ほんとうですか。友人からこの本をもらったのですが、詳しいことは知りませんでした。でも、興味を持ったのです。」

私は心の中で思いました。「教会についてもっと話すべきだろうか。」使徒ペテロの言葉が心に浮かびました。

「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしておきなさい。」¹³ 私は今こそ私の証を述べる時だと決心しました。私は彼女に、何年も前にこの本を出すためにリチャーズ長老を助けたのは、私の特権だったと話しました。そして、リチャーズ長老の偉大な伝道スピリットに触れ、おおぜいの人々が彼の書いた本を読んだ後、真理を受け入れたことを話しました。それから、私の特権でしたが、飛行機の残りの時間、教会に関する彼女の質問に答えました。私は彼女の心からの知的な質問を聞いて、彼女が真理を求めていることに気づきました。そこで、宣教師を彼女の家に送ってもよいかどうか尋ねました。また、彼女の住んでいるサンフランシスコで、私たちの教会に集ってみたいかどうか尋ねました。答えは「はい」でした。彼女はイボンヌ・ラミレスといい、飛行機の搭乗員で仕事に行く途中でした。

家に帰ってから、私は伝道部長とステーキ部長に手紙を書き、飛行機での会話や、手紙と一緒に読み物を送ったことを伝えました。ちなみに、若い男性の皆さん、私はこの非番の美しい搭乗員とそのルームメイトに、ふたりの長老ではなく、ふたりの姉妹宣教師を送るように推薦しました。

数カ月がたちました。私はそのステーキ部長から電話をもらいました。「モンソン兄弟、今年の秋の初めサン

フランシスコからロサンゼルスへの飛行機で隣に乗り合わせた搭乗員を覚えていませんか。」私が「はい」と言うと、ステーキ部長は続けて言いました。「イボンヌ・ラミレス姉妹がごく最近バプテスマを受けて教会員になったことを、お知りになりたいだろうと思ったのです。彼女が話したいそうです。」

きれいな声が聞こえてきました。「モンソン兄弟、証をしてくださってありがとうございます。私は今、世界じゅうでいちばん幸せです。」

涙が込み上げ、神への感謝で満たされた私は、彼女に感謝し、賛辞を送りました。真理を探し求めて見いだし、洗い清める水に入って永遠の生命への門をくぐるという決意をしたからです。

受話器を置いてから、しばらく無言で座っていました。救い主の言葉が胸をよぎりました。「誰にても汝らを受け入る者には、われもまたそこにあらん。そは、われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝の右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」¹⁴

これらの約束は、私たちが伝道の機会を活用し、ナザレのイエス、王なる救い主の勧告と戒めに従うとき、私たちのものになるのです。主は生きておられます。この証をイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

注

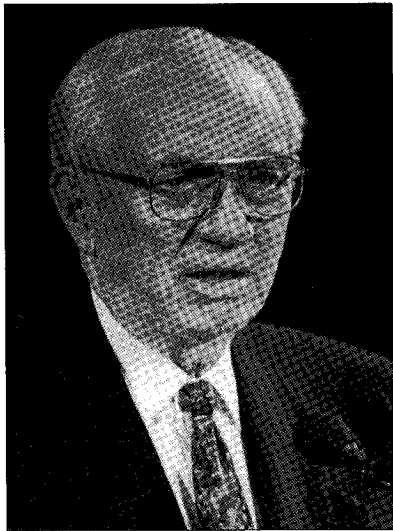
1. マタイ28:19-20
2. マルコ16:20
3. 教義と聖約18:10
4. ルカ18:22
5. 使徒8:31
6. 教義と聖約64:34
7. 「説教集」21:375
8. 使徒4:19-20
9. Iテモテ4:12
10. ローマ1:16
11. 教義と聖約4:5
12. エレミヤ8:20
13. Iペテロ3:15
14. 教義と聖約84:88

人のためのみ業

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

この教会は全世界に広がる大きな組織となっています。しかし、私たちの関心は常に個人に向いていなければなりません。



神 権者の皆さん、世界的なこのすばらしい神権会に出席するために、皆さんが努力されたことに感謝しています。皆さんがどの地におられるかにかかわらず、私たちは皆さんの信仰、この主のみ業への忠実さ、また日々の生活の中で、各自が受けている聖なる神権にふさわしくなろうと努めておられることに感謝し、そのことをたたえたいと思います。

今朝私たちはこぞって聖会に出席しました。聖会とはその名が示すとおりのもので、教会員が集い、各人が相等的な立場で、啓示の定めによって指導者として選ばれた人々に対する支持あるいは不支持の意思を表わす権利を、厳粛に行行使する場です。

この支持の挙手は、単に手を挙げるという形式的な行為ではありません。指導者として選ばれた人々を支え、援助するという決意の表明です。

主は大管長会について次のように言われました。「メルケゼデク神権を有する者の中三人の管理大祭司あり、当団体によりて選ばれ、その職に任命して按手聖任され、教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ、当教会の大管長会なる定員会を構成す。」(教義と聖約107:22)

私は「教会員の信任と信仰と祈りによりて支持せられ」という言葉を強調したいと思います。

今朝の聖会における皆さんの挙手は、皆さんの兄弟であり僕である私たちを、信任と信仰と祈りによって支持するという、皆さんの自発的な意思と望みの表明です。私はそのことに心から感謝しています。皆さん一人一人に感謝しています。皆さんすでにご存じのように、主が定められた方法の中には役職への野心は存在しないということをはっきりと申しあげます。主は弟子たちに「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである」(ヨハネ15:16)と言われました。この役職はみずから求めるものではありません。選ぶ権利は主にあるのです。主は命と死の主です。人を召す権能は主にあります。解任する権能も、その職にとどめる権能も主にあります。それらはすべて主のみ手の中にあるのです。

私は、主の偉大な計画の中において、なぜ自分のような者がこの職に召されたのかわかりません。しかし、私はこの責任を与えられて、力、時間、才能、そして命など、自分の持てるすべてを新たな気持ちで主のみ業に捧げ、兄弟姉妹のお役に立ちたいと思っています。

再度申しあげます。愛する皆さんからきょう頂いた支持の挙手に感謝いたします。私が切に祈っているのは、この召しにふさわしい者になれるようにということです。また、皆さんの祈りの中に、私のことを入れていただけるように望んでいます。

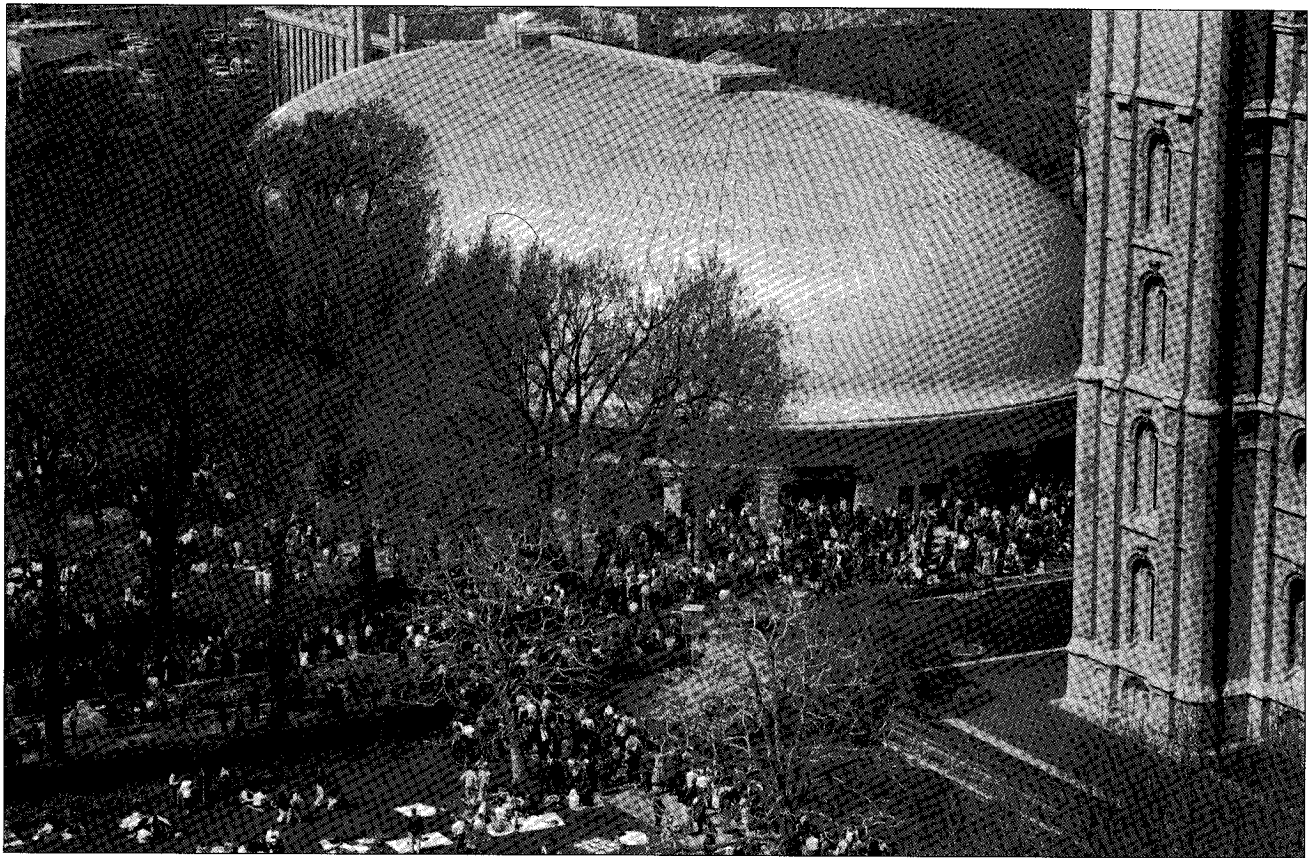
このみ業が前進していく中で、ときとして管理上の事柄で変更があります。教義が変わることはありません。しかしときどき、啓示の定めるところにより、組織面、管理面での変更があります。

たとえば、28年前に大管長会は十二使徒会の地区代表を召すように靈感を受けました。当時それは、教会で新たに定められた召しでした。大管長会はこの召しが必要になった理由について、「教会の絶えざる成長に伴い、ステーキ部とワード部の指導者が教会のプログラムについて訓練を受け、さらに、彼らが主に託された各自の責任に関して会員に訓練を与えることが大いに必要となったためである」という声明を出しました。

その時に召された地区代表は69人でした。現在は284人の地区代表がいます。この組織自体が管理上かなりの大所帯になってきています。

さらに最近のことですが、大管長会は七十人の中から地域会長会を召すようにとの靈感を受けました。全世界のみ業が発展するにつれ、教会幹部が人人と親しく接する機会を多く持てるようにするためには、管理上の権限の分散が必要になってきたのです。いまやこの地域会長会のシステムはすっかり定着し、効果的に機能しています。

現在、地域会長会の管理下にある組織を強化することが望ましいと考えられています。これを受けて、今年の8月15日、すべての地区代表を名誉をもって解任することを、ここに発表します。この熱心で有能な兄弟たちが、天父の大義を推し進めるために成し遂げたすばらしい働き、またその誠実さ、忠実さ、献身に心からの感謝の意を述べさせていただきます。この兄弟たちへの気持ちは言葉で言い尽くせるものではありません。彼らは時間と持てるものを犠牲にしてきました。



大会開催中のテンプルスクウェア。中央のドーム型の建物がタバナクル、右側がソルトレーク神殿。

請われれば時と所を問わずに足を運び、賢明な勧告と教え、また適切な訓練と指示を与えて、ステーキ部長や監督をほんとうによく助けてきてくれました。地区代表として働いてきたすべてのかたがたに感謝し、これからも主が彼らに、「自分たちはみ業のために有意義な働きをし、それが主に受け入れられた」という確信を、祝福として与えてくださるよう祈っています。

さてここで、地域幹部という各地域の地元役員を新たに召すことを発表いたします。この職に召されるのは、経験豊かな現職の教会指導者あるいは過去に教会指導者として働いた経歴のある人々の中から選ばれた大祭司です。彼らは現在の各自の職業を続けるとともに、自宅に住んで、教会での奉仕としてこの召しを果たすようになります。この召しには確定した任期はありませんが、通常は約6年です。地域幹部は地域会長会との密接な関係の下に働きます。人数においては、地区代表より

も少なくなります。この新しい地域役員の召しを定めるについても、地区代表の召しについて昔の教会幹部がしたのと同じように、神権に関する啓示である教義と聖約第107章にある定めを指針としました。十二使徒と七十人への指示に続けて、この啓示の中には次のように述べられています。

「然るに十二使徒会にも『七十人』にも属せざる他の教会職員は、すべての国々を巡回する責任を有することなし。されど事情の許すかぎりは巡回すべきものなり。而して教会に於て重要にして責任ある地位を有することを得。」(98節)

再度申しあげます。この発表事項が発効となるのは今年の8月15日です。

さて、以上の事柄に関連したことを少し申しあげます。教会は非常に大きく複雑な組織になっています。いまや150以上の国々に教会員がいます。教会員数は900万人に達しています。3年半に約100万人の割合で増え続けて

います。教会員の必要を満たすために行なわれる聖餐会せいさん、ホームティーチング、神権定員会や補助組織の集会などの通常のプログラムに加えて、私たちはほかに大規模なプログラムを進めています。その中には、系図と家族歴史関係の資料を納めた世界最大の記録保管庫の運営、世界一ではないにしても合衆国最大の私立大学の運営、それに関連して数多くの生徒を擁して実施されているセミナー・インスティテュートプログラム、また、5万人近い宣教師を送り出している、私の知るかぎりでは最大の伝道組織の要員配置と管理運営、さらには、前例のない大規模な建築プログラム、大規模で効率的な出版事業のための施設の運営、さまざまな場で無報酬で奉仕する教会宗務役員の大きな組織に対する訓練と動機づけなどがあります。最上級の言葉を使った表現はあまり使いたくありませんが、この場合にはよく当てはまると思います。

この教会は全世界に広がる大きな組織となっています。しかし、私たちの関心は常に個人に向いていなければなりません。この教会の会員は、男性も女性も、少年も少女も、一人一人が大切な存在です。私たちの大きな責任は、一人一人の会員が「忘れてなおざりに」されず「神の善い教えで……養」われる（モロナイ6：4）ようにすることです。また、一人一人が主のみ業と道の中で成長と自己表現と訓練の機会を得、生活上の必要に事欠く人がだれもいないようにし、貧しい人々の必要が満たされ、一人一人の会員が励ましと訓練、そして不死不滅と永遠の生命への道を前進するための機会にあずかれるようにすることです。これは、主のみ業に見られるすばらしい特質です。この組織は確かに大きくなり、会員数も増えていくことでしょう。この福音はあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々の中に伝えられなければなりません。予見し得る将来には、教会が発展し、前進し、シオンを世界に築き、広めていくうえで、いかなる停滞も挫折もあり得ません。しかし、このような状況にあってもなお、教会員と賢明で思いやりに満ちた監督・支部長の間には、これまでと同じように、羊と羊飼いのような親しい関係がなければなりません。監督・支部長はこの群れの羊飼いであり、彼らには、比較的少数の人々を、忘れられたり、見落とされたり、見過ごしにされたりすることのないように世話をする責任があります。

イエスは苦しむ人々に、ひとりずつ手を差し伸べ、個人的な祝福を授けた、まことの羊飼いでした。

リー大管長は、広い野原をよく見渡し、小さな羊たちをよく養うように繰り返し教えました。全体像を理解したうえで、各自に託された持ち場で勤勉に働かなければならないこと、また、そのときに一人一人の必要に心を向けなければならぬことを話したのです。

このみ業は人に関心を向けています。一人一人が神の息子であり娘なのです。教会が達成してきたことを説明するときに、私たちは数字を挙げて話をしま

すが、私たちの働きはすべて個人の成長に焦点を当てたものでなければなりません。

例を挙げてお話ししましょう。ハンター大管長は神殿活動をさらに前進させるように強調しました。この神聖な業は過去と現在の全人類という大きな家族のためのものです。しかし神殿活動そのものは、個人の働きに基づいて行なわれています。つまり、すでに自身の儀式を受けている人がほかの人の身代わりを務めるのです。

同様に伝道活動も、個人の働きに基づいて行なわれています。宣教師は求道者に教え、証をしますが、求道者も真理の知識を得るには、自分ひとりで真剣に祈り、求めなければなりません。

強く確かな証を得ることは、教会員一人一人に許された特権であり、機会です。主はこう言われました。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」（ヨハネ7：17）

人のために働き、学び、祈るなら、このみ業への信仰に導かれ、やがては真理の知識に導かれることでしょう。

これが個人的に求めるべきものであることは、過去においても、将来においても常に変わることがありません。

私たちは、ウィルフォード・ウッドラフ大管長がイギリスでユナイテッド・プレズレンの約800人を改宗させたことについてよく話します。しかし、その一人一人が悔い改めと主イエス・キリストへの信仰のために孤独な道を歩まなければならなかったことも忘れてはなりません。また彼らはそれぞれに、古代の福音がこの約束された時満ちたる神権時代に再び地上にもたらされた事実を受け入れる必要があったのです。

私たちの個人的な決断が、私たちの生活を織り成していきます。どのような織物が出来上がるかは、どのような糸で織り上げるかにかかっています。特にここに集っておられる若い男性の皆さんにお話ししたいと思います。悪い行ないにふければ必ず、人生という織物の美しさを損なってしまうこととなります。不道徳な行ないは、どのようなものであれ、醜い糸となってしまいます。またどのような種類かを問わず、不正直も人生の傷となります。下品で冒瀆的な言葉遣いも人生の美しい



模様を汚してしまいます。

「選べ、正義を選べよ」(賛美歌152番)という呼びかけは、私たち一人一人に向けられたものです。

最後に申し上げたいと思います。私はこの偉大な業の、勇気と勝利に輝くすばらしい歴史を誇りとしています。私は皆さんとともにやぐらの見張りとして立ち、驚異の念をもってこの時代を見えています。私は希望と確信と確かな信仰をもって未来を見えています。

永遠の父なる神は実在のお方です。この業は主のみ業であり、あらゆる時代の神の息子娘に「不死不滅と永遠の生命とをもたらす」(モーセ1:39)ための業です。

イエスはキリストであり、約束のメシヤです。イエスは非常に粗末な環境の中に生まれ、地上においでになりました。そしてパレスチナの土ぼこりが舞う道を歩きながら、人々を教え、癒されました。やがて、ゴルゴタの残酷な十字架の上で亡くなり、それから3日後によみがえられました。この教会は、主の教会です。キリストの名で呼ばれている教会です。私たちは皆キリストの僕です。私たちが受けている神権はキリストの神権であり、私たちはキリストのみ名によって、その神権を行使します。ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリが神権を授かったのは、昔それを主ご自身から受けていた人からでした。福音は平和への道、また、成長、安らぎ、救い、昇栄への道です。この最後の神権時代は、少年ジョセフ・スミスへの御父と御子の現われによって始まりました。皆さん、私たちはこの聖なる神権を、権威ある人の接手を通して受けました。私たちはそのような神権にふさわしい生活をしなければなりません。私たちはこの神権を守り、尊び、ほかの人々に祝福をもたらすために正しく行使しなければなりません。皆さんに私の祝福を残すとともに、神の助けがあつて、私たちがそれぞれに受けている偉大で神聖な信託に忠実にこたえることができるよう、イエス・キリストのみ名により、へりくだりお祈りします。アーメン。

●1995年4月2日(日)午前の部会

あわ 憐れみ 神の賜 たまもの

第一副管長

トーマス・S・モンソン

だれかに対して間違つたことをしたり、荒々しい話し方をしたりしたときは、それを正して改善するためのステップを踏むとよいでしょう。



少 前、私はかつてユーゴスラビアと呼ばれた国を苦しめ続けた、暴力と流血に関する長い報告書を読みました。平和への努力にもかかわらず、殺人や傷害が横行しているようでした。殺害を目的とし、幼い子供の命を奪う狙撃兵の記事に、私は深く悲しみました。そして静かにこう自問しました。「あわ 憐れみという神の属性は、どこにあるのだろう。」

戦争のむごたらしさは、憎しみと人命の軽視をもたらすようです。これまでいつもそうでした。しかし、そのような退廃の中でも、時折、憐れみという消えることのない光が輝いています。

ノルマンディー上陸50周年記念祭の間に放映されたドキュメンタリー番組では、どれだけ多くの人命が失われたかがグラフで示され、参加した兵士たちの体験が紹介されました。特にアメリカ人の歩兵の言葉が心に残りました。

彼が激しい戦いの後、浅いざんごうから見上げると、敵兵が腰の位置に銃を構えて、自分の心臓に向けていました。彼はこう話しています。「私はすぐに死の橋を渡って永遠の世界へ行くのだと悟りました。しかし信じられないことに、その敵兵は片言の英語でこう言ったのです。『あなたにとって、戦争は終わりました。』こうして私は収容所へ連れて行かれ、助かりました。その時の憐れみを、私は決して忘れません。」

さらにさかのぼった別の戦い、すなわちアメリカの南北戦争の歴史記録には、憐れみを伴った勇気が描かれています。

1862年12月11日から13日に、北軍がバージニア州フレデリックスバーグの町を見下ろすマーレーの丘を攻撃し、それを6,000人の反乱軍(南軍)が迎え撃ちました。南軍は丘のすそ野に沿って築いた石垣の後ろに身を隠し、防御体制を取っていました。さらに、北軍から見えない石垣の後ろの低い道路にも、兵士が4列に並んで待機していました。

北軍の4万人以上の兵士は、平原を横切って自殺に等しい波状攻撃を開始しました。兵士たちは銃に撃たれて次々と倒れ、石垣の手前30メートルより先には進めませんでした。

やがて南軍の陣地の前には、青い軍服を着た北軍の兵士が数百、数千と倒れていき、日暮れ前にその数は1万2,000人に達しました。負傷兵たちは助けを求めて叫びながら、ひどい寒さの中で夜通し地面に横たわっていました。



翌日は日曜日で、夜明けは寒くもやに包まれていました。朝もやが晴れるころになっても、負傷者のものがきしむ声は依然として聞こえてきます。ついに、南軍の19歳の若い軍曹が行動に出ました。名前がリチャード・ローランド・カークランドといます。彼は指揮官の所へ行って叫びました。「昼も夜も、水を求める気の毒な人々の声が聞こえてきます。もう我慢できません。……水を持って行く許可をください。」あまりに危険だったので、最初は相手にされませんでした。しかし、ついに許可が下り、間もなく、両軍の兵士が驚きの目を見張る中を、若い兵士は首に水筒をいくつも下げ、石垣をよじ登るといちばん近くにいる北軍の負傷兵に歩み寄りました。彼は傷ついた兵士の頭を抱きかかえ、やさしく水を飲ませ、自分の上着を掛けてあげました。それから次の負傷者に近づきました。そして次々と水を飲ませたのです。カークランドの目的がわかると、

至る所から「水、水、水をくれ」という叫び声が起こりました。

北軍の兵士は最初驚きのあまり発砲しませんでした。やがて、若い南軍の兵士のしていることがわかると、声援を送り始めました。1時間半以上の間、カークランド軍曹は憐れみの業を続けました。

悲しいことに、リチャード・カークランドは数カ月後に、チカマウガの戦いで戦死しました。彼の最後の言葉はこうでした。「生きて帰って、ぼくはりっぱに死んだと父に伝えてくれ。」

カークランドの名前は、キリストのような愛により、南軍と北軍を問わず、戦後の世代にとって、憐れみを表わす代名詞となりました。彼は両軍の兵士から「マーレーの丘の天使」として知られるようになりました。この愛に満ちた憐れみの行為は、フレデリックスバーグの石垣の前に立つブロンズの記念碑によってたたえられています。その像は、カークランド軍曹が冷たい

水を飲ませるために、北軍の負傷兵の頭を抱きかかえている姿を描いています。またペンシルベニア州ゲティスバーグの監督派教会にも、カークランドの栄誉をたたえる銘板が掛けられています。簡潔な次の言葉が、若い兵士の憐れみの行為の真髄をとらえています。「博愛の英雄、自分の命を危険にさらしてまでも、フレデリックスバーグの地で敵兵に水を与えた。」

ウィリアム・シェークスピアの次の言葉は、カークランドの行ないをよく表わしています。

「慈悲は強制されるべきものではない。それは、恵みの雨のように、天からこの大地に降りそそぐものだ。それは二重に祝福にみちている。

与える者を祝福し、そうして受け取る者を祝福する。

それは、……神の持たたもう性質のあらわれだ。」²

デビッド・O・マッケイ大管長の信仰あつりつぱなふたりの副管長は、かつて人に知られた最高の憐れみの行ないについて、永遠の勧告を与えています。スチープン・L・リチャーズ副管長はこう言いました。「救い主ご自身が宣言されたように、主は律法を排するためでなく、成就するために来られた。しかし正義の律法とともに、その施行を和らげるために、また背教者に〔憐れみと〕悔い改めを通して赦しを得るといふ希望と励ましを与えるために、憐れみの律法をもたらされた。」³

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長はこう証しています。「私は主が私たちを助けてくださると信じている。また、主に求めるとき、正しい生活をしていけば、知恵を与えてくださると信じている。主は私たちの祈りにこたえ、天父はすべての神の子供たちを救いたいと願っておられる。私は、規則や法規に対するわずかな違反やわずかな罪のために、主がその人を締め出そうとされるとは思わない。私たちが守らなければならない偉大で基本的な戒めがあるが、主はささいなことについてあら探しをされるようなことはない。

主がその子供たちを扱うときの裁きの原則は、次のように言い表わせると思う。主の正義と憐れみにおいて、主は私たちの行為に対して最大限の報いを与え、主にできるすべてを与え、反対に可能なかぎり最小限の罰を課せられる。」⁴

「私はよく思うのだが、キリストの生涯で最も美しい出来事のひとつは、十字架での主の言葉である。十字架での死は、古代において最も激しい苦痛を与えられている。その死の苦痛にさいなまれる主は、憐れみのすべての定めに対する不正で違法な扱いを受け、罪を着せられて十字架につけられ、手足をくぎで打たれて、今にも命を捨てようとした時、周囲の人人に聞こえる声で天の御父にこう言われた。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)」⁵

モルモン経の中で、アルマはこれらのことを自分の言葉で美しく描写しています。「憐れみの計画は、身代りによる罪の贖いが行われない中は成就すべきものではなかった。それであるから、神は憐れみの計画を成就させるためと正義の要求に応ずるためと、また自らが完全で正義の憐れ深い神であるために、自分が代って世の人の罪を贖いたものである。」⁶

以上の知識に基づいて、次のように自問してみてください。人々が互いに赦し合おうとせず、憐れみや赦しという清めの行為を示そうとしない状況が、どこにでも見られるのはなぜだろうか。心の傷が乳香によって癒されるのを妨げるものは何だろうか。かたくなな心でしょうか。高慢でしょうか。憎しみがまだ消えていないからでしょうか。

「非難は傷口を開き、赦しはそれを癒す」⁷のです。

最近私は、ある老人が兄弟の葬儀で話を読みました。彼は若いころ、ニューヨーク州カニステオの近くにその兄弟と住んでいました。部屋がひとつしかない小さな小屋でした。ふたりはけんかをしてから、チョークで線を引いて部屋をふたつに分け、線を越えて立ち入ることも言葉を交わすこともしませんでした。その日以来、62年間もです。なんという悲劇でしょうか。すべては憐れみと赦しの欠如から起こったのです。

家庭や身近な場所で憐れみが必要とされることがときどきあります。私には4歳になる孫のジェフリーがいます。ある日、15歳の兄アランがファミコンで全面をクリアしました。ちまたでは、最もむずかしく、いちばん巧妙な設計と言われたゲームです。しかし、アランがちょっと部屋を空けたすきに幼いジェフリーがファミコンに近づき、誤ってそのプログラムを消してしまったのでした。アランは戻って来ると、弟のしでかしたことに気づき激怒しました。アランからの叱責が間近に迫っているのを察したジェフリーは指を出してアランの方に向け、心の底からこう言ったのです。「忘れないでね、お兄ちゃん。イエス様は『幼な子に手を

かけてはならない』っておっしゃったんだよ。」アランは笑いだし、怒りは静まり、憐れみが勝利を収めたのでした。

私たちの中にも、ほんのささいな怒りや侮辱のために、人に憐れみや赦しを与えられずに自分自身を苦しめている人がいます。ときどきこのような言葉を口にします。「あの人は……決して赦せない。」そのような態度は、本人の幸せも破壊します。人の心を徐々に腐食させ、生活を荒廃させます。ほかに、人は赦せても自分を赦せない人がいます。そのような状態はもっと有害です。

私は十二使徒評議員会の会員として働き始めたころ、ヒュー・B・ブラウン長老に、自分を赦せないためにワード部の責任に就けない、ある善良な人について相談したことがあります。彼は、人を赦せるのですが、自分を赦せません。憐れみが自分には及ばないようでした。ブラウン長老は、彼を訪問して次の聖句にそって助言するよう、私に勧めました。「主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。」⁸それから、イザヤ書と教義と聖約の聖句も引用しました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のようになると赤くても、羊の毛のようになるのだ。」⁹「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」¹⁰

深く考え込む表情で、ブラウン長老は続けました。「その人に、主が忘れようと言われたことを、思い出そうとすべきでない」と伝えてください。」私たちもこの勧告に従うなら、心を清め、霊を新たにすうえで役立つでしょう。

予言者ジョセフ・スミスは、こう主張しています。「憐れみ深くしなさい。そうすれば憐れみを受ける。人を滅ぼすのではなく、救うための助けをしなさい。罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔い改めを必要としない99人の正しい人のためにも勝る大きい喜びが、天にあるからである。」¹¹

ときどき、小さな失敗に悩まされて、心を痛め、そのことにこだわって、い

つまでも考え続けることがあります。だれでもそのような経験をやるものです。では、美しい結末を迎えた例を紹介しましょう。私は最近、鍵が同封された短い手紙を受け取りました。こう書いてありました。

「モンソン副管長、

13年前の夏、私は夫とホテル・ユタに宿泊しました。そして旅行の記念に、ホテルの鍵を持って来てしまい、以来ずっと悪い気持ちを感じてきました。現在、教会がこのかつてのホテルを所有していると聞いたので、この鍵は教会にお返しします。あるべき場所にお取めいただければさいわいです。鍵を持ち出したりしてほんとうに申し訳ありませんでした。どうかお赦してください。」

私は思いました。なんと正直なんだろう。なんとすばらしい精神の持ち主だろう。私は返事を書きました。

「親愛なる姉妹へ、

思慮深い手紙と、お返しいただいたホテル・ユタの鍵に感謝します。姉妹の誠実さに感動しました。この鍵はとても軽いものですが、姉妹にとっては長い間負ってきた重荷だったのですね。この鍵には大した価値はありませんが、返却したことにははるかにすばらしい価値があります。謹んで鍵を受け取ります。姉妹は確かに赦されるでしょう。私からの心ばかりの贈り物をお受け取りください。」

その鍵は、きれいな額に収めて彼女にお返ししました。

だれかに対して間違ったことをしたり、荒々しい話し方をしたりしたときは、それを正して改善するためのステップを踏むとよいでしょう。「ほかの人を赦せない人は、天国に行くために、自分が渡らなければならない橋を壊している。だれもが赦しを受ける必要があるのだから。」¹²

憐れみと赦しの最も感動的な例のひとつは、イエスの生涯の中のよく知られた出来事にあります。「イエスはオリブ山に行かれた。

朝早くまた宮にはいられると、人々が皆みもとに集まってきたので、イエスはすわって彼らを教えておられた。

すると、律法学者たちやパリサイ人たちが、^{みん}姦淫をしている時につかまえられた女をひっぱってきて、中に立たせた上、イエスに言った、

『先生、この女は姦淫の場でつかまえられました。

モーセは律法の中で、こういう女を石で打ち殺せと命じましたが、あなたはどう思いますか。』

彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。

彼らが問いつけるので、イエスは身を起して彼らに言われた、『あなたがたの中で罪のない者が、まずこの女に

石を投げつけるがよい。』

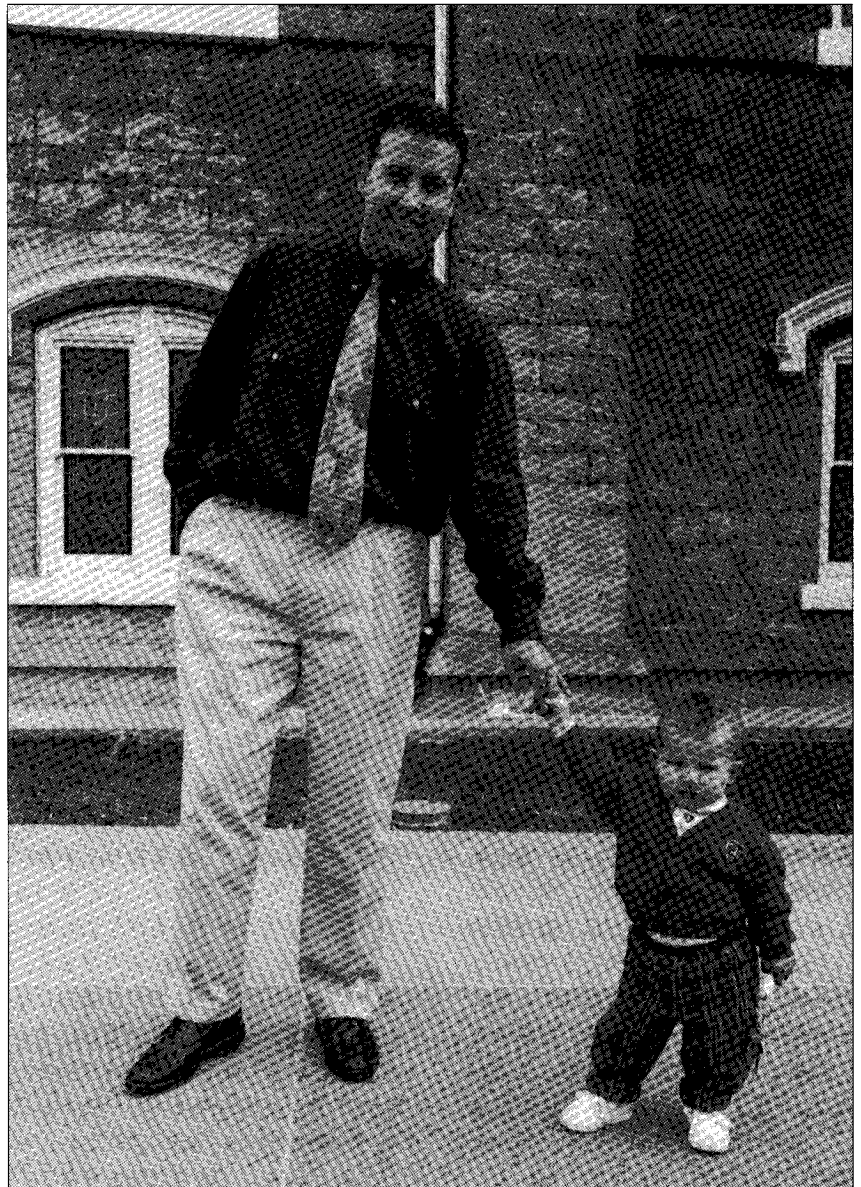
そしてまた身をかがめて、地面に物を書きつけられた。

これを聞くと、彼らは年寄から始めて、ひとりひとり出て行き、ついに、イエスだけになり、女は中にいたまま残された。

そこでイエスは身を起して女に言われた、『女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか。』

女は言った、『主よ、だれもございませぬ。』イエスは言われた、『わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように。』¹³

救い主が地面に書かれたことはすぐに消えてしまいますが、主が示された



あわれみはいつまでも心に残るでしょう。

「主イエスの愛に ただ驚く
恵みの深さに われ惑う
罪人のため 十字架にて
流されたる血に 身は震う……」

突き刺されし主の 手を思い
その愛と恵み 忘れ得ず
み座の前に ひざまずいて
主のみ恵みを たたえまつらん¹⁴

この同じイエスが「群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちがみもとに近寄ってきた。

そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた。……

『あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。』¹⁵

この安息日に私は心からへりくだって、一人一人が神の賜であるあわれみを施し、また受けられるように祈っています。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

注

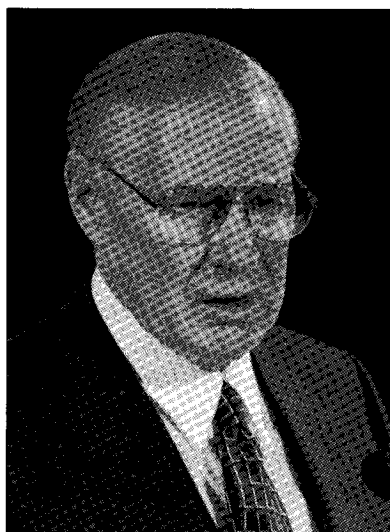
1. 「敵に水を与えた兵士」「フレデリックスバーグでの戦闘」pp.38-39。リチャード・カークランドについての資料は、合衆国内務省、国立公園事業部、フレデリックスバーグ・スポチルベニア国立陸軍公園の職員により提供された。
2. 「ヴェニスの商人」第4幕、第1場、築摩書房「シェイクスピア全集」菅泰男訳、第1巻、p.305。
3. 「大会報告」1954年4月3日、p.11
4. 「大会報告」1953年10月3日、p.84
5. J・ルーベン・クラーク・ジュニア「大会報告」1955年9月30日、p.24
6. アルマ42:15
7. 「開拓者」ウィラ・キャザー
8. 教義と聖約64:10
9. イザヤ1:18
10. 教義と聖約58:42
11. 「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.77
12. ジョージ・ハーバート
13. ヨハネ8:1-11
14. 賛美歌109番
15. マタイ5:1-2, 7

神の王国の継承者

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

私たちの真の力は多様性ではなく、霊的、教義的な一致にあります。



に、ヒンクレー大管長はすばらしい賜と才能の持ち主です。これまでずっと彼は私たち皆を教え、導き、祝福してきました。主はたびたび彼を召し、強められました。それにつれて彼が強さを増し加えていくのを、長い年月にわたって私たちは目にしてきました。ヒンクレー大管長は3人の大管長の副管長を務めるなど多くの召しを受け、次々に重責を果たしてきました。一つ一つの召しに全力を尽くし、霊的な導きと優れた知性、そして行動力で、傑出した働きをしたのです。彼はその働きを通して世界じゅうで神のみ業に貢献しました。

トーマス・S・モンソン副管長とも、彼が使徒に召されて以来、ともに働く特権にあずかってきました。モンソン副管長は偉大な精神と能力を備えています。彼は子供のころも成人してから、いつも卓越した指導者でした。非常に早い時期から、大きな責任を担って訓練されてきました。堅固で純粋な信仰をもった人です。その明るく思いやりに満ちた心は、彼が奉仕してきた長い年月にわたって教会員にこのような祝福を与えてきました。

きょう、私は世界じゅうの教会員にお話ししたいと思います。そして皆さんに文化や人種、言葉の違いを乗り越えていただきたいと思います。教会初期の時代から、教会幹部や宣教師たちは世界じゅうを旅し、ジョセフ・スミスを通して回復されたイエス・キリストの福音を宣べ伝え、神権の鍵と権能を備えた教会を多くの国に組織してきました。私たちの務めの中で感動的で楽しい部分は、多くの文化や民族的背景を持つ素晴らしい人々とともに神を

愛する兄弟姉妹、そして友人の皆さん、この教会の大管長会に新たに召され、ソロモンの次のような言葉を思い出します。「わたしは小さい子供であって、出入りすることを知りません。」¹ ソロモンのように、私もわきまえる心を神に祈り求めます。ここに、愛する友人でありともにみ業に働いてきたハンター大管長がいないのがなんとも残念でなりません。私たちは彼の名前を尊びたいと思います。彼の思い出は私たちにとって永久に変わることはない祝福となるでしょう。

私はヒンクレー大管長から第二副管長としての召しを受け、身に余る光栄を感じています。母も、私がこの席に座るとは夢にも思っていなかったでしょう。昨晚の神権部会でも触れたように、ゴードン・B・ヒンクレー大管長との長い交わりを通して、成人してからの生活の大部分が祝福されたものとなりました。皆さんもご存じのよう

礼拝できることです。彼らの霊的な力と愛を感じ、私たちの愛をお返しするとき、心が満たされる思いがします。

いまや一層多くの発展途上国で、福音伝道の門戸が解放されつつあります。そうしたいくつかの国々では、大部分の国民が貧困の状態にあります。彼らの多くが、快適な生活どころか生活必需品にも事欠いています。朝から晩までくたくたになるまで働いても、ほんのわずかな収入しか得られない男女の姿も目にしてきました。しかし彼らがいつも見せる笑顔や明るい表情から、与えられた環境に何らかの幸福を見いだしていることがわかります。

「同じ神の子供なのに、健康やこの世の富に恵まれている者とそうでない者がいる現実、正義などあるのだろうか」と言う人がいるかもしれません。恵まれた人々の多くは、自分の持っているものに対してあまり感謝してはいないように思われます。しかし私たちは、教会員たちが、生活必需品にも事欠く世界じゅうの貧しい人々に対して大きな関心を抱き、惜しみなく分け与える姿も目にしてきました。彼らはたとえその国に教会員がいなくても、多くの国の貧しい人々を助けるために献身しているのです。1985年以来、教会は114カ国に対して人道的救援活動を行ってきました。²

私は、訪問する特権にあずかった各国で、人種や文化の異なる善良な人々に会い、彼らに対して称賛と尊敬、愛の気持ちを抱くようになりました。私の経験では、霊性と信仰において民族や階級による優劣はありません。霊性を欠く人があるとすれば、それは人種や文化、国籍の問題ではなく、救い主が語られた種まきのたとえにあるように「生活の心づかいや富や快楽にふさがれて、実の熟するまでにならない人たち」³なのです。

合衆国の著名な世論調査家リチャード・ワースリン氏の調査により、アメリカ人の基本的な欲求は、自尊心、心の平安、個人的な満足であることが明らかにになりました。これらは世界じゅうの神の子供たちすべてに共通する欲求だと思えます。これらの欲求を満た

すにはどうしたらよいでしょうか。私は思うのですが、こうした欲求の裏には、自分自身が神の子供であるという自覚を確立する必要性が存在するのではないのでしょうか。私たちの内にある神聖な特質に目を向けるならば、民族や文化、国籍を問わず、これら3つの欲求を満たすことができます。主ご自身が言われたように「『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその声を聴く全世界のあらゆる人々を照す」⁴のです。

デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べています。

「だれでも、人を前進させ高めようとする神聖な力を内に秘めています。この内に秘められた力は、神から来るものであると私たちは信じています。この地上へ来る前には前世があり、人は内に宿る霊を完成するために、現在地上にいます。生活していて時折、神と交わりたいという欲求を自覚することがあります。人の霊が神を求めめるのです。このような感情は万人に共通のものであり、すべての人は、深遠な真理の中で、霊的な平安と自由を追求し増し加えるという偉大な業に取り組むべきです。」⁵

神の謙遜な僕として、教会幹部や宣教師をはじめとする人々は世界じゅうを旅しますが、私たちはいつも次のような問いを発せずにはいられません。「この地上の人々のために、私たちは何をしたらよいのだろうか。ほかのどれと与えられない、どんなものを与えることができるのだろうか。主が命じられたように『全世界に出て行』⁶って多くの努力と時間、財産を捧げるのに匹敵するようなことが、どうしたらできるだろうか。」私たちは国々の経済状態を変えることはできません。また、政府を変えようともしていません。答えは単純明快です。私たちは、救い主が約束された次のような希望を人々に与えられるのです。「この世に在りては平和を得、次の世に在りては永遠の生命を得ん。」⁷ 神の僕たちが世界じゅうの神の子供たちに神の戒めを受け入れ、守るように教えるとき、人々の生活は変わります。文化的背景や経

済的な状況を問わず、だれでも主から与えられる霊的な力の泉へ行つて、その水を飲むことができます。救い主が言われたように、この水を飲む者は「いつまでも、かわくことがないばかりか……その人のうちで泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる」⁸のです。ワースリン博士によって明らかにされた人類の基本的な欲求、すなわち自尊心、心の平安、個人的な満足は、神の戒めを忠実に守ることによってじゅうぶんに満たされるのです。これは国や文化を問わずあらゆる人々に適用される真理です。

多くの人々が生活必需品にも事欠く状況に置かれていますが、私は次のようなニーフアイの言葉に慰めを見いだします。「みな同じくキリストの子であつて、神の王国をつぐ者であつた。」⁹

教会が世界じゅうの国々へ広がるにつれて、教会内の文化的な多様性が増していますが、どこに行っても「信仰の一致」¹⁰を見いだすことができます。それぞれのグループが主の食卓に特別な賜と才能を差し出し、皆、互いに価値あるものを分かち合うことができるのです。しかし私たちは個人として、主イエス・キリストの福音に含まれるすべての誓約と儀式、教義を享受しようと進んで求める必要があります。それらは私たちを一致と救いに導いてくれるのです。

さまざまに異なる国民、文化、状況にあつて、私たちは皆、主のみ前で平等です。パウロは次のように教えています。「あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。」

キリストに合うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。

もはや、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆、キリスト・イエスにあつて一つだからである。

もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。」¹¹

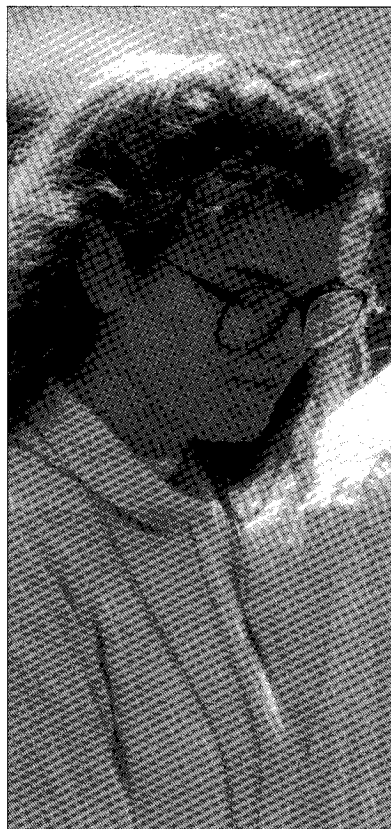
教会員になったからといって、自分

自身を失うことにはなりません。私たちは神の王国の継承者となり、キリストの体の一部となり、個人的な違いをわきに置いて、より大きな霊的目標のために一致するのです。教会員の皆さんに申しあげます。皆さんの文化や個人的な特質の中で、気高く、好ましく、精神を高揚させるものはすべて持ち続けてください。しかし神権の鍵の権威と権能の下にあって、私たちが神の王国の後継者となり、神権の鍵を所有している者に一致して従い、みずからの内にある神聖な特質に目を向けるならば、すべての違いは問題となりません。すべての人が歓迎され、価値を認められます。日の光栄の王国はただひとつなのです。

私たちの真の力は多様性ではなく、霊的、教義的な一致にあります。たとえば、バプテスマの祈りと水に沈められるバプテスマは、世界じゅうどこへ行っても同じです。聖餐式の祈りもそうです。どの国でも同じ賛美歌を歌って神をたたえます。

この教会の高い道徳的標準は、あらゆる国のすべての会員に当てはまります。正直と高潔という徳はどの地でも教えられ、期待されています。結婚前の純潔と結婚後の伴侶に対する完全な貞潔は、全教会員に求められています。こうした高い道徳的標準を破る者は、世界じゅうどこでも会員としての資格を問われることとなります。

神殿参入の要件が場所によって変わることはありません。神殿がある所ならどこでも、まったく同じ祝福が神権の権威によって授けられます。神殿での礼拝には、教会員としての一致が何のものにも増してよく表われています。私たちは皆、神殿参入にふさわしいかどうかについて、同じ質問に答えます。すべての男性は同じ服装をします。すべての女性もそうです。神殿に参入すると、私たちは世の煩いを離れ、皆、同じ祝福にあずかり、同じ誓約を交わします。すべての人は皆、主のみ前に平等です。とはいえ、私たちの霊的な一致には、個性とそれを表現する機会もたくさん与えられています。そのような状況で、皆が王国の後継者となる



のです。ハンター大管長の次の言葉は、それをよく伝えています。「教会が一致するための鍵は、教会員が心をひとつにして、仲良くすることであり、内輪で争ったり仲たがいがいる所に一致はあり得ない。」¹²

私たちの集会在霊的であるかどうかは、集会在行なわれる建物や国とはほとんど関係がありません。ずっと以前、私はブラジルのマナウスという町に行き、宣教師と当時その地域に住んでいた数人の聖徒に会いました。その町はアマゾン川のかなり上流にあり、周りにはジャングルでした。ガラスの窓のない質素な家で集会在開かれました。非常に暑い日で、子供たちは床の上に座っていました。エリオ・ダローチャ・カマルゴ伝道部長が司会し、ひとりの忠実な兄弟に開会の祈りをしてくれるように頼みました。その謙遜な兄弟はこう答えました。「喜んでいただきますが、証もしていいですか。」ひとりの姉妹が指揮をするように頼まれますと、こう答えました。「喜んでお引き受けしますが、私にも証をさせてください。」

そんなふうにして、何らかの責任を受けた人は皆、同じように申し出ました。だれもが、救い主とその使命、イエス・キリストの福音の回復について、強い証を述べたいという気持ちに駆られたのです。出席者全員が「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にあるのである」¹³という救い主の言葉を思い起こし、霊的な奥深い源に到達したのです。このようなことを行なった彼らは、ブラジルの教会員というよりむしろ、神の王国の継承者と呼ばれるにふさわしいと言えるでしょう。

言語と文化の多様性は、教会員にとっては成長の機会でもあり、チャレンジでもあります。すべての人が母国語で福音を聞くようにするには、大変な努力と資金が必要です。しかし、みたまは言語よりも高度なコミュニケーションの方法です。集会在に出席した時、話された言葉はまったく理解できなかったが、みたまが世の救い主であり贖い主であるイエス・キリストについて力強く証するのはわかった、という経験をした人はたくさんいます。たとえば言葉の違いはあっても、少数派のかたがたが「キリストのからだ」¹⁴にあって疎外されていると感じ、自分の民族だけで礼拝したいと思ってしまうことのないように願ってやみません。だれもが自分は必要とされていると感じるような聖徒の共同体を築けるよう、多数派の教会員は、福音で結ばれた兄弟姉妹として手を差し伸べていただきたいと思います。

霊的な平安は、民族や文化、国籍を問わず、神に対する献身および福音の誓約と儀式に対する献身を通して見いだされます。国籍にかかわらず、私たちは各自、心の奥底にまで思いを深め、私たち自身の内に秘められた神聖な特質を見だし、特別な知恵と靈感を与えてくれるよう主に嘆願する必要があります。そのような心の深みに到達して初めて、ほんとうの自分や自分の価値、人生の目的を見いだせるのです。また、利己心や名声、富への執着を捨てようとするとき初めて、この世の煩いや心配事、心の傷、苦痛、そして惨

めな思いから解き放たれ、^{あんど}安堵感に満たされるのです。このようにして私たちは、J・ルーベン・クラーク副管長が述べたように「内に秘められた豊かな精神を開花結実させる」¹⁵のです。神は私たちが永遠に変わらぬ至高の喜びと満足を見いだすのを助けてくださるばかりではなく、私たちが神の王国の継承者となれるように、私たちを変えてくださいます。

こうして私たちは、自分たちの内にある神聖な特質に真に立ち返ることができるのです。私たちの内には、人生のチャレンジに対してみずから選んだ方法で立ち向かう力があり、その力を用いれば、いかなる状況をも克服できます。救い主が病に苦しんでいた女性に言われたように「あなたの信仰があなたを救った」¹⁶のです。

イエスが私たちの貴い救い主、^{あがな}贖い主であり、父なる神の御子であることを、私は確かに知っています。あまりに神聖な経験であるため、話すことは差し控えますが、私は主の存在をはっきりと知っています。ジョセフ・^{かぎ}スミスが時満ちたる神権時代の鍵を回復し、その鍵が教会の歴代大管長に継承され、今日、ゴードン・B・ヒンクレー大管長の手にあることは絶対に間違いない真実です。これらのことを、イエス・キリストのみ名により^{あかし}証いたします。アーメン。

注

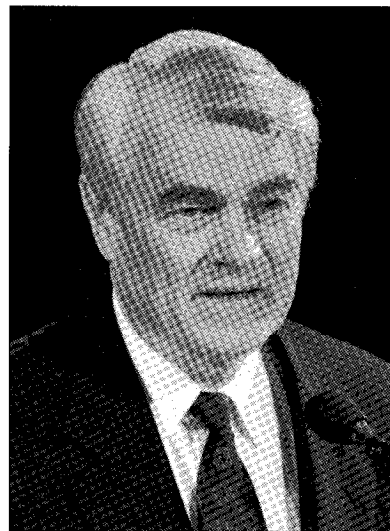
1. 列王上3：7
2. 「物心両面で地球を救う」「チャーチニュース」1995年2月11日付
3. ルカ8：14
4. 教義と聖約84：46
5. 「大会報告」1963年10月号、p. 7
6. マルコ16：15
7. 教義と聖約59：23
8. ヨハネ4：14
9. IVニーフアイ1：17
10. エペソ4：13
11. ガラテヤ3：26-29
12. 「幸福を得んために」p. 50
13. マタイ18：20
14. Iコリント10：16-17
15. 「主の道にかないて助けをなす——福祉に関する指導者用ガイド」参照
16. マタイ9：22

幸福の 偉大な計画と結婚

七十人会長会

ジョー・J・クリステンセン

現在と将来にわたって結婚のきずなを強めるための8つの実用的な提案



うえで、役に立つものであってほしいと願っています。

1. 結婚生活で最も重要なことは何か、常に心にとどめておく。ブルース・R・マッコンキー長老が天父の「幸福を与える偉大な計画」(アルマ42：8)の中で、結婚の占める重要性について、次のように言っていますので、よくお聞きください。

「この世に生を受けたその瞬間から、神殿で結婚するその時まで、私たちが教えられる福音の体系というものは、どの部分を取ってみても、結婚の神聖なきずなに入るための準備と資格獲得のために備えられたものである。そのきずなによって、私たちはこの世においても、来世においても、夫婦であり続けることができる。……

この世において、家族の創造と完成以上に大切なものはない。」(『救いは家族であずかるものである』「インブループメント・エラ」1970年6月号、pp.43-44)

2. 結婚生活がうまくいくように祈る。何年か前、まだ教会幹部が伝道部を巡回して、全宣教師と面接することが一般的に行なわれていた時のことですが、当時十二使徒定員会の会員であったスペンサー・W・キンボール長老が、伝道の終了を間近に控えたひとりの長老と面接をする機会がありました。

「長老、あなたは解任されたら、何をするつもりですか。」

「大学へ戻るつもりでいます。」そして、にこにこしながら、こう付け加えました。「それから、できれば恋をし

私と妻のバーバラには恵まれて6人の子供がいます。何年か前のことですが、その6人全員を連れて私の両親の所へ出かけました。父は私に向かってこう言いました。「ジョー、おまえたち夫婦も、いよいよ終わりのないことを始めたようだな。」

この復活祭の季節に当たり、私たちは全世界の人々に対して、イエスがキリストであり、キリストの聖なる神権と結び固めの権能を通して、結婚や家族が、決して終わる必要もなく、永遠に存続できる、という理想的な真理を高らかに宣言いたします。

きょう、私は皆さんに、私たちの結婚生活についてお話ししたいと思いません。これから、8つの実用的な提案をします。できればこの提案が、現在と将来にわたって結婚のきずなを強める

て、結婚したいんです。」

これに対して、キンボール長老は次のような賢明なアドバイスを与えました。「それでは、祈るときには、愛する人と結婚できるように祈るのではなく、結婚する人を愛せるように祈ってください。」

自分がかもって親切で、思いやりも深く、謙遜で、忍耐強く、人に対して寛容であり、そして特に利己的な心を捨てられるよう、祈ることが大切です。

よい伴侶になろうと努力するとき、個人的な問題や弱点があるためにそれができないとしたら、その問題や弱点を認めるためには、私たちは祈りを通して主のみもとへ行き、モルモン経にある次のような力強い約束の恩恵にあずかる必要があります。「もし人われに來らば、われはかれにその弱点を認めさせん。……かれらがわが前にへりくだりわれを信ずる時にはその弱きを強きに変えん。」(イテル12:27)

だからこそ、祈る必要があるのです。日々ともに祈っている夫婦で結婚生活上の重大な問題を抱えている例は見たことがない、と数多くの教会指導者や結婚カウンセラーが言っています。何か問題が生じ、結婚生活に危機が訪れたときには、夫婦でともに祈ることが最も効果的な治療法である場合が往々にしてあるのです。

3. よく耳を傾ける。時間を作って、伴侶の声に耳を傾けてください。できれば、定期的に話を聞いてあげてください。率直に話し合い、伴侶としてその役割をきちんと果たしているかどうか、評価し合ってください。

ブレント・バーロー兄弟が、ある精神権者の兄弟たちにこんな質問をしました。「皆さんの中で、啓示を受けたと思っている人はどれくらいいますか。」全員の手が拳がりました。すると、バーロー兄弟は、「それでは、全員帰宅したら、奥さんにどうしたら自分ももっとよい夫になることができるか、尋ねてみてください」と、提案したのです。彼自身は、その結果について、次のように言っています。「私も自分の提案に従ってみました。その日の午後は、妻のスーズンと1時間以上

にもわたって、実に有益な話し合いをすることができたのです。」(「エンサイン」1992年9月号, p.17) このような会話は私たちにとって、啓示となり得るものです。

兄弟の皆さんの中で、奥さんからこんな言葉を聞いたことのある人はいないでしょうか。私は最近、妻から「ジョー、ちゃんと聞いてくれているの」と言われました。私がちゃんと聞いているのかどうか、疑問に思ったのは妻だけではありませんでした。しばらく前のことですが、私は昼寝をしていた時に、孫娘のアリソンがやって来て、私の片方のまぶたを開けると、こう言ったのです。「おじいちゃん、そこにいるの?」私たちはいつも「そこに」いて、連れ合いの呼びかけにはこたえてあげたいものです。

4. 「いたずらにあら探しをする」ことを避ける。お互いの欠点に対して過度に批判的にならないことです。だれひとりとして完全な者はいない、という点を忘れないでください。私たちの目標として、指導者が説いている、キリストのような者となるためには、まだまだ長い時間が必要なのです。



キンボール大管長が言っているように、「いたずらにあら探し」を続けていると、どんな結婚生活でも破綻してしまいます。(「結婚と離婚」1976年ブリガム・ヤング大学年度講話) 一般的に言って、私たちは皆、自分の欠点については痛いほど承知しています。だから、人からそれについてたびたび言ってもらわなければならないのです。絶えず批判されたり小言を言われたりした結果、よい方へ変わったという人はほとんどいません。注意しないと、私たちが建設的な批判のつもりで言ったことが、実際には人を落ち込ませる結果になることもあるのです。

ときには、何も言わずにいた方がよい場合もあります。ローラ・ウォルターズ姉妹は、結婚後間もないころ、ある雑誌で、結婚のきずなを強めるには、夫婦で定期的に率直に話し合う時間を持ち、その時、お互いに気に入らない癖があれば、それを指摘するとよい、という記事を読みました。彼女は、その経験を次のように書いています。

「私たちはお互いに気に入らないことを5つずつ指摘することにし、私から始めました。……私は主人に、グレイプフルーツの食べ方が嫌いだと言いました。主人は、グレイプフルーツを食べるとき、皮をむいて、まるでオレンジでも食べるようにして食べるからです。私はそんなふうにはグレイプフルーツを食べる人を見たことも、聞いたこともありません。若い乙女が、グレイプフルーツをオレンジのように食べる夫と生涯を、いや、永遠をともに過ごすなんて、いかにも夢のない話でした。……

私の方で〔5つ挙げ〕終わると、今度は主人が、私の嫌いな点を挙げる番になりました。……すると、主人はこう言ったのです。「実を言うと、ぼくは君の嫌いな点は何ひとつ思い浮かべないんだよ。」

息が止まりそうでした。

私は急いで主人に背を向けました。自分の目にあふれた涙がほおを伝っていく理由を、どう説明したらいいかわからなかったからです。」

ウォルターズ姉妹は、この話を次の

ように結んでいます。「性格の不一致を唱える夫婦の話を知った時に、私はいつも、そうした夫婦も私が『グレープフルーツ症候群』と名付けた病気で苦しんでいるのではないかと、考えています。」（「エンサイン」1993年4月号、p.13）

そうです。ときには何も言わない方がよいこともあるのです。

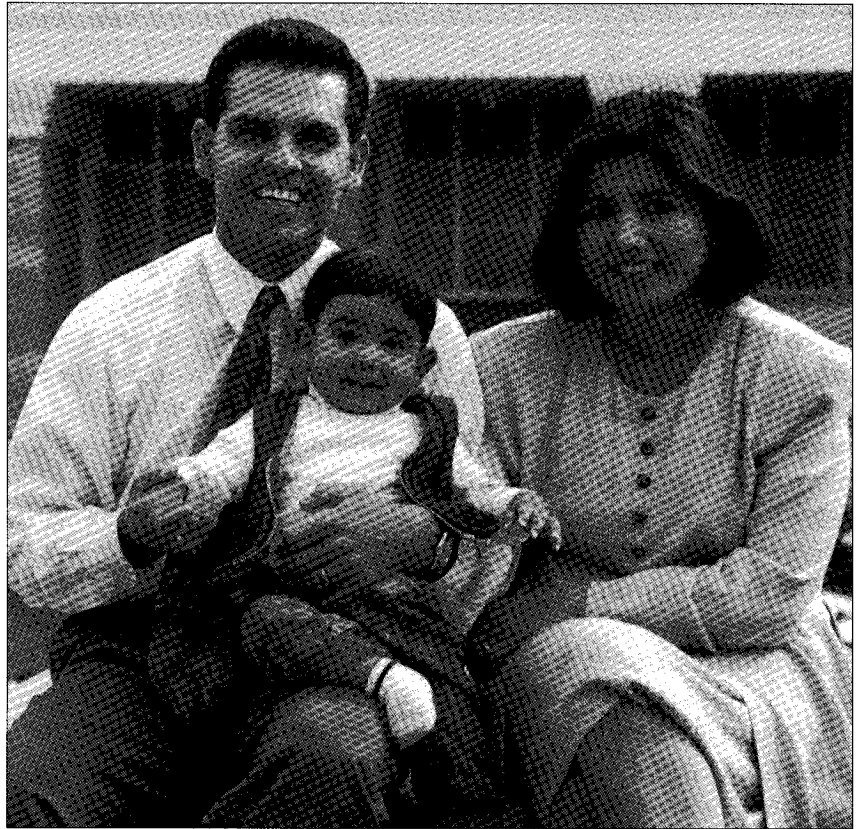
5. いつまでも新婚時代の気持ちを忘れない。一緒にふたりだけで、何かをする時間を作ってください。家族として子供たちと一緒に過ごす時間ももちろん大切ですが、それと同じように、ふたりだけで毎週定期的に時間を過ごす必要もあります。きちんと時間の調整をしておけば、「結婚生活はとても大切なものだから、それを大切に育てていこう」という両親の気持ちをお子供たちにわかってもらえるはず。そのためには、決意と計画と時間の調整とが必要です。

お金をかける必要はありません。一緒に時間を過ごすことが、いちばん大切な要素なのです。

ある時、私の義父が昼食を終えて再び畑に戻ろうとした時です。義母が大きな声でこう言いました。「アルバート、戻って来てちょうだい。私に『愛してるよ』って言って。」義父は、ニヤッとすると、こんな冗談を言って笑いとばしたのです。「エルシー、結婚した時、ちゃんと『愛してる』って言ってあげただろう。もし気が変わったら、すぐに教えるから。」「愛してるよ」という言葉を言いつぎることはありません。どうぞ、毎日使ってください。

6. すぐに「ごめんなさい」と言う。この言葉を口にすることがつらいと思うことがあっても、できるだけ早く「すまなかった。赦してほしい」と言ってください。たとえ、自分にはまったく落ち度がないときでも、そうしてください。真実の愛を育てたいと思ったら、自分の過ちや間違いを素直に進んで認める者になることです。

意見の食い違いが生じたときは、よく話し合い、解決ができればそれに越したことはありませんが、ときには沈黙の時間を守るのがいちばんよい場合



もあります。ぐっとこらえて、10まで、あるいは100まで数えることが大切です。場合によっては、日が暮れても、怒りを胸に秘めたままにしておいた方が、翌朝目が覚めたとき、問題を落ち着いて冷静に見ることができ、解決のチャンスが広がる場合もあるのです。

ときどき、こんな話を聞くことがあります。「私たちは結婚して50年になりますが、今まで意見の食い違いなど一度もありません。」もしこれが言葉どおりだとしたら、夫婦のうちのどちらかの意見が異常に抑えつけられているか、それともだれかの言うように、どちらかが「真実に対して無知」なのでしょう。聡明な夫婦なら必ず意見の食い違いは存在します。問題は、その解決法をはっきりと知っているかどうかです。そして、そういう努力が、幸福な結婚生活をさらに充実させるための過程の一部なのです。

7. 収入の範囲内で生活するよう努める。結婚生活で起きる最も大きな問題の中には、家計の問題にかかわって起きてくるものがあります。「米国法廷弁護士協会の調査によると

……離婚全体の89パーセントが、その原因をさかのぼると、金銭に関するけんかや非難に行き着く」のだそうです。（「エンサイン」1975年7月号、p.72）予算の範囲内で生活するために、進んで購入を延期したり、差し控えたりしてください。毎月、自分の収入よりも50ドル少ない予算で生活するのは幸福に通じるけれども、収入より50ドル多く使うのは悲劇に通じる、ということをお忘れなく。はさみとクレジットカードを取り出して、ホランド長老が言うように、カードを切り刻む「プラスチックの手術」（「エンサイン」1986年6月号、p.30）をしなければならぬ時が来たのかもしれない。

8. 家庭と家族の責任を平等に果たす。ただ座っているだけで、何でもしてもらおうのを待つような夫になってはいけません。そういう夫は、生活費を稼ぎ出すのが自分の仕事で、家事や育児は妻ひとりの責任だと考えています。家庭や家族を維持する責任は、ひとりのもではありません。

このように家庭のことに関しては、

共同責任を負っているのだということ
を忘れないでください。バーバラと私
は、毎朝ベッドを整えるのに、ふたり
ですれば1分もかからないことを発見
しました。しかも、それだけでベッド
が一日じゅう整っているのです。バー
バラは、私にそういう仕事をさせるの
は、それによって私に一日じゅう気持
ちよく過ごしてほしいからだ、と言っ
ています。それは確かに一理あると私
は思っています。

一緒に聖典を勉強する時間を取って
ください。そして、キンボール大管長
の次のような賢明な勧告に従ってくだ
さい。「夫と妻と一緒にたびたび聖なる
神殿へ参入し、家庭で家族とともに
一緒にひざまずいて祈り、手を取り
合って教会の集会に出席し、精神的に
も肉体的にも汚れのない生活を送り、
……そしてふたりがともに神の王国の
建設に携わっているとしたら、そのと
き幸福は頂点に達する。」（「結婚と離
婚」p.24）

要約しましょう。

- 結婚生活で最も重要なことは何か、
常に心にとどめておく。
- 結婚生活がうまくいくように祈る。
- よく耳を傾ける。
- 「いたずらにあら探しをする」こ
とを避ける。
- いつまでも新婚時代の気持ちを忘
れない。
- すぐに「ごめんなさい」と言う。
- 収入の範囲内で生活するよう努め
る。
- 家庭と家族の責任を平等に果たす。

私はイエスがキリストであることを
証あかしします。あの3日目に墓が空になり、
「アダムにあってすべての人が死んで
いるのと同じように、キリストにあっ
てすべての人が生かされる」（Iコリ
ント15：22）ことを証します。イエ
ス・キリストの回復された福音の中に
結び固めの権能があることに感謝しつ
つ、私たちは、かの詩人とともに、確
信をもってこう申しあげます。「我は
死してさらになれ汝を深く愛す」（エリザ
ベス・バレット・ブラウニング「我、
汝をいかに愛すや」）イエス・キリス
トのみ名により、アーメン。

「すべて神のみこころ に背くことを捨てよ」

十二使徒定員会会員

ニール・A・マックスウェル

おもな社会的、政治的問題のほとんどは、無私の心を大量投与しなければ解決できません。



ボイド・K・パッカー会長代理に
よってみごとに管理されている
この十二使徒定員会に、私はヘン
リー・B・アイリング長老を迎えられ
ることをうれしく思います。アイリ
ング長老はやさしさと聡明そうめいさを合わせ
持った特別な方です。また私はジェ
ームズ・E・ファウスト副管長を喜んで
支持します。ファウスト長老とは14年
間、十二使徒会で席を隣り合わせ、30
年以上にもわたってさまざまな市民活
動や教会の責任に携わった同僚です。
私には5人のすばらしい肉親の姉妹が
いますが、肉親の兄弟はいません。し
かし、ファウスト長老は長年の間、私
にとってそのような兄弟でした。

さらに、私は改めて感謝を込めて、
トーマス・S・モンソン副管長を支持

します。モンソン長老は、やはりその
同じ期間、私に機会を与え、私を指導
し、力づけてくれました。モンソン長
老はときとして、その優れた記憶力で
人々によく知られていますが、彼が人
知れず行なう親切にはもっと大きな注
意が払われるべきでしょう。

1935年に伝道から帰ったゴードン・
B・ヒンクレー長老は、イギリス諸島
での特別な働きについて大管長会に報
告するように求められました。予定さ
れた15分が1時間半近くまで延ばされ、
感銘を受けた大管長会は、ヒンクレ
ー長老に伝道を助けるように要請しま
した。それ以来ヒンクレー長老はほと
んど教会の執務ビルを離れたことがあ
りません。そして今、60年前に初めて
入った大管長会評議室の中央のいすに
へりくだって座っています。

ヒンクレー大管長は、霊性と実践力
を兼ね備え、確かな原則を鋭敏な心に
蓄えています。彼を表わす言葉には、
優れた判断力、優れたユーモア、優
れた意志、優れた聞き手など、共通し
ているのは「優れた」という形容詞で
す。優れた徳が今日のヒンクレー大
管長を作り上げた鍵かぎであって、私は喜んで彼
を大管長として、予言者、聖見者、啓
示を受ける者として支持します。この
気高い召しは、並外れた備えの後にひ
ときわ優れた弟子にもたらされます。

弟子に関するイエスの教えには、行
なうこととその優先順位が含まれて
います。「だれでもわたしについてき
たいと思うなら、自分を捨て、日々自分

の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。」(ルカ9:23, 下線付加) また別の箇所でもロナイが宣言したように「すべて神のみこころに背くこと」(モロナイ10:32), すなわち大きな罪と小さいな罪をすべて捨てる必要があります。大きな岩のような罪が私たちの道をふさぐ一方で、砂利のような小さな罪も弟子の働きを弱めます。小さな石のような罪がつまづきの石になるのです。

ベンジャミン王とパウロは、肉欲に従う人の生まれつきの弱さについて述べています。彼らは神に背き、霊的な事柄を「愚かなもの」と見なします。(モーサヤ3:19; Iコリント2:13-14; コロサイ3:9 参照) ですから、生まれながらの欲望や見方を取り去ることが、自分を捨てる大きな要素であり、ときにはそれがひどく恥づかしい思いや、後悔の念を伴うこともあります。(ジョセフ・スミス訳ルカ14:28 参照)

しかし、現代では、自由や個人の欲望に対する誤った見方が否定されるどころか、もてはやされています。ある筆者によれば、このマントラ呪文の持つ独特のリズムはこうです。「……私……私……私……私……私。」(トム・ウルフ『自分本位の時代と第3の覚醒』「絢爛たる時代」p.293。デビッド・フラム「デッドライト」p.203による引用)

感情に基づく幸福は、永続しません。公認された娯楽であっても、それを生み出すものと同様に移ろいやすく、真の喜びはそれをもたらすものと同様に、永続するのです。

現代の有害な思想の中で、快樂主義は最も多くの人々に悪影響を与えています。そのような快樂主義は、人とは違う生活様式をしているだけだと言うのでは、あまりに単純すぎます。ゲラサの豚たちもそうでした!

4半世紀前に、歴史家のジョン・ルーカスは次のような洞察のある警告を与えています。「性的不道徳は、一部の人々を巻き込むだけでなく、現代の道徳的危機の中心となるであろう。」(ジョン・ルーカス「近代が迎える死」p.169) ルーカスは誇張していると思われる人もいますが、子供の



妊娠、未婚の母、両親のいない子供、何十万人もの父親のいない子供、蔓延する不貞など、その後起こったありのままの悲劇について考えてみてください。こうした出来事とその結果により、社会の未来は、それが到来する前に脅かされているのです。しかし、肉欲主義者は、雪崩のように降りかかる恐ろしい結果に社会全体が苦しめられても、自分の考えを捨てようとはしません!

次のありのままの統計について考えてください。「合衆国の約40パーセントの子供が、父親の住んでいない家庭に寝に帰る。」(デビッド・ブランケンホーン『父親のいない生活』「USA ウイークエンド」1995年2月26日号, pp.6-7)

この数字が60パーセントになると予測している人もいます。この解説者はさらにこう述べています。「父親不在が最も急を要する社会問題、すなわち犯罪から未成年者の妊娠、家庭内暴力などの原因になっている。」(同上) 兄弟姉妹の皆さん、残念なことにこうした結果が、アメリカの最も重大な問題を構成し、それらはスラムのように広がる世俗主義から生まれるのです。

箴言にこうあります。「戒めはともしびである……。」(箴言6:23) ひとたび暗くなると、その社会は善悪を識別する力や、もともと間違っているも

のを指摘する力を失います。戒めというともしびがなければ、世の中は望みを失って、一時的な解決法を打ち立て、新たな標準を受け入れ後退し、問題を避けるようになります。すべてを許す社会は、結局すべてを失うのです!

したがって、人々が理解していようといまいと、個人の道徳観が非常に大切なのです。しかし今日、自分を正当化する叫び声が多く、恥じ入る声はほとんどありません。また悪い行ないはだれの責任でもなく、すべてのことには言い訳が立つと考えています。

そのような正反対の価値観の中で、被害者がしばしば無視され、加害者がたたえられても、驚くに当たりません。同様に実際の告白の中には、「自分自身を赦せるように願っています」という意味の言葉があります。反対に、不審を感じた使徒たちは、どちらを向く必要があるか知っていました。使徒たちは皆、今にも起こる裏切りについて恐る恐るイエスに尋ねました。「主よ、まさか、わたしではないでしょう […….]」(マタイ26:22)

自分勝手や自己憐憫という沼から醜悪な罪が徐々に現われてきます。しかし、悪い言葉を使うといった小さな罪も、その沼から、泥の中の虫けらのように生まれてきます。では私たちはなぜ、「肉のことを思」う人々に、悪い言葉を正すよう求めるのでしょうか。(ローマ8:5)

ある人々にとって、「彼らの神はその腹」であり、体のほかの部分から礼拝の対象です!(ピリピ3:19) また2,3の快樂主義者にとって、「ほしいままに……不潔な行いをして」も、彼らの栄光はその恥なのです。(エペソ4:19) 悲しいことに、悪人をうらやむ人もいますし、悪人がその報いを受けないことに不平を言う人もいます。(箴言23:17; マラキ3:14-15 参照)

皮肉なことに、すべての望みにおいて、自己中心的で感受性の鈍い快樂主義者は、ほとんど無感覚になっている自分の感性をたたえます。3人の予言者たちが、口をそろえて、そのような人は「なんらの感じもない」と言っています。(Iニエファイ17:45; エペ

ソ4:19;モロナイ9:20参照)

民が「道を守ら」なくなると、やがて彼らは「野蛮」になり、「慈悲の心がな」くなり、無感覚になります。(モロナイ9:11-20参照) そのような人は真の喜びを味わえません。たとえば神への心からの感謝、「罪……に溺れ」(IIニーフアイ4:28) た人を助ける喜び、あるいは、称賛や報酬をほかの必要な人に譲って進んで何かをする喜びなどです。

私たちの物理的環境も家族の置かれた状況と同様に、利己心によって脅かされています。人々はオゾン層に開いた穴について心配します。しかし、戒めというとしびを欠いた多くの家族は、スイスチーズのようにまさに穴だらけなのです。

もちろん、魔法のつえをひと振りして家族を直ちに改善することはできません。下流には堤防や砂袋が必要かもしれませんが、ほんとうの問題は家族という水源にあります。多くの事柄は、私たちの家族がよくなるまで改善されませんが、それにはもっと無私の心が必要です。おもな社会的、政治的問題のほとんどは、無私の心を大量投与しなければ解決できません。皮肉なことに、これは戒めが教えられ、互いに愛し合う家族の中ではぐまれる最高の特質なのです。

一方、この世では、つかのまのものと永遠のものを自由に選ぶことができます。(IIニーフアイ2:27参照) 人人の選択の結果、ポルノグラフィは子供たちよりも保護されています。もちろん自制は検閲に勝りますが、快樂主義者に自制を求めるのは、ドラキュラに血液銀行の周りをうろつかないように言うのと同じです。

十戒のほとんどは、「何々してはならない」という自制の戒めです。天父は私たちに完全に愛し、私たちの性癖を完全に知っておられます。うそ、盗み、殺人、ねたみ、性的不道徳、親をないがしろにすること、安息日を破ること、偽証など、すべてのことは神の標準や人類への影響などかまわずに、当座の楽しみをむさぼるといふ過ちから起こるのです。予言されているよう

に、道徳観は相対的なものだという人人が増えています。「あらゆる者おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども、その姿は人の世の像……なり。」(教義と聖約1:16)

戒めというとしびがなければ、善悪の識別はできません。(モルモン経ヤコブ4:13参照) 私が読んだ本によれば、あるナチの指導者は、ガスで殺されるユダヤ人を監視しながらハイドンの音楽を聴いたといいます。おそらく彼は自分の音楽の鑑賞力を自慢していたでしょう。

ムッソリーニは、イタリアの鉄道を時間どおり走らせて乗客から喜ばれましたが、その全体主義統治の恐るべき結果とそれによって奪われた数万人の命とは、とうてい償えるものではありません。

だれもが、あざけるゴリアテに立ち向かった若きダビデをほめたたえます。しかし、ダビデの初期の勇敢な行方も、後にウリヤの妻バテシバと犯した姦淫を償うことはできません。すべてを考慮すると、兄弟姉妹の皆さん、ダビデが最も打撃を与えたのはだれでしょう、ゴリアテでしょうか？ ウリヤでしょうか？ それともダビデ自身ですか？

同じように神の第2の戒め「あなたの隣人を愛しなさい」は明らかに人種差別を許しません。しかし人種差別をなくしても、人が欲望の奴隷になっているなら、まだじゅうぶんではないのです。イエスはよいことの中にも「もっと重要な」ことがあると言って、バランスを取ることの必要性を強調されました。(マタイ23:23) 戒めを守っている青年に、イエスは「あなたに足りないことが一つある」と言って、財産に執着する誤りを指摘されました。(マルコ10:21) ほとんどの人にとって、足りないのはひとつだけではありません。主に近づくなら、主は私たちに「弱点を認めさせん」と約束されました。(イテル12:27) このゆえに、だれもがするよいことをして、弱点に取り組みなかったという言い訳はできないのです。

私たち自身のわがままな行為のリストは、真の喜びと正反対のものです。

それは自分を捨てるまでは経験できない喜びです。一方、生活の中に大きな罪がないと、見かけの小さな罪に対していいかげんになることがあります。両親への訪問や世話を怠るのは、父と母を敬うのを怠ることです。そのささいな形での自制心の欠如が、伴侶への不親切な言葉を招き、極端な場合、家庭で虐待や殺人さえ起こすことがあります。攻撃されるときに仕返しする性癖は、私たちをぞんざいで不作法にし、人々を兄弟姉妹ではなく、単なる対象物として扱うようにさせます。こうして、エゴがあふれてこぼれた毒液が広がるように、あらゆる致命的な罪に流れ込むのです。(箴言6:16-19参照) 若い親たちは、わずかコップ半分のごぼれたミルクが、台所の床半分を覆うのを知っているでしょう。小さな罪もそのように広がるのです。

イエスは欠けたところのない霊的完全さにより、まことに「道であり、真理であり、命であり」、主の道は世の中の道と明確な対照を成しています。(ヨハネ14:6) イエスの完全な属性は、聖いだけでなく、まったく欠けた部分がありません。イエスの神聖な属性がなければ、驚くべき贖罪を成し遂げることはできません！ そして主は私たちに、ご自身のようになるよう求めていらっしゃいます。(マタイ5:48; IIIニーフアイ12:48; 27:29参照) 主の弟子の重いくびきは、軽くなります。(マタイ11:30参照) 主が重荷を軽くし、私たちの肩を強くして、「耐えられるように」してくださるのです。(モーサヤ24:14; Iコリント10:13参照)

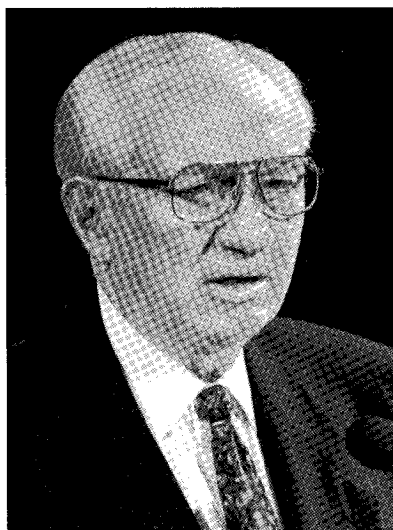
個人の犠牲として、祭壇に動物を捧げることはしません。代わりに、私たちの中の動物的な欲望を祭壇の上において、焼き尽くすのです！ それは犠牲として主に捧げる「へりくだりたる心と悔いる精神」であり(教義と聖約59:8)、神を知るために「一切の罪」を捨て、十字架を負ううえで必要なことです。(アルマ22:18) 自分を捨ててから、主を完全に受け入れることができるからです。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

主のみ業

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

私たちは皆、この偉大なみ業とともに携わっています。私たちは、天父がみ業を推し進め、栄光を示されるうえで助け手となるために召されているのです。



親愛なる友、またこの偉大なみ業の同労者である、全世界の兄弟姉妹の皆さん、皆さんよくご存じのように、これは私にとって最も厳かで神聖な機会です。へりくだって聖霊の導きを求め、自分の心の思いをなんとか皆さんにお伝えしたいと願っています。もし私的な思いを話しすぎるようなことがありましたら、お許しいただきたいと思います。そのときには、一人称単数の表現は忘れるように努力します。私たちは最近、愛する友であり指導者であった第14代大管長、民の予言者ハワード・ウィリアム・ハンター長老の死を悼みました。大管長としての在任期間は短いものでしたが、私たちに残してくれた善への感化力には実に大きなものがありました。温和で穏やかな方でしたが、このみ業の真実性に対する強い確信は、キリストのような生

活を送るようというその教えに強い説得力を与えていました。

1995年3月3日の朝、息を引き取る前に、ハンター大管長は肉体的にかなり苦しみました。そして、男性、女性、子供を合わせ、2万5,000人以上の人々が教会執務ビルを訪れ、美しい広間に安置されたひつぎを前にして弔意を示しました。人々は、わずか数カ月前に自分たちが支持の挙手をした人への愛を胸に、恭しい態度で整然と歩を進めました。

1995年3月8日の水曜日に、この由緒あるタバナクルで、ハンター大管長の葬儀が行なわれ、その模様は放送を通して多くの人々に伝えられました。葬儀は、いまや歴史上の人物となった、徳にあふれた偉大な方を追悼するにふさわしいものでした。後に残されたハンター姉妹とそのご子息、そして3代にわたる親族のかたがたに私たちの愛と弔意をお伝えしたいと思います。遺族のかたがたが、「わたしこそあなたを慰める者だ」（イザヤ51：12）と宣言されたお方から慰めと支えと祝福を受けられますように。

ハンター大管長の死去に伴い大管長会は解散しました。副管長の職を務めていたモンソン兄弟と私は、教会の管理機関となった十二使徒定員会の会員の立場に戻りました。

3週間前の日曜日、聖任された使徒が全員、断食と祈りをもって、神殿の階上の部屋に集いました。私たちはここでともに神聖な賛美歌を歌い、祈りを捧げました。そして、主の晩餐の聖餐を受け、その神聖かつ象徴的な誓約

の中で、聖なる贖い主であられるお方との契約と関係を新たにしました。

その後、代々確立されてきた慣行に従って、大管長会が再組織されました。

そこには職を巡る選挙運動も、論争も野心もありませんでした。それは静かで、平穏で、簡潔で、神聖なものでした。主ご自身が定められた方式にのっとって行なわれました。

多くのかたがたから、お祝いと信頼の気持ちを示す言葉を頂きました。教会員の皆さんからの言葉もありましたが、教会外の人々からの言葉もありました。皆さん一人一人に心からの感謝を申しあげます。私はそれらの賛辞が、人間ではなく、召しに対するものであることをよく承知しております。

昨日の朝、世界じゅうから来た教会員が聖会に集いました。そして、強制によらず、自分自身の意志で手を挙げ、3週間前の使徒たちの決議を承認し、奉仕の務めに召された人々を支持しました。

皆さんご存じのように、私はこれまで3人の偉大な大管長に、副管長として仕える特権にあずかってきました。重要な責任というものの何たるかを、多少は心得ているつもりです。にもかかわらず、この数日は自分の非力さに心が沈み、この教会の頭であられる主に、また副管長、十二使徒、七十人、管理監督会、そして世界じゅうの教会員の力に全幅の信頼を置かなければならないとつくづく思いました。私は今どのように言えば、自分の心からの感謝と愛を表現できるのかと考えています。

何年前かに指導者の孤独感ということについて話をしたことがあります。その孤独感のほんとうの意味を、今初めて実感しています。なぜこの大切な責任が自分の肩に懸かってきたのかその理由はわかりません。皆さんの中にもそのような感じている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、現実はこのように、私たちが召されたのです。

このような状況になると、人はこれまで過ぎてきた人生を振り返り、さらには、その人生が始まる前にまでさ



「喜びの時」と題されたこの像は、モルモンの女性をたたえる一連の彫刻作品のひとつで、教会本部ビル前の広場に設置されている。

かのぼって、思いを巡らします。私は、この教会に改宗した最初の先祖から数えて、わずか3代目の教会員です。祖父は、まだ少年だった1836年の夏にカナダのオンタリオ州でバプテスマを受けました。祖父の母親は夫に先立たれ、後にふたりの子供を連れてイリノイ州のスプリングフィールドへ移りました。祖父はそこからさらに徒歩でノーヴーへ行き、そこで予言者ジョセフ・スミスのお話を聞きました。1846年に教会員が西部への移動を始めた時、祖父は体力、能力、信仰を備えた18歳の若者になっていました。彼は大型の荷馬車を

作る腕のよい職人で、鍛冶の技術も持っていました。祖父は、西へ向かう人人を助けるためしばらくアイオワにとどまるようにと、ブリガム・ヤングから求められた人々のひとりでした。1848年に結婚し、1850年の春にこの峡谷に向けて出発しました。

しかし、この過酷な旅の途中に、彼の若い妻は病気にかかり、死んでしまいました。彼は自分の手で墓穴を掘り、丸太を挽いてひつぎを作りました。そして懇ろに妻を葬ると、涙ながらに11カ月の子供をその腕に抱き、再びこの峡谷へ歩き始めたのです。

山深いこの峡谷地帯に教会員を定着させるために、それに伴う数々の困難な仕事を行なうよう、ヤング大管長から繰り返し召された人々がいましたが、祖父もそのひとりでした。彼はシオンのミラードステーキ部のステーキ部長の職を務めました。ステーキ部の数がごくわずかな時代で、祖父はユタ中部の広大な地域を含むミラードステーキ部の中を、ある時は馬車で、ある時は直接馬を駆って、何千キロも旅し、責任を果たしました。学校を設立するために惜しみなく私財を投じたために、かつてはかなりあった財産も、亡くなった時にはわずかばかりになっていました。

祖父同様に、父も信仰のあついで、ゆだねられた多くの責任を果たし、教会のために惜しみない奉仕をしました。父は長年にわたり、会員数1万5,000以上の、当時の教会では最大のステーキ部を管理しました。母と祖母も同じように信仰あついででした。教会からのさまざまな要請もあって、ふたりの生活は必ずしも楽なものではありませんでしたが、不平を口にすることはありませんでした。ふたりとも楽しく、また献身的に責任を果たしました。

私はこの先祖たちに対して、感謝と愛の気持ちを感じています。また彼らの信頼にこたえなければならぬという、非常に強い責任を感じています。今月末で、結婚58年になる愛する妻に感謝しています。このようなすばらしい伴侶がいなければ、私たちの生活はどんなにむなしいことでしょうか。私はこのすばらしい女性に心から感謝しています。彼女は晴れの日もあらしの日も私に連れ添ってきてくれました。ふたりとも昔ほどの背丈はありませんが、互いへの愛は少しも小さくなってはいません。

正しい生活をもって私たちを尊んでくれている子供、孫、ひ孫たちにも感謝しています。

そして特に、皆さん一人一人に心からの感謝を申しあげます。教会幹部としての37年間の務めの中で、世界各地の教会を旅してきました。行く先々ですばらしい人々にお会いしてきました。

末日聖徒の生活の中にはすばらしいものがたくさんあります。皆さんの奉仕は、信仰のすばらしい表われです。私は多くのかたがたが払っておられる犠牲について知っています。皆さんへの愛と感謝は、言葉で言い尽くせるものではありません。私は皆さんの^{しもべ}であり、引き続き皆さんの信仰と祈りと支持をお願いしますとともに、みずからも全力を尽くすことを皆さんと主に誓約いたします。

私はこの聖なる職に伴う責任を引き受けましたが、自分がそう若くはないことをよく承知しています。ヒンクレー姉妹も私も、年を取ると、喜びも多いが苦しみも多いということを学んでいるところです。しかし正直言って、私は自分が年を取っているとは感じていません。出生証明書の日付を書き換えることはできませんが、全能者のこの貴いみ業に対して、あふれるばかりの若々しい情熱を今も強く感じることができます。

私はこの教会の会員、またあらゆる年代、人種、国々の人々を愛しています。

私は子供たちを愛しています。子供たちは、世界じゅうどこへ行っても同じです。子供たちは、肌の色や環境の違いに関係なく、その無心さが生み出す美しさ、また少し前まで天父のみもとにいたという事実がもたらす美しさを備えています。世界じゅうの子供たちにお伝えします。皆さんは大切な、すばらしい存在です。

私は教会の若人を愛しています。繰り返し述べてきたことですが、この時代の若人ほどすばらしい世代はかつてなかったと思います。皆さんの高潔さ、また、よい行ないをするために心と手を訓練しようという熱意、主のみ言葉への愛、高潔と真理と徳の道を歩もうという望みに心より感謝しています。

子供たちを光と真理の中で育て、体罰でなく愛をもって治め、家庭にあっても祈り、子供は自分たちが守り、訓練し、恵みを注ぐべき貴い財産と考えておられる父親と母親の皆さんを心から尊敬しています。

私は、人生のあらしに直面しながらも、その力に負けることなく、前進し、

信仰を守り続けていらっしゃる年配のかたがたを愛しています。皆さんが喜びと、よい人生を送ったという思い出に満たされるように願っています。

兄弟姉妹、最後に、ひとつのことをお話したいと思います。これは、いつまでも忘れないでいただきたいと思います。

この教会は大管長のものではありません。この教会の頭は主イエス・キリストです。私たちは一人一人が、そのみ名を受けています。私たちは皆、この偉大なみ業とともに携わっています。私たちは、天父のみ業と栄光である「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらず」(モーセ1:39)ための働きの中で、天父の助け手となるために召されているのです。皆さんの受けている責任も、私の受けている責任も、その重要性に変わりはありません。この教会に、小さな召しとか、つまらない召しなどはありません。私たちは皆、責任を果たしていく中で、人々の生活に影響を及ぼすのです。主は私たち一人一人に、その責任について次のように言われました。「これを以て汝忠実なれ。而してわれに命ぜられたる職務に服し、弱きを助け、垂れたる腕を挙げ、かよわきひざを強うすべし。」(教義と聖約81:5)

「これらのことを^な為して、汝は汝の同胞に最上の善を行いまた汝の主の栄光をいや増さん。」(教義と聖約81:4)

主はさらにこう言われました。「而して汝終りまで忠実ならば、汝はわが父の家にわが備えたる住居にありて、不死不滅の冠と永遠の生命とを与えられん。」(教義と聖約81:6)

この偉大なみ業に仕える私たちは、思い、信念、信仰をひとつにしています。

皆さんは、それぞれの義務を果たす中で、喜びを得るすばらしい機会を授けられています。それは私の場合と同じです。このみ業の発展は、心をひとつにした私たちの働きにかかっています。皆さんがどのような召しを受けているにせよ、私の召しの場合と同じように、その中にはよきことを成し遂げる機会が満ちあふれています。そして何より大切なのは、これが主のみ業で

あるということです。私たちのなすべきことは、主がなされたと同じように、善を行なっていくことです。

私がこれまで自分の務めを果たしてくる中で、どなたかを傷つけるようなことがありましたら、どうか赦していただきたいと思います。一度は教会の群れの中に入りながら、何らかの理由で、今は遠ざかっている人々に申しあげます。どうか戻って来て、かつて味わわれた喜びを、また味わってください。多くの人々が手を差し伸べ、温かく迎え、皆さんの力となることでしょう。

すべての教会員のかたがたにお願いします。信仰の異なる人々に対して、尊敬と感謝の念をもって接するようにしてください。信仰や人生観が異なる人々の間では、礼儀正しさと互いに尊重し合うことが非常に強く求められます。民族的な優越主義を唱える偏狭な人間になってはいけません。私たちが生きている世界にはさまざまな価値観があります。私たちは、自分たちと異なる教えを奉ずる人々を尊重しなければなりませんし、それは可能なことです。私たちは、偏狭な考えの犠牲になりそうな、ほかの人々の権利も進んで擁護しなければなりません。

1843年にジョセフ・スミスが語った次の意義深い言葉に注意していただきたいと思います。

「私はこれまでいつでも『モルモン教』のために死ぬ覚悟はできていたが、神のみ前にあって、改めて雄々しく宣言しよう。私は長老派やバプテスト派、そのほかいかなる教派の人々のためであろうと、善良な彼らの権利を擁護するためには死ぬ覚悟がある。なぜなら末日聖徒の権利を侵害する思想は、ローマカトリック教会やそのほかどのような宗派の権利に対しても、同じような妨げになるはずだからである。」(教会歴史5:498)

さて、兄弟姉妹の皆さん、もう少しの頑張りを示し、視野を広げ、福千年における末日聖徒イエス・キリスト教会の壮大な使命に対する知識と理解を深めるよう精神を集中する時が来ました。今は堅固に立つべき時です。自分たちに与えられている使命の意義、大

きさ、重要性をよく理解したうえで、ためらうことなく前進する時です。どのような結果になろうとも、それをいとわずに、正しいことをなすべき時です。戒めを守るべき時です。悲しみの中にある人々、また暗闇と苦しみの中をさまよっている人々に、愛とやさしさを示す時です。すべての人間関係において、お互いに思いやりを示し、親切にし、節度ある態度で、礼儀正しくする時です。言い換えれば、なお一層キリストに近い生活をする時なのです。

私たちに、恐れるべきものは何もありません。神が私たちを導いておられます。神は、このみ業の益となるように、すべてをつかさどっておられます。主は戒めに忠実に歩む人々に祝福を注いでくださいます。主はそのように約束してくださいました。主が約束を果たしてくださることに、疑問の余地はまったくありません。

ダニエルが示現の中で見た、人手によらずに山から切り出された小さな石

は今、全地を満たすために転がり出ています。(ダニエル2:44-45参照) 私たちが義の道を選び、信仰を守り、忠実に生きるなら、この世のいかなる力もそれを止めることはできません。全能の主ご自身が私たちを導いておられるからです。私たちの^{あがな}主、また大いなるエホバ、偉大なメシヤであられる救い主はこう約束してくださいました。「われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84:88)

主はまた次のように言われました。「この故に小きき羊の群よ、おそるるなかれ。善を行え。この世と地獄と共になりてむかい来らしめよ。もし汝らわが磐の上に立たば、彼ら打ち勝つ能わざればなり。

何を^{おも}念うとも、^{わんねん}念々われを見るべし。疑うなかれ、おそるるなかれ。

^{あばら}わが肋の突き傷と、またわが手足にある釘痕を見よ。忠信なれ。わが誠命を守れ。さらば、われ汝らに天の王国をつがしむるなり。」(教義と聖約6:34, 36-37)

私たちは生ける神の^{しもべ}僕として、自分たちが仕え、そのみ名に栄光を帰そうと努めている神の愛子である主のみ業を行ない、手を携へ前進しようではありませんか。

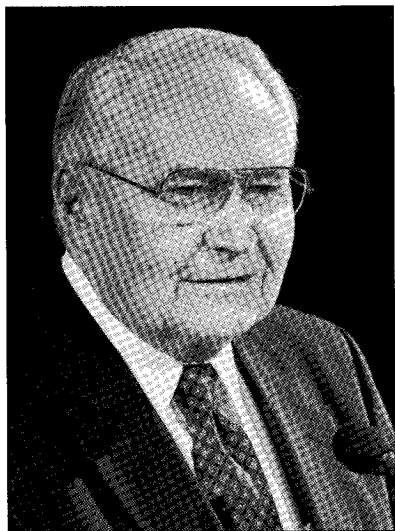
兄弟姉妹、繰り返し申しあげます。これは主のみ業です。私たちの主であり、友である主は生きておられます。これは、私たちの理解を超えた愛のゆえに、私たち一人一人のためにご自身の命を捧げられた贖い主のみ業です。選ばれた予言者を通して回復された神聖なみ業です。私たちはこのみ業に自分の人生をゆだねています。ともに働きを進める愛する皆さんのうえにえり抜きの祝福が注がれるようにお祈りしています。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



おんな 「選ばれし婦」

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

女性の役割について大きな混乱が存在する現在、ヒンクレー姉妹は人生に正しいバランスを見いだそうと苦しんでいる人々たちにとって、よい模範となっています。



結婚は、神が定められた神聖な制度です。よい家庭を築くことは究極のチャレンジであり、ほかのどんな成功も、それに取って代わることはできません。夫婦が一致して努力しなければ、結婚生活は地獄の苦しみとなるでしょう。今日の世の中には不幸な結婚が多すぎます。軌道を外れて離婚に終わるケースも多すぎます。また、不仲の両親と離婚の陰には、必要な慈しみや世話を受けられずに無言で苦しむ、おおぜいの子供たちもいます。

神は女性を創造される前から、男性がひとりであることは好ましくないと知っておられました。主は最初の女性であるイヴを創造した後、結婚の制度を制定し、最初の男性であるアダムにこのように指示を与えられました。「それで人はその父と母を離れて、妻

と結び合い、一体となるのである。」
(創世2：24)

この時アダムは、結婚の結びつきが、ほかのどんな家族の結びつきよりも強いことを学んだのです。神聖な結婚の結びつきの下では、一致、貞節、尊敬、そして互いに助け合う関係が養われます。聖典を読むと、アダムとイヴがこれを実践していたことがわかります。ふたりがエデンの園を追われた時、「アダムは先にわれ主の命じたりし如く、土地を耕しすべての野の獣を治め、彼の額の汗によりて食物を食うことを始めたり。而して、妻なるイヴもまことに彼と共に働きたり」とあるからです。(モーセ5：1)

さまざまな教会や国の指導者が最も憂慮しているのは、昨今急激に増えている家庭の崩壊です。統計によると、夫婦の仲がよいほど家族の結束も固いと言われています。家庭の崩壊は、貧困、犯罪、非行などの深刻な社会問題を生み、ひいては地域社会の崩壊につながります。

夫婦の結びつきは決して軽々しく扱えるものではありません。主がその神聖な目的を果たされるためには、結婚の誓約は必要不可欠なものだからです。神の戒めは夫婦間の聖い結びつきを守るために定められたのだと、主は一貫して明言しておられます。

私たち教会員は、模範を通して多くのことを学びます。予言者たちから学ぶときも、その言葉だけでなく、日常の行ないを模範として学んでいます。兄弟たちは、キンボール大管長、ベン

ソン大管長、そしてハンター大管長の行ないを通して、妻への接し方、つまりやさしく親切で深い愛情をもって接することなど、たくさんのことを学んできたはずで、同様に姉妹たちも、予言者の夫人たちを観察することによって、同じような教訓を学ぶことができました。夫をよく支持し、助けながらも、気品と教養のある、ひとりの人間となる方法を学んだと思います。そんな中で、ヒンクレー大管長夫妻の仲むつまじさは、男女を問わず、兄弟姉妹たちのすばらしい模範になるはずで、

ヒンクレー大管長については、今後大管長の任期中に多くが語られ、そして書かれるでしょう。しかし、大管長の愛する妻、マージョリー姉妹について書かれることは、それほど多くはないはずで、そこできょうは、ヒンクレー姉妹に親しく会う機会がなかった皆さんのために、少しご紹介したいと思います。教会の姉妹たちにとって、そして世の女性すべてにとって、ヒンクレー姉妹はすばらしい模範でした。これからもそれは変わらないでしょう。ヒンクレー姉妹は、忠実で協力的な、大管長にとってかけがえのない伴侶なのです。

ヒンクレー姉妹は開拓者の家系に生まれました。そのルーツは、姉妹のひとつとなりや人生に決定的な影響を与えてきました。曾祖父について、姉妹は次のように書いています。

「1841年秋のある日曜日、当時16歳の曾祖父ウィリアム・ミンスホール・エバンズは、教会に行くために、イギリスのリバプールの町を歩いていました。すると突然、それまで聞いたことのないほど美しい、すばらしい歌声が聞こえてきたのです。ウィリアムはその歌声に引かれて、裏通りを抜け、古ぼけた階段を上って行きました。たどり着いた部屋では、数人の人が集会を開いていました。歌っていたのは、後に教会の大管長となり、美しいテナーの歌声で知られたジョン・テイラーです。彼の歌声に魅せられたウィリアムは、その場に留まって説教にも耳を傾けたのでした。

家に帰ったウィリアムは、いつも歌



っていた聖歌隊を休んだことで、兄のデビッドにしかられました。一体何をしてたのかと聞かれたウィリアムは、次のように答えました。「兄さんも行けたらよかったのに。今朝聞いたすばらしい真理を家族みんなに聞いてもらうまでは、ぼくの気持ちは収まらないよ。」……

ウィリアムとデビッドは福音に改宗し、その後、残りの家族を改宗に導いたのでした。」「(エンサイン) 1981年7月号, p.48)

ヒンクレー姉妹はこう言っています。「教会の賛美歌を歌うたびに、この賛美歌の歌声が私の先祖を福音に導き、ひいては私自身を祝福してきたのだと思わずにはいられません。」(同上, p.48)

マンタイ神殿の改修工事が終わった後の再献堂式で、ヒンクレー大管長は姉妹の祖父について次のように話しました。「昨日の朝こちらに来た時、ヒンクレー姉妹と私は神殿の東側の扉に案内されました。たぶん、人目を引かずに神殿に入ってほしかったのでしょう。とにかく、私たちふたりは東側の扉に案内され、扉が開けられました。(扉はふた組ありましたが) 私たちが通ったのは、厚さが10センチほどもある、非常に重い扉でした。美しく削ら

れ、美しく組み立てられて、頑強な金具で美しく据え付けられた扉でした。これは私たちにとって大変感動的な経験でした。それというのも、その扉を据え付けたのがヒンクレー姉妹の祖父だったからです。当時まだ24歳だった彼は、結婚して子供がひとりおり、妻はふたり目の子を身ごもっていました。彼はその重い扉を据え付けている時にヘルニアを患い、それが絞扼性ヘルニアとなって、数日苦しみ抜いた末に死亡したのです。その信仰ゆえに、時折1ポンドのバターや卵を1ダースもらう以外まったく無償で、長い間仕上げ大工として神殿建設に従事し、そして亡くなった彼は、まさに殉教者だったと言えるでしょう。」

ヒンクレー姉妹の先祖について、ふたつの話をご紹介しましたが、この中に姉妹のすばらしい伝統とユニークな人柄の源をかいま見ることができます。姉妹は曾祖父からはみたまを感じる強い感受性を、そして祖父からは仕事と犠牲に対する強い思いを受け継いでいるのです。

恵まれて、妻と私は教会の仕事で、長年ヒンクレー大管長夫妻と旅をとみにしてきました。旅行中、ヒンクレー姉妹はいつも前向きで、朗らかです。姉妹のそんなはつらつとした協力的な

姿勢が、大管長の励みになっているのは明らかです。私たちの旅行の多くは、長くて体力的につらいものです。理想的とは言えないスケジュールもしばしばです。宿泊先も四つ星ホテルどころか、ずっと格下げの場合もあります。しかし、どんな混乱や不便、チャレンジのさなかでも、ヒンクレー姉妹はいつもの朗らかな性格そのままに表情も変えません。目的地に着き、聖徒たちの歓迎を受けて飛行機のタラップを降りるたびに、ヒンクレー姉妹のやさしい愛にあふれた人格が周りに波及していくようでした。この点で姉妹は、神権指導者を夫に持つ姉妹たちのために、夫を支持して長所を引き出すための規範を作ったと言えるでしょう。

ある時ヒンクレーご夫妻は、結婚50周年の記念日と教会の責任が重なり、記念日をともに祝うために子供たちを旅行に同伴したことがありました。バーバラ・スミス姉妹はその時のご夫妻について、次のように語っています。「いつものように朝からひっきりなしに集会があり、地元の指導者たちとの夕食会もあって、夜になるころにはヒンクレー副管長も疲れ切っていたことでしょう。でも〔ヒンクレー姉妹は〕夕食会の会食中、いつとき夫と指導者たちの会話に耳を傾けると、そっとその場を抜け出しては、家族の様子を見に行っていました。」

このことから、ヒンクレー姉妹が長年、神のみ国のために重大な業に励む夫を助けながら、同時に子供たちの世話に細心の注意を払ってきた様子がかがいが知ることができます。(バーバラ・B・スミス、シャーリー・W・トーマス共著「信仰深い女性たち」p.5)

世界じゅうの神権指導者の奥さんたちにとって、すばらしい模範ではないでしょうか。

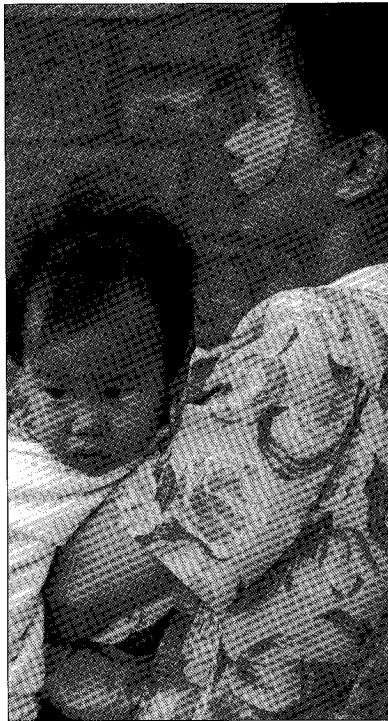
家族にかかる教会奉仕の大きなプレッシャーにもかかわらず、ヒンクレー姉妹は妻と母というふたつの永遠の重要性を持つ召しの間で、絶えずバランスを保ってきたのです。リチャード、クラーク、キャスリーン、そしてバージニアとジェーンというヒンク

レー家のお子さんたちを見れば、姉妹が母親の役割をりっぱに果たしてきたことが明らかです。それぞれ両親が誇れる子供たちだからです。

ヒンクレー姉妹は、母親の役割についてこのように話したことがあります。

「まず、小さい子供をお持ちの母親の皆さんにお話しします。今は皆さんにとって最高の時です。今こそ、皆さんがおそらく人生でいちばん重要な働きをする時なのです。小さい子供たちの世話をするこの時期が早く過ぎればよいのにと願って、無駄に過ごさないでください。人生というのは、こんな時が来たらと将来を思い描いていても、いつだって今という時を生きなければならぬものなのです。今こそ神の王国を築くうえで、素晴らしい機会なのだと認識してください。子供たちに天父を愛するように教えるとき、皆さんは最高の業を行なっているのです。専業主婦の皆さん、専業主婦でいられることにどうぞ感謝してください。また、職業をお持ちの皆さん、ご自分にとって最善と思われる道を歩んでください。私自身は、専業主婦であることに引け目を感じたことは一度もありません。

今の皆さんの生活は、きっと目が回るように忙しい毎日でしょう。私は今まで、さまざまな状況のいろいろな女性たちを見てきました。道路の補修工事に従事する中国の女性たち。畑仕事をするヨーロッパの女性たち。また道を掃くアジアの女性たちも目にしました。でも、私の意見では、モルモンの女性ほど働き者の女性は、世界でもあまり類がないと思います。モルモンの女性は庭仕事をして、できた野菜を瓶詰めにします。裁縫もすれば、安売りの店を探して買い物もします。心臓協会の募金活動のボランティアもしますし、近所の出産したばかりの女性や病気の人たちに食事も届けます。年老いた両親の世話もすれば、カブスカウトの男の子たちとティンパノゴス山にも登るし、リトルリーグの試合を観戦します。娘のジェニーのピアノ練習にも付き合います。神殿奉仕もするし、日記の記入の遅れを取り戻さなくてはと、心配もします。日曜日の朝、人によつ



ては8時半という早い時間に、皆さんは清潔に身支度を整えた子供たちを引き連れて教会にやって来ます。腕いっぱい荷物を抱え、よその子供たちを教えるに教室に向かう皆さんの姿を見るとき、私の胸は誇らしさでいっぱいになります。皆さんは、ほとんど人手を借りずに家をピカピカに磨き上げ、夜に夫が仕事から帰宅するころには魅力的な妻に変身しようと努力しています。でも、若い母親の皆さん、どうぞ忘れないでください。皆さんは今、神が望んでおられる働きをしているのです。この機会が与えられていることに感謝してください。」(メアリー・E・ストーバル、キャロル・コーンウォール・マジソン共編「信仰深い女性たち——BYU女性の大会講演集」1989年、p. 5)

母親という召しは、どんなものよりも高尚で、重要な召しです。

ヒンクレー姉妹、あなたは私たちにあって素晴らしい模範です。主は、私たちがこの世にいる間、成長し、進歩し続けることができるよう真理を啓示されましたが、あなたはその真理を熱心に探求してきました。その真理を知る意欲のために、福音を勉強し続けてきました。また、機会があるごとに、

定期的にインスティテュートに登録し、知識を深めようと努力してきました。あなたが話をし、教えるときに、その福音の知識の深さが明らかになります。特に、専任宣教師の前に立つとき、それが顕著に見られます。姉妹の真価が発揮されるのはその時です。宣教師たちの霊が鼓舞され、あなたの教えにこたえる有り様には、素晴らしいものがあります。

ヒンクレー姉妹、女性の役割について大きな混乱が存在する現在、あなたは人生に正しいバランスを見いだそうと苦しんでいる人たちにとって、よい模範となっています。そんな人たちには、ご自分の人生を振り返って80歳というのは素晴らしい時だと言い切るあなたの声に耳を傾けてほしいと思います。それはきっと、あなたの人生が、素晴らしい業績と成長に彩られ、理解と信仰をもって夫を支えてきた、満ち足りたものだったからでしょう。あなたは以前このように言いました。

「世間のうわさとは違うかもしれませんが、ある程度健康でさえあれば、この年代こそ黄金時代といえるのですよ。同年代の皆さん、この年になるとだれとも競争することがないでしょう。人に自分を証明して見せる必要もありません。要は楽しむ年代なのです。皆さんの中にも、子供たちにこんな素晴らしい時代はない、と言ったことのある人がたくさんいらっしゃるはずです。」(「王国を築く」p. 10)

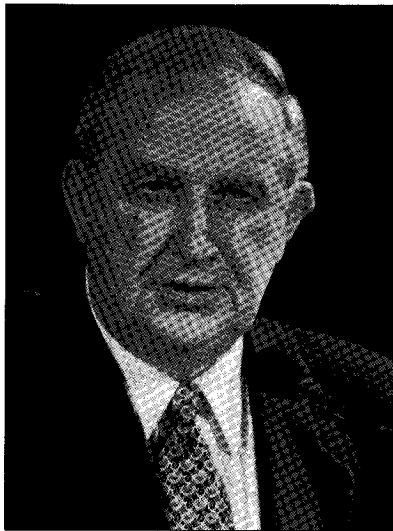
ヒンクレー姉妹、先日ソルトレーク神殿に十二使徒が集まりヒンクレー大管長を教会の大管長として聖任し、任命した時、大管長はあなたに最高の賛辞を贈りました。私の記憶に残っているのは次のような言葉です。「妻は強い信仰の持ち主であり、素晴らしい母親です。心から妻を愛しています。」

ヒンクレー姉妹、あなたは私たちみんなにとって素晴らしい模範です。主が姉妹を祝福して、健康と長寿を賜わりますように。また、私たち一人一人に、救い主と福音へのあなたの熱い思いが伝わりますように。へりくだり、イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

ゆる 赦しを得る

十二使徒定員会会員
リチャード・G・スコット

悔い改めの段階は……清さ、心の平安、自尊心、希望をもたらし、ついに、新たな生活と豊かな機会に恵まれた新しい人を生み出すのです。



最近、初めての道を通っていた時、「前方に悪路」と書かれた大きな仮設の標識が目に入りました。ほんとうにそのとおりでした。この警告がなかったら、ひどい目に遭っていたことでしょう。人生もそれに似ています。起伏の激しい時期がたくさんあります。あるものは私たちを強める試練であり、またあるものはみずからの不従順から生じます。私たちが個人の生活の中で受ける有益な警告も、私たちを災いから救ってくれます。損壊した道路はすべての人にとって同じ障害となり、だれかが補修するまで同じ状態が続きます。でも、人生という道は違います。私たち一人一人が、成長のために独自のチャレンジに遭遇するのです。また私たち自身の誤った選択も、その道にもっと多くの障害を置くことにつながります。しかし私たちには、道を平らにし、くぼみを埋め、自分のこれから

進む道を美しく整える能力が備わっています。その過程は悔い改めと呼ばれ、ゆるしへとつながっています。

もしも皆さんが数々の警告を無視したため、悪路によって人生が損なわれたり、台なしになったりしたとしても、得られる助けがあります。その助けによって、皆さんは損なわれた人生を繕い、やり直すことができるのです。皆さんは再出発できます。皆さんの進路を、墮落し曲がりくねった失意の道から、平安と幸福に通じる高速道路に変えることができるのです。

私は、皆さんがそのような平安を得るうえで、助けになりたいと願っています。そのためには、まず背景となる知識を紹介する必要があります。そうすれば、道を正す方法がもっと論理的なものとなり、癒しに向かう段階がもっと意義深いものとなるでしょう。

私たちがなす間違った選択、すなわち私たちが犯す罪はみな、永遠の律法への違背です。それは、たいていすぐに認識できるような否定的な結果をもたらします。一方、意識せずに行なったことが何らかの結果を招いてしまうこともあります。たとえ無意識の行動であっても、その結果からは免れられないのです。それらは現世での私たちの生活の質に著しい影響を及ぼし、次の世にあっても強力な影響をもたらします。永遠の律法を破った場合、自分自身で正義の要求を満たすことは一切できません。正義の要求に対する支払いが行なわれないがぎり、私たちは皆、いつまでも否定的な結果を被るのです。

このような状態から私たちを解放してくれるのは、イエス・キリストの生

涯と教え、そして何より贖罪だけです。ほかに道も方法もありません。私たちは皆、大小を問わず数々の過ちを犯しており、それが解消されなければ、神のみもとに戻ることはできません。だからこそ、イエス・キリストの贖罪は、かつてあった出来事、あるいはこれから起こる出来事の中で最も重要なのです。無限の結果をもたらすこの無私の行為は、栄光あるただひとりのお方によってなされたものであり、天の御父のすべての息子と娘の人生に、例外なく永遠にわたる影響を及ぼします。それは死のかせを砕き、私たちが最後に主から裁きを受けることを正当とします。それは永遠が悪魔の支配下に入ることをないようにします。それは、悔い改めと従順を通して赦しを得た、ふさわしい人々のために、昇栄と永遠の生命への門を開きます。

贖い主は正義に照らして皆さん個人の罪を精算し、悔い改めという憐れみに満ちた方法で赦しを与えてくださいます。贖罪が皆さんの人生に完全な奇跡をもたらすには、じゅうぶんな悔い改めが不可欠です。神は、誤った道を歩む人々を迫害するのを喜びとするようなねたみ深いお方ではありません。贖罪について理解を深めるなら、そのことが一層よくわかるでしょう。神は私たちの御父であり、あらゆる面で完全で、慈悲の心に富み、思いやり深く、忍耐強く、寛大なお方です。神は私たちの懇願を快く聞き入れ、勧告を与え、強め、高め、励ましてください。また、私たち一人一人をこのうえなく愛してくださっているのです。完全で、罪のない、絶対的に従順で、完全に義にかなった御子に、筆紙に尽くしがたい苦悶と苦痛を味わわせ、全人類のためにご自身を犠牲とするよう命じられました。世界は、絶対的な正義が支配することにより秩序を保っています。私たちは贖罪のおかげで、そのような世界で生活を続けられるのです。正義が、イエス・キリストの教えに従うことによって得られる憐れみによって和らげられるからです。

私たちの中で悔い改めの奇跡を必要としない人がいるでしょうか。皆さん

の人生が数々の間違いによって少し傷ついていようと、ひどく損なわれていようと、回復のための原則は同じです。しかし、治療の長さやつらさは、状況に応じて異なります。確かに私たちは赦しを目標としなければなりません。そしてその目標に到達できる唯一の道は、悔い改めです。そのことについては次のように記されています。「身代りの贖罪をなしたもうはずのイエス・キリストによらなければ、人が依り頼んで救われる道も方法もない……。

主……はその民を贖うために……降臨したもうが、民を罪のあるままには贖いたまわらない。……

もしも人々が悔い改めるならば、主はこれをその罪から贖う権威と能力とを御父から授かりたもう。」⁷

救い主への従順と信仰は、誘惑に抵抗する力をもたらします。ヒラマンはこう教えています。「お前たちは神の御子でキリストである私たちの贖い主の岩を基にしなくてはならない……。贖い主の岩を基にするならば、悪魔がその大風を吹かせ〔る〕とき、また悪魔の雹と暴風雨とがお前らを打つとき、悪魔はお前らに打ち勝って……永遠の悲惨にお前たちをひき落す能力はない。なぜならば、お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである……。」⁸

赦しは悔い改めを通してもたらされます。では悔い改めとは何でしょうか。悔い改めはどうすれば成し遂げられるのでしょうか。その結果はどうなるのでしょうか。簡単な質問のようですが、多くの人々が悔い改めの方法を知らないことは明らかです。

スペンサー・W・キンボール大管長は「赦しの奇跡」の中で、悔い改めを通して赦しに至るすばらしい指針を与えています。それは、多くの人々が戻る道を見いだす助けとなってきました。彼は以下のような悔い改めの5つの基本要素を明らかにしています。

罪を悲しむ。主が皆さんの過ちをどれほど重大なものとしておられるか、調べ、深く考えてみてください。そうすることは、癒しへと導く悲しみと自責の念をもたらします。またそれは、

変わりたいという心からの望みと、赦しを得るためのあらゆる条件に進んで従おうとする気持ちを生じます。アルマはこう教えています。「これによって正義はその一切の要求を満すことができ、憐みを受けるに足る一切の人々に憐みが及ぶ。それであるから、真心から悔い改める者のほかには誰も救われることができない。」⁹

罪を捨てる。これは、背罪を繰り返さないという決心を、断固とした、永続するものとする事です。この決意を持ち続けるなら、罪を犯したことへの後ろめたさを再び感じる必要がなくなります。しかし、次のことを覚えておいてください。「罪を犯す者には前の罪彼に返るべし……。」¹⁰ ジョセフ・スミスはこう述べています。「悔い改めは、毎日もてあそぶような事柄ではない。毎日過ちを犯し、毎日悔い改めるようなことは、神の目によしとされない。」¹¹

罪を告白する。皆さんは自分の罪をいつも主に告白する必要があります。不道徳のような重大な背罪であれば、監督やステークホルダーに告白しなければなりません。しかし、ぜひ理解していただきたいのは、告白が悔い改めそのものではないということです。告白は、確かに欠くことのできない段階ですが、それだけではふじゅうぶんなのです。小さな過ちだけに触れた部分的な告白は、もっと重大な、隠れた罪を取り除く助けとはなりません。赦しに不可欠なのは、行なったすべてのことを、自発的に主に、また必要な場合は主に召された判士である神権指導者に、すべて打ち明けることなのです。次の言葉を覚えておいてください。「その罪を隠す者は栄えることがない、言い表わしてこれを離れる者は、あわれみをうける。」¹²

罪を償う。盗んだものや損害を与えたもの、汚したものを可能なかぎりすべて元どおりにしなければなりません。自発的な償いは、皆さんができるかぎりのことをすべて行なって悔い改めようと決意していることを、主に具体的に示す証拠となります。

すべての戒めに従順に従う。心から

従順になることにより、皆さんの生活に福音の完全な力が及び、特定の罪を捨てることに絶えず心を開ける強さが与えられます。やがて、集会に出席する、什分の一を納める、奉仕をする、ほかの人を赦すなど、最初は悔い改めを要すると感じていなかったかもしれない事柄にも心が向けられるようになります。主はこう言われました。「悔い改めて主の誠命を行う者は赦される。」¹³

さらに私は、6番目の段階を追加したいと思います。それは**救い主を認める**ことです。悔い改めに必要とされるすべての段階の中で最も大切なのが、赦しは贖い主のおかげで与えられるという確信を持つことであると、私は証します。贖い主の同意があつてこそ赦しが得られるということを知る必要があるのです。アルマはこう宣言しています。「私は……身も霊も劇烈な苦痛を感じ、主イエス・キリストに憐みを願い求めるまでは少しも罪の赦しを受けなかったが、イエス・キリストに祈り求めたら私の身も霊も安らかになって慰めを得た。」¹⁴ 皆さんも、**イエス・キリストを信じる信仰**を行使するなら助けを得られるでしょう。¹⁵ すなわち、イエス・キリストを信頼し、またイエス・キリストの教えを信頼するのです。サタンは私たちに、重大な罪を完全に克服することはできないと思い込ませようとします。しかし救い主は、罪のない者の血を流すことと聖霊に逆らうことを除いて、あらゆる罪の影響が私たちに及ばないように、ご自身の命を捧げられたのです。

まことの悔い改めの実は赦しです。そして赦しは、この地上に備えられているすべての誓約と儀式を受けて、それに伴う祝福を享受するための門を開きます。悔い改めた人がバプテスマを受けるとき、以前のすべての罪は赦され、それを心に留める必要はなくなります。じゅうぶんな悔い改めがなされ、人が清められると、人生の新しい展望と栄えある可能性が生じます。主の約束はなんとすばらしいものでしょう。「見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはや



これを忘るべし。」¹⁶主はご自身の言葉に忠実であり、これからも忠実であられることでしょう。

皆さんの罪をほかの人がだれも知らないからといって安心しないでください。これは砂の中に頭を隠したダチョウのようなものです。ダチョウは暗闇だけを見て、隠れることができたと安心します。しかし現実には、愚かな格好でだれの目にも映っているのです。同様に、私たちの行ないはことごとく、天におられる私たちの御父とその愛子に見られているのです。おふた方は私たちについてすべてのことをご存じです。

姦淫、不貞、同性愛、そのほか重大さにおいてこれらに類似した倒錯行為は、生き方のひとつとして受け入れられるようなものではありません。これらは重大な罪です。肉体的また性的な虐待を行なうことは、大きな罪です。このような重罪に対して赦しを得るには、真剣な悔い改めが必要です。キンボール大管長はこう教えています。「あらゆる赦しには条件がある。しっくいはその落ちた箇所を全部覆ってしまうまで塗らなければならない。断食と祈りと謙虚な態度は犯した罪にじゅうぶん見合うだけのもの、あるいはそれ以上のものが必要とされる。」¹⁷「神が少しばかりの懇願で重大な罪を赦してくださるとは考えられない。長

い期間の継続した悔い改めがあるまで、神はお待ちになるであろう。」¹⁸

重大な罪を犯しておきながら、その行ないから永続する満足や慰めを見いだせる人は決していないでしょう。罪を隠し、言い訳をすることでなんとか切り抜けられたと思う人がいるかもしれませんが、そうではありません。サタンは、皆さんが最も人に知られたくない行為を、最も大きな害の及ぶ時を見計らって、公にしようとしています。偽りは、皆さんをがんじがらめにする鎖となり、またサタンが皆さんを陥れるわなとなります。

時折、悔い改めの段階は、最初はむずかしく、苦痛を伴います。それは汚れた衣服を洗うのに似ています。しかしそれらは、清さ、心の平安、自尊心、希望をもたらす、ついには、新たな生活と豊かな機会に恵まれた新しい人を生み出すのです。

次の聖句は、皆さんが何をしたらよいかを知る助けとなるでしょう。「しかし謙遜な人たちはたびたび断食して祈り、ますますへりくだっていよいよ固くキリストを信仰したから、喜びと慰めとがその心に満ち〔た。〕……これらの人がその心を全く神に従わせたからできたのである。」¹⁹

最後に、私は真心から皆さん一人一人にお勧めします。自分の生活をよく

見直してください。皆さんは、幸福をもたらすとわかっている標準から外れたことはありませんか。心の片隅に掃除の必要な場所はありませんか。皆さんは今、悪いとわかっている事柄をしてはいませんか。清くない考えで心を満たしていませんか。冷静に、またじっくりと思い巡らしてみると、良心が皆さんに悔い改めを告げませんか。

もしそうなら、この世で平安を得るために、また永遠の幸福を享受するために、どうか悔い改めてください。主に向かって心を開き、助けを求めてください。そうすれば、皆さんは祝福されて、赦しと平安、また自分が清められ、完全にされたという知識を得られるでしょう。今、悔い改める力を主に願ひ求める勇気を得てください。私は、イエス・キリストが贖い主であることを厳粛な思いを込めて証いたします。主は生きておられます。イエス・キリストが皆さん一人一人を愛しておられ、皆さんを助けてくださることを証します。

今、悔い改めることによって主の赦しを得てください。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

注

1. モーサヤ 5 : 10-13 参照
2. II ニーファイ 2 : 10 参照
3. II ニーファイ 9 : 7-9 参照
4. II ニーファイ 2 : 5-8 参照
5. アルマ 42 : 15 参照
6. ヒラマン 5 : 9 参照
7. ヒラマン 5 : 9-11 (下線付加)
8. ヒラマン 5 : 12
9. アルマ 42 : 24
10. 教義と聖約 82 : 7
11. 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 p. 148
12. 箴言 28 : 13
13. 教義と聖約 1 : 32 (下線付加)
14. アルマ 38 : 8
15. アルマ 11 : 40; II ニーファイ 9 : 22-24 参照
16. 教義と聖約 58 : 42
17. 「赦しの奇跡」 p. 364
18. 「スペンサー・W・キンボールの教え」 エドワード・L・キンボール編 p. 85
19. ヒラマン 3 : 35

誓約を記念する

中央若い女性第二副会長
ボニー・D・パーキン

誓約によって私は、目先のことにとらわれず、大きな視野に立って物事を見られるようになりました。誓約によってほかの人々の生活に影響を与えられるようにもなりました。



ヒンクレー大管長、私は若い女性指導者のひとりとして、若い女性全員の気持ちを代弁させていただきます。私たちは予言者であるあなたを愛し、助け、支持しています。

愛する兄弟姉妹の皆さん、私は召しを受けて早くもこの壇上に立っていますが、まるで雪解け水のたまった湖に投げ込まれたような気持ちで、まだまだ慣れるのに時間がかかりそうです。私には4人の息子がいます。息子ばかりですから、中央カブスカウトのデンマザーに召されてもおかしくないところですが、でも今回この召しを頂いたおかげで、娘が欲しいという長年の夢は二重にかなえられました。4人のすばらしい嫁と世界じゅうの50万人の若い女性たちという、すばらしい娘を与えられたからです。天父は個性を持った皆さん一人一人をよく知っていらっ

しゃいます。どうして私にそれがわかると思いますか。それは天父がやさしいみ手を伸ばして、私、ボニー・パーキンを支え、助けてくださったからです。御子の光が私の心を温かく包んでくださったからです。また約束や誓約を交わし、守ることによって私の人生が変わったからです。

誓約によってあなたの人生は変わりましたか。あなたは誓約を記念していますか。

先日、初孫のジョーダン・エミリーが子供の祝福を受けるので、カリフォルニアのパサデナへ行きました。これはふたつの理由で特別な経験でした。ひとつは、それまで主人と私はパーキンの家系には女の子は生まれないと考えていたため、そしてもうひとつは、この祝福はジョーダンが神の娘としてこの地上で最初に踏み出す第一歩だったためです。私は彼女の中に秘められた可能性に思いをはせ、大きな喜びを感じました。

ジョーダンは恵まれた子供です。神殿で結び固めを受けた両親の元に、新しくかつ永遠の誓約の子として生まれました。もし両親がこの誓約に忠実であり続けるなら、ジョーダンはその恩恵として平安や愛にあふれた家庭で保護と理解を受けながら成長していけるでしょう。誓約の子として生まれる特権は必ずしもすべての教会員のもものではありません。しかし、誓約の祝福はふさわしい人であればだれでも受けることができます。

幼いジョーダンが忠実な末日聖徒として歩む人生が、神権の祝福から始

まって、神の子としてバプテスマの誓約を交わし、若い女性としてその最初の誓約を守り、さらに神聖な誓約を交わして守るふさわしさを身につけ、女性として神殿で誓約を交わし、妻として約束の聖きみたまによって結び固められ、そして最後に昇栄した神の娘として天父のみもとに帰り、そのみ腕に抱かれるまでのすばらしい旅となるように願っています。これは、私たちが聖徒として歩む旅路でもあります。

誓約を交わし、守ることについてよく話されますが、実際、それはどうしたことなのでしょう。バプテスマの時、私たちは「互いの苦難を軽くするために喜んで助け合うこと、悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、慰めが要る者を慰めること、……いついかなる時でも、どのような所に居ても、どんなことについても……神の証し人になりたい」という決意を表わします。(モーサヤ18:8-9) これはほんの最初の1歩であり、神殿ではさらに、従順であり、犠牲を捧げ、己れを清くふさわしく保ち、真理を宣べ伝え、純潔を守り、祈り、福音に従って生活し、そして永遠にわたって忠実であることを誓約します。

天父は私たち一人一人をよくご存じです。私たちが主と交わす誓約はひとりずつ個別に行なわれます。ハワード・W・ハンター大管長はこのように言いました。「私が常に感銘を受けてきたのは、主は私たち一人一人と個別に交わられるということです。私たちは教会で多くのことを集団で行ないません。……しかし……最も重要な事柄はすべてひとりずつ行なわれます。子供の祝福は、双子であろうと三つ子であろうと、ひとりずつ行ないません。バプテスマもひとりずつ、聖餐を受けるときも、神権を授かるときも、神殿で儀式を受けるときも、ひとりずつ、自分と天父との関係を強めながら行なうのです。天では個人個人、一人一人に重きが置かれます。」(『永遠の投資』「教会教育部職員への説教」1989年2月10日) このようにして一人一人が天父と直接交わした約束はまさに、記念すべきものであり、聖別すべきものです。

アルマが人々に誓約を交わすように勧めた時、どんなことが起こったか覚えていますか。彼らはそれを記念しました。「その手を叩いて」喜んだのです。でも、誓約が特権というより義務のように感じられることが多いのはなぜでしょう。

皆さんは最近聖餐を受けたとき、どのように感じましたか。バプテスマフォントや神殿で交わした誓約について思い巡らしたでしょうか。私たちは聖餐を通して誓約を新たにできます。そうすることにより、私たちが敬意をもってきちんと誓約を守るなら、初めてバプテスマを受けたときのように清く、新鮮な気持ちになれます。また新郎新婦のように神殿の結び固めに対して真心からの忠実を胸に抱き、子供の祝福を受けた幼いジョーダンのように神の深い愛を感じることができます。誓約は私たちを新たにしてくれます。

誓約によって私たちの日々の行ないは変わっているでしょうか。そうでなければなりません。それがむずかしい場合があっても、努力し続ける必要があります。

大きな困難に遭っても誓約を固く守ることによって自分を新たにし、次の世においてだけでなく、この世にあっても平安を見いだしている、多くの聖徒たちの経験を耳にします。誓約を守ることは、誓約を破ることと同じように、習慣になるからです。

私たちは皆、悪や不正、苦痛の犠牲者となります。ある姉妹はご主人が彼女に忠実でなかったために何年もの間苦しみ、悲しみました。誓約に忠実であり続けたため、それを乗り越えることができました。

人生には荒海もあれば、静寂な海もあります。イテルは「このような望みは信仰から生じて人の心の錨になるものであるから、この錨のために人はしっかりとびくともせぬようになり、いつも多くの善い行いをして神を崇めるようになることができる」と言っています。(イテル12：4) 誓約という錨は私たちを堅い地面にしっかりと立たせ、あらしの中でも、神からの約束に永遠の意義を与えるだけでなく、今



現在にもそうした約束をなくしてはならないものになっています。誓約によって「贖いを与える愛を讃美する歌を唱いたい」という気持ちになったことがありますか。(アルマ5：26)

ある扶助協会の集会で、姉妹たちは若い人々に誓約を交わし、守るように教えるにはどうしたらよいかを話し合っていました。ある姉妹は10代の娘のことで非常に悩んでいました。話し合いの中で信仰、祈り、よい模範、聖典といった意見が出されるのをじっと聞いていた彼女は、とうとうたまらなくなって自分の気持ちをぶつけました。「そういうことは全部やってみました。でもうまくいきません。」そして静かに「今、私たちを結びつけてくれているのは、愛です。それしかありません」と付け加えました。このすばらしい姉妹は、「(娘に対しても)愛ある人になる」という誓約を守ってさえいれば、必ず何かが変わると信じていたのです。そしてそのとおりになりました。

若い女性のキャンプに参加したケイティは、家族の深刻な問題を抱えて憤りを感じ自暴自棄になっていました。

あかし証は揺れていました。その時、彼女の心を心配した指導者は、その聖なる召しにふさわしい行ないをしようとして、手紙を書きました。「あなたを愛しています。信じています。あなたには証があります。今から書くことはみんなあなたが証してくれたことです。」それに続いて彼女がした証の数々が挙げられていました。誓約に忠実であろうとした指導者からの時宜にかなったこの手紙によって、ケイティは力づけられ、彼女自身もまた誓約に忠実であることができました。

私のワード部にいる高校生のマークは、つい最近断食証会で誓約を守って生活するための力をどのように得ているか話してくれました。その秘訣は簡潔で、覚えやすいものでした。「聖典を毎日読めばサタンは去る。」

誓約を守るとどんな報いが得られるでしょうか。心温かいベンジャミン王はこう語っています。「お前たちの結んだ誓約のためにお前たちはキリストの子と呼ばれ……お前たちはキリストと言う頭の下にあって自由を得た。」(モーサヤ5：7-8)そして私たち

は「神に贖われ第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の生命を得る」ことができるのです。(モーサヤ18:9)

兄弟姉妹の皆さん、私たちは誓約を守ることにより、くびきを負ってくださるお方、重荷を軽くしてくださるお方であるキリストを思い出すことができます。

誓約を完全に守っていないからといって落胆しないでください。救い主は私たちが約束を守ることを強く望まれて、永遠の贖いを備えてくださいました。今あなたの心が贖いを与える愛の歌を歌っていないならば、誓約に立ち戻り、記念してください。私の初孫のように、あなたも清くなれるのです。誓約を新たにすることによって、まるで暑い日に氷水を浴びたときのように目が覚めるでしょう。そして、世界じゅうの何百万という教会員がどんな試練に遭おうとも日々誓約を守っている点を忘れないでください。あなたにもできます。

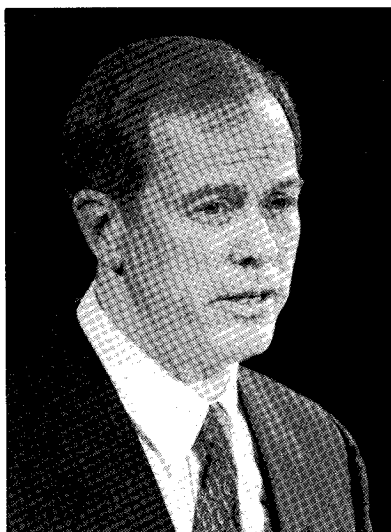
きょう、私が話した中でひとつだけ覚えていただくとすれば、誓約を固く守り、それを記念するということです。私にとって誓約は信仰の表われであり、きょう私がここに立っているのもそのためです。誓約によって私は、目先のことにとらわれず、大きな視野に立って物事を見られるようになりました。息子たちが宣教師として伝道の業に携わった時、私は誓約が主のみ業を押し進めるのを目にしました。誓約によってほかの人々の生活に影響を与えられるようにもなりました。私はどんなことがあるかと神と交わした誓約を曲げることできません。誓約によって容易に正しい選びができるようになります。私たちの人生で誓約がさらに大きな力と喜びの源となるよう、へりくだってお祈りします。それによって、私たちが正しく、揺るぎない人生を歩めますように。主のみ手が必要なときには、その助けがいつもありますように。主が私と交わしてくださった誓約を心から大切に思い、それに忠実に生きられるように心から願っています。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

復活祭の思い出

七十人

アンドリュー・W・ピーターソン

「神がわたしたちに下さったのは、臆する靈ではなく、力と愛と憤みとの靈なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること〔を〕決して恥ずかしく思ってはならない。」(Ⅱテモテ1:7-8)



あと2週間もすると復活祭を迎えます。私たちがイエス・キリストに心を向け、思いをはせることができるように願っています。多くの人々にとってこの復活祭はいつもの復活祭と変わりなく過ぎていくでしょうが、ある人々にとっては臆想し、記憶を呼び覚まし、感謝する時期になるでしょう。

27年前、私は宣教師としてアルゼンチン北伝道部で働いていましたが、その時迎えたある特別な復活祭を今でもはっきりと覚えています。私たちの伝道部は南ボリビアに宣教師を派遣していましたが、1968年に私は、南ボリビアにあるアルティプラノ山のふもとのクイリザという小さな村で、その復活祭の日曜日を過ごしました。村人が復活祭の支度をしていた光景、あの時の雰囲気や音楽、気分は今も忘れられま

せん。

その復活祭の日曜日の朝早く、アルゼ長老は私にある求道者の家族を訪問しようと提案しました。私たちはすぐにその家に向かいました。その村の舗装されていない道の両側にはメキシコ特有のれんが造りの家並みが続いていました。私たちはその家に着くと、いくつかの大切な質問について復習しました。土の床に絵を描きながら、私たちはどこから来たのか、またなぜこの世にいるのか、そして死んだ後どこへ行くのかについて再び語ったのです。そこにはみたまがありました。バプテスマを受けるように勧めると、彼らはそれを受け入れました。その日の午後、すばらしいバプテスマ会が開かれ、私たちは近くのサンホアンデオロ川の濁った水の中でバプテスマを施しました。南アメリカは季節が反対で、こちらが春の時に、向こうは秋になります。

彼らは衣装を着替えるため、刈りたてのとうもろこしの茎の陰に隠れると、白い美しいバプテスマの衣装を身にまとして出て来ました。彼らの褐色の肌と黒い髪、そして輝くばかりの笑顔は、今でも私の脳裏に焼きついて離れません。すべての人が主のみもとへ来るようにという、キリストの招きがだれにでも当てはまることを思うと、あの復活祭の日曜日に味わった感動がよみがえり、今でも目頭が熱くなります。

私は宣教師として主のみ名のために人々の間で働いていた時、主が地上で弟子たちに話された言葉を思い出しました。主は「わたしにはまた、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼

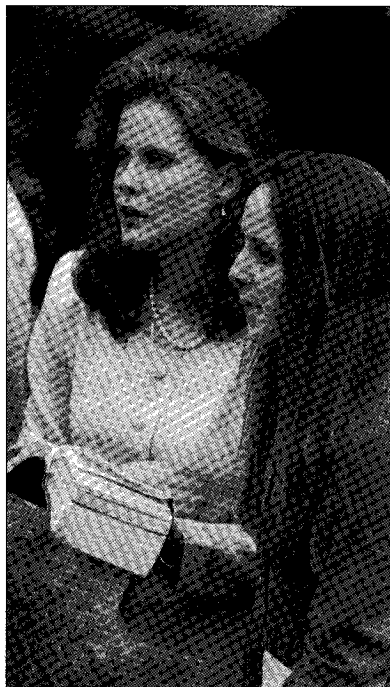
らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼^{ひつじかい}となるであろう」と言われました。(ヨハネ10:16)

アルゼンチンに帰るためボリビアのクイリザを離れる時、私たちは特別な祈りを捧げました。星空の下、愛する同僚とともに土のサッカー場にひざまずき、交替で心から天父に祈りました。その土地の人々、また伝道部長に対して抱いている心からの愛と感謝を私たちは捧げました。宣教師として働く特権に感謝し、これからも人々を助けることを天父に約束したのです。

伝道後も、宣教師の時代に交わした主とのこの約束を果たす機会に恵まれました。伝道地から帰還すると、私は高校時代からの恋人であったクリスティーン・スウェンセン姉妹と結婚しました。彼女は私のすばらしい伴侶^{はんりゆう}であり、私は心から彼女を愛しています。彼女は正看護婦として働き、ふたりが歯科大学を卒業するまで家計を支えてくれました。卒業を間近に控え、私たちは6回目の結婚記念日を迎えましたが、まだ子供がありませんでした。しかし扉が開かれ、その機会が訪れたのです。愛する大切なアシユレーが私たちの元にやって来ました。1年後、私たちはボリビアへ行き、孤児院からジョシュアを養子に迎えました。ジョシュアは当時2歳でしたが、かわいい小さな男の子が、私に手を伸ばして「パパ、パパ！」と言いながら歩いて来る姿が、今でも目に浮かびます。

次に、ミーガンが我が家に来た時、生後24時間もたっていませんでした。そしてボリビアに戻って初めてダニエルを抱いたのは、彼が5カ月の時でした。

数年後、メキシコのメリダ伝道部を管理している間、ジェニファーが家族に加わりました。彼女はメキシコで生まれた、生後2週間の愛らしいグアテマラ人の赤ちゃんでした。彼女はメキシコ南部の宣教師や会員たちからとても愛されました。そして、伝道が終わる3週間前にナタリー・ジョイが私たち家族の元に来ました。彼女がこの家族に加わるべきであったという、私た



ちの受けた証^{あかし}をずっと後まで思い出せるように、私たちは彼女の名前を「ジョイ」と名付けました。結婚して16年間に6人の養子を迎えてから、アンとアンドリューが私たちの間に生まれ、ほかの子供たちにも喜びと幸福をもたらしました。私たちはイエス・キリストの教会員に与えられる、神殿の永遠の結び固めの効力に心から感謝しています。

1968年の復活祭に、ボリビアの星空の下で主と交わした特別な誓約を胸に秘め、妻のクリスと私は、毎日子供たちを抱き締め、すべての子供たちに対する神の愛を深く心に感じてきました。そして、1968年の復活祭と同様、この1995年の復活祭も決して忘れられないものとなるでしょう。

6カ月前、私たちは教会員としてワード・W・ハンター大管長を末日聖徒イエス・キリスト教会の第14代大管長として支持しました。私はその大会で新しい七十人として支持されました。今年の3月初めに入って、ハンター大管長が亡くなりましたが、大管長の記憶は私の心の中に鮮明に残っています。ハンター大管長は私が任命される際、私の子供たちに次のような言葉をかけてくれました。「私たちは皆さんを愛しています。ここでは気持ちを楽にし

てください。私たちを家族と同じように思っしてほしいんです。」私たちの任命を済ませると、ハンター大管長、ヒンクレー副管長、モンソン副管長は子供たち一人一人と握手してくれました。なんと恵まれたひとときだったでしょう。任命後6カ月を経た今、私はこうしてタバナクルで皆さんの前に立ち、初めて教会幹部として話しています。

そしてゴードン・B・ヒンクレー大管長が、末日聖徒イエス・キリスト教会の第15代大管長として支持されました。

27年前、ゴードン・B・ヒンクレー長者は南アメリカを訪問して、宣教師に話をしてくれました。当時、ヒンクレー長者は使徒に召されてわずか7年目で、今より若い時期でした。ひとつの聖句を示して、チャレンジをしました。それはテモテへの第二の手紙の、「神がわたしたちに下さったのは、臆^{おく}する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしをすること〔を〕決して恥^{かたじけなく}ずかしく思っはならない」という聖句でした。(1:7-8)

ヒンクレー長者は宣教師たちに、臆せず、イエス・キリストに対する証を決して恥じないように勧告しました。その勧告は当時宣教師だった私に大きな影響を与え、今も同様に、私や皆さんに重要な意味を持っています。主は、臆することなく力と愛と慎みに満ち、主への証を決して恥じない新しい予言者を立ててくださいました。予言者は模範によって、それを私たちに教えています。

この復活祭が、^{めいそう}瞑想し、過去を振り返り、感謝を捧げる時期となりますように。願わくは、王国の鍵^{かぎ}を持つ予言者の勧めに従うと私たちが決心できますように。人々に親しまれている賛美歌の中に、次のような歌詞があります。

「心に光あり 主はわが光、
この世の空よりも なお輝く……」
(賛美歌139番)

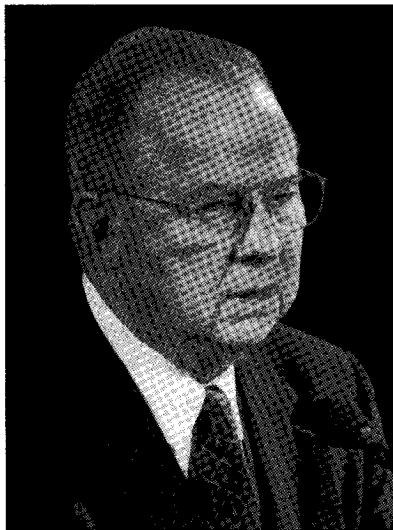
確かにイエスは私の光です。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

愛に囲まれた食卓

七十人

リブランド・R・カーティス

テレビを消して、食卓を囲み、ひざまずいて祈り、助けを願い求め、天父の数々の祝福に感謝する家族に、どれほどすばらしい成長の機会が秘められているか考えてみてください。



家庭の大切さについて書かれた本は、たくさんあります。故ロムニー副管長は、「社会に見られる悪性の病は、家庭の基盤が揺らぐことにその端を発する」と語りました。きれいな家具のそろった大きくて豪華な家に住んでいる家族もあるかと思えば、家具もほとんど見当たらない小さくて質素な家に住んでいる家族もあります。しかし、住んでいる家のいかにかわらわず、賛美歌にあるように「愛ある家は、み国を映す」のです。(賛美歌186番)

家庭の中で目にする最も大切な家具のひとつは、食卓です。大きな食卓もあるでしょうし、小さな食卓もあるでしょう。また、食べ物や食器を置くスペースがほとんどないような小さなカウンター式の食卓もあるでしょう。ただ、どんな食卓であれ、そのいちばん

大きな役割は、家族一人一人に栄養を与えることではないかと思います。

きょうは、この食卓が持つもっと大切な役割についてお話ししたいと思います。それは、肉体に栄養を与える役割よりもっと大切な役割です。

普通、家族には年齢の違うふたり以上の人があります。家族全員は、ともに食事をするだけでなく、できることなら全員で祈り、語り、耳を傾け、きずなを深め、学び、成長する必要があります。ヒンクレー大管長の次の言葉は至言です。「私の願いは、もっとうまく語りたいのですが、子供を救うことです。あまりにも多くの子供たちが苦痛と恐れ、孤独、失意の中を歩んでいます。子供には日の光が必要です。幸福が必要です。愛とはぐくみが必要です。思いやりと励まし、愛情が必要です。家の大小を問わず、すべての家庭が愛という環境を子供に与えることができます。それが救いをもたらすのです。」²

ほとんどの家族の場合、いったん外に出ると、この世のいろいろな力に身をさらすことになります。また家の中でも、ラジオ、テレビ、ビデオ、録音テープなどが持ち込まれ、大きな影響を及ぼしています。

食卓を囲んで福音、聖餐会での話の内容、今月号の「聖徒の道」に出てきた記事、学校であった出来事、総大会の話、日曜学校のレッスン、イエス・キリストとその教えについて話し合ったり、いい音楽と一緒に聴いたりする家族を、心に思い描いてみてください。このほかにも家族でできることはたく

さんあります。両親だけでなく家族全員が、食卓を囲む一人一人の話に耳を傾け、お互いに参加する機会を与え合うというのは賢明なことです。

テレビを消して、食卓を囲み、ひざまずいて祈り、助けを願い求め、天父の数々の祝福に感謝し、愛にあふれる天父について小さい時から教える家族に、どれほどすばらしい成長の機会が秘められているか考えてみてください。家族の祈りを小さい時から経験した子供たちは、やがて自分の家族を持つようになった時にも、家族で祈るようになるはずです。

トーマス・S・モンソン副管長もこう述べました。「主は『汝ら^{なんじ}の妻子が祝福を受くるよう、たえずわが名によりて家族の祈りを御父に捧げよ』(III ニーファイ18:21)と語られた時、家族で祈ることを奨励されたのです。

一緒に主への祈りを捧げている典型的な末日聖徒の家族をのぞいてみましょう。父、母、そして子供たち一人一人がひざまずき、頭を垂れ、目を閉じています。家庭の中には、愛と調和、そして平安が満ち満ちています。『お父さんが神様の戒めに忠実で、正しい行ないをするように』という幼い子供の祈りを聞く父親にとって、その子供の祈りのとおりに生活するのはなんと易しいことでしょうか。また『娘が結婚相手を選ぶに当たって主の導きを受けられるように、また、神殿で結婚をするまでみずからをよく整えることができるように』という母親の祈りを聞く10代の娘が、愛する母親のそのような謙遜な願いに反する行為をしたいと思いますか。また父、母、幼い子供たちが声をひとつにして真剣に、『息子が、(あるいは、お兄さんが)ふさわしい生活をし、やがて教会の宣教師として主に仕えることができるように』と祈るような家族では、その子供たちが宣教師として奉仕することを強く望む若者に成長していく姿が手に取るようにわかるのではないのでしょうか。³

多くの人は、「毎日、一緒に家族の祈りを捧げずに、どうして子供や親をこの世の中に送り出せるでしょうか」と言っています。賢明な両親は1日の

予定を検討し、必ず1度は家族全員で集まり、祈りがもたらす数々の祝福にあずかれるよう計画します。すぐに、小さい子供たちも自分の順番が来たら祈れるようになり、家庭の祈りの大切さを学ぶようになります。

以前、私は次のような話をしました。「家族が愛を示し合う家庭は幸福な場所となるはずで。幸福は家庭で作られると言われます。私たちは自分たちや子供にとって家庭が幸福で楽しい場所となるように努力しなければなりません。福音の教えを中心とした幸福な家庭を築くためには、全員が絶えず努力を傾けなければなりません。」⁴

ある大家族の少年が、自分は忙しいのに毎日の家族の祈りが長すぎる、と文句を言いました。賢い母親は、次の日、その子について何も祈りませんでした。祈りが終わると、その忙しい少年は「お母さん、ぼくのこと忘れたよ」と言いました。お母さんはやさしく、「あなたは長いお祈りが嫌なんでしょう」と説明しました。その忙しい少年は、「ぼくのことを祈り忘れたらだめだよ」と文句を言いました。

食卓を囲んで聖典を開き、真理と教えについて話し合っている家族を想像してください。これこそまさに愛に囲まれた食卓です！

子供たちは学校以外でももっと本をたくさん読まなければならないと、教育専門家は言っています。毎日食卓を囲んで、子供たちと一緒に聖典を読むことで、子供たちに祝福を与えることができます。

家族が全員で食卓に集まる機会を作るには、かなりの調整と周到な計画が必要です。しかし、愛に囲まれ、語り合うことによりお互いのきずなを深め、家族で一致し、家族が霊的に成長すること、これより大切なものがほかにあるでしょうか。いちばん大きな成功は、絶えざる努力から得られるのです。

今日の社会には家族と家庭を破壊しようとする力が満ちあふれています。賢い両親は家族のきずなを強め、家庭の中に霊的な雰囲気を作り出し、イエス・キリストと神殿活動に目を向けようと努力します。ハンター大管長はこ



う言いました。

「私たちが互いにもっと親切にし、もっと礼儀を尽くし、もっと謙遜で、忍耐強く、赦し合えるように祈っています。……2番目に教会員に勧めたいのは、その同じ精神をもって、主の宮居を、教会員であることの崇高な象徴とし、最も聖なる誓約を交わす至高の場所として確立することです。神殿に参入するふさわしさをすべての教会員が身につけること、それが私の心の奥底からの願いです。」⁵

ハンター大管長の願いを実現するうえでいちばんの助けとなるのは、食卓を囲んで行なう日々の活動です。

私たちは、それぞれの家庭で、自分以外の人に対する接し方を学ぶべきです。ゲーテがこのような言葉を残しています。「相手をその現状の姿で受け入れてしまうと、相手は進歩しない。しかし、偉大な可能性を秘めた価値ある存在として接すると、そのあるべき姿の人間に変わっていく。」⁶

パッカー長老は次のように言いました。「天国の要素をいくつか家庭の中に持ち込めば、家族の一人一人が教会活動の中で成長していくことが保証される。もちろん、家庭の夕べはその目的のために用意されている。家庭の夕べは、あらゆる必要を満たすことができるように作られたものであり、教会堂で開かれる集会と同様にきわめて神聖なものである。」⁷ ディーン・L・ラーセン長老も同じようなことを言っています。「私たちが礼拝する場所が

教会の建物だけとは限らないことも強調しておきたいと思います。私たちの家庭も信仰の場でなければなりません。毎日『家庭という教会』へ帰れるとしたら、それはすばらしいことです。主のみたまが最も注がれ容易にそれが受けられる場所は、私たちの家庭でなければなりません。」⁸

私たちの家庭でこれらがすべて実現されるように努力するに当たり、以下のハロルド・B・リー大管長の言葉をよく心に留めておくとうよいでしょう。「主の仕事の中で最も大切なのは、あなたの家の囲いの中で行なう仕事である。」⁹

私は皆さんがそれぞれの家庭と食卓を注意深く見詰め直して下さるよう、また家庭の中に天国の要素をもたらし、イエス・キリストのみもとに来る努力を常に怠らないよう切に祈るものです。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

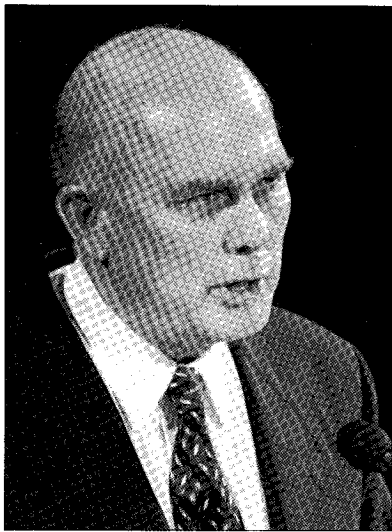
注

1. 「エンサイン」1972年2月号, p.57
2. 「子供たちに救いを」「聖徒の道」1995年1月号, pp.62-63
3. 「完成への小道」p.26
4. 「幸福は家庭で作られる」「聖徒の道」1991年1月号, p.13
5. 「聖徒の道」1994年8月号, ローカルp.3
6. ロイ・ウエスト・エマーソン「名言集」
7. 「エンサイン」1972年2月号, p.71
8. 「霊の時計を巻く」「聖徒の道」1990年1月号, pp.60-61
9. パンフレット「堅固な家庭」p.7

背教と回復

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

末日聖徒イエス・キリスト教会の目的は、すべての神の子供たちがみずからの可能性を理解し、神が備えられた最も輝かしい光栄に到達できるよう、助けを与えることです。



末日聖徒イエス・キリスト教会の教えには、他のキリスト教会の教えと共通したものが数多くあります。しかし違いもあります。私たちがほかのクリスチャンに向けて宣教師を派遣したり、教会堂以外に神殿を建てたりする理由は、その違いの中にあります。また私たちの信仰が、人生の数々の問題や死に立ち向かう力や大きな喜びをもたらしてくれる理由も、この違いの中にあります。きょうは、他の教会の教義になくて、私たちの教会にある重要な教えのいくつかについてお話ししたいと思います。内容は、背教と回復についてです。

昨年、スエズ運河に近いシナイ半島のある所で、ローマ帝国時代の要塞と町が発掘されました。かつては大きな町でしたが、そこは砂漠の砂の中に埋もれ、何世紀の間、その存在すら忘

れ去られていました。(『シナイの砂漠に現われたローマの要塞遺跡』「デゼレトニュース」1994年10月6日号、p.A-20) このような発見は、知識は時の経過とともに増していくという一般的な仮定と相反するものです。事実、大切な真理がゆがめられ、また無視され、ついには忘れ去られていく中で、人々に広く知られていた知識が影を潜めていくことがあります。たとえば、アメリカンインディアンは自然との共生ということでは、多くの点で、現代社会の私たちよりも優れていました。同様に、現代の芸術家や工芸家は、ストラディバリウスのバイオリンのニス塗りのような過去の時代の優れた技術や材料を復元することができません。

ゆがめられ、無視され、忘れ去られてきたいくつかの重要な事柄について知識を回復することができれば、私たちはもっと賢くなれるでしょう。これは宗教上の知識にも当てはまります。またそれは、私たちが主張している福音の回復の必要性についての説明ともなります。

ジョセフ・スミスはこの教会のおもな教えを説明するように求められたときに、現在信仰簡条として知られているものを書きました。その第1条には「われらは、永遠の父なる神と、その御子イエス・キリストと聖霊とを信ず」とあります。予言者は後に、「福音の簡潔な第一原則」には「神の属性を確かに知る」ことも含まれると宣言しています。(『大会議事録』「タイムズ・アンド・シーズズ」1844年8月15日付、p.614) 私たちは神について

の真理と、神と人との関係についての真理から始めなければなりません。ほかのすべては、その後が続いて来ることです。

ほかのクリスチャンのかたがたと同じように、私たちが神会を構成する御父と御子と聖霊を信じています。しかし私たちは、神会のお三方はそれぞれに独立した別個のお方であると証しています。また、父なる神は単なる霊ではなくて、復活された御子イエス・キリストと同じように、触知できる体を持つ、栄光化されたお方です。

今の聖書に記されている教えは、最初予言者を通して人々に知らされた時は「はっきりしていて純粋であり、また非常に貴くてすべての人に解り易いもの」(1ネーフアイ14:23)でした。これまでに私たちに伝えられ、翻訳されてきた聖書でさえも、父なる神と復活された御子イエス・キリストが触知できる体を持つ別個のお方であることを確認しています。そのような教えの中からふたつだけを挙げてみましょう。聖書は、人は神にかたどって創造されたことを宣言し、またイエスのバプテスマの時に、神会の独立したお三方の存在が示されたことを述べています。(創世1:27; マタイ3:13-17参照)

これとは対照的に、多くのクリスチャンは触知できる体を持つ神、人格神、別個のお三方から成る神会という概念を否定しています。彼らは、神は霊であり、3つの位格を持つ唯一の存在であると信じています。私たちは、そのような教えはいわゆる「大背教」が起きたことの表われであると考えています。

「不可知の神の奥義」とか「聖三位一体の奥義」などの、聖書にはない言葉遣いで定義されている教えは、ギリシャ哲学が説く概念に源を発しているものです。このような哲学上の概念が、使徒の死に続く5世紀の間にキリスト教を変質させてしまったのです。たとえば当時の哲学者たちは、物質界に属するものは悪であり、神は感情も情念もない霊であると主張していました。信徒としてキリスト教信仰に大きな影響を及ぼすようになった学者たちも含

めて、このような教えを奉じていた人々にとって、キリスト教初期の簡潔な教えは受け入れがたいものでした。ご自分は天父の真の姿であるとおっしゃり、ご自分と御父がひとつであるようにひとつになりなさいと、弟子たちにお教えになった神の独り子、また十字架につけられて亡くなった後に、骨肉の体を持つ復活した存在として弟子たちにも姿を現わされたメシヤという概念は、彼らにとってなかなか受け入れられるものではありませんでした。

ギリシャ哲学の思弁の世界と、単純明解な信仰と実践を旨とする初期のクリスチャンの間の衝突は、激しい論争

を引き起こし、ローマ帝国の分解につながるほどの大きな政治的分裂にまで発展する恐れがありました。そのため、コンスタンティヌス大帝が西暦325年に教会最初の公会議を召集したのです。このニカイア公会議（ニケーア宗教会議）での採択は、使徒たちの死後、近代キリスト教の神の概念を形成する、比類ない重要な出来事でした。このニカイア信条の、神の御子は御父と「同一実体」であるという定義づけによって、御子と御父は別個のお方であるという教えは消し去られました。

この後も教会の公会議が幾度も開かれ、そこでの決議と聖職者や哲学者の

書物を基に、ギリシャ哲学とキリスト教の教義が結合しました。こうして、当時の公認されていた教会の会員たちは、神と神会についての完全な真理を失ってしまったのです。その影響は、3つの位格を持つ唯一の神という主張をし、唯一のお方である神を「不可知」の「体も肢体も感情もない」存在と定義するさまざまなキリスト教の教義の中に今も存続しています。末日聖徒イエス・キリスト教会の教義の顕著な特徴のひとつは、聖書の時代以降に定められたこれらの教義を否定していることです。（スチーブン・E・ロビンソン「モルモンはクリスチャンか」；「モルモニズム百科事典」ダニエル・H・ラドロー編、全4巻、『背教』『教義』『父なる神』『神会』の項参照）

私たちが背教と呼ぶこの過程の中で、旧新約聖書に述べられている触知し得る体を持つ人格神は、ギリシャ哲学の思索主義との折衷が生み出した抽象的な不可知の神に取って代わられてしまったのです。聖書中の言葉も受け入れられたものはそのまま残りましたが、いわゆる神の言葉の「隠された意味」は、本来のものからは遠くかけ離れた哲学用語で説かれるようになりました。その哲学体系による言葉の中では、父なる神はいかなる点においても父たることをやめ、寓意的な意味しか占めなくなりました。また慈悲深く理解し得るお方としての存在も終わってしまったのです。そして、神の独り子が独立した存在であるという教えは、哲学の抽象的な概念の中に飲み込まれ、姿を消してしまったのです。その概念とは、御父と御子が同一の存在であるという定義を主張し、また不可知の関係を説明しようとする考え方です。

宗教哲学について厳しいことを述べてきましたが、末日聖徒はそのような信仰をもつ人々を批判しているのではないということを、ここで申し添えておきたいと思います。私たちは、宗教界の指導者と信徒の多くは、神を愛し、またそれぞれに最善を尽くして神を理解し、神に仕えている誠実な人がたであると信じています。私たちは、今





日に至るまで何世紀にもわたって、信仰と研究のともしびを守り続けてきた人々の恩を受けています。神やイエス・キリストのみ名をよく知らない人々の中に存在するかすかな光と比べてみれば、それだけで長い歴史の中におけるキリスト教の教師たちの働きの偉大さがわかります。

そして、あの最初の示現の時が来ました。究極の源に知識を求めた無学な少年が、筆舌に尽くせない輝きと栄光に包まれたお二方にまみえたのです。その時、片方のお方が他のおひとりをお指して「こはわが愛子なり、彼に聞け」（ジョセフ・スミス 2：17）と言われました。この示現の中で神から与えられた教えは、イエス・キリストの完全な福音の回復の始まりを告げるものでした。御子なる神はその少年予言者に、当時のもろもろの教会の「信条はことごとくわが目より見て悪むべきものなり」（19節）とお告げになりました。ここで、神ご自身によるこの宣言は、教会の教義に対する非難であって、それを信じる誠実な探求者たちを責めたものではないということを断言しておきます。ジョセフ・スミスの最初の示現は、神の属性と神会について

人々の間に広がっていた教えが真実ではないこと、また神ご自身が信仰ある人々に得てほしいと望んでおられる祝福に導くものではなかったことを示しています。

その後も現代の聖典と啓示が次々と与えられましたが、その中で、この現代の予言者は次のように宣言しました。「御父は、人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子もまた然り。されど、聖霊は骨肉の体を有ちたまわずして霊の御方なり。」（教義と聖約130：22）

この教えは、私たちが霊的成長を遂げているために神を完全に理解できると主張しているという意味ではありません。また、私たちの不完全な肉体と、栄光に包まれた不死不滅のお方の体を同一視しているわけでもありません。しかし私たちは、神がご自身と神会の別のお二方について啓示された基本的な教えを理解することはできます。そしてこの知識は、人生の目的と、現世の後に復活体をもって迎えることになる永遠の行く末を理解するうえで不可欠のものです。

回復されたイエス・キリストの教会の神学では、現世の生涯の目的は、神

の息子娘として、神のようになるという永遠の目標に到達する備えをなすことにあります。ジョセフ・スミスとブリガム・ヤングはともに、次のように教えています。「神を知らずに、自分自身を理解できる……人はだれもいない。また、自分自身を理解せずに、神を知ることはできない。」（「説教集」16：75。「ジョセフ・スミスの言葉」アンドリュウ・F・イーハット、リンドン・W・クック共編、p.340も参照）聖書の中では人間を、「神の子」また「神の相続人」「キリストと共同の相続人」などと表現しています。（ローマ 8：16-17）また、「キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている」（ローマ 8：17）、「彼が現れる時、……自分たちが彼に似るものとなる」（Iヨハネ 3：2）とも書かれています。私たちは聖書のこれらの教えを、文字どおりに受け止めています。私たちは、現世の生涯の目的は、肉体を得ることであると信じています。また、イエス・キリストの贖いと福音の儀式と律法への従順を通して、昇栄あるいは永遠の生命とも呼ばれる、復活し栄光化された日の光栄の状態に入るにふさわしい者になることであると

信じています。

ほかのクリスチャンのかたがたと同じように、私たちは死後の世界に、天国すなわちパラダイスと、地獄があることを信じています。しかし、義人と悪人のこのふたつの区分は、死者の霊が復活と最後の裁きを待つ間の、一時的なものにすぎません。最後の裁きの後の行く先は、もっと多様なものとなります。神会のお三方が別個の存在であるという回復された知識は、復活した人々が受ける栄光の多様性を理解するための鍵を与えてくれます。

神の子供たちは最後の裁きにおいて、それぞれの従順さにふさわしい栄光の王国を割り当てられます。コリント人への手紙の中で、使徒パウロはそれらの場所について述べています。彼は自分が「第三の天にまで引き上げられ」、「口に言い表わせない、人間が語ってはならない言葉を聞いた」示現について書いています。(IIコリント12:2, 4) 彼は死者の復活に言及する中で、「天に属するからだ」や「地に属するからだ」(Iコリント15:40)、また「星に属するからだ」(ジョセフ・スミス訳Iコリント15:41)があり、それぞれ異なる栄光の段階に属する、と述べています。彼はこれらの異なる栄光を、太陽、月、さまざまな星にたとえているのです。(Iコリント15:41参照)

私たちは末日の啓示から、この3種の栄光の段階が、それぞれに独立した存在である神会のお三方と特別な関係にあることを知らされています。

最も低い栄光は「福音を受け入れず、イエスの証詞も受け入れず、予言者も……受け入れ」ない人々(教義と聖約76:101)、また、自分の罪悪に応じた苦しみを受けなければならない人々が行く星の王国です。しかし、この段階の栄光でさえ「人智の計り知らざるもの」(教義と聖約76:89)なのです。星の栄光の王国に行く人々は、聖霊と天使からの教えと導きを受けます。邪悪だった人々でさえも、最後には「[この段階の] 救いを受嗣者」(教義と聖約76:88)となるのです。

その次に高い段階の月の栄光は、

「星の栄光に勝る、すなわち栄光と能力と、勢いと、支配の及ぶ所に於て皆勝りたる」栄光です。(教義と聖約76:91) 月の栄光は「世に在りては正しき者」(教義と聖約76:75)が行く所です。その最も顕著な特徴は、月の栄光にふさわしいとされる人々は「御子の臨在を受」ける(77節)という点です。クリスチャンのかたがたによく知られている数々の教えからすると、御子の臨在を受けるという点から、この月の栄光の王国は天国にたとえられるかもしれません。

伝統的キリスト教信仰と違って、私たちはパウロと同じく、さらに高い第三の天が存在すると断言しています。近代の啓示においては、それは日の栄光の王国と呼ばれています。そこに住む人々の「体は日の栄光に属し、その栄光は日輪の栄光にしてすなわち神の栄光なり」と書かれています。(教義と聖約76:70) 日の栄光の王国にふさわしいとされた人は、「神とそのキリストとの御前に、いつまでも限りなく住」む(教義と聖約76:62)ようになります。神の神殿と永遠の結婚の儀式の中で交わした誓約に忠実な人々を含め、この王国に入る最も高度な条件を満たした人は、御父の「無上完全」すなわち永遠の生命とも言われる、神のような状態に救い上げられるのです。(教義と聖約76:56, 94。教義と聖約131章; 132:19-20も参照) (人は最終的に永遠の生命を得られる、あるいは神のごとき者になれるというこの教えは、古代のキリスト教の教義の「神化」「神格化」といった概念を学んだ人々には聞き覚えがあるはずです) 私たちにとって永遠の生命とは、不可知の霊の神との神秘的結合というようなものではありません。永遠の生命とは、慈しみに満ちた天父、また自分の先祖や子孫と、家族として生活することなのです。

イエス・キリストの回復された福音の教義は、私たちに理解できる普遍的なものであり、慈しみに満ちた真実のものです。現世で必要な経験を終えると、神の息子娘は皆、最後には復活し、いずれかの栄光の王国へ行きます。現

在どの宗派や信仰に属しているかに関係なく、義人はいずれかの栄光の王国へ行きます。そこは私たちの理解を超えたすばらしい世界です。また、悪人であってもそのほとんどは、最後には、低い段階の栄光の王国とはいえずばらしい王国へ行きます。これらはすべて、神のその子らに対する愛と、「御父の栄光を輝かし、彼の手に成るすべてのわざを救う」(教義と聖約76:43) イエス・キリストの贖いと復活のゆえに起こることです。

末日聖徒イエス・キリスト教会の目的は、すべての神の子供たちがみずからの可能性を理解し、神が備えられた最も輝かしい栄光に到達できるよう、助けを与えることです。この教会は、神の息子娘に、日の栄光の王国の救いに入る手段を提供するために存在しています。この教会は教義的な面でも実践的な面でも、家族をその中心に置いています。永遠の父なる神の属性とみこころに関して私たちが得ている知識は、私たちの行く末について、また神の永遠の家族と私たちとの関係について明らかにしています。私たちの神学は、天の両親にその始まりがあります。私たちの最高の望みは、天の父母のようになることです。御父の憐れみ深い計画の下、御父の独り子、主なる救い主イエス・キリストの贖いを通して、このすべてが可能となります。私たちはこの地上における親として、神の霊の子供に肉体を与えることにより、福音の計画に関与しています。永遠の救いは、すべての家族のためのものです。

これらのすばらしい可能性が真実であるからこそ、私たちは回復されたキリストの教えを、すべての人、しかもクリスチャンとして正しい生活をしている他の教会のかたがたにまで宣言しているのです。私たちが神殿を建てる理由もそこにあります。この信仰は、現世で経験するさまざまな問題に立ち向かう力と喜びを与えてくれます。私たちはこれらの真理とすばらしい機会をすべての人々にお伝えしたいと望んでいます。これらが真実であることをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。

なすべき業あり

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

教会には皆さんの力が必要です。皆さんの愛と忠誠と献身が必要です。もう少し多く、皆さんの時間と力が必要です。



兄 弟姉妹の皆さん、総大会を閉じるに当たり少しお話をさせていただきます。まず最初に、私たちはこの大会に参加して奇跡を目にしたと申しあげます。壇上での話を聞いていて気づいたのですが、重複した話はひとつもありませんでした。すべての話者は、独自のテーマを採り上げました。前もって何について話すか割り当てを受けた人はひとりもいませんでした。それでいて、すべての話は美しく、みごとなまでに調和していました。

主が私たちに与えてくださったすばらしい祝福に心から感謝します。私たちは知恵と靈感にあふれた勧告を聞き、教えを受け、高められました。

1週間前に、若い女性の大会がこのタバナクルで開かれました。何千人もの姉妹たちの顔を見るのは、靈感に満ちた経験でした。彼女たちを見た人々

は、だれもがこのみ業の将来について平安と確信を抱いたことでしょう。大会のテーマは、聖典を読むことを若い女性に訴えることでした。

自分が青少年のころを振り返ると、当時の若い男性も若い女性もそれほど聖典を読んではいませんでした。なんと驚くべき変化でしょうか。主のみ言葉に通じた新しい世代が現われているのです。あらゆる不道徳と汚れに満ちた世の中で育ちながらも、私たちの青少年はほとんどの場合、世の悪に染まらずに生活の中のチャレンジにこたえています。これは若い男性も若い女性も同じです。昨晚このタバナクルは、父親と息子で埋まり、ほかにもおおぜいの人々が世界各地の教会の建物に集まりました。青少年という世代の息吹を感じるのはすばらしいことです。もちろん、本来送るべき生活をしていない人もいます。黙示者ヨハネが描いている天上での戦い以来、常にあったことです。問題は今と同じ、自由意志でした。そして、今と同じく、選択しなければなりません。

「さて、天では戦いが起こった。ミカエルとその御使たちとが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、

勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示12：7-9)

古代の戦いは今も続いています。自由意志のもたらす終わりのない戦いで

す。残念なことに、悪を選ぶ人がいます。しかし多くの人は善を選びます。教会の若い男性と若い女性の実に多くもそうします。彼らは私たちからの感謝を受けるに値します。しかし、同時に励ましを必要としています。また、私たちの示す模範を求めています。私は、彼らのうえに祝福があって、徳高い生活を送り、学び、信仰と目的をもって成長できるように願っています。また彼らが、常に「われら受けし信仰持ち、殉教者の持つ真理を信じ」てくれるよう願っています。(賛美歌163番)

若い女性の大会の強調点は、アルマ書第32章のアルマの言葉でした。アルマは次のように教えています。「目をさましてふるい立ち、その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためてみる……。」(アルマ32：27)

私たちの中のもっと多くの人々が、イエス・キリストの福音の偉大な永遠の真理に気づくために、目を覚まして奮い立つ必要があります。私たち一人一人は、今までよりも少しよくなることができます。もう少し親切になれるようになります。もう少し慈悲深く、もう少し赦されるようになれる。過去の弱点を捨てて、新たな力と強い決意をもって前進し、私たちの周りの世界、すなわち家庭や、職場や、地域社会を改善するのです。

私たちにほすべきことがたくさんあります。腕まくりをし、新たな決意をもって、主を信頼して取りかかりましょう。

「恐れず来たれ、聖徒 進み行けよ
その旅は辛くとも 恵みあらん
無益な憂いは 払いて努めよ
されば喜ばん すべては善し」
(賛美歌17番)

祈りを込めて忠実に行動するならば、達成できます。かつてなかった成果を上げられます。

教会には皆さんの力が必要です。皆さんの愛と忠誠と献身が必要です。もう少し多く、皆さんの時間と力が必要

です。

私は、雇い主への働きを犠牲にして、もっと教会のために与えるように求めています。私たちに、仕事の場で完全に正直かつ誠実に働く義務があります。

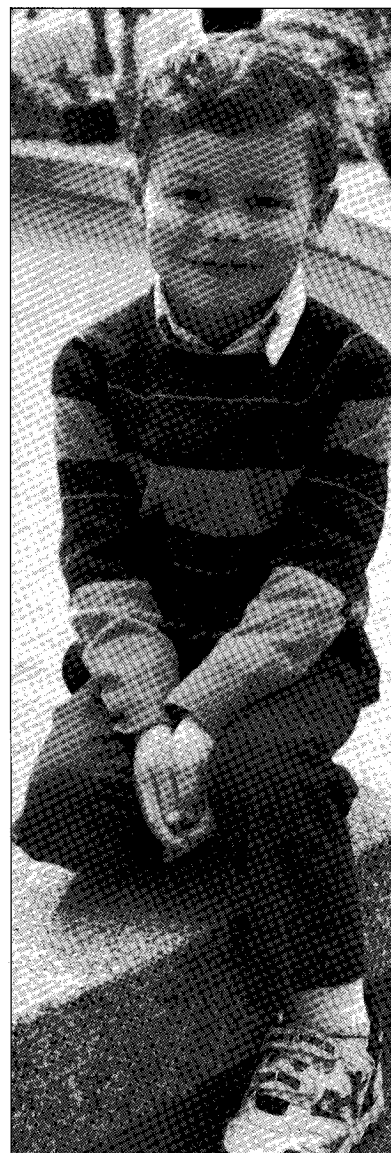
私は、家族を犠牲にして、もっと与えるように求めてもいません。主は子供に対する責任を皆さんに問われるでしょう。私が提案するのは、怠惰な時間や、つまらないテレビ番組を見て過ごす無益な時間を少し減らすことです。そうすれば時間ももっと有効に使われ、その結果はすばらしいものになるでしょう。私は、確信をもってそう言うことができます。

さて、愛する兄弟姉妹の皆さん、家

に帰る道のりが安全でありますように。この2日間に聞いた事柄についてよく思い巡らしてください。私たちがもう少し改善するために、もう少し努力する決意ができますように。私たちが皆さんの問題を知らずにいるのではないことをわかってください。多くの皆さんが大変な重荷を負っていることを知っています。私たちは皆さんのために主に祈っています。皆さんが問題を解決できるように、皆さんとともに祈っているのです。皆さんに祝福を、使徒の祝福を残します。皆さんのうえに主のみ恵みとみ守りがあるよう祝福します。皆さんの家庭と生活の中に幸福と平安があるように、そして、愛と尊敬と感謝の気持ちが夫婦や親子の間

にあるように祝福します。皆さんが幸福と安全と平安と信仰のうちに「神の命に従って生き」られますように。(アルマ37:47)

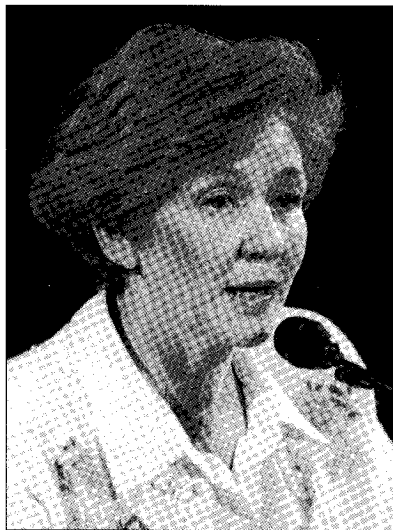
この午後の部会を始めるに当たり聖歌隊が「いにしへの聖徒の……その聖き信仰 われらも従わん」(賛美歌42番)というすばらしい賛美歌を歌ってくれました。そのような思いが皆さんの心にとどまりますように願っています。「いにしへの聖徒の……その聖き信仰 われらも従わん。」神が、この栄えあるみ業にあつて私の愛する皆さんを祝福してくださいますように。私たち皆が仕える主、イエス・キリストのみ名によりへりくだってお祈りします。アーメン。



神のみ言葉を試す

中央若い女性第一副会長
バージニア・H・ピアス

聖典を読もうと自分自身で決心してください。そして、聖典を読み始めたら、どんな気持ちができるかに注意してください。



ことができます。

アルマはみ言葉を種になぞらえました。失望したゾーラム人に、もし「一つの種子を自分の心の中に蒔く」(アルマ32:28)ならば、よい気持ちを感じ、理解できるようになり、生活が変わると教えました。

これは、次のように言い換えられるのではないのでしょうか。「聖典を読もうと自分自身で決心してください。そして、聖典を読み始めたら、どんな気持ちができるかに注意してください。」

次にアルマは「木が生長し始めると」(アルマ32:37)、よく注意して養い育てる必要があると教えました。

これは、次のように言い換えられるのではないのでしょうか。「聖典を読みたいという気持ちを大切に下さい。聖典を読み続け、新たな見方で理解するのに役立つ事柄を実行して下さい。聖典からより多く学ぶための助けと励ましをほかの人から得るようにし、それによってみ言葉が心の中で成長し続けるようにして下さい。」

アルマは長い間み言葉を養い育てていくと、すばらしい実がなると教えました。アルマ書第32章42節には次のように書かれています。

「このように、あなたたちが心の中に神の御言葉の根がつくように勉めはげみ、厚い信仰を以て気長に御言葉を養い育てるならば、やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食い、もう飢えることもなく渴くこともないであろう。この言葉の実は最も貴重であってあらゆる甘いものよりも甘く、あらゆる白いものよりも白く、あらゆる清いものよりも清い。」

これは次のように言い換えられるのではないのでしょうか。「聖典を読み続け、聖典に書かれている事柄を実行すると、ついには想像もできないほど生

モルモン経のアルマ書第31章を開いてください。予言者アルマはゾーラム人を教えるためにアンテオームの地へ行きました。ゾーラム人の多くは神を礼拝したいと望んでいましたが、混乱と失意の状態にありました。アルマはこれらの善良な人々の生活が変わるように望み、彼らにとって神のみ言葉を聞いて試すことが幸福と満足を得るための最もよい方法であると思いました。また、み言葉を試すなら、人々の心は必ず変わると確信していました。アルマ書第31章5節には、このように書かれています。

「神の道を宣べ伝えるのは民に正しいことを行わせるのに非常に効があつて、剣やそのほかこれまでに用いたことのあるすべての方法よりも強く人の心を感化するから、アルマは神の道の力を用いる必要があると思つた。」

「神の道」は「聖典」に置き換える



活が変わるでしょう。そして、日々の失望は、いかに神に愛されているかという知識に取って代わるでしょう。み言葉を味わい、心が満たされるのです。」

今晚私たちが聞いた賛美歌、聖句、お話、勧告のすべては、私たち一人一人が以下の事柄を行なううえで励みになるでしょう。(1)神のみ言葉を読むことを各自で決心する、(2)聖典を読む習慣をつけ、聖典を楽しむにはどうしたらよいか理解する、(3)聖典を読む習慣により最終的に得られるよい気持ちと生活の変化に気づく。アルマの言葉で言うと、(1)受け入れる、(2)養い育てる、(3)実を取って食べることです。

(ピアス姉妹の話の後、6人の姉妹がアルマ書第32章27-28節、42節を読みました)

「しかし、あなたたちがもし目をさましてふるい立ち、その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば、たとえ信じようとする望みを起すだけでもよい。……この望みを育ててゆけ。

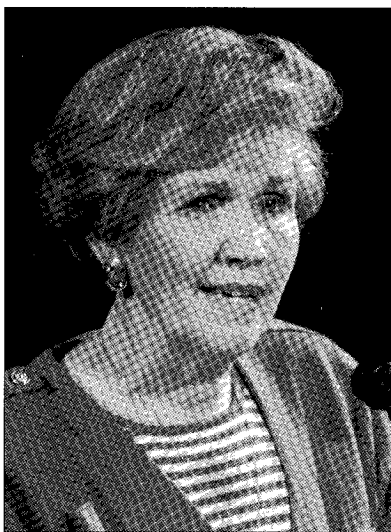
今、神の御言葉を種子になぞらえて話すと、あなたたちが一つの種子を自分の心の中に蒔くとき、もしもその種子が真理の種子すなわち善い種子であって、あなたたちが不信心の心でこの種子を抜きとったり、主の『みたま』に逆らったりすることがなければ種子は次第に……ふくれ始めるであろう。そこで、あなたたちは種子がふくれ始めることを感ずると、次のように思う。すなわち、これはまことに善い種子、善い言葉に違いなく、私の心を大きく開き、私の理解力を増し、私はようやく好い味を感ずると。

このように、あなたたちが心の中に神の御言葉の根がつくように勉めはげみ、厚い信仰を以て気長に御言葉を養い育てるならば、やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食い、もう飢えることもなく渴くこともないであろう。この言葉の実は最も貴重であってあらゆる甘いものよりも甘く、……あらゆる清いものよりも清い。」イエス・キリストのみ名によって、アーメン。

脂肪分ゼロのごちそう

中央若い女性第二副会長
ボニー・D・パーキン

聖典は皆さんの心を開き、高め、慰めと勇気を与えてくれるでしょう。温かい毛布に包まれたように、天父の愛が皆さんをくるんでくれるでしょう。



母 親と娘と一緒に座っている姿ほど美しい光景がほかにあるでしょうか。ここタバナクルに集っている多くの人々の姿を見渡し、世界じゅうの教会堂に集う無数の若い女性の姿を思い浮かべると、ほんとうにただ驚くばかりです。このような光景は、ユタ州ヘリマンの農家に育った私をへりくだらせてくれます。

姉妹の皆さん、私の秘密をお話ししましょう。私は食べることが大好きです。皆さんもそうではありませんか。最高の味付けと料理法で、しかも芸術品のように美しく盛りつけられた食事を前にすると、私は天国にいるような気持ちになります。メニューを見ていだけでも、体重が増えそうです。

主は私たちにダイエットをするように期待してはおられないことを、皆さんはご存じでしたか。ほんとうです。ニーファイ第二書第9章51節を開いて

みてください。そしていちばん最後の行を見てください。「飽くまで食べて、あなたたちの霊を肥やせ」と書かれています。でも、何を食べるのでしょうか。チョコレートでしょうか。

よく読んでください。神のみ言葉を食べるのです。皆さんがみ言葉を最後に味わったのはいつでしたか。み言葉はいくら食べても罪悪感を生じないことを知っていましたか。

私の新しい召しごもたらしてくれる喜びのひとつは、会長会とともにみ言葉を味わえることです。私たちは集会の初めに聖典を勉強します。会長のヘイルズ姉妹がまず最初にこう言います。「どなたか聖典を持っていらっしゃいますか。」必ずだれかが持っています。私たちは参照聖句や項目別索引(訳注——英語の聖典の付録)を調べ、聖典に出てくる考えを日常生活に応用し、そして皆さんのことを考えます。

このようにしてともに聖典を勉強すると、みたまの導きを受けることができます。赤鉛筆を手に持って、私たちは自分の気持ちや考え、願いを話し合い、互いのきずなを強め合います。また、一致が深まり、皆さんのためにもっとよく奉仕できるようになります。皆さんは、ビーハイブやマイアメイド、ローレルのクラスや若い女性の会長会などで、このようにみ言葉を味わっていますか。集会の初めに、聖典からひとつのテーマを選んで、話し合ってみてください。聖典について話し合うことから得られるみたまの導きに驚くことでしょう。

私は若い女性の時、聖典を勉強するのが少し苦手でした。もっとよく勉強

しておけばよかったと思います。ワシントン州のシアトルに住むようになって初めて、友達と私は、ワード部の霊的な姉妹たちのような知識を自分たちも得たいと思うようになりました。また、子供たちが「その母から教えを受けて」（アルマ56：47）信じ、正しい道を歩むようにと望みました。そして、おいしい食事を食べるときと同じで、福音も友達と一緒に分かち合うことによって一層楽しいものとなりました。私にはルイズ・ネルソン姉妹という友達がいる、一緒にみ言葉を味わったのです。

古いソファに座り、息子たちに聖典の物語を読んであげたことが思い出されます。聖典の勉強をするにつれて、私たちの生活に力が満ち始めました。ルツが自分の家族を離れて主の民とともに歩もうとしたこと、サラリアが荒野で子供たちを育てたこと、エステルがほかの人を救うために自分の命を

危険にさらしたこと、そして、最も重要なことは、マリヤがわらを敷いた馬小屋で御子を産み、かいばおけに寝かせたことを、私は改めて学びました。また、神は人々の生活の中で奇跡を行なわれるばかりでなく、私の生活の中でも驚嘆すべきことを行なわれるのを知りました。

私は、聖典のすばらしさを発見するのがほかの人より少し遅れましたが、とにかく発見したのです。

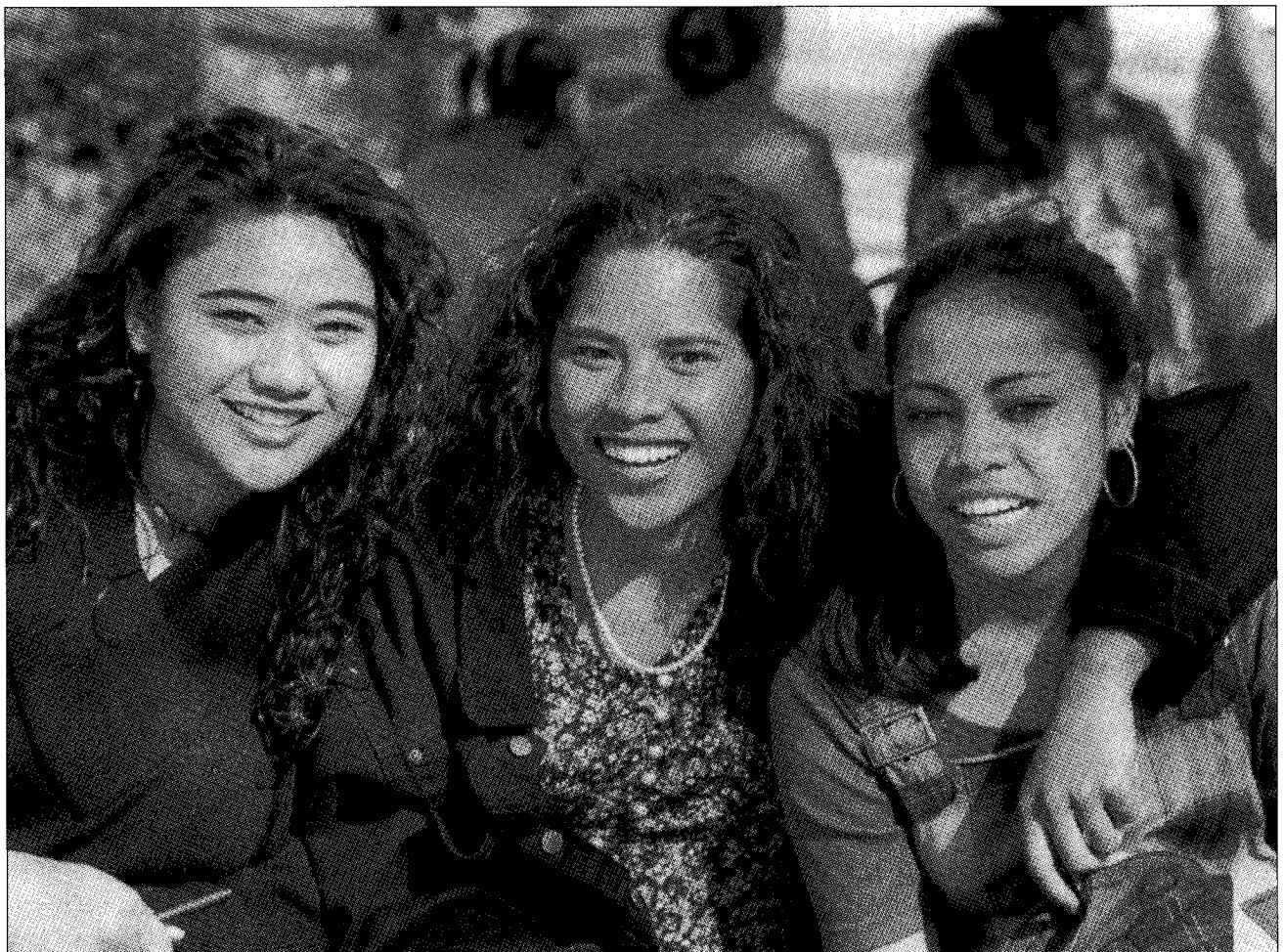
そして今でも、おいしそうな料理のメニューを見るときのように、知恵に満ちた言葉に飢え渴いています。私たちの霊の重みを増すために、もっとみ言葉を食べて味わわなくてはなりません。

いつもたやすくできるとはかぎりません。まだ理解できないこともたくさんあります。でも、そこで立ち止まらずに主の導きを熱心に求めるとき、聖典は私の精神をみたまの力で満たして

くれるのです。皆さんにも同じことが起きるでしょう。聖典は皆さんの心を開き、高め、慰めと勇気を与えてくれるでしょう。温かい毛布に包まれたように、天父の愛が皆さんをくるんでくれるでしょう。どうしてそれがわかるかと言うと、私自身が経験しているからです。それは天父が私たちに約束しておられることでもあります。聖典を読むことは、主の食卓に着くことなのです。

愛する姉妹の皆さん、どうぞみ言葉を試してみてください。イエスは言われました。「聖典を調べなさい。……聖典は、わたしについてあかしをするものである。」（欽定訳ヨハネ5：39より和訳）

主は生きておられ、私たちを愛し、み手を差し伸べておられます。皆さんと主によく仕えることができますように、イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。



み言葉の実を味わう

中央若い女性会長
ジャネット・C・ヘイルズ

聖典を通して救い主イエス・キリストを知るにつれて、私たちは自分の行ないを改善できるようになります。



私が中央若い女性会長に召されて間もないころ、アフリカ東部、ケニアのナイロビに住む若い女性から手紙を頂きました。彼女の名前はシルビアといい、当時15歳でした。お父さんを交通事故で亡くした彼女の手紙には、次のように書かれていました。

「父が死んだ時、私の一部も死んでしまったように感じました。私はまるで人が変わりました。自分でも嫌になるような人間になってしまったのです。学業や靈性の面にも影響が現われ、成績は落ちる一方で、学校も嫌になりました。祈りを忘れることもあります。神様への信頼もなくしかけています。私が前に感じていた愛や温かさや平安は、今はもう遠いものになってしまいました。

ヘイルズ姉妹、どうか私を助けてください。なんとかしなければ、だれかの助けがなければ、私はだめになって

しまいそうです。」

助けを求めるシルビアの叫びに、すぐにでもなんとかしてあげたいと思いましたが、なにしろ何万キロも隔てた場所にいたので、私は彼女が天父への信頼を取り戻す助けになればと注意深く信仰を込めて手紙を書きました。そしてこう提案しました。「毎日聖典を読んでください。そしてそれによって少しでもあなたの気持ちが慰められたなら、私に手紙で教えてください。」

数週間後、シルビアから手紙が届きました。「これまで私は、聖典を読むのをやめていました。読んででもよく理解できないので投げ出してしまったのです。姉妹の手紙を読んで……聖典をもっと熱心に探求したいという気持ちがわいてきました。私は今、とても貴く靈的な力を受けています。聖典を読むよう提案してくださって、ありがとうございました。」

シルビアは、絶望し、自分はひとりぼっちだと感じた時、助けを受けました。同時に、聖典が自分の人生をよりよくしてくれることも知りました。彼女は、しばらくしてこう書いてきました。「もっとよい人になれるよう努力する決心をしました。そのためには、私の信仰を失わせようとする人たちに負けないよう、今までの短所を克服し、長所に変えていかなければなりません。特に学校では、末日聖徒は私ひとりなので頑張らなければと思います。」

シルビアは聖典を読むという決意の下に努力を続けるうち、さまざまな選択の機会に天父が助け導いてくださることに気づきました。

後にシルビアはこのように書いてい

ます。「忙しくなりましたが、聖典を読むことは忘れていません。ジェレドの兄弟やニーファイのように強い信仰をもち、主のみこころがわかるようになりたいと思います。信仰が強められるように瞑想めいそうもするつもりです。私は16歳になりました。」

月日がたつにつれてシルビアの聖典に対する理解は深まり、彼女はほかの人を助けたいと思うようになっていきました。「私は教会に行くのが好きです。いちばん楽しいのは、初等協会の子供たちを助けているときです。子供たちが歌ったり、聖典を読んだり、感じていることを話してくれたりするのを聞くのが大好きなんです。」

ほかの人を助けるようになってから、シルビアは救い主のことをもっとよく理解できるようになりました。彼女は、キリストが地上で導きと恵みを施された最後の日々、十字架上の死、そして復活について読んだこと、そしてキリストの地上における使命と、私たちに對する大きな愛をもっとはっきりと理解するようになったことを手紙に書いてくれました。

さまざまなチャレンジや友達からのプレッシャーは続きましたが、シルビアはどんなときにも助けを与えてくれる聖典という泉を見いだしました。私の母が亡くなったことを知った時、彼女は手紙で私を励まし、信仰を強めてくれました。

3年前、彼女に提案した聖典を読むという泉は、私が与えられる以上の大きな助けを彼女にもたらしてくれました。シルビアは、聖典を読むことによって直面していた問題を克服できただけではありませんでした。彼女にとって聖典が永遠の泉となり、いつもとみにいてくれる存在となったのでした。天父は決して自分をお見捨てにはならないことも学びました。

ほかにもたくさんの方が聖典から祝福を受けています。皆さんの中には、コリー・テン・ブームの書いた「隠れ家」を読んだ人がおおぜいいると思います。普通では考えられない厳しい状況にあった彼女に答えを与えてくれたのも聖典でした。

コリーとその姉妹ベッツィーは第二次世界大戦前のオランダに暮らすクリスチャンでした。ユダヤ人に対する虐待が渦巻く中、ふたりはユダヤ人を自分の家にかくまいました。隠れ家が発見され、地獄のような収容所に送られたふたりは、ユダヤ人捕虜がそうであったようにすべてを剝奪された生活を強いられることとなります。

しかし、特別な方法でコリーは聖書を隠し持つことができました。彼女は、率先してほかの捕虜とともに聖典を読むようになりました。彼らが受ける肉体的な苦痛はさらに激しくなりましたが、彼らの心の中にはまったく違う世界があった、と記されています。

「助け合いと希望の輪はますます広がり、その中心には聖書がありました。孤児がたき火に寄り集まるように、私たちは聖書の周りに集まり、その暖かさと光とを自分たちの心に受けようとしました。辺りを取り巻く闇は一層暗くなっていきしましたが、神のみ言葉はより輝きを増し、さらに真実の光を発しながら美しく燃えたのです。……

私たちには……ふたつの人生がありました。ひとつは目に見える、この世の人生で、それは日を追ってひどく、恐ろしいものになっていきました。もうひとつは神とともに生きる人生で、これは真理に真理を、栄光に栄光を増し加えられ、日々、よりすばらしいものになっていきました。」(コリー・テン・ブーム「隠れ家」pp.194-195)

シルビアやコリー・テン・ブームのほかにも、多くの人が聖典の持つ力について証しています。聖典に精通し、天父のみ言葉に信頼を寄せることに関して、救い主ご自身が私たちに模範を示してくださいました。ルカによる福音書第4章には、イエスが40日間断食した後、悪魔から誘惑を受けられたことが記されています。悪魔は、もしイエスが神の子であるなら石をパンに変えてみるよにと言ったのです。40日間断食した後であったにもかかわらず、イエスは「人はパンだけで生きるものではない」(ルカ4:4)、「神の口から出る一つ一つの言ことばで生きるものである」(マタイ4:4)と言われました。



イエスは予言者の言葉をしっかりと心に留めておられたのです。

サタンは再びイエスを誘惑し、今度はもしイエスがサタンを礼拝するならば力と栄光を与えるともしました。イエスは次のような言葉をもって誘惑を退けられました。「主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ」と書いてある。(ルカ4:8) イエスは御父のみこころをよくご存じでした。そしてみ言葉は、誘惑に遭われた主を力づけたのです。

聖典の言葉は、皆さんが誘惑に遭うときに力を与えてくれます。私たちに聖典が与えられたのは、苦難のときに平安と確信を見いだし、日々の問題を解決する助けを受け、誘惑に遭うときに強められるためです。また、聖典を通して救い主イエス・キリストを知ることによって、私たちは自分の行ないを改善できるようになります。若い女性の皆さんは、今年1995年の目標として、定期的に聖典を読むように勧められています。

世界じゅうの50万人の若い女性が聖典を開いているところを想像してみてください。キャンプや、ユースカンファレンス、日曜学校や聖典マラソン、また訪問先の老人養護施設で聖典を開いている若い女性の皆さんの姿が目に見えます。中には、弟や妹たち、あるいは目の悪くなった祖父母に聖典を読んで聞かせてあげている若い女性たちもいるでしょう。まくら元やスタンドの傍らに置かれた聖典や、家庭の夕

べで聖典が読まれている様子も見えてきます。聖典を手にした若い女性の皆さんが、今晚礼拝堂やステークセンターに集う様子を見て、アルマはどんなに感動していることでしょうか。皆さん、アルマ書第32章を開いていただけますか。私が27節を読みますから、それに続けて全員で28節を読みましょう。

「しかし、あなたたちがもし目をさましてふり立ち、その能力をつくして少しなりとも信じながら私の言葉を実際にためしてみるならば、たとえ信じようとする望みを起すだけでもよい。しかし、私の言葉の一部分でも受け入れるほどの信仰ができるようになるまで、この望みを育ててゆけ。

今、神の御言葉を種子たねになぞらえて話すと、あなたたちが一つの種子を自分の心の中に蒔くとき、もしもその種子が真理の種子すなわち善い種子であって、あなたたちが不信心の心でこの種子を抜きとったり、主の『みたま』に逆らったりすることがなければ種子は次第に胸の中でふくれ始めるであろう。そこで、あなたたちは種子がふくれ始めることを感ずると、次のように思う。すなわち、これはまことに善い種子、善い言葉に違いなく、私の心を大きく開き、私の理解力を増し、私はようやく好い味あじを感ずると。」

37節には、私たちがまいた種が生長し始めたなら「この木が十分に根を下ろして生長し、私たちのために実を結ぶようによく注意して養い育てなければならぬと教えられています。

41節には、「その実の生る時を待ち設けながら勉めはげんで、気長によく信仰を以てこれを養う」ように、と書かれています。若い女性一人一人が種を植え、養い育てていくときに「やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食ひ、もう飢えることもなく渴くこともないであろう」という42節に書かれた約束の意味を理解できるよう、心から願っています。

これこそ、私たちが天父の招きにこたえてみ言葉を試してみるときに与えられる約束です。この約束が真実であることをイエス・キリストのみ名あかしによって証します。アーメン。

努力のかがいがあります

ユタ州スパニッシュフォーク西ステーク部
リーランドワード部所属
メラニー・イートン

聖典の勉強から得る導きは私を慰め、毎日の生活に平安をもたらしてくれます。



私はクロスカントリーと長距離の選手です。ときには、3マイル(約5キロ)の険しい道が永遠に続くと思えることがあります。私は、終わりまで堪え忍ぶこと、つらい仕事や多くの肉体的、情緒的なチャレンジに耐えることを学んできました。私の心が悲鳴を上げて、レースやつらい練習をやめたくなることもありましたが、精神的にも肉体的にも最後まで堪え忍ばなくてはならないと思いました。そして、レースを完走することやつらい練習を最後までやるのがどんなに大変であっても、自分があきらめなかったことから得られる満足感は、何ものにも代えがたいことがわかりました。

ニーファイ第三書第15章9節で、イエスはニーファイ人にこう述べていらっしゃいます。「見よ、われは律法おきてにしてまた光なり。われにすがりて終

りまで堪え忍べ。然しかすれば汝なんじらは必ず生く。終りまで忍ぶ者にわれは永遠の生命あたまを与うればなり。」

忍耐の概念は聖典の勉強にも当てはまります。私にとって聖典を勉強するのは必ずしも易しいことではありません。それはいつもむずかしく、険しい道を走るようです。セミナーでは、毎日10分間聖典を読む習慣をつけるよう、励まされました。最終的にはやる価値のあることだと確信し、トレーニングを始めました。モルモン経を読むたびに、私の生活の中で起きている問題に関連のあるメッセージを、その都度見つけました。それはとてもわくわくする経験でした。今晚、私は皆さんにも同じ気持ちを味わってほしいと思います。皆さんにとってむずかしいことはわかります。私たちは皆、同じ経験をしてきたのです。でも、聖典を開

いて毎日毎日読むなら、私と同じ感動と証あかしが得られることを約束します。最も大きな祝福のひとつは、天父とイエス・キリストへ近づくことです。

また、聖典は聖霊が私たちに働きかける道を用意し、私たちが毎日正義を選ぶよう促してくれます。ニーファイ第二書第32章3節には、このように書かれています。「天使は聖霊ちからの能力で語るから、キリストの言葉のを宣べ伝える。それであるから、私はキリストの言葉をよく味わえとあなたたちに勧めた。それはキリストの言葉は、あなたたちのしなくてはならないことをみな教えるからである。」

終りまで堪え忍び、聖典を読む習慣を一生続けていくかぎり、パウロとともに次のように言うことができるでしょう。「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。」(IIテモテ4:7)

これはじゅうぶん努力するに値することを証します。私はモルモン経とそこに書かれている真理を愛しています。日々の生活に聖典を当てはめることを学ぶにはこれまで何年もかかりましたし、これからももっと長い時間がかかるでしょう。でも、聖典の勉強から得る導きは私を慰め、毎日の生活に平安をもたらしてくれます。イエス・キリストのみ名により、アーメン。



主を信頼する

ユタ州ブリガムシティーステーキ部
フォレストヒルズワード部所属
アンドレア・アレン

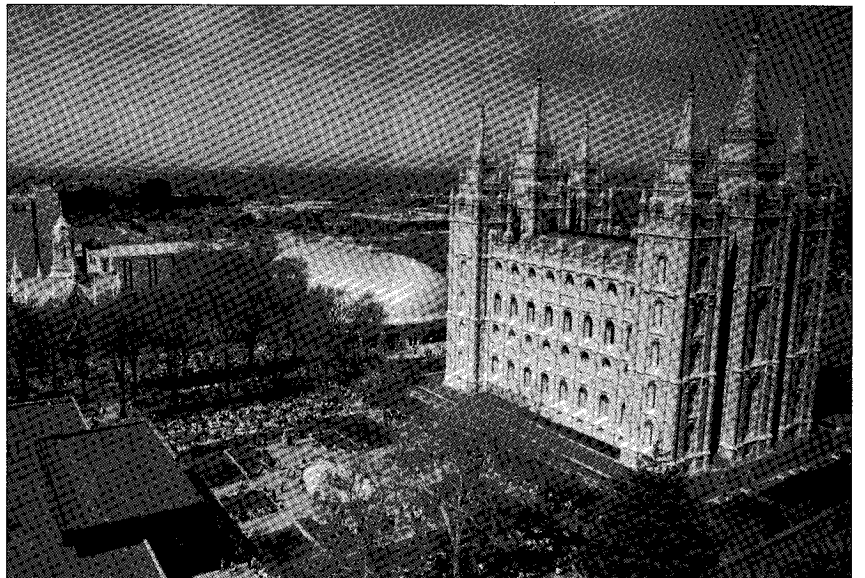
しかしもし真の目的と真心をもって助けと答えを求めるなら、導きと指示が主から与えられます。



友 人のひとりが、今試練のさなか
にいます。今年の初めごろ、そ
の友人は苦しんでいました。しかしそ
んな彼女を、私はどう助けてよいかわ
かりませんでした。ですから私は天父
に、彼女を祝福してください、私が彼
女のよき友となれるように助けてくだ
さい、と祈り求めました。そんなある
日、彼女が私に向かって怒りました。
私には一体どうしてなのか理解できま
せん。どう対応したらいいのか、わか
らなくなっていました。私は何か
不適切なことを言って、友情を壊した
くはないと思いました。特に今こそ彼
女にとって私が必要な時期だと感じて
いたからです。しかし彼女が私を怒っ
てからは、よい友でいるなど自分には
できないと思いました。さじを投げて
しまおうと思いました。意気がそがれ
てしまったからです。

ある午後の、セミナーでのことで
した。私はある聖句を目にしました。
モーサヤ書第4章21節です。「さて、
もしもお前たちを造りお前たちの命や
持物や才能を与えたもう神が、お前た
ちが必ず受けると信じて固い信仰で乞
い求めるあらゆる正しいものを与えた
もうならば、ましてお前たちは自分の
持物を与えるのが当然ではないか。」
この聖句を読んでわかったのです。
その友人は私が与えることのできる持
ち物、私の友情と証を必要としていた
し、今でも必要なのです。私は彼女
を見捨てまいと決心しました。私は毎日
彼女と話しています。いつも彼女のた
めに祈っています。私の努力から何か
よい結果が生じると信じています。私
は祈って聖典から導きを得られたこと
に、感謝しています。

若い女性も試練、選択、そして困難



な状況に直面します。私たちは、その
ような状況を自分だけで切り抜ける力
があると考えてしまうことが多くあり
ます。しかし私たちはそれほど強いわ
けではありません。少なくとも自分の
力だけでは強くなれません。しかしも
し真の目的と真心をもって助けと答え
を求めるなら、導きと指示が主から与
えられます。主に助けていただかなく
てはなりません。主を信頼し、主のみ
こころを行なわなくてはなりません。
主のみこころを行なえば、真の喜びと
幸福を見いだすでしょう。そして自分
の行なってきた事柄が正しいことを知
るでしょう。

箴言第3章5、6節を開いてください。
ともに読んでみましょう。天父が私た
ちに天父を信頼するよう求めているら
っしゃることがわかります。

「心をつくして主に信頼せよ、自分
の知識にたよってはならない。

すべての道で主を認めよ、そうすれ
ば、主はあなたの道をまっすぐにされ
る。」

私は聖典に対する証を持っています。
主を信頼し、祈りの気持ちで聖典を読
むなら、困難な状況での対処のしかた
について、導きと指示を受けるでしょ
う。この指示に従うなら、私たちに對
する救い主の愛を感じるようになります。
イエス・キリストのみ名によって、
アーメン。

主は助けて くださいます

ユタ州ウエストジョーダンステーク部
ウエストジョーダン第8ワード部所属
ヒラリー・コール

毎日の聖典学習は、天父に信仰をもつことを思い起こさせてくれます。



私たちは皆異なっています。そして一人一人が、才能とともにチャレンジを与えられています。中には身体的に、あるいは精神的に制約を受けている人もいます。孤独を感じている人や、福音の原則を学べない家庭で育った人もいます。でも天父は私たち一人一人を愛しておいでになるので、慰めや強さの源となるものを与えてくださいました。それが聖典です。

私の友である皆さん、私自身の聖典に関する経験を分かち合えるこの機会に感謝しています。

子供のころから、私は恵まれて、聖典が生活の重要な位置を占める家庭で育ちました。教会の活動にもたくさん参加し、友達や家族が聖典の持つ力について証するのをよく耳にしました。

こうして私も聖典の力や真実性について、自分自身の証を得たいと望むようになりました。

しかし簡単に得られたわけではありませんでした。学習不能症という障害のある私にとって、文章を読むのは困難で、ましてやそれを理解するとなると並たいていのことではありませんでした。何度も何度も恥ずかしい思いをし、いらだちを感じたものです。自分は能力に欠けているという気持ちから、若い女性の集会に行くのが嫌になりました。読むように指名されるかもしれないと思うと、怖くなったのです。家族と一緒にだと、幾分居心地がよかったです。やはり自分へのいらだちは消えませんでした。

そんな私が助けを求めて祈った時、この聖句を見つけたのです。よろしければ私と一緒にモロナイ書第7章33節

を開いてみてください。私の得た答えを皆さんと分かち合いたいと思います。「キリストは『汝らもしわれを信ずるならば、わがこころにかなう何事にても為す力を与えらる』と仰せになった。」

なんとすばらしい約束でしょうか。もし主を信頼するならば、主が私を助けてくださるのです。私が聖典を理解できるように助けてくださるのです。この聖句は私にとって鍵となりました。1節ずつ、日を追うごとに、私は理解するようになりました。学校の成績も上がっていきました。そしてモルモン経のおかげで、私は高校を卒業することができたのです。現在も学習不能症を完全に克服できたわけではありません。日々試練に直面しています。しかし毎日の聖典学習は、天父に信仰をもつことを思い起こさせてくれます。

どこに住んでいようと、どのような家庭で生活していようと、天父は皆さんを愛しておられ、必要なときにはいつでも助け、強めてくださいます。私が確信をもってこう言えるのも、天父が実際に私の力になってくださったからです。私の試練を理解してくれている家族を愛しています。一緒に問題と取り組んでくれる指導者に感謝しています。私はこの教会が真実であることを知っています。聖典は、私たち一人一人が学ぶために与えられています。キリストは生きておられます。イエス・キリストのみ名によって、アーメン。



成長を促す指導者

ソルトレーク・モニュメントパーク北ステーキ部
モニュメントパーク第2ワード部所属
カレン・マックスウェル

若い女性は指導者に共感を覚え、自分自身忍耐し努め励む指導者たちから、とても有益な助けを受けるでしょう。



ステーキ部若い女性指導者のひとりとして、私は世界じゅうで働くワード部やステーキ部の指導者のかたがたと同じように、み言葉を養うためのすばらしい方法を探しています。さいわい、アルマ書第32章41節には、私たちが頼ることのできる方法が、次のように書かれています。「しかし神の御言葉である木が生え始める時からその実の生る時を待ち設けながら勉めはげんで、気長によく信仰を以てこれを養うならば、その木は根を下ろして永遠の生命を生ずる木になるであろう。」

アルマは、み言葉を養いたいと思う人に、忍耐と信仰とをもって、勉め励むように勧めています。

忍耐するには謙遜が必要ですが、無理やり成長させることはできません。ポイド・K・パッカー長老はこう言いました。「私たちにできるのは成長を

促す環境作りをし、はぐくみ、守ることであり、無理強いはいけません。成長を待たなければならないのです。

偉大な霊的な知識を得ようとする場合、性急であってはなりません。育つままにし、その助けを与えるようにしてください。無理に事を進めると、誤った方向に導かれることとなります。」(『主のともしび』『聖徒の道』1983年10月号, p.40)

若い女性の皆さんとともに、ファイヤサイドや聖典の輪読会、また互いの思いを分かち合えるような、さまざまな自由な活動を計画してください。それによって彼女たちは、み言葉を実際に試し、成長を確実に実感する助けが得られます。一緒に聖典を読んだり、各々の経験を書き記したり、音楽、美術、証しなどによって自分の持っているものを分かち合ったりする機会を提供できるでしょう。証し合い、いつでも助け合えるように備えることができるのです。

ワード部の若い女性会長が集まった時、『み言葉を試そう』と意気盛んに始めたものの、数週間もすると気が抜けて、何か心を燃え立たせるような刺激がないと続かない」というようなほやき声が出てきました。このようなときこそ、「勉めはげむ」ことが大切になってきます。聖典を中心にした、やりがいのある活動を計画し続けていかなければなりません。私たち指導者も聖典を読み続けなければならない時でもあります。ワード部のある指導者のグループは聖典を読むことを決めました。その中の若い女性指導者のひと

りは、「自分では認めづらいことですが、でも正直言って私にはとてもむずかしいことでした」と言いました。彼女が率直に話してくれたおかげで、ほかの人々も自分が苦心していることや、現実的な目標を立てる必要があると思っている点などを、打ち明けることができました。このワード部の若い女性は指導者に共感を覚え、自分自身忍耐し努め励む指導者たちから、とても有益な助けを受けるでしょう。

最後に必要なのは、私たちが世界の祭典に向けて一緒に努力していくとき、イエス・キリストが若い女性の心に触れてくださるという信仰をもつことです。信仰には必ず行動が伴わなければなりません。ヨハネによる福音書第7章17節は私たちに「神のみこころを行おうと思う〔若い女性〕であれば、だれでも……この教が神からのもの〔であることが〕わかるであろう」という希望を与えてくれます。(これは聖典に書かれているとおりでありませんが、「聖文を私たちのためと見立てた」ニーファイはきつと認めてくれるのではないのでしょうか) 奉仕と「成長する私」のプログラムとは神のみ言葉、つまり神の教を養い育てるのに大いに役立つでしょう。実行しようとする努力は、私たちが神のみ言葉を知り、養い育てる努力の助けになります。

また信仰に加えて、若い女性のために祈り、彼女たちとともに祈ることも忘れてはなりません。私の父が書いた次の詩には、私たち全員の心の祈りがつづられています。

おお主よ、憐れみもて賜わりたる汝のみ言葉を聞かせたまえ。

わが心を和らげ、汝に捧げることを許したまえ。

わが霊を願いで満たし、汝を求めさせたまえ。

わが耳と目を開かせたまえ。

イスラエルの聖なる主よ、われは主を喜びたたえ、み名をほめたたえん。(メリル・ブラッドショー「復活」)

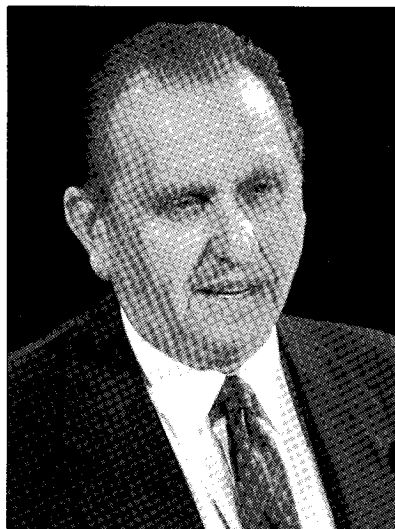
イエス・キリストのみ名により、アーメン。

選択の時期

第一副管長

トーマス・S・モンソン

主を導き手としてより頼んでください。皆さんを説き伏せようとする悪の
声に耳を傾け……ないでください。「わたしに従ってきなさい」という贖
い主の穏やかで純粋な招きを心に刻んでください。



今晚、この特別な集会に若い女性の皆さん、そしてその母親や指導者のかたがたが集っていらっしゃる様子はなんと輝かしく、靈感あふれる光景でしょう。この大会の間、耳にし、目にし、心に感じた、美しく荘厳な教えの数々によって、私たちは大いに高められました。皆さんに短い話をするという特権を果たすうえで、天父の助けがあるように祈っています。

私は皆さんの物の感じ方を理解しておくことが、自分にとって大切だ、ということをおぼえています。私はこの真理を、今晚ここに集っていますが、皆さんと同じ年代の孫娘から教えてもらいました。彼女の家族と話していた時、若い男性と若い女性が交流の機会を増やし、一緒に福音の原則を学ぶには、ワード部の中にじゅうぶんな人数の若い男性と若い女性がいたのはとて

も大切だと言ったことがあります。「ジョセフ・ワースリン長老がこのソルトレークシティで監督をしていた時、祭司定員会には48人全員がそろっていたそうだよ」と私が言いました。

すると、それまで何も言わずに話を聞いていた孫娘が、突然こう叫びました。「わあ、そんなに男の子がいたらどんなにすてきかしら！」

若い女性の感じ方を正しく知っておくことはほんとうに大切です。こんなことわざがあります。「若者は世界を、年寄り若者を、変えたがる！」

私たちの若人の抱いている夢はどんなに美しく、そしてはかないものでしょう。しかし今日、さまざまな可能性に恵まれながら、誘惑の波間に漂い、波に飲まれそうになっている若人もいます。アメリカの著名なジャーナリストはこの国の現状を次のように表現しています。「それは現代の世相を映し出している。……現代は妥協の時代である。原則は骨抜きにされ、罪は小さな過ちと見なされ、純潔はそのときどきの状況によって変化し、物質主義は便利さだけを追求する一方で責任感がないがしろにしている。」

若い女性の皆さんは心の中で、「どうしたら永遠の喜びを確実に得られるのでしょうか。教えてください」と、私に問いかけているでしょう。私は、4つの事柄を提案したいと思います。

1. 熱心に学ぶ。
2. 注意深く選択する。
3. 心を込めて祈る。
4. 賢く行動する。

第1に、熱心に学ぶことです。今晚

話されたすべてが、聖典は私たちの人生における揺るぎない道しるべであることを示しています。聖典に書かれている教えに慣れ親しんでください。主のたとえ話や予言者の勧告がどのような背景や状況の下に話され、与えられたか学びましょう。そして自分自身に語られたものとして受け止め、研究してください。なぜなら事実そのとおりだからです。

たとえば、使徒パウロがその若い友人テモテに与えた思いやりのある、しかし力強い勧告に耳を傾けてみましょう。「あなたは、年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。」

聖典を一度に多く読むことは、日々聖典をひもといて生活に役立てていくのに比べると、効果的な方法とは言えません。また、良書を読むときにも多くのよい事柄を学べます。ジョセフ・スタインの「屋根の上のバイオリン弾き」は今世紀最も流行したミュージカルのひとつです。

それまで人々を引きつけていた陽気なダンスや音楽のリズム、演技のうまさも、父親デビエがミュージカルのテーマ（であると私は思いますが）を語る時、すべて影を潜めてしまいます。貧しい農夫である彼が美しい娘たちを傍らに座らせ、彼女たちの将来に思いをはせてこう話して聞かせるのです。「忘れないでくれ、アナテフカ家のおまえたちは自分が何者であるかを知っている。そして神様がおまえたちにどんな人になってほしいと望んでいらっしゃるかもよくわかっているね。」

この世の生活を改めて見詰め、デビエの言葉を深く考えてみると、このような答えが心にわいてきます。「ここにいる皆さん一人一人は、自分が何者かを知っているし、神が皆さんにどんな人になってほしいと望んでいらっしゃるかも知っています。」どうか、熱心に学んでください。

第2に、注意深く選択してください。すべての人は霊の世界である前世を巣立って現世に来た時、非常に大きな重

要な仕事に取りかかり始めたのです。愛ある両親に喜んで迎え入れられ、靈感を受けた教師たちから教えを受けられました。真の友人たちからは助言を受けました。しかし人生の選択は、皆さん自身に託されています。重要でない選びなどひとつもありません。それは、私たちは自分が思うとおりの人間になるからです。私たちの選びは、自分の行く末を決めます。

数年前、私は正しい選択のためのガイドを手に入れました。それは普通私たちが合本と呼んでいるもので、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠を収めた聖典でした。これは愛ある父親から、美しく成長していく娘に贈られたものでした。彼女は父親から受けた助言に注意深く従いました。本の見返しには父から娘への靈感あふれるメッセージが書き込まれていました。

「愛するモーリーンへ

あなたが常に真理と人の哲学による誤りとを見分けられるように、そして知識を増し加えて靈的に成長できるように、この神聖な書物を贈ります。何度も読み返し、生涯にわたって大切にしてくれることを願って。愛を込めて、父より。ハロルド・B・リー」

若い女性の皆さん、友人を選ぶときにも注意深くあってください。彼らは皆さんの将来を決めるのにかかわってきます。天父が望んでおられるように、両親を敬うことを選んでください。両親は皆さんを愛しています。わざと間違った道へ導くようなことは決してありません。

ルイス・キャロルの古典的名作「不思議の国のアリス」の中で、アリスはまったく反対方向に伸びた分かれ道に差しかかりました。そこで出会ったチェシャ猫に「どっちの道を行ったらいいのかしら」と尋ねます。

すると猫は「そりゃあんたがどこへ行きたいかで、違ってくるよ。自分がどこへ行きたいかわからないなら、どっちを選ぼうと大した違いはないね」と答えます。

皆さんはアリスと違って自分がどこへ行きたいかを知っています。どちらの道を選ぶかで大きな違いが出てくる



のです。なぜならこの世で私たちが歩む道は、次の世で歩む道につながっているのですから。注意深く選択してください。

第3に、**熱心に祈りを捧げてください**。皆さん一人一人は神の娘であり、神の姿形に似せてつくられました。皆さんの旅は日の光栄の旅です。天父は皆さんが真心からの熱心な祈りによって、チェックインするよう望んでいらっしゃると思います。覚えておいてください。皆さんは決してひとりではありません。自分が愛されていることを決して忘れないでください。皆さんを心にかけておられる方がいらっしゃることを、決して疑わないでください。

皆さんは現実に試練を受け、大切な問題を抱えて、切実に答えを必要としています。若人の皆さんに、教義と聖約第9章をよく読み、学んでほしいと思います。皆さんそれぞれが学ぶべきことが書かれています。何か決心をしなければならぬときには、ジョセフ・スミスが主から勧められた方法で、天父に尋ね求めてください。主は予言者ジョセフにこう言われました。「されど見よ、われ汝に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正

しならば汝願わざるべからず。願うこと正しからば、その時われ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ。」主は続けて「されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなり、そはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん」と言われました。²

この勧告は皆さんに導きを与えてくれるでしょう。私も導きを受けました。どうぞ**熱心に祈ってください**。

第4、そして最後に申しあげたいのは、**賢く行動する**ということです。主を導き手としてより頼んでください。皆さんを説き伏せようとする悪の声に耳を傾けて、皆さんの標準や家庭で受けた教えやあなた自身の信念から離れないでください。それよりも、「わたしに従ってきなさい」³という贖い主の穏やかで純粋な招きを心に刻んでください。贖い主に従いましょう。そうするなら皆さんは賢く行動し、永遠の祝福を受けるでしょう。

皆さんの人生の旅路で、同じように旅をしている人に気づくでしょう。皆さんの助けを必要としている人々がいます。皆さんの与える確信、助け、励まし、靈感を待つ人がいます。皆さん

が救うべき人々がいるのです。

私は最近、何年か前に知り合ったジャミ・パーマーという10代の少女と再会しました。彼女は癌にかかりましたが、今回復活しつつあります。数々の検査に耐え、手術やつらい化学療法にも耐え抜きました。今、明るく美しい彼女は、確信と信仰を胸に、未来を見詰めています。彼女にとって未来が恐ろしく思えた最もつらい時期に、癌に侵された彼女の足は何回も手術を受けなければなりません。前々から計画されていた若い女性みんなとのティンパノゴスの洞くつへのハイキングなど、問題外のように思えました。ジャミは友達にみんなだけでハイキングに行ってくれるように言いました。きっと、その時の彼女は声を詰まらせ、心の中はがっかりした気持ちでいっぱいだったと思います。しかし若い女性の仲間たちは断固としてこう言いました。「だめよ、ジャミ。あなたも一緒に行くのよ。」

「でも、私は歩けないのよ」と泣きそうになりながらジャミが答えました。

「じゃあ、私たちが頂上まで運んであげるわ。」それは実現しました。

今では、それはひとつの思い出ですが、実際にはそれ以上の意味を持っています。スコットランドの詩人、ジェームズ・バリエはこううたっています。「神は我々に思い出を与えられた。つらく悲しいときに、幸福なあの日々を思い出せるように。」その尊い若い女性たちは記念すべきあの日を決して忘れないでしょう。その時、愛ある天父がにっこりとほほえみながら、彼女たちのしたことを喜び、認めてくださったはずで。

天父が尊い若い女性の皆さんをさらに祝福され、皆さんの母親や教師のかたがたに靈感と導きを与えられ、皆さんをいつも見守ってくださるよう、心からお祈りします。イエス・キリストのみ名により、アーメン。

注

1. Iテモテ4:12
2. 教義と聖約9:8-9
3. ルカ18:22

内なる光

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

皆さん一人一人が神の娘であり、神から授かった生得権と使命を担っていることに思いをはせてみてください。なんと感動的なことでしょうか。



大いなるみ業の中にあつて私の愛する友である、すばらしい若い女性と母親の皆さん。今晚私は、予定された話者としてここに出席したわけではありません。私の話は、もともとプログラムに入っておりませんが、これまでに話されたすばらしいお話にひと言だけ付け加えさせていただきます。私たちは皆、実に有益な助言をたくさん聞くことができました。これらの事柄を決して忘れず、生活の指標としていただきたいと思ひます。

聖典を読むことが強調されたことに感謝しています。聖典を読むことが義務ではなく楽しみとなり、皆さんが神のみ言葉を夢中になって読むようになることを望んでいます。聖典を読むにつれて、心が開かれ、霊性が高まることをお約束いたします。最初は退屈かもしれませんが、神のみみこころを知り、み言葉を味わうにつれてすばらしい経

験となるでしょう。

若い女性の大会は、ここタバナクルを起点としてこれまで何度か行なわれてきましたが、このようなすばらしい集会は世界じゅうどこにもないと思います。この土曜の夕べに、何十万人もの若い女性が地上のさまざまな場所に設けられた会場に集っています。皆さん一人一人が神の娘であり、神から授かった生得権と使命を担っていることに思いをはせてみてください。なんと感動的なことでしょうか。

私と妻が今よりずっと若くて、体も固くなかったころ、よくダンスへ行きました。妻は皆さんに、「結婚した途端に行かなくなったんですよ」と言うかもしれません。正直言うと、ダンスをすることが楽しかったというより、彼女と一緒にいることが楽しかったのです。

そのころの流行歌に、このような歌詞の歌がありました。

「教えてあげよう、だれかがあなたを愛してる。

どこへ行っても、いつも一緒にいたいと思ってる。」(チャーリー・トビアス、ピーター・デ・ローズ『だれかがあなたを愛してる』)

私は歌詞を書いた作者とは違った意味に、これらの言葉を解釈していました。私は皆さん一人一人がどこにいても愛されているということを知っていただきたいと思ひます。皆さんは天父に愛され、天父の特質を受け継いでいるのです。そして、天父は、皆さんがどこにいても、皆さんの招きと求めに応じて、聖霊が皆さんの伴^{はんりよ}侶となるよう望んでいらっしゃいます。

皆さん一人一人の内には神聖な賜たまものがあります。天与の特質であるその賜には、すばらしい可能性が秘められています。だれもが、この世で優れた働きをするために、大きな力を天父から授かっているのです。皆さんが社会の一員としてよく奉仕できるように、皆さんの頭脳と技能を訓練してください。親切で思いやり深く、人々を助けられるような力を培ってください。皆さんが受け継いでいる神聖な特質の一部である、憐れみあわれの心を養ってください。

皆さんの中には、自分はそれほど魅力的でも容姿端麗でもないと思ってい

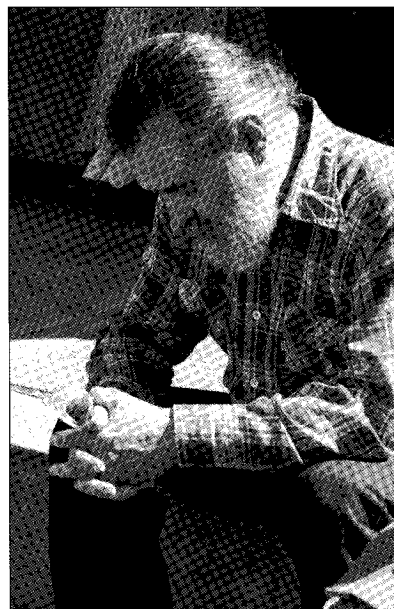
る人がいるかもしれません。そのような気持ちを乗り越え、内なる光を一層輝かせてください。そうすれば、内なる光はほかの人にもわかるような輝かしい光を放つようになるでしょう。

劣等感を持つ必要はありません。生まれつきの才能もないし、あったとしてもそれを表現する機会に恵まれないなどと考えるはいけません。持てる才能が何であれ、それを伸ばすように努力してください。そうすれば、皆さんの才能はだんだんと増し、洗練されて、ほんとうのあなたらしさを表現する手段となり、人々によく評価されるよう

になるでしょう。

要するに私は皆さんに、アルマが言ったように「目をさましてふるい立ち」(アルマ32:27)、一人一人の内にある神聖な特質にふさわしくなるよう、もう少し努力していただきたいのです。

皆さんが生活の中でよい行ないをし、正しいことをしたいという望みを持ち、祈り、親切と思いやりを示していることに感謝いたします。私たちは皆さんを心から信頼しており、皆さんを愛し、皆さんのために祈っています。そして、イエス・キリストのみ名により、皆さんを祝福いたします。アーメン。



十二使徒定員会

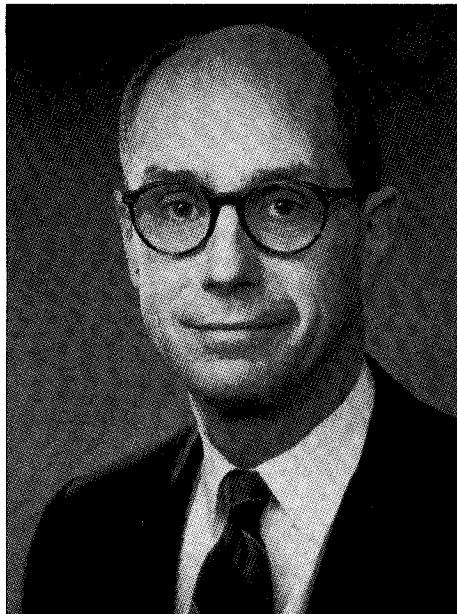
ヘンリー・B・アイリング長老

バプテスマを受ける年齢に近づいたところのことです。ヘンリー・B・アイリングは後ろ向きに座り、教会の折り畳みいすの背もたれの間から足を出した姿勢で、話者の話を聞いていました。アイリング長老はその時のことをこう述懐しています。「私はくるっと振り返って、話者の顔を見ました。そしてその人の語っている言葉が、神からもたらされたものであり、真実であるとわかったのです。その言葉は心を内から燃やしました。」

ハワード・W・ハンター大管長が3月3日に亡くなり、大管長会が再組織されました。その結果生じた十二使徒定員会の空席を埋めるため、ヘンリー・B・アイリング長老(61歳)が召されました。

ハルの愛称で親しまれたヘンリーは、ヘンリー・アイリング、ミルドレッド・ベニオン・アイリング夫妻の3人息子の次男として、1933年5月31日にニュージャージー州プリンストンで誕生しました。そして音楽、知的発見、霊的成長に満ちあふれた家庭で育ちました。「宗教を信仰していたおかげで、科学を探究する私たち家族の態度は高められました。」父親がプリンストン大学で化学を教え、母親が才能に恵まれた教師であり音楽家であったアイリング長老は、そのように述べています。第二次世界大戦中、地元の小さな支部の日曜日の集会は、アイリング家で行なわれていました。

1946年、アイリング家はユタ州ソルトレークシティに移り住みました。そこで父親のヘンリー・アイリングはユタ大学の大学院の最高責任者となりました。アイリング家の息子たちであるエドワード、ヘンリーそしてハーデ



ンは、いまや「教会でほかにアロン神権者がいない」という状況から遠ざかることになりました。

「私が物理を勉強したのは、科学をじゅうぶんに理解することが大切だ、と父に言われたからです。」そう語るアイリング長老は、ユタ大学で1955年に物理の学士号を取得して卒業しました。大学卒業後、ニューメキシコ州アルバカーキにある合衆国空軍基地で2年間兵役に就きました。さらに、軍務と並行して、夕方や週末は西部諸州伝道部の地方部宣教師として働き、多くの人に福音を伝えました。

除隊後、アイリング長老はマサチューセッツ州ボストンのハーバード大学に入学しました。1959年には経営学の修士号を、1963年には同じく博士号を取得しました。

ハーバード大学在学中に、カリフォルニア州パロアルトのジョセフ・ジョンソン、ラプリール・リンゼイ・ジョンソン

夫妻の娘、キャスリーン・ジョンソンと知り合いました。ふたりは1962年にユタ州のローガン神殿で結婚しました。そして6人の子供、ヘンリー、スチュアート、マシュー、ジョン、エリザベス、そしてメアリーの両親となったのです。

アイリング家はいつも家族生活を大切にしてきました。子供たちが幼かったころ、家庭の夕べだけではなく、土曜日の午前中に家族で本棚を作ったり、花を植えたりして過ごしました。知的発見や霊的成長の機会を大切にするとともに、ほかの分野とのバランスを保ってスポーツも行ないました。アイリング長老はこう言っています。「子供たちと一緒にできないスポーツをしようとは思いませんでした。」そのため、テニス、バスケットボール、水泳が家族の活動となりました。

教鞭きょうべんを執ることを選んだアイリング長老は、1962年にスタンフォード大学の大学院経営学部教授の職を受諾しました。スタンフォード時代に、マサチューセッツ州ケンブリッジにあるマサチューセッツ工科大学内のスローン経営スクールから客員教授として招かれ、1年間教えました。また、パロアルトステーク部の学生ワード部であるスタンフォード第1ワード部の監督として、4年間働きました。「1971年、9年間過ごしたスタンフォードを後にし、アイダホ州レックスバークにあるリックスカレッジの学長を引き受けました。」学長として在職中、近くのティートンダムが決壊し、アイリング長老は、学生たちと一緒にシャベルで泥をすくい取りました。「6年後の1977年7月、8年間にわたる教会教育部での任務が始まりました。そのうちの3年間は教会教育副理事長とし

て、その後の5年間は教会教育理事長として働きました。」

アイリング長老はこれまでに教会で、地区代表や日曜学校中央管理会の役員なども務めてきました。1985年4月に管理監督会の第一副監督に、1992年10月には七十人第一定員会に召されまし

た。そして七十人として、再び教育理事長を務めることになりました。

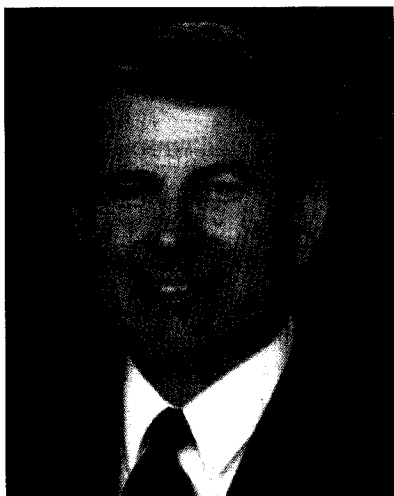
今年の3月31日金曜日に十二使徒定員会会員として召しを受けた時は、北アメリカ西地域会長会の第二副会長も務めていました。

「何が真理かわかったなら、その真

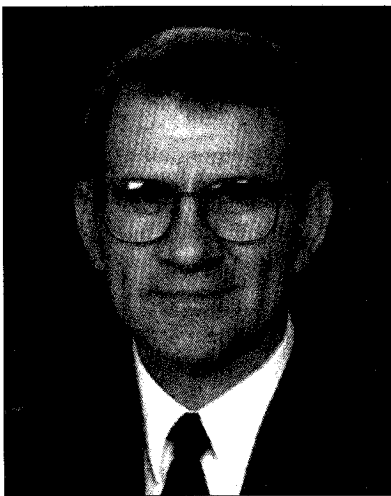
理に従って行動すべきです。」アイリング長老は以前そのように語りました。何十年も前に、真理は幼いヘンリー・B・アイリングの心を燃え立たせました。そしてアイリング長老は、今に至るまでその真理に従った生き方を続けているのです。□

教会幹部の異動

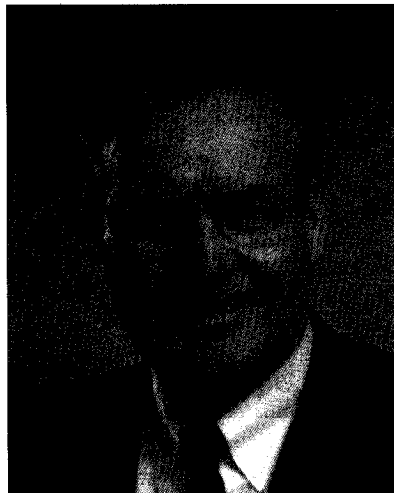
七十人第一定員会に4人、 七十人第二定員会にひとりが召される



ジョン・B・ディクソン長老



ジェイ・E・ジェンセン長老



デビッド・E・ソレンセン長老

4月1日土曜日の最初の部会では聖会が開かれ、ゴードン・B・ヒンクレー大管長をはじめ、トーマス・S・モンソン第一副管長、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長、および十二使徒定員会会員が、主の予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持を受けた。続いてそのほかの教会幹部と補助組織の中央管理役員が教会員から支持された。この後半の支持では、新教会幹部を含む4人の教会幹部が七十人第一定員会に召され、さらにひとりの新教会幹部が七十人第二定員会に召された。

七十人第一定員会に召されたのは、これまで七十人第二定員会で奉仕してきたジョン・B・ディクソン長老、

ジェイ・E・ジェンセン長老、デビッド・E・ソレンセン長老、そしてソルトレークシティ在住の新教会幹部W・クレイグ・ズウィック長老である。七十人第二定員会に召された新教会幹部は、ユタ州プロボ出身のブルース・D・ポーター長老である。(ズウィック長老とポーター長老に関しては次頁の記事を参照)

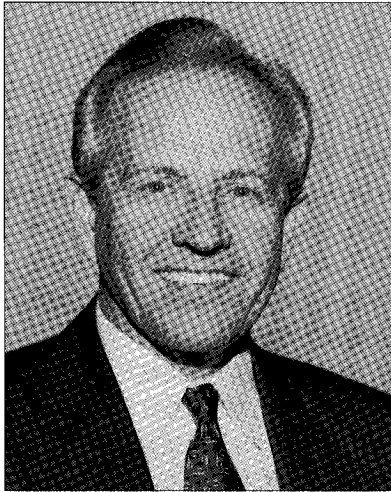
ディクソン長老(51歳)は1992年6月に七十人第二定員会に召され、これまで南アメリカ南地域会長会で第一副会長として働いてきた。ジェンセン長老(53歳)は、1992年6月に七十人第二定員会に召され、これまで南アメリカ北地域会長を務めてきた。ソレンセン長老(61歳)は1992年6月に七十人第二定員会に召され、これまでアジア北地域会長会で会長として奉仕してきた。

これらの管理上の決定に加え、土曜日夜の神権部会でヒンクレー大管長は、今年の8月15日をもってすべての地区代表を解任することを発表した。28年前の1967年に召された最初の地区代表は69人であったが、現在では284人になっていた。ヒンクレー大管長はこの点について触れ、こう語った。「全世界でみ業が発展するにつれ……管理上の権限の分散が必要になってきたのです。」その後、ヒンクレー大管長は「地域幹部という各地域の地元役員を新たに召す」ことを発表した。地域幹部は地域会長会の指示を受けながら、担当の地域内で働くことになる。

さらにヒンクレー大管長はこう述べている。「彼らは現在の各自の職業を続けるとともに、自宅に住んで、教会での奉仕としてこの召しを果たすようになります。この召しには確定した任期はありませんが、通常は約6年です。」□

七十人

W・クレイグ・ズウィック長老



クレイグ・ズウィック長老は1968年にボリビアの南部で伝道した時に、初めて教会の集会所の建設に携わりました。「材木、コンクリート、ガラスを運ぶのには、ろばを使って山道を越えなければなりませんでした。」当時を思い出して、彼はそのよ

うに語ります。

伝道後、ズウィック長老はソルトレークシティを本拠地とする、父親の建設会社に入社し、後に後継者になりました。病院、学校のほか、ズウィック建設はイリノイ州シカゴ神殿、およびマンタイ神殿の改修工事を行ない、さらにはオレゴン州ポートランド神殿、ソルトレーク家族歴史図書館、教会歴史美術館、そしてテンプルスクウェアの訪問者センター南館を建設しました。

ズウィック長老はこう述べています。「教会員が個人の誠実さ、堅固な家庭、神殿に参入するふさわしさなどの確固とした基を築くなら、すばらしく成長できます。教会が引き続き力強く発展していく様子を、私たちは目の当たりにするでしょう。」

七十人第一定員会の召しを受けた時、ズウィック長老はユタ州運輸局の幹部役員を務めていました。1947年6月30日にソルトレークシティで双子の姉

妹とともに生まれ、ユタ大学では商業を専攻し、1971年に卒業しました。そして、高校時代に知り合ったジャネット・ジョンソン姉妹と1969年11月21日に、ソルトレーク神殿で結婚しました。夫妻はオレゴン州やカリフォルニア州で働いた後、1972年にソルトレークシティに移りました。夫人との間には23歳から15歳まで4人の子供があり、家族みんなでスキーやスキューバダイビング、マウンテンバイクなどの野外活動を楽しんでいます。

1989年にズウィック長老は、チリのサンティアゴ南伝道部の伝道部長に召されました。また、これまで高等評議員を2度、監督会の責任を3度、そしてステーク部伝道部長会の責任を果たしてきました。そして、ユタ交響楽団と、建設業界の団体である全米請負業者組合の理事を務め、ユタ教育財団およびユタ航空旅行評議会の一員としても働きました。ズウィック長老はオークランド建設会社の元副社長でもあります。

「両親は一生懸命働くことと、みたまの導きに従うことを、私に教えてくれました。妻はあらゆる大切な点で私に勝っています。」ズウィック長老はさらにこう続けます。「モルモン経と現代の予言者^{あかし}について、私は強い証を持っています。」□

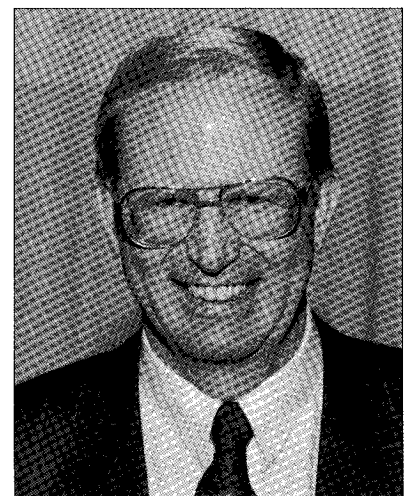
七十人

ブルース・D・ポーター長老

青年時代、私は父と一緒によくホームティーチングに行きました。ときにはずっと遠くまで訪問しなければならず、そんなときにはいろいろなことを話し合ったものです。とりわけ、福音について父と語り合ったことが私の心に強く刻み込まれました。」ポーター長老はそう語ります。1952年9月18日にメキシコのアルバカーキで生まれたポーター長老は、自

分の証^{あかし}が芽生えたのは両親のおかげである、と考えています。

ポーター長老の証は、ドイツのデュッセルドルフ伝道部で宣教師として働いた時にさらに強められました。「私のふたりの伝道部長はどちらも第二次世界大戦でドイツ軍にいました。ひとりにはロシアでの戦闘で捕虜になったこともありました。ふたりの経験談に強い印象を受けた私は、伝道から帰



るとロシアについて学ぶことになりました。」

当時、ポーター長老はブリガム・ヤ

ング大学の寮に住む、学長奨学生でした。そして宗教のクラスでスーザン・エリザベス・ホランド姉妹と出会い、1977年2月2日にワシントン神殿で結婚しました。

「結婚した日から夫は、主を別にすれば、私のことをまず第一に考えてくれました。そのおかげで私たちは、夫婦として友として、親密な関係を保ってられました」とポーター姉妹は言います。

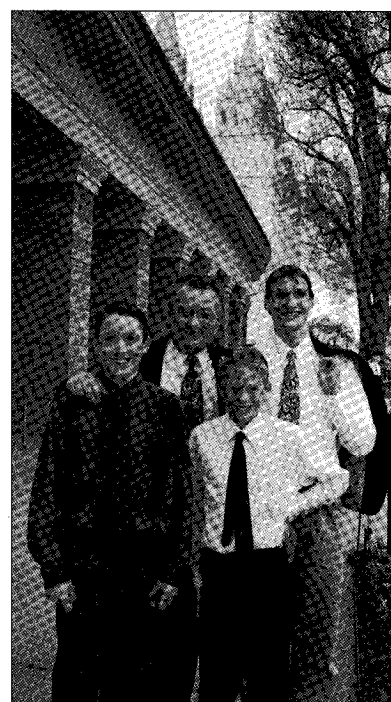
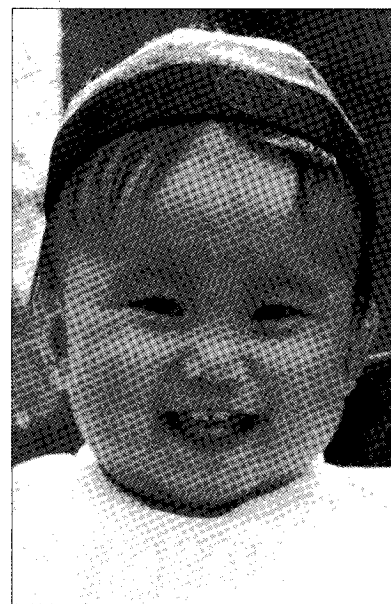
ポーター長老はドイツでは支部長と

して、バージニア州では監督として、そして最近までブリガム・ヤング大学のステーキ部で副ステーキ部長として奉仕してきましたが、主に献身する心はその働きによく現われていました。

彼は交換留学生としてロシアでひと夏を過ごした後、ハーバード大学でロシアの国政を専攻し、政治学の博士号を取得しました。その後、連邦政府機関である合衆国上院軍事委員会の職員や国際放送協会の理事として働きました。

最近彼は、ブリガム・ヤング大学からロシア政治学助教授として招かれ、スーザン夫人と4人の子供たちを連れてユタ州プロボに移り住みました。

主のみ名を携えて全世界に出て行くという召しについて思いをはせながら、ポーター長老はこう語っています。「私の証あかしの基となっているのは、主が実に生きておられ、私たちの救い主であられるという知識です。」□



大阪伝道部と神戸伝道部が合併 新伝道部長に松^{やす}下^{ひろ}泰洋兄弟が召される

大阪伝道部と神戸伝道部とは7月1日をもって合併され「神戸伝道部」という名称の下に本部が神戸に置かれる。

これに伴い、1992年7月より伝道部長としてその任にあった大阪伝道部のC・ケント・ピーターソン長老と神戸伝道部のカーチス・P・ウィルソン長老は6月で任期を終え、新たに松^{やす}下^{ひろ}泰洋兄弟が神戸伝道部の伝道部長に召された。



松^{やす}下^{ひろ}新伝道部長ご夫妻

新伝道部長の紹介

日本神戸伝道部

松^{やす}下^{ひろ}泰洋伝道部長(56歳)。召しを受けた時は、日本東京南ステーク部渋谷ワード部に所属し、祝福師の任にあった。これまで副伝道部長、副地方部長、高等評議員、監督、長老定員会会長などを歴任している。東京神殿・神殿記録部長。北海道大学文学部英文科卒業。

札幌市で松^{やす}下^{ひろ}長太郎、松^{やす}下^{ひろ}(旧姓・真^ま壁^{かべ})千代夫妻の間に生まれた。吉川承子姉妹と結婚し、4人の子供がいる。松^{やす}下^{ひろ}姉妹はワード部初等協会会長の任にあった。これまでステーク部および地方部の扶助協会会長やワード部の若い女性、扶助協会、初等協会の会長、および日曜学校で教師の召しを果たしてきた。室蘭で吉川正三郎、吉川(旧姓・藤江)マサル夫妻の間に生まれた。

再組織された高崎ステーク部長会

去る2月19日、十二使徒定員会会員ラッセル・M・ネルソン長老の管理の下に開催された高崎ステーク部大会で、1988年5月よりステーク部長の責任を果たしてきた岡^{おか}田^だ幸^{ゆき}男^{おとこ}兄弟が解任され、新たに新^{あら}井^い文^{ふみ}雄^{おとこ}兄弟(写真中央)が召された。第一副ステーク部長には桑^{くわ}原^{はら}健^{けん}次^じ兄弟(写真左)が、第二副ステーク部長には天^{あま}田^だ和^{かず}利^{とし}兄弟(写真右)が召され、その任に当たる。



信仰生活から得られる喜びを次の世代へ

——教会のさまざまなプログラムを生かして——

高崎ステーク部長
新井文雄

物 心ついたころには、私はすでにこの教会の存在についてよく知っていました。なぜなら、教会は私の家近くの遊びの行動範囲内にあり、宣教師もよく見かけていましたし、何よりも姉がそのころすでに教会員となっていたからです。と、は、い、う、の、の、

私がほんとうの意味でこの教会を深く知るようになったのは高校生活も終わろうかというころでした。

ひとりでいるときふと、自分が存在する理由は何か、自分は何をすればよいのか、自分の人生はこれからどうなるのかと、いろいろ考えるようになりました。そのようなとき、義兄が私の部屋に来て、よく話をしてくれました。教会員である義兄はその会話の中で、教会を意識させることなく自然に、福音について説明してくれたのです。自分の人生について考えていた私は、何の抵抗もなくその話を聞いていました。神の教えであるとか教会の教えであるとか意識していませんでしたが、その話を聞いているうちに懐かしい気持ちになり、以前にこの話を聞いたことがあるのを思い出したのです。義兄の話を聞いてすぐに教会を信じたわけではありませんが、これは調べる価値があると思い、その後も教えを聞き続けました。この教えは私が抱いていた人生の疑問にすべて答えてくれ、私は教会に入りました。以来、この時の原体験が私の信仰を支えてきました。

伝道に出て、神殿で永遠の結婚をし、3人の子供にも恵まれ、福音の教えにそった家庭を築こうと努めてきました。教会員になってからの人生を振り返ってみると、神様がいつも私たち家族の必要を満たしてくださり、歩みの遅い私たちを忍耐強く見守ってくださった

ことに気づきます。私たちは身に余る祝福を受けてここまで至ることができました。

このように多くの祝福を受けていながら、神様のおっしゃることを行なうのが遅い私のような者が、なぜこの責任に召されたのか考えました。そして私は、改宗の原点に戻る必要があるのを感じました。

現在の高崎ステーキ部には、いまだかつてないほど改宗者の子供たち、いわゆるモルモン2世が増えてきています。このモルモン2世たちは、私が教会に入って楽しい時を過ごしていたころの年齢に達しています。残念なことにその年代の何人かは教会を休んだり、教会に来るのをつまらなく感じたりしているようなのです。

私たちの時代は、日本の教会の組織も不完全であり集う人もはるかに少なかったのですが、ひとつの家族という雰囲気があって、何事も皆で一緒に活動しました。教会にばかりいるので、早く家に帰りなさいと指導者に言われたほどでした。それほど教会が楽しい所であるかのような生活を送っていました。その時代に戻れと言っているのではありませんが、改宗者である私たちモルモン1世は、かつて知っていた教会の楽しさや教会が信仰生活の喜びを得る場所であることを、もう一度思い起こして伝えていく必要があると思うのです。

教会では最近「アンモン・プロジェクト」と呼ばれる伝道活動を推進しています。これは教会員とその家族ばかりでなく、これから教会を知ろうとする人々にも信仰生活から得られる喜びを知ってもらおうとするものです。教会のために私たちがいるのではなく、教会が私たちのためにあることを理解できるプログラムだと思います。

もちろん、私たちが教会に来ている目的は「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり」(モーセ1:39)と神様が言われたとおり、将来私たちが神様のみもとへ帰ることにあります。この目標は決してひとりでは達成できませんし、これを見失うと信仰生活はつらいものになります。教会は皆がそろって神様のみもとに帰るための準備をする、楽しい所なのです。そして、私たちのためにいろいろなプログラムが用意されています。このことを、モルモン2世やこれから教会を知る人たちに伝えていきたいと願っています。

聖書とモルモン経は、信仰生活でいかに喜びが得られるかを記した神様のみ言葉であることを証します。またこの教会を通して私たちのまことの人生の目的を達成することができます。

神様は私たち一人一人をよく知っておられ、霊についてもこの世のことについても、必要な助けをくださいますことを証します。(あらい・ふみお)

新井文雄ステーキ部長の紹介

1948年群馬県高崎市生まれ。1967年に改宗。1969年から1971年まで沖縄伝道部、西部伝道部で専任宣教師として働く。ユタ大学大学院建築学科卒業。1972年に江森美恵子姉妹と結婚、3人の子供がいる。高崎ステーキ部高崎ワード部所属。株式会社山下設計の設計士。これまで、監督、副監督、長老定員会会長、日曜学校会長などを歴任している。



新井ご家族

スチーブ・ヤング兄弟、 米国プロフットボールリーグ 2度目の最優秀選手(MVP)に

元ブリガム・ヤング大学でクォーターバックとして活躍したスチーブ・ヤング選手は、1月4日、98人のスポーツ記者ならびに報道関係者で構成される全米規模の選考委員会の投票により、米国連合通信社のNFL(米国のプロフットボールリーグ)最優秀選手に選ばれた。

ヤング選手は今シーズン、10年間の選手生活で最高の実績を残した。NFLでのパスやタッチダウンの成功率の新記録を樹立したのだ。

最優秀選手にヤング選手が選ばれるのは、1992年に続いて今回で2度目。3年間に2度も選ばれたことになる。「NFLで最優秀選手に選ばれるなん

て、普通、一生に1度あるかないかだと思ってましたからね。2度も選ばれるとは驚きです。前回と同様、ほんとうに光栄です。」ヤング選手はそう語る。彼は今シーズン461本中、324本のパスを成功させた。これは実に70.3パーセントの成功率である。

教会員の家庭に生まれ育ったヤング選手は、ブリガム・ヤング大管長の6代目の子孫に当たる。彼はブリガム・ヤング大学時代にも、1983年、全米最優秀クォーターバックに選ばれ、1994年4月に同大学法学部を卒業している。「チャーチニュース」1995年1月14日付)

●タッチダウン社「タッチダウンNFL29」1995年3月増刊号より抜粋

炎の肖像—スチーブ・ヤング

ヤングは、2歳で腕立て伏せをし、3歳のころにはすでにバスケットボールをドリブルしていた、というエピソードを持つ。グリーンウィッチ高校時代は、野球、バスケットボール、フットボールの3つでキャプテンとして活躍した。プロ入り後にも、タンパベイではランニングバック、49ナイズでレシーバーを務めた経歴を持っている。筋金入りのアスリート(運動選手)。それがスチーブ・ヤングの才能だった。

1983年、ブリガム・ヤング大学時代にパス成功率71.3パーセントというNCAA(米国大学体育協会)記録を樹立したヤングは、文句なくNFL(米国のプロフットボールリーグ)ドラフトの1位指名候補だった。

ヤングは敬虔なモルモン教徒である。高校時代には朝5時に起きて、教会でモルモン教のクラスを受けた。現在でも、時にロッカールームや移動の飛行機の中などで、モルモン教の本を読むヤングの姿が見られる。

1989年のアメリカンボウルで来日

した際には、東京・吉祥寺の教会で説教をし、昨春は地元で、4歳の子供たちのために、教会の日曜学校の教壇にも立った。

モルモンの厳しい戒律に従って、酒は飲まず、たばこも吸わず、コーヒーさえ飲まない。スポーツ選手にとっては当たり前の、相手をのりするような言葉だって、ヤングが口にすることは無い。

親しいチームメートとは、オフにゴルフを楽しみ、コンサートに出かける。アウトドアを好み、音楽や演劇といった芸術からUFOまで、さまざまなトピックに関心を示す。ジョークだってしゃべっている。

ただ、パーティーなど、大人数が集まって、派手に騒ぐような場所は苦手で、そこだけはちょっと、ほかのチームメートたちと異なっている。

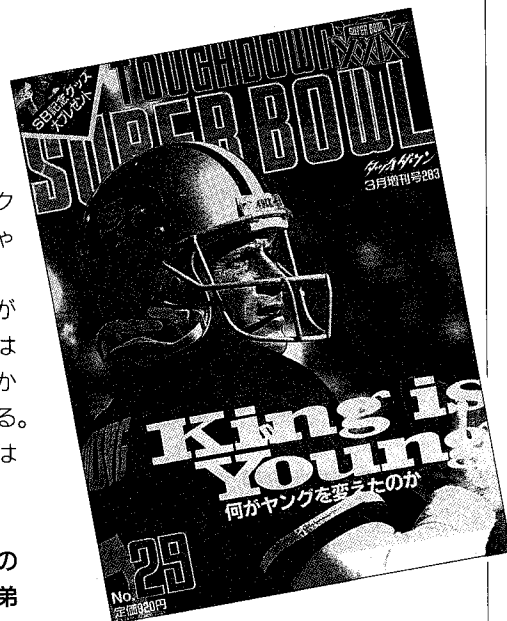
スポーツの世界にあって異端では

「月間タッチダウン3月増刊号」の表紙を飾ったスチーブ・ヤング兄弟

あるが、信じがたいほどのグッド・ガイ(好人物)。それが、スチーブ・ヤングの人柄なのだ。

ヤングが言った。「すべてを振り返ると、いろいろな困難を切り抜け、今こうしてここに立っていられることが、人生でいちばん貴重なんじゃないかな。」188センチ、97.5キロのクォーターバックは、NFL10年目にしてようやく頂点を極めた。

現在33歳。フットボールの後には、弁護士の資格を生かして、「人の役に立てる仕事をしたい」と言う。



プノンペン(カンボジア)からの便り

——カンボジアに光をもたらす宣教師たち——

国際協力事業団派遣専門家

タイ伝道部プノンペン支部

大矢重幸

長 い内戦の歴史の中で生きてきたカンボジアに平和の兆しが見えて間もない昨年2月、末日聖徒イエス・キリスト教会がこの国の政府から公認されました。

3月末には夫婦宣教師が着任し、最初の集会が開かれました。以来年内に約30人が改宗し、12月には初めて支部長会が組織されました。改宗者は着実に増え、今ではほぼ毎週バプテスマがあります。昨年の平均出席者は60人ほどでしたが、今年の3月現在では100人を超えています。

人道的援助を行なう宣教師として召されたトンプソン夫妻はインドからの転任で、後2カ月で任期を終えてユタ州に帰ります。20キロもやせながらも、前職の農学部教授の経験を生かし、村で家禽の育て方の指導もしています。2組目のオズワード夫妻はタイからの転任で70歳近いのに、自転車で常夏の国をふたりで仲良く精力的に活動して

います。

4人の宣教師は、それぞれ米国土の異なる伝道地で、難民などのカンボジア人に1年ほど伝道していたため、クメール語が堪能です。さらに最近、アメリカでベトナム人に伝道していた宣教師がふたり着任しました。集会の出席者の2割はベトナム人で、カンボジア人との意思の疎通にむずかしい点があります。集会は英語とクメール語で行なわれますが、モルモン経はまだ完訳されていませんし、賛美歌もありません。

ピックヤン姉妹は土砂降りのバプテスマ会で、ポール・ポト派に夫や肉親を殺され、ひとりで子供を育てた経験や長い苦難の末の平和を涙ながらに感謝し、証しました。キムソン兄弟は14歳の時、内戦で両親など多くの肉親を殺され、タイでの長い難民キャンプ生活の後、アメリカに渡り偏見や差別、言葉に苦勞した末に教会員の養子となりました。やがて伝道にも出て、大学を卒業。就職、結婚し、祖国が平和になりつつある中、長年の夢だった残るわずかの肉親探しに戻って来たのです。さいわいふたりの肉親の姉妹に巡り会い、つかの間の休暇を終えて帰国しま

した。肉親のいるこの国で、ともに国の再建に尽くせる仕事がしたいと言いつつ残して……。

昨年11月には教会の福祉関係の人が視察に来て、洪水の後干ばつで被害を受けた農民への援助としてお米の贈与を決めて帰りました。またクリスマスプレゼントがシンガポールの支部から届き、七面鳥やお菓子を教会員は喜びました。

現在、プノンペン支部の支部長として、支部長会の次にまず音楽委員、活動委員、扶助協会会長会を召しました。神権の召しや儀式は英語、クメール語、ベトナム語で行なわれます。儀式の前

大矢重幸兄弟のプロフィール

新潟県立加茂農林高校卒業後、海外で農業研修を重ね、青年海外協力隊稲作隊員としてフィリピンで働いた。21歳で改宗。37歳で新潟大学を卒業。その後、国際協力事業団に入り、マレーシアのプロジェクトで働いたり、昨年9月からは、カンボジアで長期専門家(食糧増産、作物保護)として活躍している。41歳。



大矢ご家族



新刊の紹介



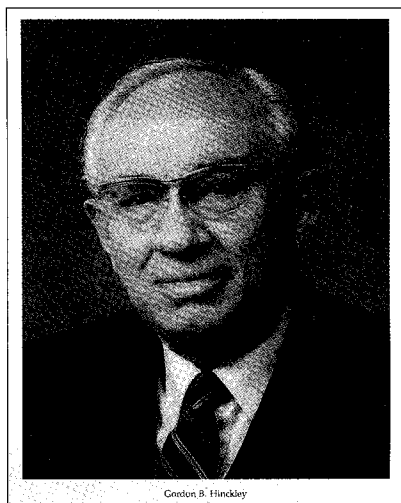
■LDS文庫1
「救い主イエス・キリスト」
86351 300 A 6判 304 頁 300円

■LDS文庫2
「互いに愛し合いなさい」
86352 300 A 6判 272 頁 300円

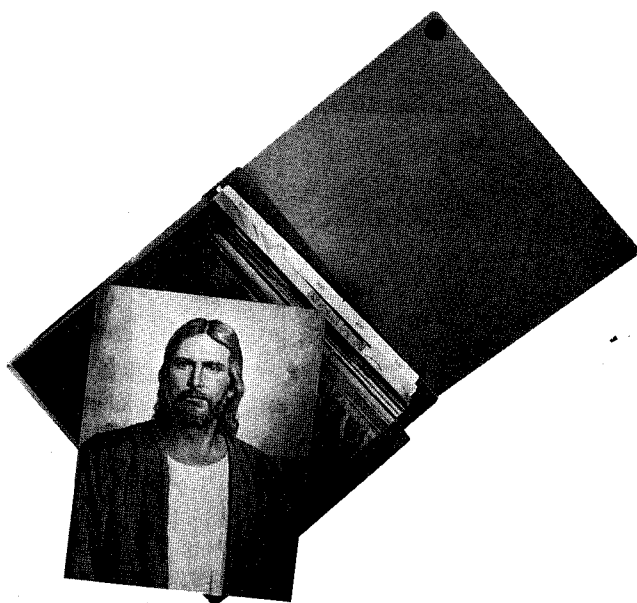
■LDS文庫3
「家族のきずな」
86353 300 A 6判 288 頁 300円

「LDS文庫」は、末日聖徒イエス・キリスト教会日本語版機関誌「聖徒の道」の1970年代から1990年前後にかけての記事の中から、米国ユタ州ソルトレークシティで開催される年2回の教会総大会での、教会幹部の説教をテーマ別にまとめたものです。

■ゴードン・B・ヒンクレー
大管長の写真
64930 A 4変型(280×215mm)
輸入品 50円



「福音の視覚資料セット」を各家庭に



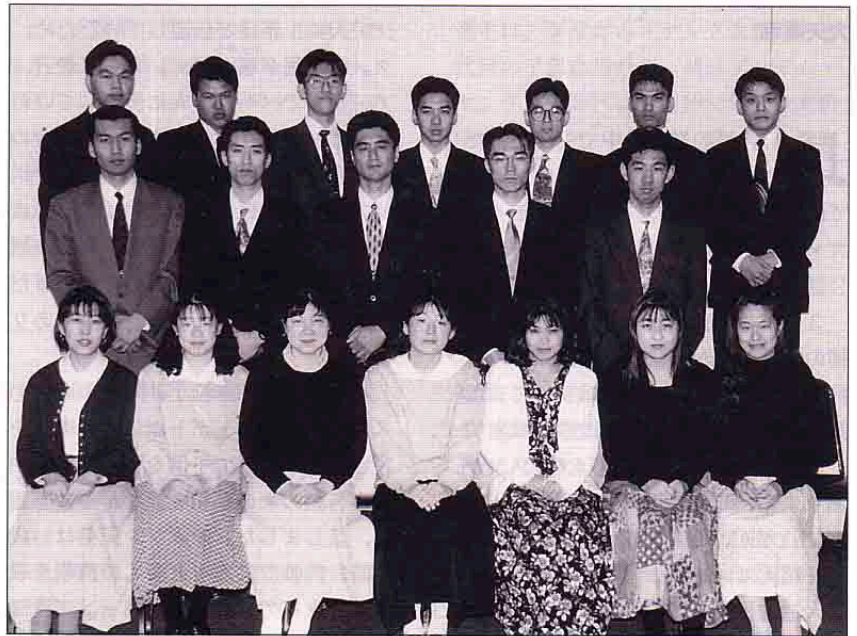
「福音の視覚資料セット」は、1992年12月に発刊されて以来好評を博しています。この視覚資料をさらに多くの方に知っていただき、活用していただければと願っています。旧約・新約聖書、モルモン経、教会歴史から取られた104枚の視覚資料の裏面には詳しい説明が付されており、紙芝居を使うような手軽さで効果的に福音を教えることができます。

日曜学校や初等協会などのレッスンはもとより、集会でのお話、家庭の夕べや個人の福音学習などでも幅広く活用できます。ぜひ各家庭に備えられるようにお勧めします。

(カタログ番号34730 300 プラスチックケース入り 2,200円, 34735 300 ビニールケース入り 1,900円)

4月に召された専任宣教師

第187期生 19人



後列左から1-7, 中列左から8-12, 前列左から13-19

に大事な言葉だけ確認し、後は宣教師に任せるのですが、まったく異なる言語であるにもかかわらず、心が熱くなることがよくあります。きょうは聖歌隊(妻や長女が指導している)がクメール語で賛美歌『絶えず頼り主求む』を歌いました。とても感動しました。教会員は努力家が多く、ほぼ毎日習いに来ていました。教会と教会員の成長がはっきりわかるのでとてもうれしく、楽しいです。

この国の再建のための最重要課題である稲作などの食糧増産のため、私が国際協力事業団(JICA)から一昨年末に2カ月間派遣されて来た時には、教会はありませんでした。昨年9月に家族6人全員で来た時に教会の存在を知りました。その時に生涯をかけて福音を实践している老夫婦や若い宣教師の献身ぶりに感嘆しました。

伝道は愛を实践する場であるとともに、みずからを鍛え育てる教育の場としても最良だと思います。教会の伝道活動と福祉活動がこんな所にまで及んでいることに驚かされます。さらに明治の終わりに、ヒーバー・J・グラント大管長らにより初めて福音が伝えられたころの日本と現在のプノンペンが重なり(人力車とシクロと呼ばれる三輪自転車タクシーがよく似ている)、今貴重な経験ができることがとてもうれしいです。

しかし会員の生活は貧しく、英語・クメール語・ベトナム語といった言葉の違いや教材不足など問題も多くあります。会員の中にはいまだに内戦再発を恐れて宣教師の撤退を不安がる人もいます。大国や隣国との戦争の繰り返して希望を失っている国民に、今いちばん大切なことは未来に対する明るい望みと、みずからの力で国を再建しようという意欲でしょう。稲の増収を図ると同時に、福音をより多くの人々に広め、物質的霊的両面での国造りが必要だと痛感いたします。

「それであるから、もし人に信仰があるならばその人に希望もまたなくてはならない。信仰がなければ希望もまたないからである。」(モロナイ7:42)(おおや・しげゆき)

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 長谷川幸一	福岡M/鹿児島D/谷山B	札幌伝道部
2. 山西豊一	神戸S/尼崎W	福岡伝道部
3. 藤田満	札幌西S/小樽W	東京北伝道部
4. 堀田彰文	名古屋西S/御器所W	札幌伝道部
5. 嶋田乾一	神戸S/尼崎W	福岡伝道部
6. 長嶺顕勇	沖縄S/小禄W	仙台伝道部
7. 赤松敏成	我孫子S/牛久W	福岡伝道部
8. 村上潔徳	東京東S/八千代W	仙台伝道部
9. 伊藤誠一	仙台S/山形W	岡山伝道部
10. 武田愛一郎	福岡S/福岡W	神戸伝道部
11. 伊藤慎也	名古屋S/名東南W	札幌伝道部
12. 森哲也	札幌S/札幌東W	東京北伝道部
13. 玉山律子	神戸S/尼崎W	札幌伝道部
14. 松田亜紀子	仙台S/泉W	福岡伝道部
15. 片岡しず子	仙台M/秋田D/秋田B	札幌伝道部
16. 石井彩	東京S/所沢W	沖縄伝道部
17. 浅田好美	名古屋S/豊田B	仙台伝道部
18. 高林陽子	福岡M/熊本D/大分B	札幌伝道部
19. 陸野真理	札幌S/旭川第二W	東京南伝道部

S:ステーション部, M:伝道部, D:地方部, W:ワード部, B:支部



後列左から1-10, 中列左から11-18, 前列左から19-27

5月に 召された 専任宣教師

第188期生 27人

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 沖森研司	広島S/高須W	仙台伝道部
2. 植原友祐	高崎S/高崎東W	福岡伝道部
3. 天野愛	東京北S/川越W	仙台伝道部
4. 加藤修	仙台S/山形W	福岡伝道部
5. 青木建悟	福岡M/熊本D/長嶺B	札幌伝道部
6. 柳原信	東京北S/浦和W	札幌伝道部
7. 徳丸隆	福岡M/熊本D/熊本B	東京北伝道部
8. 安達嘉史	福岡S/久留米B	名古屋伝道部
9. 横山克廣	仙台S/青葉W	福岡伝道部
10. 松村隆嘉	仙台S/長町W	岡山伝道部
11. 杉本浩彰	大阪S/東大阪W	札幌伝道部
12. 前田恵理	名古屋M/三重D/四日市B	東京北伝道部
13. 八木めぐみ	神戸S/加古川W	仙台伝道部
14. 大住由希子	東京東S/小岩W	神戸伝道部
15. 美見利香	岡山S/津山B	福岡伝道部
16. 藤田亜希子	我孫子S/松戸W	岡山伝道部
17. 佐藤淳	仙台S/山形W	沖縄伝道部
18. 飯田中正	東京S/所沢W	沖縄伝道部
19. 伊礼すまこ	沖縄那覇S/那覇W	神戸伝道部
20. 岡田泉	福岡M/熊本D/白川B	神戸伝道部
21. 小貫恵里	町田S/厚木W	沖縄伝道部
22. 谷口正美	大阪北S/豊中第二B	東京南伝道部
23. 八橋祐子	福岡M/熊本D/熊本北B	仙台伝道部
24. 安富宏枝	福岡S/福岡W	神戸伝道部
25. 川上恵美	大阪北S/豊中第二B	福岡伝道部
26. 宮城美恵	東京北S/浦和W	神戸伝道部
27. 高橋由維	仙台S/泉W	神戸伝道部

S:ステーク部, M:伝道部, D:地方部, W:ワード部, B:支部

末日聖徒イエス・キリスト教会幹部

大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



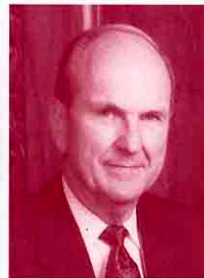
L・トム・ベリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



レックス・D・
ピネカー



カーロス・E・
エイシー



チャールズ・
ティディエ



L・アルディン・
ポーター



ジョー・J・
クリステンセン



モンテイ・J・
フラフ



W・ユージン・
ハンセン

七十人第一定員会



アンヘル・アブレア
 カロス・H・アマソニ
 ニール・L・アンダーセン
 ベン・B・バンクス
 ウィリアム・R・ブラッドフォード
 テディ・E・フルアートン
 F・エンツィオ・ブッシュェ
 ジョン・K・カーマック
 R・トッド・クリストファーソン
 J・リチャード・クラーク
 スペンサー・J・コンティ
 ジーン・R・クック
 ロバート・K・チレンバック
 ジョン・B・ディクソン
 ローレン・C・ダン
 ボーン・J・フエサーストーン
 ジャック・H・ゴズリッド
 ジョン・H・グロバーグ
 F・メルビン・ハモンド
 ハロルド・G・ヒラム
 F・バートン・パウード
 ジェイ・E・ジェンセン
 マーリン・K・ジェンセン
 ケネス・ジョンソン
 L・ライオネル・ケンドリック
 菊地良彦
 クリー・L・コッフオード
 ティーン・L・ラーセン
 リン・A・ミケルセン
 アレクサンダー・B・モリソン
 テニス・B・ノイエフクハプター
 グレン・L・ペイス
 ジェームス・M・ハロモア
 アンドリュウ・W・ピーダーソン
 ヒュー・W・ピノック
 ロナルド・E・ホルマン
 ハンス・B・リンガー
 セシル・O・サミュエルソン・ジュニア
 デビッド・E・ソレンセン
 アール・C・ティンギー
 ロバート・E・ウエルズ
 W・クレイグ・スウィック

七十人第二定員会



リノ・アルバレス
 ダラス・N・アーチボルド
 エドワルド・アヤラ
 R・マックス・ヨールドウェル
 ゲーリー・J・ヨールマン
 クラウディオ・R・M・コスタ
 ルロン・G・グレイブ
 リランド・R・カーティス
 フリオ・E・ダビラ
 グラハム・W・ドクシー
 ジョン・E・ファウラー
 韓 仁 相 (ハン・イン・サン)
 W・ドン・ラッド
 W・マック・ローレンス
 アウグスト・A・リム
 ジョム・M・マドセン
 ヘルベシオ・マーティンス
 ジェームス・R・メーソン
 V・ダラス・メレル
 ジョセフ・G・ミューレン
 ステファン・D・ナドール
 フルース・D・ポーター
 ホルヘ・A・ロバス
 サム・K・島袋
 F・デビッド・スタンレー
 戴 國 源 (タイ・クオック・ユン)
 ティーター・F・ウーグトルフ
 J・バラード・ウォッシュバーン
 ランス・B・ウィックマン
 ローウェル・D・ウッド
 デュレル・A・ワルジ

管理監督会



第一副監督 H・デビッド・パートン
 管理監督 メリル・J・ペイトマン
 第二副監督 リチャード・C・エッジリー

(1995年4月1日現在)



「エマオでの晩餐」^{ばんさん} ティエゴ・ロドリゲス・デ・シルバ・イ・ベラスケス (1599—1660) 画

Courtesy of Metropolitan Museum of Art, New York

「復活された救い主が）一緒に食卓につかれた時、パンを取り、祝福して裂き、彼らに渡しておられるうちに、
彼らの目が開けて、それがイエスであることがわかった。」(ルカ24：13—35参照)



PHOTOGRAPH BY JED CLARK

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長（中央）は、1995年3月5日に教会の大管長としてすでに聖任されていたが、4月1、2日の第165回年次総大会中に開かれた聖会で、正式に会員の支持を受けた。聖会では、トーマス・S・モンソン第一副管長（左）、ジェームズ・E・ファウスト第二副管長もともに支持を受けた。

